

2005年度

経済学部シラバス

獨協大学

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。学生諸君は、シラバスを良く読んで、計画的な履修登録をしてください。

① 適用入学年度	② 科目名	③ 担当者
◆上段は、春学期科目です。		
④ 講義目的、講義概要	⑤ 授業計画	
【 春学期 】	第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	
⑥ テキスト、参考文献	⑦ 評価方法	
◆下段は、秋学期科目です。		
① 適用入学年度	② 科目名	③ 担当者
④ 講義目的、講義概要	⑤ 授業計画	
【 秋学期 】	第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	
⑥ テキスト、参考文献	⑦ 評価方法	

- ①②入学年度により科目名が異なります。
- ③ 担当教員氏名
- ④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。
- ⑤ 学期の授業計画についての欄です。各週ごとに講義するテーマが記載してあります。
- ⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。
- ⑦ 春学期科目は春学期終了時に成績評価が出ます。秋学期科目と通年科目は秋学期終了時に成績評価が出ます。

各項目については、春学期と同一です。

経済学部 シラバス

【 総合目次一覧 】

- ◇ 【2003～05 年度】 入学者用
 - 経済学科 学則別表 …………… I-1
 - 開設科目 …………… I-2～5
 - 経営学科 学則別表 …………… I-6
 - 開設科目 …………… I-7～11

- ◇ 【2001～02 年度】 入学者用
 - 経済学科 学則別表 …………… II-1
 - 開設科目 …………… II-2～6
 - 経営学科 学則別表 …………… II-7
 - 開設科目 …………… II-8～12

- ◇ 【2000 年度以前】 入学者用
 - 経済学科 学則別表 …………… III-1
 - 開設科目 …………… III-2～6
 - 経営学科 学則別表 …………… III-7
 - 開設科目 …………… III-8～12

- ◆ 【2002 年度以前】 体育
 - 体育科目 …………… IV-1～2

別表Ⅱ-1 経済学科

群	部門	授業科目	単位	必修	選択必修	選択	
学科基礎科目	外国語	インターナショナルコミュニケーションⅠa	1	4		12	
		インターナショナルコミュニケーションⅠb	1				
		インターナショナルコミュニケーションⅡa	1				
		インターナショナルコミュニケーションⅡb	1				
	経済・経営入門	基礎演習	2	4			
		経済学 a	2				
		経済学 b	2				
		統計学 a	2				
		関連科目	統計学 b	2			4
			コンピュータ入門 a	2			
コンピュータ入門 b			2				
プレゼンテーション技法			2				
経営学 a			2	4			
経営学 b			2				
簿記原理 a	2						
簿記原理 b	2						
演習・経済外国語	数学 a		2	4			
	数学 b		2				
	高齢化社会論 a	2					
	高齢化社会論 b	2					
	経済理論・経済学史	精神衛生論 a	2	4			
		精神衛生論 b	2				
		医療・福祉概論 a	2				
		医療・福祉概論 b	2				
		現代文化論 a	2	4			
		現代文化論 b	2				
演習Ⅰ a		2					
演習Ⅰ b		2					
経済統計・計量経済		演習Ⅱ a	2	4			
		演習Ⅱ b	2				
	経済外国語Ⅰ a	2					
	経済外国語Ⅰ b	2					
	経済政策	経済外国語Ⅱ a	2	4			
		経済外国語Ⅱ b	2				
		卒業研究	4				
		マクロ経済学 a	2				
		経済史	マクロ経済学 b	2	4		
			ミクロ経済学 a	2			
ミクロ経済学 b			2				
経済学史 a			2				
国際経済			経済学史 b	2	4		
			経済変動論 a	2			
	経済変動論 b		2				
	経済社会学 a		2				
	地域経済		経済社会学 b	2	4		
			経済哲学 a	2			
		経済哲学 b	2				
		経済統計論 a	2				
		経済史	経済統計論 b	2	4		
			計量経済学 a	2			
計量経済学 b			2				
経済政策論 a			2				
国際経済			経済政策論 b	2	4		
			環境政策論 a	2			
	環境政策論 b		2				
	日本経済史 a		2				
	地域経済		日本経済史 b	2	4		
			日本社会史 a	2			
		日本社会史 b	2				
		東洋経済史 a	2				
		国際経済	東洋経済史 b	2	4		
			西洋経済史 a	2			
西洋経済史 b			2				
国際経済論 a			2				
地域経済			国際経済論 b	2	4		
			国際金融論 a	2			
	国際金融論 b		2				
	日本経済論 a		2				
	国際経済		日本経済論 b	2	4		
			アメリカ経済論 a	2			
		アメリカ経済論 b	2				
		ラテンアメリカ経済論 a	2				
		地域経済	ラテンアメリカ経済論 b	2	4		
			西ヨーロッパ経済論 a	2			
西ヨーロッパ経済論 b			2				
東ヨーロッパ経済論 a			2				
国際経済			東ヨーロッパ経済論 b	2	4		
			東アジア・中国経済論 a	2			
	東アジア・中国経済論 b		2				
	オセアニア経済論 a		2				
	地域経済		オセアニア経済論 b	2	4		

金融経済	アフリカ経済論 a	2	60	
	アフリカ経済論 b	2		
	東南アジア経済論 a	2		
	東南アジア経済論 b	2		
	中東経済論 a	2		
	中東経済論 b	2		
	金融経済論 a	2		
	金融経済論 b	2		
	金融システム論 a	2		
	金融システム論 b	2		
財政	財政学 a	2	60	
	財政学 b	2		
	公共経済学 a	2		
	公共経済学 b	2		
	日本財政論 a	2		
	日本財政論 b	2		
	地方財政論 a	2		
	地方財政論 b	2		
	環境経済学 a	2		
	環境経済学 b	2		
環境・都市・経済地理	都市経済学 a	2	60	
	都市経済学 b	2		
	経済地理学 a	2		
	経済地理学 b	2		
	交通経済論 a	2		
	交通経済論 b	2		
	産業政策論 a	2		
	産業政策論 b	2		
	産業組織論 a	2		
	産業組織論 b	2		
産業経済	産業政策論 a	2	60	
	産業政策論 b	2		
	産業組織論 a	2		
	産業組織論 b	2		
	産業構造論 a	2		
	産業構造論 b	2		
	社会政策 a	2		
	社会政策 b	2		
	労働経済学 a	2		
	労働経済学 b	2		
労働・社会政策	経営学原理 a	2	60	
	経営学原理 b	2		
	企業論 a	2		
	企業論 b	2		
	会計学 a	2		
	会計学 b	2		
	応用統計学 a	2		
	応用統計学 b	2		
	標本調査論 a	2		
	標本調査論 b	2		
経営・会計	データベース論 a	2	60	
	データベース論 b	2		
	コンピュータシミュレーション論 a	2		
	コンピュータシミュレーション論 b	2		
	マルチメディア論 a	2		
	マルチメディア論 b	2		
	プログラミング論 a	2		
	プログラミング論 b	2		
	法学 a	2		
	法学 b	2		
統計・情報科学	政治学総論 a	2	60	
	政治学総論 b	2		
	民法 a	2		
	民法 b	2		
	商法 a	2		
	商法 b	2		
	* 総合講座 a	2		
	* 総合講座 b	2		
	特殊講義 a	2		
	特殊講義 b	2		
政治・法律	経済学科カリキュラム合計	28	0	72
	全学共通授業科目(別表Ⅳ)	8	6	14
	卒業に必要な単位数合計	36	6	86
			128	

備考

- (1) 卒業単位数は必修36単位、選択必修6単位、選択86単位で合計して最低128単位以上修得するものとする。128単位の内訳は、学科基礎科目24単位以上、学科専門科目と関連専門科目のうちから76単位以上、全学共通授業科目28単位以上である。
- (2) 学科専門科目と関連専門科目(必修科目は除く)のうち、28単位までは経営学科および他学部ならびに教職課程授業科目の単位をもって代用できる。他学部ならびに教職課程授業科目は12単位以内とする。なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。
- (3) *の講義科目は年度ごとに定める。

○本表は、2003年度入学者から適用する。

【2003~05年度入学者用】

【経済学科】

【学科基礎科目】

◆国際ナショナルコミュニケーション◆

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
国際ナショナルコミュニケーションⅠa・b	各担当教員	時間割参照	2・2	1	外・法	1
国際ナショナルコミュニケーションⅡa・b	各担当教員	時間割参照	2・2	2	外・法	2

◆経済・経営入門◆

基礎演習(春・秋)	阿部正浩	木1	2・2	1年のみ	外・法	3
基礎演習(春学期のみ)	犬井正	金1	2	1年のみ	外・法	4
基礎演習(春・秋)	今福啓	金5	2・2	1年のみ	外・法	5
基礎演習(春・秋)	岡村国和	木2	2・2	1年のみ	外・法	6
基礎演習(春・秋)	上坂卓郎	水2	2・2	1年のみ	外・法	7
基礎演習(春・秋)	日下泰夫	水2	2・2	1年のみ	外・法	8
基礎演習(春・秋)	倉橋透	月3	2・2	1年のみ	外・法	9
基礎演習(春・秋)	黒川文子	水2	2・2	1年のみ	外・法	10
基礎演習(春学期のみ)	黒木亮	火2	2	1年のみ	外・法	11
基礎演習(春学期のみ)	小林哲也	水2	2	1年のみ	外・法	12
基礎演習(春・秋)	塩田尚樹	火2	2・2	1年のみ	外・法	13
基礎演習(春・秋)	立田ルミ	火2	2・2	1年のみ	外・法	14
基礎演習(春学期のみ)	富田幸弘	火4	2・2	1年のみ	外・法	15
基礎演習(秋学期のみ)	全載旭	木2	2	1年のみ	外・法	16
基礎演習(春学期のみ)	中野隆史	水2	2	1年のみ	外・法	17
基礎演習(秋学期のみ)	中村泰將	水1	2	1年のみ	外・法	18
基礎演習(春・秋)	奈倉文二	火2	2・2	1年のみ	外・法	19
基礎演習(春・秋)	波形昭一	月1	2・2	1年のみ	外・法	20
基礎演習(春・秋)	浜本光紹	水1	2・2	1年のみ	外・法	21
基礎演習(春・秋)	平井岳哉	火4	2・2	1年のみ	外・法	22
基礎演習(春・秋)	藤山英樹	水1	2・2	1年のみ	外・法	23
基礎演習(春・秋)	本田浩邦	水1	2・2	1年のみ	外・法	24
基礎演習(春・秋)	益山光央	木2	2・2	1年のみ	外・法	25
基礎演習(春・秋)	松井敬	金2	2・2	1年のみ	外・法	26
基礎演習(春・秋)	御園生眞	水1	2・2	1年のみ	外・法	27
基礎演習(春・秋)	森健	金2	2・2	1年のみ	外・法	28
基礎演習(春・秋)	山越徳	火1	2・2	1年のみ	外・法	29
基礎演習(春学期のみ)	山本美樹子	月5	2	1年のみ	外・法	30
基礎演習(春学期のみ)	湯田雅夫	火3	2	1年のみ	外・法	31
基礎演習(秋学期のみ)	和田智	火1	2	1年のみ	外・法	32
経済学a・b	片岡晴雄	火1、火2	2・2	1	営・外・法	33
経済学a・b	倉橋徹	金4	2・2	1	営・外・法	34
経済学b・a (春学期b科目 秋学期a科目)	小林進	火2	2・2	1	営・外・法	35
経済学a・b	野村容康	火1	2・2	1	営・外・法	36
経済学a・b	浜本光紹	水2	2・3	1	営・外・法	37
経済学a・b	益山光央	木1	2・2	1	営・外・法	38
統計学a・b	富田幸弘	木2、木3	2・2	1	法	40
統計学a・b	本田勝	火3、火4	2・2	1	法	41
統計学a・b	松井敬	火2、火3	2・2	1	法	42

〔2003～05年度入学用〕

【 経済学科 】

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
コンピュータ入門a・b	各担当教員	時間割参照	2・2	1	外・法	43
プレゼンテーション技法(秋学期のみ)	富澤儀一	水3	2	2		44
経営学a・b	清水絹代	水3	2・2	1	営	45
簿記原理a・b	井出健二郎	月4	2・2	1		53
簿記原理a・b	内倉滋	月2	2・2	1		54
簿記原理a・b	香取徹	水2	2・2	1		55
簿記原理a・b	金井繁雅	月4	2・2	1		56
簿記原理a・b	千葉啓司	木4	2・2	1		57
簿記原理a・b	中村泰將	水2	2・2	1		58
簿記原理a・b	細田哲	月2	2・2	1		59
簿記原理a・b	百瀬房徳	木1	2・2	1		60
簿記原理a・b	湯田雅夫	火1	2・2	1		61
◆ 関連科目 ◆						
数学a・b	高木悟	木3、木4	2・2	1	外・法	62
高齢化社会論a・b	奥山正司	月1	2・2	1		63
精神衛生論a・b	中野隆史	火4	2・2	1	法	64
医療・福祉概論a・b	藤井賢一郎	土1、土2	2・2	1		65
現代文化論a・b	柴崎信三	水3	2・2	1		66

【 学科専門科目 】

◆ 経済外国語 ◆

経済外国語 I a・b	青木雅明	月2	2・2	2	営・外・法	67
経済外国語 I a・b	阿部正浩	火2	2・2	2	営・外・法	68
経済外国語 I a・b	井出健二郎	月5	2・2	2	営・外・法	69
経済外国語 I a・b	伊藤為一郎	木1	2・2	2	営・外・法	70
経済外国語 I a・b	岡村国和	木3	2・2	2	営・外・法	71
経済外国語 I a・b	奥山正司	月2	2・2	2	営・外・法	72
経済外国語 I a・b	金井繁雅	月5	2・2	2	営・外・法	73
経済外国語 I a・b	倉橋透	水2	2・2	2	営・外・法	74
経済外国語 I a・b	黒川文子	木4	2・2	2	営・外・法	75
経済外国語 I a・b	黒木亮	木2	2・2	2	営・外・法	76
経済外国語 I a・b	小林進	金2	2・2	2	営・外・法	77
経済外国語 I a・b	小林哲也	金3	2・2	2	営・外・法	78
経済外国語 I a・b	齋藤正章	月5	2・2	2	営・外・法	79
経済外国語 I a・b	清水絹代	水4	2・2	2	営・外・法	80
経済外国語 I a・b	千葉啓司	木5	2・2	2	営・外・法	81
経済外国語 I a・b	中村泰將	火2	2・2	2	営・外・法	82
経済外国語 I a・b	波形昭一	火2	2・2	2	営・外・法	83
経済外国語 I a・b (フランス語)	原口武彦	金3	2・2	2	営・外・法	84
経済外国語 I a・b	平井岳哉	水2	2・2	2	営・外・法	85
経済外国語 I a・b	本田浩邦	木2	2・2	2	営・外・法	86
経済外国語 I a・b	益山光央	火1	2・2	2	営・外・法	87
経済外国語 I a・b	松本栄次	火2	2・2	2	営・外・法	88
経済外国語 I a・b	御園生眞	木3	2・2	2	営・外・法	89
経済外国語 I a・b	百瀬房徳	火1	2・2	2	営・外・法	90
経済外国語 I a・b	森健	水1	2・2	2	営・外・法	91
経済外国語 I a・b	山越徳	火2	2・2	2	営・外・法	92
経済外国語 I a・b	山本美樹子	水2	2・2	2	営・外・法	93
経済外国語 I a・b	米山昌幸	水2	2・2	2	営・外・法	94
経済外国語 I a・b(中国語)(秋学期 週2回)	全載旭	水1、水2	2・2	2	営・外・法	95
経済外国語 I a・b〔留学生クラス〕	ジム・ブローガン	月2月3月4	2・2	2	営・外・法	96
経済外国語 II a・b	岡村国和	木4	2・2	3	営・外・法	97

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
経済外国語Ⅱa・b	香取徹	火1	2・2	3	営・外・法	98
経済外国語Ⅱa・b	斉藤美彦	木3	2・2	3	営・外・法	99
経済外国語Ⅱa・b	塩田尚樹	月1	2・2	3	営・外・法	100
経済外国語Ⅱa・b(中国語)(秋学期 週2回)	全載旭	木3、木4	2・2	3	営・外・法	101
経済外国語Ⅱa・b	野村容康	火2	2・2	3	営・外・法	102
◆ 経済理論・経済学史 ◆						
マクロ経済学a・b	塩田尚樹	火1	2・2	2		103
マクロ経済学a・b	山本美樹子	水1	2・2	2		104
ミクロ経済学a・b	小林進	金3	2・2	2		105
ミクロ経済学a・b	藤山英樹	木1	2・2	2		106
経済学史a・b	黒木亮	木3	2・2	3		107
経済変動論a・b	松本正信	火3	2・2	3		108
◆ 経済統計・計量経済 ◆						
経済統計論a・b	松本正信	火4	2・2	1		109
計量経済学a・b	藤山英樹	金1	2・2	3		110
◆ 経済政策 ◆						
経済政策論a・b	阿部正浩	木2	2・2	2		111
環境政策論a・b	塩田尚樹	水1	2・2	2		112
◆ 経済史 ◆						
日本経済史a・b	奈倉文二	水1	2・2	2		113
日本社会史a・b	新井孝重	木4	2・2	1		114
西洋経済史a・b	御園生眞	火4	2・2	2		115
◆ 国際経済 ◆						
国際経済論a・b	益山光央	火3	2・2	2	外・法	116
国際金融論a・b	山本美樹子	月3	2・2	3	法	117
◆ 地域経済 ◆						
日本経済論a・b	波形昭一	火5	2・2	1	外	118
アメリカ経済論a・b	本田浩邦	木1	2・2	1		119
ラテンアメリカ経済論a・b	松本栄次	月2	2・2	2		120
西ヨーロッパ経済論a・b	大西健夫	金4	2・2	1		121
東アジア・中国経済論a・b	駒形哲也/全載旭	金2	2・2	1	外	122
オセアニア経済論a・b	森健	金3	2・2	2	外	123
アフリカ経済論a・b	原口武彦	金2	2・2	2		124
中東経済論a・b	平井文子	月2	2・2	2		125
◆ 金融経済 ◆						
金融経済論a・b	斉藤美彦	水2	2・2	2		126
金融システム論a・b	斉藤美彦	水1	2・2	2		127
◆ 財政 ◆						
財政学a・b	野村容康	木3	2・2	2		128
公共経済学a・b	伊藤為一郎	月2	2・2	2		129
地方財政論a・b	伊藤為一郎	木4	2・2	3		130
◆ 環境・都市・経済地理 ◆						
環境経済学a・b	浜本光紹	火3	2・2	2		131
都市経済学a・b	倉橋透	火1	2・2	2		132
経済地理学a・b	犬井正	火2	2・2	2		133

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
◆ 産業経済 ◆						
産業組織論a・b	青木雅明	月1	2・2	2		134
産業構造論a・b	山越徳	木2	2・2	2		135
【 関連専門科目 】						
◆ 経営・会計 ◆						
経営学原理a・b	黒川文子	火4	2・2	2		136
経営学原理a・b	富田忠義	木3	2・2	2		137
企業論a・b	平井岳哉	火3	2・2	2		138
会計学a・b	内倉滋	火2	2・2	1	法	139
◆ 統計・情報科学 ◆						
応用統計学a・b	本田勝	水2	2・2	2		140
標本調査論a・b	松井敬	金3	2・2	2		141
データベース論a・b	高柳敏子	金4	2・2	2		142
コンピュータシミュレーション論a・b	富田幸弘	火2	2・2	2		143
マルチメディア論a・b	立田ルミ	水2	2・2	2		144
マルチメディア論a・b	森園子	水5	2・2	2		145
プログラミング論a・b	高柳敏子	金2	2・2	2		146
プログラミング論a・b	立田ルミ	火1	2・2	2		147
プログラミング論a・b	森園子	水3、水4	2・2	2		148
◆ 政治・法学 ◆						
法学a・b	内山良雄	木3	2・2	1	外・法	149
政治学総論a・b	杉田孝夫	木2	2・2	2	外・法	150
民法a・b(春学期 週2回授業)	遠藤研一郎	金3、金4	2・2	2	法	151
民法a・b(春学期 週2回授業)	藤田貴宏	木4、木5	2・2	2	法	152
商法a・b(秋学期 週2回授業)	明田川昌幸	金3、金4	2・2	2	法	153
商法a・b(秋学期 週2回授業)	藩阿憲	木4、木5	2・2	2	法	154
◆ 総合講座・特殊講義 ◆						
総合講座a・b	経済学部	水3	2・2	2		155
特殊講義a・b「経済学入門」	黒木亮	月1	2・2	1・2のみ		156
特殊講義a「経営学科で何が学べるか」	経営学科	水3	2	1年のみ		157
特殊講義a「経済と法」	住田裕子	木2	2	2		158
特殊講義b「企業と法」	住田裕子	木2	2	2		158
特殊講義a「ビジネス法のケーススタディ」(春)	住田裕子	木3	2	2		159
特殊講義a「ビジネス法のケーススタディ」(秋)	住田裕子	木3	2	2		159
特殊講義a「ライフスタイルと日本経済」(春)	森永卓郎	木2	2	2		160
特殊講義a「ライフスタイルと日本経済」(秋)	森永卓郎	木3	2	2		160
特殊講義b「現代日本の経済政策」(春)	森永卓郎	木3	2	2		161
特殊講義b「現代日本の経済政策」(秋)	森永卓郎	木2	2	2		161
◆ 留学生 ◆						
日本事情a・b	新井孝重	木5	2・2	1		253
日本語Ⅱa・b	斎藤 明	月2、月3	2・2	2		254
日本語Ⅱa・b	浅山佳郎	金2	2・2	2		255
日本語Ⅱa・b	武田明子	金3	2・2	2		256

別表Ⅱ-2 経営学科

群	部門	授業科目	単位	必修	選択必修	選択
学科基礎科目	外国語	インターナショナルコミュニケーションⅠa	1	4		
		インターナショナルコミュニケーションⅠb	1			
		インターナショナルコミュニケーションⅡa	1			
		インターナショナルコミュニケーションⅡb	1			
	経営・経済入門	基礎演習	2	4		
		経営学	a 2			
		経営学	b 2			
		簿記原理	a 2			
		簿記原理	b 2	4		
		コンピュータ入門	a 2			
		コンピュータ入門	b 2			
		プレゼンテーション技法	2			
		経済学	a 2			
		経済学	b 2			
		統計学	a 2			
		統計学	b 2			
	関連科目	数学	a 2			
		数学	b 2			
		高齢化社会論	a 2			
		高齢化社会論	b 2			
精神衛生論		a 2				
精神衛生論		b 2				
医療・福祉概論		a 2				
医療・福祉概論		b 2				
現代文化論	a 2					
現代文化論	b 2					
演習・経営外国語	演習Ⅰ	a 2	4			
	演習Ⅰ	b 2				
	演習Ⅱ	a 2	4			
	演習Ⅱ	b 2				
	経営外国語Ⅰ	a 2				
	経営外国語Ⅰ	b 2				
	経営外国語Ⅱ	a 2				
	経営外国語Ⅱ	b 2				
	卒業研究	4				
	卒業研究	4				
	経営	経営学原理	a 2	4		
		経営学原理	b 2			
経営戦略論		a 2				
経営戦略論		b 2				
経営管理論		a 2				
経営管理論		b 2				
経営組織論		a 2				
経営組織論		b 2				
経営財務論		a 2				
経営財務論		b 2				
人的資源管理論		a 2				
人的資源管理論		b 2				
国際経営論	a 2					
国際経営論	b 2					
経営史	経営史	a 2				
	経営史	b 2				
商業	日本経営史	a 2				
	日本経営史	b 2				
	マーケティング論	a 2				
	マーケティング論	b 2				
	広告論	a 2				
	広告論	b 2				
	行動科学論	a 2				
	行動科学論	b 2				
	保険論	a 2				
	保険論	b 2				
	貿易論	a 2				
	貿易論	b 2				
証券市場論	a 2					
証券市場論	b 2					
企業	企業論	a 2				
	企業論	b 2				
	企業形態論	a 2				
	企業形態論	b 2				
	ベンチャービジネス論	a 2				
	ベンチャービジネス論	b 2				
	非営利組織マネジメント論	a 2				
	非営利組織マネジメント論	b 2				
	企業文化論	a 2				
	企業文化論	b 2				
	研究・開発マネジメント	a 2				
	研究・開発マネジメント	b 2				
会計	会计学原理	a 2				
	会计学原理	b 2				
	財務会計論	a 2				
	財務会計論	b 2				
	管理会計論	a 2				
	管理会計論	b 2				
	社会会計論	a 2				
	社会会計論	b 2				
	原価計算論	a 2				
	原価計算論	b 2				

12

情報科学	会計監査論	a 2			
	会計監査論	b 2			
	税務会計論	a 2			
	税務会計論	b 2			
	経営分析論	a 2			
	経営分析論	b 2			
	上級簿記	a 2			
	上級簿記	b 2			
	国際会計論	a 2			
	国際会計論	b 2			
	経営数学	a 2			
	経営数学	b 2			
	応用統計学	a 2			
	応用統計学	b 2			
	標本調査論	a 2			
	標本調査論	b 2			
	データベース論	a 2			
	データベース論	b 2			
	コンピュータシミュレーション論	a 2			
	コンピュータシミュレーション論	b 2			
マルチメディア論	a 2				
マルチメディア論	b 2				
情報検索論	a 2				
情報検索論	b 2				
情報システム論	a 2				
情報システム論	b 2				
プログラミング論	a 2				
プログラミング論	b 2				
情報社会論	a 2				
情報社会論	b 2				
情報通信ネットワーク	a 2				
情報通信ネットワーク	b 2				
コンピュータアーキテクチャ	a 2				
情報と職業	a 2				
情報と職業	b 2				
アルゴリズム論	a 2				
アルゴリズム論	b 2				
経営システム工学	オペレーション・リサーチ	a 2			
	オペレーション・リサーチ	b 2			
システムズエンジニアリング	a 2				
システムズエンジニアリング	b 2				
経営システム工学	a 2				
経営システム工学	b 2				
経済理論・経済政策	マクロ経済学	a 2			
	マクロ経済学	b 2			
	ミクロ経済学	a 2			
	ミクロ経済学	b 2			
日本経済・国際経済	経済政策論	a 2			
	経済政策論	b 2			
金融・財政	日本経済論	a 2			
	日本経済論	b 2			
	日本経済史	a 2			
	日本経済史	b 2			
政治・法律	国際経済論	a 2			
	国際経済論	b 2			
	金融経済論	a 2			
	金融経済論	b 2			
総合講座・特殊講義	財政学	a 2			
	財政学	b 2			
	政治学総論	a 2			
	政治学総論	b 2			
	民法	a 2			
	民法	b 2			
	商法	a 2			
	商法	b 2			
	著作権法	a 2			
	著作権法	b 2			
	* 総合講座	a 2			
	* 総合講座	b 2			
特殊講義	a 2				
特殊講義	b 2				
経営学科カリキュラム合計		24	0	76	
全学共通授業科目(別表Ⅳ)		8	6	14	
卒業に必要な単位数合計		32	6	90	
		128			

64

備考

- (1) 卒業単位数は必修32単位、選択必修6単位、選択90単位で合計して最低128単位以上修得するものとする。128単位の内訳は、学科基礎科目24単位以上、学科専門科目と関連専門科目のうちから76単位以上、全学共通授業科目28単位以上である。
 - (2) 学科専門科目と関連専門科目(必修科目は除く)のうち、28単位までは経済学科および他学部ならびに教職課程授業科目の単位をもって代用できる。他学部ならびに教職課程授業科目は12単位以内とする。なお、教職課程授業科目の単位については別に定める。
 - (3) *の講義科目は年度ごとに定める。
- 本表は、2003年度入学者から適用する。

【2003~05年度入学者用】

【 経営学科 】

【 学科基礎科目 】

◆ インターナショナルコミュニケーション ◆

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
インターナショナルコミュニケーションⅠa・b	各担当教員	時間割参照	2・2	1	外・法	1
インターナショナルコミュニケーションⅡa・b	各担当教員	時間割参照	2・2	2	外・法	2

◆ 経営・経済入門 ◆

基礎演習(春・秋)	阿部正浩	木1	2・2	1年のみ	外・法	3
基礎演習(春学期のみ)	犬井正	金1	2	1年のみ	外・法	4
基礎演習(春・秋)	今福啓	金5	2・2	1年のみ	外・法	5
基礎演習(春・秋)	岡村国和	木2	2・2	1年のみ	外・法	6
基礎演習(春・秋)	上坂卓郎	水2	2・2	1年のみ	外・法	7
基礎演習(春・秋)	日下泰夫	水2	2・2	1年のみ	外・法	8
基礎演習(春・秋)	倉橋透	月3	2・2	1年のみ	外・法	9
基礎演習(春・秋)	黒川文子	水2	2・2	1年のみ	外・法	10
基礎演習(春学期のみ)	黒木亮	火2	2	1年のみ	外・法	11
基礎演習(春学期のみ)	小林哲也	水2	2	1年のみ	外・法	12
基礎演習(春・秋)	塩田尚樹	火2	2・2	1年のみ	外・法	13
基礎演習(春・秋)	立田ルミ	火2	2・2	1年のみ	外・法	14
基礎演習(春・秋)	富田幸弘	火4	2・2	1年のみ	外・法	15
基礎演習(秋学期のみ)	全載旭	木2	2	1年のみ	外・法	16
基礎演習(春学期のみ)	中野隆史	水2	2	1年のみ	外・法	17
基礎演習(秋学期のみ)	中村泰將	水1	2	1年のみ	外・法	18
基礎演習(春・秋)	奈倉文二	火2	2・2	1年のみ	外・法	19
基礎演習(春・秋)	波形昭一	月1	2・2	1年のみ	外・法	20
基礎演習(春・秋)	浜本光紹	水1	2・2	1年のみ	外・法	21
基礎演習(春・秋)	平井岳哉	火4	2・2	1年のみ	外・法	22
基礎演習(春・秋)	藤山英樹	水1	2・2	1年のみ	外・法	23
基礎演習(春・秋)	本田浩邦	水1	2・2	1年のみ	外・法	24
基礎演習(春・秋)	益山光央	木2	2・2	1年のみ	外・法	25
基礎演習(春・秋)	松井敬	金2	2・2	1年のみ	外・法	26
基礎演習(春・秋)	御園生眞	水1	2・2	1年のみ	外・法	27
基礎演習(春・秋)	森健	金2	2・2	1年のみ	外・法	28
基礎演習(春・秋)	山越徳	火1	2・2	1年のみ	外・法	29
基礎演習(春学期のみ)	山本美樹子	月5	2	1年のみ	外・法	30
基礎演習(春学期のみ)	湯田雅夫	火3	2	1年のみ	外・法	31
基礎演習(秋学期のみ)	和田智	火1	2	1年のみ	外・法	32
経営学a・b	上坂卓郎	水1	2・2	1	済・外・法	46
経営学a・b	日下泰夫	水1	2・2	1	済・外・法	47
経営学a・b	黒川文子	水1	2・2	1	済・外・法	48
経営学a・b	小林哲也	水1	2・2	1	済・外・法	49
経営学a・b	高松和幸	水1	2・2	1	済・外・法	50
経営学a・b	富田忠義	水1	2・2	1	済・外・法	51
経営学a・b	平井岳哉	水1	2・2	1	済・外・法	52
経済学a・b	米山昌幸	水1	2・2	1	済・外・法	39

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
統計学a・b	富田幸弘	木2、木3	2・2	1	法	40
統計学a・b	本田勝	火3、火4	2・2	1	法	41
統計学a・b	松井敬	火2、火3	2・2	1	法	42
簿記原理a・b	井出健二郎	月4	2・2	1		53
簿記原理a・b	内倉滋	月2	2・2	1		54
簿記原理a・b	香取徹	水2	2・2	1		55
簿記原理a・b	金井繁雅	月4	2・2	1		56
簿記原理a・b	千葉啓司	木4	2・2	1		57
簿記原理a・b	中村泰將	水2	2・2	1		58
簿記原理a・b	細田哲	月2	2・2	1		59
簿記原理a・b	百瀬房徳	木1	2・2	1		60
簿記原理a・b	湯田雅夫	火1	2・2	1		61
コンピュータ入門a・b	各担当教員	時間割参照	2・2	1	外・法	43
プレゼンテーション技法(秋学期のみ)	富澤儀一	水3	2	2		44
◆ 関連科目 ◆						
数学a・b	高木悟	木3、木4	2・2	1	外・法	62
高齢化社会論a・b	奥山正司	月1	2・2	1		63
精神衛生論a・b	中野隆史	火4	2・2	1	法	64
医療・福祉概論a・b	藤井賢一郎	土1、土2	2・2	1		65
現代文化論a・b	柴崎信三	水3	2・2	1		66
【 学科専門科目 】						
◆ 経営外国語 ◆						
経営外国語 I a・b	青木雅明	月2	2・2	2	済・外・法	67
経営外国語 I a・b	阿部正浩	火2	2・2	2	済・外・法	68
経営外国語 I a・b	井出健二郎	月5	2・2	2	済・外・法	69
経営外国語 I a・b	伊藤為一郎	木1	2・2	2	済・外・法	70
経営外国語 I a・b	岡村国和	木3	2・2	2	済・外・法	71
経営外国語 I a・b	奥山正司	月2	2・2	2	済・外・法	72
経営外国語 I a・b	金井繁雅	月5	2・2	2	済・外・法	73
経営外国語 I a・b	倉橋透	水2	2・2	2	済・外・法	74
経営外国語 I a・b	黒川文子	木4	2・2	2	済・外・法	75
経営外国語 I a・b	黒木亮	木2	2・2	2	済・外・法	76
経営外国語 I a・b	小林進	金2	2・2	2	済・外・法	77
経営外国語 I a・b	小林哲也	金3	2・2	2	済・外・法	78
経営外国語 I a・b	齋藤正章	月5	2・2	2	済・外・法	79
経営外国語 I a・b	清水絹代	水4	2・2	2	済・外・法	80
経営外国語 I a・b	千葉啓司	木5	2・2	2	済・外・法	81
経営外国語 I a・b	中村泰將	火2	2・2	2	済・外・法	82
経営外国語 I a・b	波形昭一	火2	2・2	2	済・外・法	83
経営外国語 I a・b (フランス語)	原口武彦	金3	2・2	2	済・外・法	84
経営外国語 I a・b	平井岳哉	水2	2・2	2	済・外・法	85
経営外国語 I a・b	本田浩邦	木2	2・2	2	済・外・法	86
経営外国語 I a・b	益山光央	火1	2・2	2	済・外・法	87
経営外国語 I a・b	松本栄次	火2	2・2	2	済・外・法	88
経営外国語 I a・b	御園生眞	木3	2・2	2	済・外・法	89
経営外国語 I a・b	百瀬房徳	火1	2・2	2	済・外・法	90
経営外国語 I a・b	森健	水1	2・2	2	済・外・法	91
経営外国語 I a・b	山越徳	火2	2・2	2	済・外・法	92
経営外国語 I a・b	山本美樹子	水2	2・2	2	済・外・法	93
経営外国語 I a・b	米山昌幸	水2	2・2	2	済・外・法	94
経営外国語 I a・b(中国語)(秋学期 週2回)	全載旭	水1、水2	2・2	2	済・外・法	95
経営外国語 I a・b[留学生クラス]	ジム・ブローガン	月2月3月4	2・2	2	済・外・法	96

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
経営外国語Ⅱa・b	岡村国和	木4	2・2	3	済・外・法	97
経営外国語Ⅱa・b	香取徹	火1	2・2	3	済・外・法	98
経営外国語Ⅱa・b	斉藤美彦	木3	2・2	3	済・外・法	99
経営外国語Ⅱa・b	塩田尚樹	月1	2・2	3	済・外・法	100
経営外国語Ⅱa・b(中国語)(秋学期 週2回)	全載旭	木3、木4	2・2	3	済・外・法	101
経営外国語Ⅱa・b	野村容康	火2	2・2	3	済・外・法	102
◆ 経 営 ◆						
経営学原理a・b	黒川文子	火4	2・2	2		136
経営学原理a・b	富田忠義	木3	2・2	2		137
経営戦略論a・b	富田忠義	木2	2・2	2		162
経営管理論a・b	黒川文子	木3	2・2	1		163
経営組織論a・b	高松和幸	月3	2・2	2		164
経営財務論a・b	細田哲	金3	2・2	2		165
国際経営論a・b	小林哲也	木3	2・2	2		166
◆ 経 営 史 ◆						
経営史a・b	柳敦	金4	2・2	1		167
日本経営史a・b	奈倉文二	水1	2・2	2		168
◆ 商 業 ◆						
マーケティング論a・b	大久保貞義	木5	2・2	2		169
広告論a・b	八巻 俊雄	月3	2・2	2	外	170
行動科学論a・b	大久保貞義	木4	2・2	1		171
保険論a・b	岡村国和	月3	2・2	2		172
貿易論a・b	米山昌幸	火3	2・2	2		173
証券市場論a・b	高橋元	木2	2・2	2		174
◆ 企 業 ◆						
企業論a・b	平井岳哉	火3	2・2	2		138
ベンチャービジネス論a・b	上坂卓郎	金2	2・2	2		175
非営利組織マネジメント論a・b	高松和幸	火2	2・2	2		176
企業文化論a(春学期のみ開講)	斉藤善久	火4	2	2		177
研究・開発マネジメントa・b	日下泰夫	金3	2・2	2		178
◆ 会 計 ◆						
会計学原理a・b	内倉滋	水1	2・2	2		179
財務会計論a・b	中村泰将	月2	2・2	2		180
管理会計論a・b	香取徹	火4	2・2	3		181
社会会計論a・b	湯田雅夫	月4	2・2	3		182
原価計算論a・b	齋藤正章	月4	2・2	2		183
会計監査論a・b	米田正巳	水5	2・2	3		184
税務会計論a・b	山田浩一	土2	2・2	3		185
経営分析論a・b	百瀬房徳	火2	2・2	3		186
上級簿記a・b(商業)	井出健二郎	月3	2・2	1		187
上級簿記a・b(工業)	香取徹	火5	2・2	1		188
国際会計論a・b	五十嵐則夫	木5	2・2	2		189

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
◆ 情報科学 ◆						
経営数学a・b	本田勝	火2	2・2	2		190
応用統計学a・b	本田勝	水2	2・2	2		140
標本調査論a・b	松井敬	金3	2・2	2		141
データベース論a・b	高柳敏子	金4	2・2	2		142
コンピュータ・シミュレーション論a・b	富田幸弘	火2	2・2	3		143
マルチメディア論a・b	立田ルミ	水2	2・2	3		144
マルチメディア論a・b	森園子	水5	2・2	3		145
情報検索論a・b	福田求	水1	2・2	3		191
情報システム論a・b	今福啓	火4	2・2	2		192
プログラミング論a・b	高柳敏子	金2	2・2	2		146
プログラミング論a・b	立田ルミ	火1	2・2	2		147
プログラミング論a・b	森園子	水2、水3	2・2	2		148
情報社会論a・b	柴崎信三	水2	2・2	1		193
情報通信ネットワークa・b	今福啓/三宅真	金4/金4金5	2・2	3		194
コンピュータネットワーク(春学期のみ)	富澤義一	水3	2	2		195
コンピュータアーキテクチャ	今福啓	金4	2	1		196
情報と職業a・b	富田幸弘/小林哲也	水2	2・2	1		197
アルゴリズム論a・b	木村昌史	月2	2・2	3		198

◆ 経営システム工学 ◆

オペレーション・リサーチa・b	正道寺勉	月2	2・2	3		199
システムズエンジニアリングa・b	天笠美知夫	木4	2・2	3		200
経営システム工学a・b	日下泰夫	火2	2・2	3		201

【 関 連 専 門 科 目 】

◆ 経済理論・経済政策 ◆

マクロ経済学a・b	塩田尚樹	火1	2・2	2		103
マクロ経済学a・b	山本美樹子	水1	2・2	2		104
ミクロ経済学a・b	小林進	金3	2・2	2		105
ミクロ経済学a・b	藤山英樹	木1	2・2	2		106
経済政策論a・b	阿部正浩	木2	2・2	2		111

◆ 日本経済・国際経済 ◆

日本経済論a・b	波形昭一	火5	2・2	1	外	118
日本経済史a・b	奈倉文二	水1	2・2	1		113
国際経済論a・b	益山光央	火3	2・2	2	外・法	116

◆ 金融・財政 ◆

金融経済論a・b	斉藤美彦	水2	2・2	2		126
財政学a・b	野村容康	木3	2・2	2		128

〔2003～05年度入学者用〕
【 経営学科 】

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
◆ 政治・法律 ◆						
法学a・b	内山良雄	木3	2・2	1	外・法	149
政治学総論a・b	杉田孝夫	木2	2・2	2	外・法	150
民法a・b(春学期週2回授業)	遠藤研一郎	金3、金4	2・2	2	法	151
民法a・b(春学期週2回授業)	藤田貴宏	木4、木5	2・2	2	法	152
商法a・b(秋学期週2回授業)	明田川昌幸	金3、金4	2・2	2	法	153
商法a・b(秋学期週2回授業)	藩阿憲	木4、木5	2・2	2	法	154
著作権法a・b	長塚真琴		2・2	2	法	202
◆ 総合講座・特殊講義 ◆						
総合講座a・b	経済学部	水3	2・2	2		155
特殊講義a・b「経済学入門」	黒木亮	月1	2・2	1・2のみ		156
特殊講義a「経営学科で何が学べるか」	経営学科	水3	2	1年のみ		157
特殊講義a「経済と法」	住田裕子	木2	2	2		158
特殊講義b「企業と法」	住田裕子	木2	2	2		158
特殊講義a「ビジネス法のケーススタディ」(春)	住田裕子	木3	2	2		159
特殊講義a「ビジネス法のケーススタディ」(秋)	住田裕子	木3	2	2		159
特殊講義a「ライフスタイルと日本経済」(春)	森永卓郎	木2	2	2		160
特殊講義a「ライフスタイルと日本経済」(秋)	森永卓郎	木3	2	2		160
特殊講義b「現代日本の経済政策」(春)	森永卓郎	木3	2	2		161
特殊講義b「現代日本の経済政策」(秋)	森永卓郎	木2	2	2		161
◆ 留学生 ◆						
日本事情a・b	新井孝重	木5	2・2	1		253
日本語Ⅱa・b	斎藤 明	月2、月3	2・2	2		254
日本語Ⅱa・b	浅山佳郎	金2	2・2	2		255
日本語Ⅱa・b	武田明子	金3	2・2	2		256

別表Ⅱ 経済学部授業科目
別表Ⅱ-1 経済学科
別表Ⅱ-1-1 (1) 学科基礎科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択	
経済・経営入門	経済学	経済学	2	4		
		統計学	2	4		
		コンピュータ入門	2			
		コンピュータ入門	2			
		プレゼンテーション技法	2			
		経営学	2			
		簿記原簿	2			
		簿記原簿	2			
		第一外国語	2	8		
		高年齢社会学	2			
		高年齢社会学	2			
		社会学	4			
人文科学	人文科学	日本国憲法	4			
		現代文化論	2			
		現代文化論	2			
		文化人類学	4			
		心理学	4			
		歴史(日本史・東洋史・西洋史)	4			
		哲学	4			
		国文学(日本文学・世界文学)	4			
		環境学	4			
		数学	2			
		数学	2			
		自然科学	自然科学	精神衛生論	4	
医療・福祉概論	2					
医療・福祉概論	2					
スポーツ・健康論	2					
スポーツ・健康論	2					
体育	2					
合計				16	24	40

24

別表Ⅱ-1-1 (2) 学科専門科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
経済学	経済学	基礎演習	2	4	
		演習Ⅰ	4	4	
		演習Ⅱ	4		
		経済外国語Ⅰ	2	4	
		経済外国語Ⅱ	2		
		経済外国語Ⅲ	2		
		卒業研究	4		
		マクロ経済学	2	4	
		マクロ経済学	2		
		ミクロ経済学	2	4	
		ミクロ経済学	2		
		経済学	経済学	経済学史	2
経済学史	2				
経済変動論	2				
経済社会学	2				
経済社会学	2				
経済哲学	2				
経済哲学	2				
経済統計論	2				
経済統計論	2				
計量経済学	2				
計量経済学	2				
経済学	経済学			経済政策論	2
		経済政策論	2		
		経済開発論	2		
		環境政策論	2		
		環境政策論	2		
		日本経済史	2		
		日本経済史	2		
		日本社会史	2		
		東洋経済史	2		
		西洋経済史	2		
		西洋経済史	2		
		国際経済論	2		
国際経済論	2				
国際金融論	2				
国際金融論	2				

別表Ⅱ-1-1 (3) 関連専門科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択	
経営学	経営学	経営学原簿	2			
		経営学原簿	2			
		企業論	2			
		企業論	2			
		会計学	2			
		会計学	2			
		応用統計学	2			
		応用統計学	2			
		標本調査論	2			
		標本調査論	2			
		データベース論	2			
		データベース論	2			
情報科学	情報科学	コンピュータ論	2			
		コンピュータ論	2			
		コンピュータ論	2			
		マルチメディア論	2			
		マルチメディア論	2			
		プログラミング論	2			
		プログラミング論	2			
		政治学総論	4			
		政治学総論	4			
		民法	4			
		民法	4			
		商法	4			
総合講義	総合講義	*総合講座(1)	2			
		*総合講座(1)	2			
		*総合講座(2)	2			
		*総合講座(2)	2			
		特殊講義A	4			
		特殊講義A	4			
		特殊講義B	2			
		特殊講義B	2			
		合計		16	76	92

備考

- (1) 卒業単位数は必修32単位、選択100単位、合計して最低132単位以上修得するものとする。132単位の内訳は、学科基礎科目40単位以上、学科専門科目と関連専門科目のうちから92単位以上である。
- (2) 学科専門科目と関連専門科目(必修科目は除く)のうち、28単位までは経営学科および他学部ならびに教職課程授業科目の単位をもって代用できる。他学部科目および教職課程授業科目は12単位以内とする。
なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。
- (3) 第一外国語は、英語、ドイツ語、フランス語のうちいずれか一外国語とする。英語を第一外国語とする場合、第二外国語はドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語のいずれか一外国語とする。ドイツ語、フランス語を第一外国語とする場合、英語を第二外国語とする。第一外国語は一学年に4単位、二学年に4単位、合計8単位を修得するものとする。
- (4) *の講義科目は年度ごとに定める。
- (5) a・bおよびB科目は半年で完結する。本表は、2001年度入学者より適用する。

【2001~02年度入学者用】
【経済学科】

【学科基礎科目】

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
◆ 経済・経営入門 ◆						
経済学a・b	片岡晴雄	火1、火2	2・2	1	営・外・法	33
経済学a・b	倉橋透	金4	2・2	1	営・外・法	34
経済学b・a(春学期b科目 秋学期a科目)	小林進	火2	2・2	1	営・外・法	35
経済学a・b	野村容康	火1	2・2	1	営・外・法	36
経済学a・b	浜本光紹	水2	2・2	1	営・外・法	37
経済学a・b	益山光央	木1	2・2	1	営・外・法	38
統計学a・b	富田幸弘	木2、木3	2・2	1	法	40
統計学a・b	本田勝	火3、火4	2・2	1	法	41
統計学a・b	松井敬	火2、火3	2・2	1	法	42
コンピュータ入門a・b	各担当教員	時間割参照	2・2	1	外・法	43
プレゼンテーション技法(秋学期のみ)	富澤儀一	水3	2	2		44
経営学a・b	清水絹代	水3	2・2	1	営	45
簿記原理a・b	井出健二郎	月4	2・2	1		53
簿記原理a・b	内倉滋	月2	2・2	1		54
簿記原理a・b	香取徹	水2	2・2	1		55
簿記原理a・b	金井繁雄	月4	2・2	1		56
簿記原理a・b	千葉啓司	木4	2・2	1		57
簿記原理a・b	中村泰將	水2	2・2	1		58
簿記原理a・b	細田哲	月2	2・2	1		59
簿記原理a・b	百瀬房徳	木1	2・2	1		60
簿記原理a・b	湯田雅夫	火1	2・2	1		61
◆ 外国語 ◆						
英語Ⅰ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	203
英語Ⅰ(会話)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	204
英語Ⅱ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	205
英語Ⅱ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	206
英語Ⅱ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	207
ドイツ語ⅠB(読解練習)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	208
ドイツ語ⅠC(口頭練習)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	209
ドイツ語ⅡB(読解練習)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	210
ドイツ語ⅡC(口頭練習)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	211
フランス語ⅠB	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	212
フランス語ⅠC	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	213
フランス語ⅡB	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	214
フランス語ⅡC	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	215
スペイン語Ⅰ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	216
スペイン語Ⅰ(会話)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	217
スペイン語Ⅱ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	218
スペイン語Ⅱ(会話)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	219
中国語Ⅰ(会話)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	220
中国語Ⅰ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	221
中国語Ⅱ(会話)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	222
中国語Ⅱ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	223

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
ロシア語Ⅰ(文法)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	224
ロシア語Ⅰ(会話)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	225
ロシア語Ⅱ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	226
ロシア語Ⅱ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	227
韓国語Ⅰ(文法)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	228
韓国語Ⅰ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	229
韓国語Ⅱ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	230
韓国語Ⅱ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	231
◆ 社会科学 ◆						
高齢化社会論a・b	奥山正司	月1	2・2	1		63
社会学	岡村圭子	木2、土1	4	1	外・法	232
法学	内山良雄	木3	4	1	外・法	149
日本国憲法	加藤一彦	火2	4	1	外・法	233
◆ 人文科学 ◆						
現代文化論a・b	柴崎信三	水3	2・2	1		66
文化人類学	井上兼行	火2、火3	4	1	外・法	234
心理学	増田直衛	月1、月2	4	1	外・法	235
歴史学(日本史)	新井孝重	土1	4	1	外・法	236
歴史学(日本史)	丸浜昭	金4	4	1	外・法	237
歴史学(東洋史)	熊谷哲也	木3	4	1	外・法	238
哲学	谷口郁夫	月2	4	1	外	239
文学(日本文学)	佐藤毅	水2	4	1	外・法	240
文学(日本文学)	福沢健	月3	4	1	外・法	241
文学(世界文学)	野々山ミチコ	水3	4	1	外・法	242
文学(世界文学)	宮谷尚美	火2	4	1	外・法	243
国語	飯島一彦	火1、木2	4	1	外・法	244
国語	小島幸枝	火3	4	1	外・法	245
国語	小島幸枝	水2	4	1	外・法	246
国語	佐藤毅	水1	4	1	外・法	247
国語	福沢健	月2、月4	4	1	外・法	248
◆ 自然科学 ◆						
地球環境論	鈴木滋	火2	4	1	外・法	249
数学a・b	高木悟	木3、木4	2・2	1	外	62
地理学	秋本弘章	水2	4	1	外・法	250
地理学	犬井正	月2	4	1	外・法	251
◆ スポーツ・健康 ◆						
精神衛生論a・b	中野隆史	火4	2・2	1	法	64
医療・福祉概論a・b	藤井賢一郎	土1、土2	2・2	1		65
スポーツ・健康論a・b	和田智	金3	2・2	1	外	252

【学科専門科目】

科目名	担当者	曜日	単位	開始 学年	履修不可	ページ
◆ 経済外国語 ◆						
経済外国語Ⅰa・b	青木雅明	月2	2・2	2	営・外・法	67
経済外国語Ⅰa・b	阿部正浩	火2	2・2	2	営・外・法	68
経済外国語Ⅰa・b	井出健二郎	月5	2・2	2	営・外・法	69
経済外国語Ⅰa・b	伊藤為一郎	木1	2・2	2	営・外・法	70
経済外国語Ⅰa・b	岡村国和	木3	2・2	2	営・外・法	71
経済外国語Ⅰa・b	奥山正司	月2	2・2	2	営・外・法	72
経済外国語Ⅰa・b	金井繁雅	月5	2・2	2	営・外・法	73
経済外国語Ⅰa・b	倉橋透	水2	2・2	2	営・外・法	74
経済外国語Ⅰa・b	黒川文子	木4	2・2	2	営・外・法	75
経済外国語Ⅰa・b	黒木亮	木2	2・2	2	営・外・法	76
経済外国語Ⅰa・b	小林進	金2	2・2	2	営・外・法	77
経済外国語Ⅰa・b	小林哲也	金3	2・2	2	営・外・法	78
経済外国語Ⅰa・b	齋藤正章	月5	2・2	2	営・外・法	79
経済外国語Ⅰa・b	清水絹代	水4	2・2	2	営・外・法	80
経済外国語Ⅰa・b	千葉啓司	木5	2・2	2	営・外・法	81
経済外国語Ⅰa・b	中村泰将	火2	2・2	2	営・外・法	82
経済外国語Ⅰa・b	波形昭一	火2	2・2	2	営・外・法	83
経済外国語Ⅰa・b (フランス語)	原口武彦	金3	2・2	2	営・外・法	84
経済外国語Ⅰa・b	平井岳哉	水2	2・2	2	営・外・法	85
経済外国語Ⅰa・b	本田浩邦	木2	2・2	2	営・外・法	86
経済外国語Ⅰa・b	益山光央	火1	2・2	2	営・外・法	87
経済外国語Ⅰa・b	松本栄次	火2	2・2	2	営・外・法	88
経済外国語Ⅰa・b	御園生眞	木3	2・2	2	営・外・法	89
経済外国語Ⅰa・b	百瀬房徳	火1	2・2	2	営・外・法	90
経済外国語Ⅰa・b	森健	水1	2・2	2	営・外・法	91
経済外国語Ⅰa・b	山越徳	火2	2・2	2	営・外・法	92
経済外国語Ⅰa・b	山本美樹子	水2	2・2	2	営・外・法	93
経済外国語Ⅰa・b	米山昌幸	水2	2・2	2	営・外・法	94
経済外国語Ⅰa・b(中国語)(秋学期 週2回)	全載旭	水1、水2	2・2	2	営・外・法	95
経済外国語Ⅰa・b〔留学生用〕	ジム・ブローガン	月2月3月4	2・2	2	営・外・法	96
経済外国語Ⅱa・b	岡村国和	木4	2・2	3	営・外・法	97
経済外国語Ⅱa・b	香取徹	火1	2・2	3	営・外・法	98
経済外国語Ⅱa・b	斉藤美彦	木3	2・2	3	営・外・法	99
経済外国語Ⅱa・b	塩田尚樹	月1	2・2	3	営・外・法	100
経済外国語Ⅱa・b(中国語)(秋学期 週2回)	全載旭	木3、木4	2・2	3	営・外・法	101
経済外国語Ⅱa・b	野村容康	火2	2・2	3	営・外・法	102
◆ 経済理論・経済学史 ◆						
マクロ経済学a・b	塩田尚樹	火1	2・2	2		103
マクロ経済学a・b	山本美樹子	水1	2・2	2		104
ミクロ経済学a・b	小林進	金3	2・2	2		105
ミクロ経済学a・b	藤山英樹	木1	2・2	2		106
経済学史a・b	黒木亮	木3	2・2	3		107
経済変動論a・b	松本正信	火3	2・2	3		108
◆ 経済統計・計量経済 ◆						
経済統計論a・b	松本正信	火4	2・2	1		109
計量経済学a・b	藤山英樹	金1	2・2	3		110

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
◆ 経済政策 ◆						
経済政策論a・b	阿部正浩	木2	2・2	2		111
環境政策論a・b	塩田尚樹	水1	2・2	3		112
◆ 経済史 ◆						
日本経済史a・b	奈倉文二	水1	2・2	1		113
日本社会史a・b	新井孝重	木4	2・2	1		114
西洋経済史a・b	御園生眞	火4	2・2	2		115
◆ 国際経済 ◆						
国際経済論a・b	益山光央	火3	2・2	2	外・法	116
国際金融論a・b	山本美樹子	月3	2・2	3	法	117
◆ 地域経済 ◆						
日本経済論a・b	波形昭一	火5	2・2	1	外	118
アメリカ経済論a・b	本田浩邦	木1	2・2	1		119
ラテンアメリカ経済論a・b	松本栄次	月2	2・2	1		120
西ヨーロッパ経済論a・b	大西健夫	金4	2・2	1		121
東アジア・中国経済論a・b	駒形哲也/全載旭	金2	2・2	1	外	122
オセアニア経済論a・b	森健	金3	2・2	1	外	123
アフリカ経済論a・b	原口武彦	金2	2・2	1		124
中東経済論a・b	平井文子	月2	2・2	1		125
◆ 金融経済 ◆						
金融経済論a・b	斉藤美彦	水2	2・2	2		126
金融システム論a・b	斉藤美彦	水1	2・2	2		127
◆ 財政 ◆						
財政学a・b	野村容康	木3	2・2	2		128
公共経済学a・b	伊藤為一郎	月2	2・2	2		129
地方財政論a・b	伊藤為一郎	木4	2・2	3		130
◆ 環境・都市・経済地理 ◆						
環境経済学a・b	浜本光紹	火3	2・2	2		131
都市経済学a・b	倉橋透	火1	2・2	2		132
経済地理学a・b	犬井正	火2	2・2	2		133
◆ 産業経済 ◆						
産業組織論a・b	青木雅明	月1	2・2	3		134
産業構造論a・b	山越徳	木2	2・2	3		135

【関連専門科目】

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
◆ 経営・会計 ◆						
経営学原理a・b	黒川文子	火4	2・2	2		136
経営学原理a・b	富田忠義	木4	2・2	2		137
企業論a・b	平井岳哉	火3	2・2	2		138
会計学a・b	内倉滋	火2	2・2	1	法	139
◆ 統計・情報科学 ◆						
応用統計学a・b	本田勝	水2	2・2	2		140
標本調査論a・b	松井敬	金3	2・2	2		141
データベース論a・b	高柳敏子	金4	2・2	2		142
コンピュータ・シミュレーション論a・b	富田幸弘	火2	2・2	2		143
マルチメディア論a・b	立田ルミ	水2	2・2	2		144
マルチメディア論a・b	森園子	水5	2・2	2		145
プログラミング論a・b	高柳敏子	金2	2・2	2		146
プログラミング論a・b	立田ルミ	火1	2・2	2		147
プログラミング論a・b	森園子	水3、水2	2・2	2		148
◆ 政治・法律 ◆						
政治学総論	杉田孝夫	木2	4	2	外・法	150
民法(春学期 週2回授業)	遠藤研一郎	金3、金4	4	2	法	151
民法(春学期 週2回授業)	藤田貴宏	木4、木5	4	2	法	152
商法(秋学期 週2回授業)	明田川昌幸	金3、金4	4	2	法	153
商法(秋学期 週2回授業)	藩阿憲	木4、木5	4	2	法	154
◆ 総合講座 ◆						
総合講座(1)a・b	経済学部	水3	2・2	2		155
◆ 特殊講義 ◆						
特殊講義A「経済学入門」	黒木亮	月1	4	1・2のみ		156
特殊講義B「経営学科で何が学べるか」(春学期)	経営学科	水3	2	1年のみ		157
特殊講義B「経済と法」(春学期)	住田裕子	木2	2・2	2		158
特殊講義B「企業と法」(秋学期)	住田裕子	木2	2・2	2		159
特殊講義B「ビジネス法のケーススタディ」(春学期)	住田裕子	木3	2・2	2		160
特殊講義B「ビジネス法のケーススタディ」(秋学期)	住田裕子	木3	2・2	2		161
特殊講義B「ライフスタイルと日本経済」(春学期)	森永卓郎	木2	2・2	2		162
特殊講義B「ライフスタイルと日本経済」(秋学期)	森永卓郎	木3	2・2	2		163
特殊講義B「現代日本の経済政策」(春学期)	森永卓郎	木3	2・2	2		164
特殊講義B「現代日本の経済政策」(秋学期)	森永卓郎	木2	2・2	2		165
◆ 留学生 ◆						
日本事情a・b	新井孝重	木5	2・2	1		253
日本語Ⅱa・b	斎藤 明	月2、月3	2・2	2		254
日本語Ⅱa・b	浅山佳郎	金2	2・2	2		255
日本語Ⅱa・b	武田明子	金3	2・2	2		256

別表Ⅱ-2-2 経営学基礎科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
経営学基礎科目群	経営学	経営学	a 2		
		簿記原簿	b 2	4	
		簿記原簿	a 2		4
		簿記原簿	b 2		4
		コンピュータ入門	a 2		
		コンピュータ入門	b 2		
		プレゼンテーション技法	a 2		
		プレゼンテーション技法	b 2		
		経済学	a 2		
		経済学	b 2		
		統計学	a 2		
		統計学	b 2		
経営学	経営学	第一外国語	a 2		
		第二外国語	b 2		
		高齢化社会論	a 2		
		高齢化社会論	b 2		
		高齢化社会論	a 2		
		高齢化社会論	b 2		
		社会学	a 4		
		社会学	b 4		
		日本国憲法	a 4		
		現代文化論	a 2		
		現代文化論	b 2		
		現代文化論	a 2		
現代文化論	b 2				
心理学	a 4				
心理学	b 4				
歴史学	a 4				
歴史学	b 4				
哲学	a 4				
哲学	b 4				
日本文学・世界文学	a 4				
日本文学・世界文学	b 4				
地球環境学	a 4				
地球環境学	b 4				
数学	a 2				
数学	b 2				
地学	a 4				
地学	b 4				
精神衛生学	a 4				
精神衛生学	b 4				
医療・福祉概論	a 2				
医療・福祉概論	b 2				
スポーツ・健康学	a 2				
スポーツ・健康学	b 2				
体育	a 2				
体育	b 2				
合計			16	24	40

24

別表Ⅱ-2-2 (2) 学専専門科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
学専専門科目群	経営学	基礎演習	I 4	4	
		基礎演習	II 4		4
		経営外国語I	a 2		
		経営外国語I	b 2		
		経営外国語II	a 2		
		経営外国語II	b 2		
		卒業学業研究	a 4		
		卒業学業研究	b 4		
		経営学原簿	a 2		
		経営学原簿	b 2		
		経営戦略論	a 2		
		経営戦略論	b 2		
経営管理論	a 2				
経営管理論	b 2				
経営組織論	a 2				
経営組織論	b 2				
経営財務論	a 2				
経営財務論	b 2				
人的資源管理論	a 2				
人的資源管理論	b 2				
国際経営論	a 2				
国際経営論	b 2				
経営史	a 2				
経営史	b 2				
日本経営史	a 2				
日本経営史	b 2				
マーケティング論	a 2				
マーケティング論	b 2				
広告論	a 2				
広告論	b 2				
行動科学論	a 2				
行動科学論	b 2				
保険論	a 2				
保険論	b 2				
貿易論	a 2				
貿易論	b 2				
証券市場論	a 2				
証券市場論	b 2				
企業論	a 2				
企業論	b 2				
企業形態論	a 2				
企業形態論	b 2				
ハンチャー・ビジネス論	a 2				
ハンチャー・ビジネス論	b 2				
非営利組織マネジメント論	a 2				
非営利組織マネジメント論	b 2				
企業文化論	a 2				
企業文化論	b 2				
研究・開発マネジメント論	a 2				
研究・開発マネジメント論	b 2				

学専専門科目

別表Ⅱ-2-2 (3) 関連専門科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
関連専門科目群	経営学	マクロ経済学	a 2		
		マクロ経済学	b 2		
		ミクロ経済学	a 2		
		ミクロ経済学	b 2		
		経済政策論	a 2		
		経済政策論	b 2		
		日本経済論	a 2		
		日本経済論	b 2		
		日本経済史	a 2		
		日本経済史	b 2		
		国際経済論	a 2		
		国際経済論	b 2		
金融経済論	a 2				
金融経済論	b 2				
金融・財政学	a 2				
金融・財政学	b 2				
政治学	a 4				
政治学	b 4				
民法	a 4				
民法	b 4				
著作権法	a 4				
著作権法	b 4				
*総合講座(1)	a 2				
*総合講座(1)	b 2				
*総合講座(2)	a 2				
*総合講座(2)	b 2				
特殊講義	A 4				
特殊講義	B 4				
合計			12	80	92

80

備考

- 卒業単位数は必修28単位、選択104単位、合計して最低132単位以上修得するものとする。
132単位の内訳は、学専基礎科目40単位以上、学専専門科目と関連専門科目のうちから92単位以上である。
- 学専専門科目と関連専門科目(必修科目は除く)のうち、28単位までは経済学専科および他学部ならびに教職課程授業科目の単位をもって代用できる。他学部科目および教職課程授業科目は12単位以内とする。
なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。
- 第一外国語は、英語、ドイツ語、フランス語のうちいずれか一外国語とする。英語を第一外国語とする場合、第二外国語はドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語のいずれか一外国語とする。ドイツ語、フランス語を第一外国語とする場合、英語を第二外国語とする。第一外国語は一学年に4単位、二学年に4単位、合計8単位を修得するものとする。
- *の講義科目は年度ごとに定める。
(5)a・bおよびB科目は半年で完結する。本表は、2001年度入学者より適用する。ただし、2000年度入学者は、高専学校1種免許状(情報)を取得する場合に限り、上記科目を履修することができる。

【2001～02年度入学者用】

【経営学科】

【学科基礎科目】

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
◆ 経済・経営入門 ◆						
経営学a・b	上坂卓郎	水1	2・2	1	済・外・法	46
経営学a・b	日下泰夫	水1	2・2	1	済・外・法	47
経営学a・b	黒川文子	水1	2・2	1	済・外・法	48
経営学a・b	小林哲也	水1	2・2	1	済・外・法	49
経営学a・b	高松和幸	水1	2・2	1	済・外・法	50
経営学a・b	富田忠義	水1	2・2	1	済・外・法	51
経営学a・b	平井岳哉	水1	2・2	1	済・外・法	52
簿記原理a・b	井出健二郎	月4	2・2	1		53
簿記原理a・b	内倉滋	月2	2・2	1		54
簿記原理a・b	香取徹	水2	2・2	1		55
簿記原理a・b	金井繁雄	月4	2・2	1		56
簿記原理a・b	千葉啓司	木4	2・2	1		57
簿記原理a・b	中村泰將	水2	2・2	1		58
簿記原理a・b	細田哲	月2	2・2	1		59
簿記原理a・b	百瀬房徳	木1	2・2	1		60
簿記原理a・b	湯田雅夫	火1	2・2	1		61
コンピュータ入門a・b	各担当教員	時間割参照	2・2	1	外・法	43
プレゼンテーション技法(秋学期のみ)	富澤儀一	水3	2	2		44
経済学a・b	米山昌幸	水1	2・2	1	済・外・法	39
統計学a・b	富田幸弘	木2、木3	2・2	1	法	40
統計学a・b	本田勝	火3、火4	2・2	1	法	41
統計学a・b	松井敬	火2、火3	2・2	1	法	42
◆ 外国語 ◆						
英語Ⅰ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	203
英語Ⅰ(会話)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	204
英語Ⅱ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	205
英語Ⅱ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	206
英語Ⅱ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	207
ドイツ語ⅠB(読解練習)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	208
ドイツ語ⅠC(口頭練習)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	209
ドイツ語ⅡB(読解練習)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	210
ドイツ語ⅡC(口頭練習)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	211
フランス語ⅠB	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	212
フランス語ⅠC	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	213
フランス語ⅡB	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	214
フランス語ⅡC	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	215
スペイン語Ⅰ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	216
スペイン語Ⅰ(会話)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	217
スペイン語Ⅱ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	218
スペイン語Ⅱ(会話)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	219
中国語Ⅰ(会話)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	220
中国語Ⅰ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	221
中国語Ⅱ(会話)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	222
中国語Ⅱ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	223

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
ロシア語Ⅰ(文法)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	224
ロシア語Ⅰ(会話)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	225
ロシア語Ⅱ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	226
ロシア語Ⅱ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	227
韓国語Ⅰ(文法)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	228
韓国語Ⅰ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	229
韓国語Ⅱ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	230
韓国語Ⅱ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	231
◆ 社会科学 ◆						
高齢化社会論a・b	奥山正司	月1	2・2	1		63
社会学	岡村圭子	木2、土1	4	1	外・法	232
法学	内山良雄	木3	4	1	外・法	149
日本国憲法	加藤一彦	火2	4	1	外・法	233
◆ 人文科学 ◆						
現代文化論a・b	柴崎信三	水3	2・2	1		66
文化人類学	井上兼行	火2、火3	4	1	外・法	234
心理学	増田直衛	月1、月2	4	1	外・法	235
歴史学(日本史)	新井孝重	土1	4	1	外・法	236
歴史学(日本史)	丸浜昭	金4	4	1	外・法	237
歴史学(東洋史)	熊谷哲也	木3	4	1	外・法	238
哲学	谷口郁夫	月2	4	1	外	239
文学(日本文学)	佐藤毅	水2	4	1	外・法	240
文学(日本文学)	福沢健	月3	4	1	外・法	241
文学(世界文学)	野々山ミチコ	水3	4	1	外・法	242
文学(世界文学)	宮内尚美	火2	4	1	外・法	243
国語	飯島一彦	火1、木2	4	1	外・法	244
国語	小島幸枝	火3	4	1	外・法	245
国語	小島幸枝	水2	4	1	外・法	246
国語	佐藤毅	水1	4	1	外・法	247
国語	福沢健	月2、月4	4	1	外・法	248
◆ 自然科学 ◆						
地球環境論	鈴木滋	火2	4	1	外・法	249
数学a・b	高木悟	木3、木4	2・2	1	外	62
地理学	秋本弘章	水2	4	1	外・法	250
地理学	犬井正	月2	4	1	外・法	251
◆ スポーツ・健康 ◆						
精神衛生論	中野隆史	火4	4	1	法	64
医療・福祉概論a・b	藤井賢一郎	土1、土2	2・2	1		65
スポーツ・健康論a・b	和田智	金3	2・2	1	外	252

【 学 科 専 門 科 目 】

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
◆ 経営外国語 ◆						
経営外国語Ⅰa・b	青木雅明	月2	2・2	2	済・外・法	67
経営外国語Ⅰa・b	阿部正浩	火2	2・2	2	済・外・法	68
経営外国語Ⅰa・b	井出健二郎	月5	2・2	2	済・外・法	69
経営外国語Ⅰa・b	伊藤為一郎	木1	2・2	2	済・外・法	70
経営外国語Ⅰa・b	岡村国和	木3	2・2	2	済・外・法	71
経営外国語Ⅰa・b	奥山正司	月2	2・2	2	済・外・法	72
経営外国語Ⅰa・b	金井繁雅	月5	2・2	2	済・外・法	73
経営外国語Ⅰa・b	倉橋透	水2	2・2	2	済・外・法	74
経営外国語Ⅰa・b	黒川文子	木4	2・2	2	済・外・法	75
経営外国語Ⅰa・b	黒木亮	木2	2・2	2	済・外・法	76
経営外国語Ⅰa・b	小林進	金2	2・2	2	済・外・法	77
経営外国語Ⅰa・b	小林哲也	金3	2・2	2	済・外・法	78
経営外国語Ⅰa・b	齋藤正章	月5	2・2	2	済・外・法	79
経営外国語Ⅰa・b	清水絹代	水4	2・2	2	済・外・法	80
経営外国語Ⅰa・b	千葉啓司	木5	2・2	2	済・外・法	81
経営外国語Ⅰa・b	中村泰將	火2	2・2	2	済・外・法	82
経営外国語Ⅰa・b	波形昭一	火2	2・2	2	済・外・法	83
経営外国語Ⅰa・b(フランス語)	原口武彦	金3	2・2	2	済・外・法	84
経営外国語Ⅰa・b	平井岳哉	水2	2・2	2	済・外・法	85
経営外国語Ⅰa・b	本田浩邦	木2	2・2	2	済・外・法	86
経営外国語Ⅰa・b	益山光央	火1	2・2	2	済・外・法	87
経営外国語Ⅰa・b	松本栄次	火2	2・2	2	済・外・法	88
経営外国語Ⅰa・b	御園生眞	木3	2・2	2	済・外・法	89
経営外国語Ⅰa・b	百瀬房徳	火1	2・2	2	済・外・法	90
経営外国語Ⅰa・b	森健	水1	2・2	2	済・外・法	91
経営外国語Ⅰa・b	山越徳	火2	2・2	2	済・外・法	92
経営外国語Ⅰa・b	山本美樹子	水2	2・2	2	済・外・法	93
経営外国語Ⅰa・b	米山昌幸	水2	2・2	2	済・外・法	94
経営外国語Ⅰa・b(中国語)(秋学期 週2回)	全載旭	水1、水2	2・2	2	済・外・法	95
経営外国語Ⅰa・b〔留学生クラス〕	ジム・ブローガン	月2月3月4	2・2	2	済・外・法	96
経営外国語Ⅱa・b	岡村国和	木4	2・2	3	済・外・法	97
経営外国語Ⅱa・b	香取徹	火1	2・2	3	済・外・法	98
経営外国語Ⅱa・b	斉藤美彦	木3	2・2	3	済・外・法	99
経営外国語Ⅱa・b	塩田尚樹	月1	2・2	3	済・外・法	100
経営外国語Ⅱa・b(中国語)(秋学期 週2回)	全載旭	木3、木4	2・2	3	済・外・法	101
経営外国語Ⅱa・b	野村容康	火1	2・2	3	済・外・法	102
◆ 経営 ◆						
経営学原理a・b	黒川文子	火4	2・2	2		136
経営学原理a・b	富田忠義	木3	2・2	2		137
経営戦略論a・b	富田忠義	木2	2・2	2		162
経営管理論a・b	黒川文子	木3	2・2	1		163
経営組織論a・b	高松和幸	月3	2・2	2		164
経営財務論a・b	細田哲	金3	2・2	2		165
国際経営論a・b	小林哲也	木3	2・2	2	法	166

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
◆ 経営史 ◆						
経営史a・b	柳敦	金4	2・2	1		167
日本経営史a・b	奈倉文二	水2	2・2	2		168
◆ 商業 ◆						
マーケティング論a・b	大久保貞義	木5	2・2	2		169
広告論a・b	八巻 俊雄	月3	2・2	2	外	170
行動科学論a・b	大久保貞義	木4	2・2	2		171
保険論a・b	岡村国和	月3	2・2	2		172
貿易論a・b	米山昌幸	火3	2・2	2		173
証券市場論a・b	高橋元	木2	2・2	2		174
◆ 企業 ◆						
企業論a・b	平井岳哉	火3	2・2	2		138
ベンチャービジネス論a・b	上坂卓郎	金2	2・2	2		175
非営利組織マネジメント論a・b	高松和幸	火2	2・2	2		176
企業文化論a(春学期のみ開講)	斉藤善久	火4	2	1		177
研究・開発マネジメントa・b	日下泰夫	金3	2・2	2		178
◆ 会計 ◆						
会計学原理a・b	内倉滋	水1	2・2	2		179
財務会計論a・b	中村泰將	月2	2・2	2		180
管理会計論a・b	香取徹	火4	2・2	3		181
社会会計論a・b	湯田雅夫	月4	2・2	3		182
原価計算論a・b	齋藤正章	月4	2・2	2		183
会計監査論a・b	米田正巳	水5	2・2	3		184
税務会計論a・b	山田浩一	土2	2・2	3		185
経営分析論a・b	百瀬房徳	火2	2・2	3		186
上級簿記a・b(商業)	井出健二郎	月3	2・2	1		187
上級簿記a・b(工業)	香取徹	火5	2・2	1		188
国際会計論a・b	五十嵐則夫	木5	2・2	2		189
◆ 情報科学 ◆						
経営数学a・b	本田勝	火2	2・2	1		190
応用統計学a・b	本田勝	水2	2・2	2		140
標本調査論a・b	松井敬	金3	2・2	2		141
データベース論a・b	高柳敏子	金4	2・2	2		142
コンピュータ・シミュレーション論a・b	富田幸弘	火2	2・2	2		143
マルチメディア論a・b	立田ルミ	水2	2・2	2		144
マルチメディア論a・b	森園子	水5	2・2	2		145
情報検索論a・b	福田求	水1	2・2	3		191
情報システム論a・b	今福啓	火4	2・2	2		192
プログラミング論a・b	高柳敏子	金2	2・2	2		146
プログラミング論a・b	立田ルミ	火1	2・2	2		147
プログラミング論a・b	森園子	水2、水3	2・2	2		148
情報社会論a・b	柴崎信三	水2	2・2	1		193
情報通信ネットワークa・b	今福啓/三宅真	金4/金4金5	2・2	3		194
コンピュータネットワーク(春学期のみ)	富澤義一	水3	2	1		195
コンピュータアーキテクチャ(秋学期のみ)	今福啓	金4	2	1		196
情報と職業a・b	富田幸弘/小林哲也	水2	2・2	1		197
アルゴリズム論a・b	木村昌史	月2	2・2	2		198

〔2001～02年度入学者用〕
【経営学科】

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
◆ 経営システム工学 ◆						
オペレーションズ・リサーチa・b	正道寺勉	月2	2・2	3		199
システムズ・エンジニアリングa・b	天笠美知夫	木4	2・2	3		200
経営システム工学a・b	日下泰夫	火2	2・2	3		201

【関連専門科目】

◆ 経済理論・経済政策 ◆						
マクロ経済学a・b	塩田尚樹	火1	2・2	2		103
マクロ経済学a・b	山本美樹子	水1	2・2	2		104
ミクロ経済学a・b	小林進	金3	2・2	2		105
ミクロ経済学a・b	藤山英樹	木1	2・2	2		106
経済政策論a・b	阿部正浩	木2	2・2	2		111

◆ 日本経済・国際経済 ◆						
日本経済論a・b	波形昭一	火5	2・2	1	外	118
日本経済史a・b	奈倉文二	水1	2・2	1		113
国際経済論a・b	益山光央	火3	2・2	2	外・法	116

◆ 金融・財政 ◆						
金融経済論a・b	斉藤美彦	水2	2・2	2		126
財政学a・b	野村容康	木3	2・2	2		128

◆ 政治・法律 ◆						
政治学総論	杉田孝夫	木2	4	2	外・法	150
民法(春学期 週2回授業)	遠藤研一郎	金3、金4	4	2	法	151
民法(春学期 週2回授業)	藤田貴宏	木4、木5	4	2	法	152
商法(秋学期 週2回授業)	明田川昌幸	金3、金4	4	2	法	153
商法(秋学期 週2回授業)	藩阿憲	木4、木5	4	2	法	154
著作権法	長塚真琴	金2	4	2	法	202

◆ 総合講座 ◆						
総合講座(1)a・b	経済学部	水3	2・2	2		155

◆ 特殊講義 ◆						
特殊講義A「経済学入門」	黒木亮	月1	4	1・2のみ		156
特殊講義B「経営学科で何が学べるか」(春学期)	経営学科	水3	2	1年のみ		157
特殊講義B「経済と法」(春学期)	住田裕子	木2	2	2		158
特殊講義B「企業と法」(秋学期)	住田裕子	木2	2	2		158
特殊講義B「ビジネス法のケーススタディ」(春学期)	住田裕子	木3	2	2		159
特殊講義B「ビジネス法のケーススタディ」(秋学期)	住田裕子	木3	2	2		159
特殊講義B「ライフスタイルと日本経済」(春学期)	森永卓郎	木2	2	2		160
特殊講義B「ライフスタイルと日本経済」(秋学期)	森永卓郎	木3	2	2		160
特殊講義B「現代日本の経済政策」(春学期)	森永卓郎	木2	2	2		161
特殊講義B「現代日本の経済政策」(秋学期)	森永卓郎	木3	2	2		161

◆ 留学生 ◆						
日本事情a・b	新井孝重	木5	2・2	1		253
日本語Ⅱa・b	斎藤 明	月2、月3	2・2	2		254
日本語Ⅱa・b	浅山佳郎	金2	2・2	2		255
日本語Ⅱa・b	武田明子	金3	2・2	2		256

別表Ⅱ 経済学部授業科目

別表Ⅱ-1-1 経済学科

別表Ⅱ-1-1-(1) 学科基礎科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
学科基礎科目	経済・経営入門	経済学	4	4	
		統計学	4	4	
		情報処理概論	4		
		経営学	4		
	外国語	簿記	4		
		第一外国語	2	8	
	社会科学	第二外国語	2		
		高齢化社会学	4		
	人文科学	社会学	4		
		法	4		
(日本国憲法2単位を含む)		4			
現代文化論		4			
文化人類学		4			
心理学		4			
歴史学		4			
(日本史・東洋史・西洋史)		4			
哲学		4			
文		4			
(日本文学・世界文学)	4				
自然科学	地球環境	4			
	数	4			
	地理学	4			
	精神衛生論	4			
スポーツ・健康	医療・福祉概論	4			
	スポーツ・健康論	4			
合計		16	24	40	

別表Ⅱ-1-1-(2) 学科専門科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
経済学	演習・演習	演習Ⅰ	4	4	
		演習Ⅱ	4	4	
	経済外国語	経済外国語	4	4	
		外国語講義	4	4	
	マクロ経済学	マクロ経済学	4	4	
		ミクロ経済学	4	4	
	経済理論・経済学史	経済理論	4	4	
		経済学史	4	4	
	経済統計・計量経済学	経済統計	4	4	
		計量経済学	4	4	
経済政策	経済政策	4	4		
	経済政策	4	4		
経済史	日本経済史	4	4		
	東洋経済史	4	4		
国際経済	国際経済	4	4		
	国際経済	4	4		
地域経済	北アメリカ経済論	4	4		
	ラテンアメリカ経済論	4	4		
金融経済	東ヨーロッパ経済論	4	4		
	東アジア・中国経済論	4	4		
財政	東アジア・オセアニア経済論	4	4		
	中東・アフリカ経済論	4	4		
環境・都市・経済地理	金融経済	4	4		
	金融経済	4	4		
産業経済	金融システム論	4	4		
	金融システム論	4	4		
交通・流通	財政	4	4		
	財政	4	4		
労働・社会政策	公共経済	4	4		
	公共経済	4	4		
社会学	日本財政論	4	4		
	地方財政論	4	4		
社会学	環境・都市・経済地理	4	4		
	環境・都市・経済地理	4	4		
社会学	都市経済学	4	4		
	都市経済学	4	4		
社会学	経済地理学	4	4		
	経済地理学	4	4		
社会学	産業経済学	4	4		
	産業経済学	4	4		
社会学	産業組織論	4	4		
	産業構造論	4	4		
社会学	交通・流通	4	4		
	交通・流通	4	4		
社会学	労働・社会政策	4	4		
	労働・社会政策	4	4		
合計		68	92	24	

別表Ⅱ-1-1-(3) 関連専門科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
関連専門科目	経営・会計	経営学	4	4	
		企業会計	4	4	
	統計・情報科学	統計学	4	4	
		情報科学	4	4	
	政治・法律	標準調査学	4	4	
		データベース論	4	4	
	政治学	コンピュータシミュレーション論	4	4	
		マルチメディア論	4	4	
	商	プロダクトデザイン論	4	4	
		政治学総論	4	4	
総合講座	民法	4	4		
	商	4	4		
特殊講義	*総合講座(1)	4	4		
	*総合講座(2)	4	4		
合計		24	68	92	

備考

- (1) 卒業単位数は必修40単位、選択92単位、合計して最低132単位以上修得するものとする。
132単位の内訳は、学科基礎科目40単位以上、学科専門科目と関連専門科目のうちから92単位以上である。
- (2) 学科専門科目と関連専門科目(必修科目は除く)のうち、28単位までは経営学科および他学部ならびに教職課程授業科目の単位をもって代用できる。他学部科目および教職課程授業科目は12単位以内とする。
- なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。
- (3) 第一外国語は、英語、ドイツ語、フランス語のうちいずれか一か国語とする。英語を第一外国語とする場合、第二外国語はドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語のいずれか一か国語とする。ドイツ語、フランス語を第一外国語とする場合、英語を第二外国語とする。第一外国語は一年に4単位、二学年に4単位、合計8単位を修得するものとする。
- (4) *、** の講義科目は年度ごとに定める。
- (5) ** は半年で完結する。

本表は、2000年度入学者より適用する。

【2000年度以前入学者用】

【経済学科】

【学科基礎科目】

◆ 経済・経営入門 ◆

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
経済学	片岡晴雄	火1、火2	4	1	営・外・法	33
経済学	倉橋透	金4	4	1	営・外・法	34
経済学 (春学期b科目 秋学期a科目)	小林進	火2	4	1	営・外・法	35
経済学	野村容康	火1	4	1	営・外・法	36
経済学	浜本光紹	水2	4	1	営・外・法	37
経済学	益山光央	木1	4	1	営・外・法	38
統計学	富田幸弘	木2、木3	4	1	法	40
統計学	本田勝	火3、火4	4	1	法	41
統計学	松井敬	火2、火3	4	1	法	42
情報処理概論	各担当教員	時間割参照	4	1	外・法	43
経営学	清水絹代	水3	4	1	営	45
簿記原理	井出健二郎	月4	4	1		53
簿記原理	内倉滋	月2	4	1		54
簿記原理	香取徹	水2	4	1		55
簿記原理	金井繁雅	月4	4	1		56
簿記原理	千葉啓司	木4	4	1		57
簿記原理	中村泰將	水2	4	1		58
簿記原理	細田哲	月2	4	1		59
簿記原理	百瀬房徳	木1	4	1		60
簿記原理	湯田雅夫	火1	4	1		61
◆ 外国語 ◆						
英語Ⅰ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	203
英語Ⅰ(会話)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	204
英語Ⅱ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	205
英語Ⅱ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	206
英語Ⅱ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	207
ドイツ語ⅠB(読解練習)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	208
ドイツ語ⅠC(口頭練習)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	209
ドイツ語ⅡB(読解練習)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	210
ドイツ語ⅡC(口頭練習)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	211
フランス語ⅠB	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	212
フランス語ⅠC	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	213
フランス語ⅡB	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	214
フランス語ⅡC	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	215
スペイン語Ⅰ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	216
スペイン語Ⅰ(会話)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	217
スペイン語Ⅱ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	218
スペイン語Ⅱ(会話)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	219
中国語Ⅰ(会話)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	220
中国語Ⅰ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	221
中国語Ⅱ(会話)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	222
中国語Ⅱ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	223
ロシア語Ⅰ(文法)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	224
ロシア語Ⅰ(会話)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	225
ロシア語Ⅱ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	226
ロシア語Ⅱ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	227
韓国語Ⅰ(文法)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	228
韓国語Ⅰ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	229
韓国語Ⅱ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	230
韓国語Ⅱ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	231

〔2000年度以前入学者用〕

【経済学科】

開始

学年

履修不可

ページ

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
◆ 社会科学 ◆						
高齢化社会論	奥山正司	月1	4	1		63
社会学	岡村圭子	木2、土1	4	1	外・法	232
法学(日本国憲法2単位を含む)	内山良雄	木3	4	1	外・法	148
◆ 人文科学 ◆						
現代文化論	柴崎信三	水3	4	1	外・法	66
文化人類学	井上兼行	火2、火3	4	1	外・法	234
心理学	増田直衛	月1、月2	4	1	外・法	235
歴史学(日本史)	新井孝重	土1	4	1	外・法	236
歴史学(日本史)	丸浜昭	金4	4	1	外・法	237
歴史学(東洋史)	熊谷哲也	木3	4	1	外・法	238
哲学	谷口郁夫	月2	4	1	外	239
文学(日本文学)	佐藤毅	水2	4	1	外・法	240
文学(日本文学)	福沢健	月3	4	1	外・法	241
文学(世界文学)	野々山ミチコ	水3	4	1	外・法	242
文学(世界文学)	宮谷尚美	火2	4	1	外・法	243
国語	飯島一彦	火1、木2	4	1	外・法	244
国語	小島幸枝	火3	4	1	外・法	245
国語	小島幸枝	水2	4	1	外・法	246
国語	佐藤毅	水1	4	1	外・法	247
国語	福沢健	月2、月4	4	1	外・法	248
◆ 自然科学 ◆						
地球環境論	鈴木滋	火2	4	1	外・法	249
数学	高木悟	木3、木4	4	1	外	62
地理学	秋本弘章	水2	4	1	外・法	250
地理学	犬井正	月2	4	1	外・法	251
◆ スポーツ・健康 ◆						
精神衛生論	中野隆史	火4	4	1	法	64
医療・福祉概論	藤井賢一郎	土1、土2	4	1		65
スポーツ・健康論	和田智	金3	4	1	外	252

科目名 【学 科 専 門 科 目】	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
◆ 経済外国語 ◆						
経済外国語	青木雅明	月2	4	2	営・外・法	67
経済外国語	阿部正浩	火2	4	2	営・外・法	68
経済外国語	井出健二郎	月5	4	2	営・外・法	69
経済外国語	伊藤為一郎	木1	4	2	営・外・法	70
経済外国語	岡村国和	木3	4	2	営・外・法	71
経済外国語	奥山正司	月2	4	2	営・外・法	72
経済外国語	金井繁雅	月5	4	2	営・外・法	73
経済外国語	倉橋透	水2	4	2	営・外・法	74
経済外国語	黒川文子	木4	4	2	営・外・法	75
経済外国語	黒木亮	木2	4	2	営・外・法	76
経済外国語	小林進	金2	4	2	営・外・法	77
経済外国語	小林哲也	金3	4	2	営・外・法	78
経済外国語	齋藤正章	月5	4	2	営・外・法	79
経済外国語	清水絹代	水4	4	2	営・外・法	80
経済外国語	千葉啓司	木5	4	2	営・外・法	81
経済外国語	中村泰將	火2	4	2	営・外・法	82
経済外国語	波形昭一	火2	4	2	営・外・法	83
経済外国語 (フランス語)	原口武彦	金3	4	2	営・外・法	84
経済外国語	平井岳哉	水2	4	2	営・外・法	85
経済外国語	本田浩邦	木2	4	2	営・外・法	86
経済外国語	益山光央	火1	4	2	営・外・法	87
経済外国語	松本栄次	火2	4	2	営・外・法	88
経済外国語	御園生眞	木3	4	2	営・外・法	89
経済外国語	百瀬房徳	火1	4	2	営・外・法	90
経済外国語	森健	水1	4	2	営・外・法	91
経済外国語	山越徳	火2	4	2	営・外・法	92
経済外国語	山本美樹子	水2	4	2	営・外・法	93
経済外国語	米山昌幸	水2	4	2	営・外・法	94
経済外国語(中国語)(秋学期週2回授業)	全載旭	水1、水2	4	2	営・外・法	95
経済外国語(留学生用)	ジム・ブローガン	月2月3月4	4	2	営・外・法	96
外国書講読	岡村国和	木4	4	3	外・法	97
外国書講読	香取徹	火1	4	3	外・法	98
外国書講読	斉藤美彦	木3	4	3	外・法	99
外国書講読	塩田尚樹	月1	4	3	外・法	100
外国書講読(中国語)(秋学期週2回授業)	全載旭	木3、木4	4	3	外・法	101
外国書講読	野村容康	火2	4	3	外・法	102
◆ 経済理論・経済史 ◆						
マクロ経済学	塩田尚樹	火1	4	2		103
マクロ経済学	山本美樹子	水1	4	2		104
ミクロ経済学	小林進	金3	4	2		105
ミクロ経済学	藤山英樹	木1	4	2		106
経済学史	黒木亮	木3	4	3		107
経済変動論	松本正信	火3	4	3		108

[2000年度以前入学者用]
【経済学科】

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
◆ 経済統計・計量経済 ◆						
経済統計論	松本正信	火4	4	1		109
計量経済学	藤山英樹	金1	4	3		110
◆ 経済政策 ◆						
経済政策論	阿部正浩	木2	4	2		111
◆ 経済史 ◆						
日本経済史	奈倉文二	水1	4	1		113
日本社会史	新井孝重	木4	4	1		114
西洋経済史	御園生眞	火4	4	1		115
◆ 国際経済 ◆						
国際経済論	益山光央	火3	4	2	外・法	116
国際金融論	山本美樹子	月3	4	3	法	117
◆ 地域経済 ◆						
日本経済論	波形昭一	火5	4	1	外	118
北アメリカ経済論	本田浩邦	木1	4	1		119
ラテンアメリカ経済論	松本栄次	月2	4	1		120
西ヨーロッパ経済論	大西健夫	金4	4	1		121
東アジア・中国経済論	駒形哲也/全載旭	金2	4	1	外	122
東南アジア・オセアニア経済論	森健	金3	4	1	外	123
中東・アフリカ経済論	原口武彦	金2	4	1		124
中東・アフリカ経済論	平井文子	月2	4	1		125
◆ 金融経済 ◆						
金融経済論	斉藤美彦	水2	4	2		126
金融システム論	斉藤美彦	水1	4	2		127
◆ 財政 ◆						
財政学	野村容康	木3	4	2		128
公共経済学	伊藤為一郎	月2	4	2		129
地方財政論	伊藤為一郎	木4	4	2		130
◆ 環境・都市・経済地理 ◆						
環境経済学	浜本光紹	火3	4	2		131
都市経済学	倉橋徹	火1	4	2		132
経済地理学	犬井正	火2	4	2		133
◆ 産業経済 ◆						
産業組織論	青木雅明	月1	4	2		134
産業構造論	山越徳	木2	4	2		135

科目名 【 関連専門科目 】	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
◆ 経営・会計 ◆						
経営学原理	黒川文子	火4	4	2		136
経営学原理	富田忠義	木4	4	2		137
企業論	平井岳哉	火3	4	2		138
会計学	内倉滋	火2	4	1	法	139
◆ 統計・情報科学 ◆						
応用統計学	本田勝	水2	4	2		140
標本調査論	松井敬	金3	4	2		141
データベース論	高柳敏子	金4	4	1		142
コンピュータ・シミュレーション論	富田幸弘	火2	4	1		143
マルチメディア論	立田ルミ	水2	4	1		144
マルチメディア論	森園子	水5	4	1		145
プログラミング論	高柳敏子	金2	4	1		146
プログラミング論	立田ルミ	火1	4	1		147
プログラミング論	森園子	水3、水2	4	1		148
◆ 政治・法律 ◆						
政治学総論	杉田孝夫	木2	4	2	外・法	150
民法(春学期週2回授業)	遠藤研一郎	金3、金4	4	2	法	151
民法(春学期週2回授業)	藤田貴宏	木4、木5	4	2	法	152
商法(秋学期週2回授業)	明田川昌幸	金3、金4	4	2	法	153
商法(秋学期週2回授業)	藩阿憲	木4、木5	4	2	法	154
◆ 総合講座 ◆						
総合講座(1)	経済学部	水3	4	2		155
◆ 特殊講義 ◆						
特殊講義A「経済学入門」	黒木亮	月1	4	1・2のみ		156
特殊講義A「情報通信ネットワーク」	今福啓/三宅真	金4/金4金5	4	3		194
特殊講義B「経営学科で何が学べるか」(春学期)	経営学科	水3	2	1年のみ		157
特殊講義B「経済と法」(春学期)	住田裕子	木2	4	2		158
特殊講義B「企業と法」(秋学期)	住田裕子	木2	4	2		158
特殊講義B「ビジネス法のケーススタディ」(春学期)	住田裕子	木3	4	2		159
特殊講義B「ビジネス法のケーススタディ」(秋学期)	住田裕子	木3	4	2		159
特殊講義B「ライフスタイルと日本経済」(春学期)	森永卓郎	木2	4	2		160
特殊講義B「ライフスタイルと日本経済」(秋学期)	森永卓郎	木3	4	2		160
特殊講義B「現代日本の経済政策」(春学期)	森永卓郎	木3	4	2		161
特殊講義B「現代日本の経済政策」(秋学期)	森永卓郎	木2	4	2		161
◆ 留学生 ◆						
日本事情a・b	新井孝重	木5	2・2	1		253
日本語Ⅱa・b	斎藤 明	月2、月3	2・2	2		254
日本語Ⅱa・b	浅山佳郎	金2	2・2	2		255
日本語Ⅱa・b	武田明子	金3	2・2	2		256

別表Ⅱ-2-2-1 経営学基礎科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
経営学基礎科目	経営・経済入門	簿記原理	4	4	
		情報処理概論	4	4	
	外国語	経済学	4		
		統計学	4		
		第一外国語	2	8	
		第二外国語	2		
	社会科学	高齢化社会学	4		
		社会学	4		
		法社会学	4		
		現代文化論	4		
文化人類学		4			
心理学		4			
歴史学		4			
歴史学(日本史・東洋史)		4			
哲学		4			
哲学(日本文学・世界文学)		4			
自然科学	地球環境論	4			
	数学	4			
	地理学	4			
	精神衛生論	4			
スポーツ・健康	医療・福祉概論	4			
	スポーツ・健康論	4			
合計			16	24	40

別表Ⅱ-2-2 (2) 学科専門科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
経営学	演習・経営外国語	演習Ⅰ	4	4	
		演習Ⅱ	4	4	
	経営	経営外国語	4	4	
		外国語講読	4	4	
		経営学原論	4	4	
		経営戦略論	4	4	
	経営史	経営組織論	4	4	
		経営財務論	4	4	
		経営労務論	4	4	
		経営学原論	4	4	
商業	日本経営史	4	4		
	マーケティング論	4	4		
	広告学	4	4		
	行動科学	4	4		
	保険論	4	4		
	貿易論	4	4		
	証券市場論	4	4		
	企業形態論	4	4		
	ハンチャー・ヒンネス論	4	4		
	協同組合論	4	4		
会計	会計学原論	4	4		
	財務会計論	4	4		
	管理会計論	4	4		
	社会会計論	4	4		
	原価計算論	4	4		
	会計監査論	4	4		
	税金論	4	4		
	経営分析論	4	4		
	上級簿記論	4	4		
	経営数学	4	4		
情報科学	応用統計学	4	4		
	標本調査論	4	4		
	データベース論	4	4		
	コンピュータシミュレーション論	4	4		
	マルチメディア論	4	4		
	情報検索論	4	4		
	情報システム論	4	4		
	プログラミン論	4	4		
	オペレーション・リサーチ	4	4		
	システムズ・エンジニアリング	4	4		
管理工学	管理工学	4	4		
	高齢者エルゴノミクス	4	4		

72

別表Ⅱ-2-2 (3) 関連専門科目群

群	部門	授業科目	単位	必修	選択
関連専門科目	経済理論・経済政策	マクロ経済学	4	4	
		ミクロ経済学	4	4	
	日本経済・国際経済	経済政策論	4	4	
		日本経済論	4	4	
		国際経済論	4	4	
		金融・財政論	4	4	
	政治・法律	政治学	4	4	
		民法	4	4	
		商法	4	4	
		総論	4	4	
総合講義	*総合講座(1)	4	4		
	*総合講座(2)	4	4		
特殊講義	特殊講義A	4	4		
	**特殊講義B	2	2		
合計			20	72	92

備考

- (1) 卒業単位数は必修36単位、選択96単位、合計して最低132単位以上修得するものとする。132単位の内訳は、学科基礎科目40単位以上、学科専門科目と関連専門科目のうちから92単位以上である。
- (2) 学科専門科目と関連専門科目(必修科目は除く)のうち、28単位までは経済学科および他学部ならびに教職課程授業科目の単位をもって代用できる。他学部科目および教職課程授業科目は12単位以内とする。
- なお、教職課程授業科目の単位の代用については別に定める。
- (3) 第一外国語は、英語、ドイツ語、フランス語のうちいずれか一外国語とする。英語を第一外国語とする場合、第二外国語はドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語のいずれか一外国語とする。ドイツ語、フランス語を第一外国語とする場合、英語を第二外国語とする。第一外国語は一学年に4単位、二学年に4単位、合計8単位を修得するものとする。
- (4) *、** の講義科目は年度ごとに定める。
- (5) ** は半年で完結する。
- 本表は、2000年度入学者より適用する。

【2000年度以前入学者用】

【経営学科】

【学科基礎科目】

◆ 経済・経営入門 ◆

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
経営学	上坂卓郎	水1	4	1	済	46
経営学	日下泰夫	水1	4	1	済	47
経営学	黒川文子	水1	4	1	済	48
経営学	小林哲也	水1	4	1	済	49
経営学	高松和幸	水1	4	1	済	50
経営学	富田忠義	水1	4	1	済	51
経営学	平井岳哉	水1	4	1	済	52
簿記原理	井出健二郎	月4	4	1		53
簿記原理	内倉滋	月2	4	1		54
簿記原理	香取徹	水2	4	1		55
簿記原理	金井繁雅	月4	4	1		56
簿記原理	千葉啓司	木4	4	1		57
簿記原理	中村泰將	水2	4	1		58
簿記原理	細田哲	月2	4	1		59
簿記原理	百瀬房徳	木1	4	1		60
簿記原理	湯田雅夫	火1	4	1		61
情報処理概論	各担当教員	時間割参照	4	1	外・法	43
経済学	上坂卓郎	火1	4	1	済・外・法	38
経済学	米山昌幸	水1	4	1	済・外・法	39
統計学	富田幸弘	木2、木3	4	1	法	40
統計学	本田勝	火3、火4	4	1	法	41
統計学	松井敬	火2、火3	4	1	法	42

◆ 外国語 ◆

英語 I (講読)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	203
英語 I (会話)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	204
英語 II (講読)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	205
英語 II (総合)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	206
英語 II (総合)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	207
ドイツ語 I B (読解練習)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	208
ドイツ語 I C (口頭練習)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	209
ドイツ語 II B (読解練習)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	210
ドイツ語 II C (口頭練習)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	211
フランス語 I B	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	212
フランス語 I C	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	213
フランス語 II B	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	214
フランス語 II C	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	215
スペイン語 I (総合)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	216
スペイン語 I (会話)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	217
スペイン語 II (総合)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	218
スペイン語 II (会話)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	219
中国語 I (会話)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	220
中国語 I (講読)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	221
中国語 II (会話)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	222
中国語 II (講読)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	223
ロシア語 I (文法)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	224
ロシア語 I (会話)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	225
ロシア語 II (総合)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	226
ロシア語 II (講読)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	227

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
韓国語Ⅰ(文法)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	228
韓国語Ⅰ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	1	外・法	229
韓国語Ⅱ(総合)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	230
韓国語Ⅱ(講読)	各担当教員	時間割参照	2	2	外・法	231
◆ 社会科学 ◆						
高齢化社会論	奥山正司	月1	4	1		63
社会学	岡村圭子	木2、土1	4	1	外・法	232
法学(日本国憲法2単位を含む)	内山良雄	木3	4	1	外・法	149
◆ 人文科学 ◆						
現代文化論	柴崎信三	水3	4	1	外・法	66
文化人類学	井上兼行	火2、火3	4	1	外・法	234
心理学	増田直衛	月1、月2	4	1	外・法	235
歴史学(日本史)	新井孝重	土1	4	1	外・法	236
歴史学(日本史)	丸浜昭	金4	4	1	外・法	237
歴史学(東洋史)	熊谷哲也	木3	4	1	外・法	238
哲学	谷口郁夫	月2	4	1	外	239
文学(日本文学)	佐藤毅	水2	4	1	外・法	240
文学(日本文学)	福沢健	月3	4	1	外・法	241
文学(世界文学)	野々山ミチコ	水3	4	1	外・法	242
文学(世界文学)	宮谷尚美	火2	4	1	外・法	243
国語	飯島一彦	火1、木2	4	1	外・法	244
国語	小島幸枝	火3	4	1	外・法	245
国語	小島幸枝	水2	4	1	外・法	246
国語	佐藤毅	水1	4	1	外・法	247
国語	福沢健	月2、月4	4	1	外・法	248
◆ 自然科学 ◆						
地球環境論	鈴木滋	火2	4	1	外・法	249
数学	高木悟	木3、木4	4	1	外	62
地理学	秋本弘章	水2	4	1	外・法	250
地理学	犬井正	月2	4	1	外・法	251
◆ スポーツ・健康 ◆						
精神衛生論	中野隆史	火4	4	1	外・法	65
医療・福祉概論	藤井賢一郎	土1、土2	4	1		66
スポーツ・健康論	和田智	金3	4	1	外	252

【 学 科 専 門 科 目 】

科目名	担当者	曜 時	単 位	開始 学年	履修不可	ページ
◆ 経営外国語 ◆						
経営外国語	青木雅明	月2	4	2	済・外・法	67
経営外国語	阿部正浩	火2	4	2	済・外・法	68
経営外国語	井出健二郎	月5	4	2	済・外・法	69
経営外国語	伊藤為一郎	木1	4	2	済・外・法	70
経営外国語	岡村国和	木3	4	2	済・外・法	71
経営外国語	奥山正司	月2	4	2	済・外・法	72
経営外国語	金井繁雅	月5	4	2	済・外・法	73
経営外国語	倉橋透	水2	4	2	済・外・法	74
経営外国語	黒川文子	木4	4	2	済・外・法	75
経営外国語	黒木亮	木2	4	2	済・外・法	76
経営外国語	小林進	金2	4	2	済・外・法	77
経営外国語	小林哲也	金3	4	2	済・外・法	78
経営外国語	齋藤正章	月5	4	2	済・外・法	79
経営外国語	清水絹代	水4	4	2	済・外・法	80
経営外国語	千葉啓司	木5	4	2	済・外・法	81
経営外国語	中村泰将	火2	4	2	済・外・法	82
経営外国語	波形昭一	火2	4	2	済・外・法	83
経営外国語 (フランス語)	原口武彦	金3	4	2	済・外・法	84
経営外国語	平井岳哉	水2	4	2	済・外・法	85
経営外国語	本田浩邦	木2	4	2	済・外・法	86
経営外国語	益山光央	火1	4	2	済・外・法	87
経営外国語	松本栄次	火2	4	2	済・外・法	88
経営外国語	御園生眞	木3	4	2	済・外・法	89
経営外国語	百瀬房徳	火1	4	2	済・外・法	90
経営外国語	森健	水1	4	2	済・外・法	91
経営外国語	山越徳	火2	4	2	済・外・法	92
経営外国語	山本美樹子	水2	4	2	済・外・法	93
経営外国語	米山昌幸	水2	4	2	済・外・法	94
経営外国語(中国語)(秋学期週2回授業)	全載旭	水1、水2	4	2	済・外・法	95
経営外国語(留学生用)	ジム・ブローガン	月2月3月4	4	2	済・外・法	96
外国書講読	岡村国和	木4	4	3	外・法	97
外国書講読	香取徹	火1	4	3	外・法	98
外国書講読	斉藤美彦	木3	4	3	外・法	99
外国書講読	塩田尚樹	月1	4	3	外・法	100
外国書講読(中国語)(秋学期週2回授業)	全載旭	木3、木4	4	3	外・法	101
外国書講読	野村容康	火2	4	3	外・法	102
◆ 経 営 ◆						
経営学原理	黒川文子	火4	4	2		136
経営学原理	冨田忠義	木3	4	2		137
経営戦略論	冨田忠義	木2	4	2		162
経営管理論	黒川文子	木3	4	1		163
経営組織論	高松和幸	月3	4	2		164
経営財務論	細田哲	金3	4	2		165
国際経営論	小林哲也	木3	4	2	法	166

〔2000年度以前入学者用〕

【経営学科】

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
◆ 経営史 ◆						
経営史	柳敦	金4	4	1		167
日本経営史	奈倉文二	水2	4	2		168
◆ 商業 ◆						
マーケティング論	大久保貞義	木5	4	2		169
広告論	八巻 俊雄	月3	4	2	外	170
行動科学論	大久保貞義	木4	4	2		171
保険論	岡村国和	月3	4	2		172
貿易論	米山昌幸	火3	4	2		173
証券市場論	高橋元	木2	4	2		174
◆ 企業 ◆						
企業論	平井岳哉	火3	4	2		138
ベンチャー・ビジネス論	上坂卓郎	金2	4	2		175
協同組合論	高松和幸	火2	4	2		176
◆ 会計 ◆						
会計学原理	内倉滋	水1	4	1		179
財務会計論	中村泰將	月2	4	2		180
管理会計論	香取徹	火4	4	3		181
社会会計論	湯田雅夫	月4	4	3		182
原価計算論	齋藤正章	月4	4	2		183
会計監査論	米田正巳	水5	4	3		184
税務会計論	山田浩一	土2	4	3		185
経営分析論	百瀬房徳	火2	4	3		186
上級簿記	井出健二郎	月3	4	1		187
上級簿記	香取徹	火5	4	1		188
◆ 情報科学 ◆						
経営数学	本田勝	火2	4	1		190
応用統計学	本田勝	水2	4	2		140
標本調査論	松井敬	金3	4	2		141
データベース論	高柳敏子	金4	4	1		142
コンピュータシミュレーション論	富田幸弘	火2	4	1		143
マルチメディア論	立田ルミ	水2	4	1		144
マルチメディア論	森園子	水5	4	1		145
情報検索論	福田求	水1、水2	4	2		191
情報システム論	今福啓	火4	4	2		192
プログラミング論	高柳敏子	金2	4	1		146
プログラミング論	立田ルミ	火1	4	1		147
プログラミング論	森園子	水3、水4	4	1		148
◆ 管理工学 ◆						
オペレーションズ・リサーチa・b	正道寺勉	月2	4	3		199
システムズ・エンジニアリングa・b	天笠美知夫	木4	4	3		200
管理工学	日下泰夫	火2	4	3		201

【関連専門科目】

科目名	担当者	曜時	単位	開始 学年	履修不可	ページ
◆ 経済理論・経済政策 ◆						
マクロ経済学	塩田尚樹	火1	4	2		103
マクロ経済学	山本美樹子	水1	4	2		104
ミクロ経済学	小林進	金3	4	2		105
ミクロ経済学	藤山英樹	木1	4	2		106
経済政策論	阿部正浩	木2	4	2		111
◆ 日本経済・国際経済 ◆						
日本経済論	波形昭一	火5	4	2	外	118
日本経済史	奈倉文二	水1	4	1		113
国際経済論	益山光央	火3	4	2	外・法	116
◆ 金融・財政 ◆						
金融経済論	斉藤美彦	水2	4	2	法	126
財政学	野村容康	木3	4	2		128
◆ 政治・法律 ◆						
政治学総論	杉田孝夫	木2	4	2	外・法	150
民法(春学期週2回授業)	遠藤研一郎	金3、金4	4	2	法	151
民法(春学期週2回授業)	藤田貴宏	木4、木5	4	2	法	152
商法(秋学期週2回授業)	明田川昌幸	金3、金4	4	2	法	153
商法(秋学期週2回授業)	藩阿憲	木4、木5	4	2	法	154
◆ 総合講座 ◆						
総合講座(1)	経済学部	水3	4	2		155
◆ 特殊講義 ◆						
特殊講義A「経済学入門」	黒木亮	月1	4	1・2のみ		156
特殊講義A「情報通信ネットワーク」	今福啓/三宅真	金4/金4金5	4	3		194
特殊講義B「経営学科で何が学べるか」(春学期)	経営学科	水3	2	1年のみ		157
特殊講義B「経済と法」(春学期)	住田裕子	木2	4	2		158
特殊講義B「企業と法」(秋学期)	住田裕子	木2	4	2		158
特殊講義B「ビジネス法のケーススタディ」(春学期)	住田裕子	木3	4	2		159
特殊講義B「ビジネス法のケーススタディ」(秋学期)	住田裕子	木3	4	2		159
特殊講義B「ライフスタイルと日本経済」(春学期)	森永卓郎	木2	4	2		160
特殊講義B「ライフスタイルと日本経済」(秋学期)	森永卓郎	木3	4	2		160
特殊講義B「現代日本の経済政策」(秋学期)	森永卓郎	木2	4	2		161
特殊講義B「現代日本の経済政策」(秋学期)	森永卓郎	木3	4	2		161
◆ 留学生 ◆						
日本事情a・b	新井孝重	木5	2・2	1		253
日本語Ⅱa・b	斎藤 明	月2、月3	2・2	2		254
日本語Ⅱa・b	浅山佳郎	金2	2・2	2		255
日本語Ⅱa・b	武田明子	金3	2・2	2		256

目 次〔Ⅳ 体育科目〕

【2002年度以前】入学生用

種 目	開講学期	曜日時限	担当教員	開始 学年	ページ
アウトドアレクリエーション	春	火 3	青柳 多恵子	1	257
アウトドア山岳	春	集中	青柳 多恵子	1	257
アウトドアレクリエーション	春	金 2	和田 智	1	258
アウトドアレクリエーション	春	水 2	和田 智	1	258
アウトドア海浜	春	集中	和田 智	1	258
ウインドサーフィン	春	集中	和田 智	1	258
アウトドアレクリエーション	秋	火 2	和田 智	1	259
スケートトレーニング	秋	集中	和田 智	1	259
インラインスケート	春・秋	水 1	和田 智	1	260
インラインスケート	春・秋	土 2	和田 智	1	260
インラインスケート	秋	土 1	松原 裕	1	261
スノースポーツ	秋	集中	松原 裕	1	261
硬式テニス	春・秋	木 1	田中 茂宏	1	262
硬式テニス	春・秋	木 3	田中 茂宏	1	262
硬式テニス	春・秋	火 1	松原 裕	1	263
硬式テニス	春・秋	火 2	松原 裕	1	263
硬式テニス	春・秋	火 3	松原 裕	1	263
ゴルフ	春・秋	月 1	山中 邦夫	1	264
ゴルフ	春・秋	月 2	山中 邦夫	1	264
ゴルフ	春・秋	金 1	吉田 卓司	1	265
ゴルフ	春・秋	金 2	吉田 卓司	1	265
サッカー	春・秋	木 3	檜山 康	1	266
サッカー	春・秋	土 2	松原 裕	1	267
サッカー	春・秋	月 2	松本 光弘	1	268
サッカー	春・秋	月 3	松本 光弘	1	268
スポーツエクササイズ	春・秋	水 2	梶野 克之	1	269
ソフトボール	春・秋	火 1	池垣 功一	1	270
ソフトボール	春・秋	火 2	池垣 功一	1	270
ソフトボール	春・秋	金 2	太田 朝博	1	271
ソフトボール	春・秋	木 1	萩野 元祐	1	272
ソフトボール	春・秋	木 2	萩野 元祐	1	272

目 次〔Ⅳ 体育科目〕

【2002年度以前】入学生用

種 目	開講学期	曜日時限	担当教員	開始 学年	ページ
卓球	春・秋	月 1	奥野 忠枝	1	273
卓球	春・秋	月 2	奥野 忠枝	1	273
卓球	春・秋	金 1	本田 稔祐	1	274
卓球	春・秋	金 2	本田 稔祐	1	274
卓球	春・秋	土 1	本田 稔祐	1	274
卓球	春・秋	土 2	本田 稔祐	1	274
バスケットボール	春・秋	金 1	勝瀬 武	1	275
バスケットボール	春・秋	金 2	勝瀬 武	1	275
バスケットボール	春・秋	水 1	蓬郷 尚代	1	276
バスケットボール	春・秋	水 2	蓬郷 尚代	1	276
バドミントン	春・秋	金 3	太田 朝博	1	277
バドミントン	春・秋	火 1	梶野 克之	1	278
バドミントン	春・秋	火 3	梶野 克之	1	278
バドミントン	春・秋	木 3	梶野 克之	1	278
バレーボール	春・秋	月 1	小川 又八朗	1	279
バレーボール	春・秋	月 3	小川 又八朗	1	279
バレーボール	春・秋	土 1	小山 さなえ	1	280
バレーボール	春・秋	土 2	小山 さなえ	1	280
フットサル	春・秋	木 2	檜山 康	1	281
フットサル	春・秋	木 1	松原 裕	1	282
フリスビー	春・秋	金 1	和田 智	1	283
ボールルームダンス	春・秋	火 2	青柳 多恵子	1	284
ボールルームダンス	春・秋	水 2	青柳 多恵子	1	284
ボールルームダンス	春・秋	木 2	青柳 多恵子	1	284

03年以降(春)	インターナショナルコミュニケーション I a	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>担当者が複数ですので、各担当者によるクラス別ガイダンスにしてください。</p> <p>この授業は、経済学部1年生のために設けられたものであり、International Communication (IC)とは、Test of English for <u>International Communication</u> (TOEIC)の用語からとったものであり、国際的に通用する日常的な実用英語の習得を目指す科目です。日常のコミュニケーションが英語でもって話せる(speaking)、書ける(writing)、読める(reading)、聞ける(listening)という4つの内容が自然にできるようにすることを主眼としています。講師陣はすべて英語を母国語とする外国人講師です。受講者はネイティブの先生から直に英語を聞くことができ、そして英語で話す訓練をすることができます。</p>		各担当者による。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当者による。		各担当者による。	

03年以降(秋)	インターナショナルコミュニケーション I b	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>担当者が複数ですので、各担当者によるクラス別ガイダンスにしてください。</p> <p>この授業は、経済学部1年生のために設けられたものであり、International Communication (IC)とは、Test of English for <u>International Communication</u> (TOEIC)の用語からとったものであり、国際的に通用する日常的な実用英語の習得を目指す科目です。日常のコミュニケーションが英語でもって話せる(speaking)、書ける(writing)、読める(reading)、聞ける(listening)という4つの内容が自然にできるようにすることを主眼としています。講師陣はすべて英語を母国語とする外国人講師です。受講者はネイティブの先生から直に英語を聞くことができ、そして英語で話す訓練をすることができます。</p>		各担当者による。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当者による。		各担当者による。	

03年以降(春)	インターナショナルコミュニケーションⅡa	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>担当者が複数ですので、各担当者によるクラス別ガイダンスにしてください。 この授業は、経済学部2年生のために設けられたものであり、International Communication (IC)とは、Test of English for International Communication (TOEIC)の用語からとったものであり、国際的に通用する日常的な実用英語の習得を目指す科目です。日常のコミュニケーションが英語でもって話せる(speaking)、書ける(writing)、読める(reading)、聞ける(listening)という4つの内容が自然にできるようにすることを主眼としています。講師陣はすべて英語を母国語とする外国人講師です。受講者はネイティブの先生から直に英語を聞くことができ、そして英語で話す訓練をすることができます。</p>		各担当者による。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当者による。		各担当者による。	

03年以降(秋)	インターナショナルコミュニケーションⅡb	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>担当者が複数ですので、各担当者によるクラス別ガイダンスにしてください。 この授業は、経済学部2年生のために設けられたものであり、International Communication (IC)とは、Test of English for International Communication (TOEIC)の用語からとったものであり、国際的に通用する日常的な実用英語の習得を目指す科目です。日常のコミュニケーションが英語でもって話せる(speaking)、書ける(writing)、読める(reading)、聞ける(listening)という4つの内容が自然にできるようにすることを主眼としています。講師陣はすべて英語を母国語とする外国人講師です。受講者はネイティブの先生から直に英語を聞くことができ、そして英語で話す訓練をすることができます。</p>		各担当者による。	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当者による。		各担当者による。	

05年度(春)	基礎演習(春学期)	担当者	阿部 正浩
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 どうすれば他人とのコミュニケーションが上手くいくのでしょうか。この演習では、上手なレポートの作成と上手なプレゼンテーションの仕方について学習します。テキストの筆者は30年以上にわたり「プロの」経営コンサルタントに「書く技術」と「考える技術」を指導しています。彼女の「技」を一緒に盗みましょう。</p> <p>講義概要 テキストをベースにしなが、「書く技術」と「考える技術」を習得していきます。そのため、毎回OJT(On the Job Training)をする必要があります。受講者は OJTを通して「技」を盗むことになります。具体的には毎回テキストに書かれているように沿ってレジユメを作成してもらい、報告してもらいます。また、自分の興味のあることについて レポートを提出してもらいます。詳細については第一回目の授業で説明します</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 第1章 (教員がレジユメを作成、報告します) 3. 第2章 (受講生がレジユメを作成、報告します) 4. 第3章 (受講生がレジユメを作成、報告します) 5. 第4章 (受講生がレジユメを作成、報告します) 6. 図書館オリエンテーションの実施 7. 第5章 (受講生がレジユメを作成、報告します) 8. 第6章 (受講生がレジユメを作成、報告します) 9. 第7章 (受講生がレジユメを作成、報告します) 10. 第8章 (受講生がレジユメを作成、報告します) 11. 第9章 (受講生がレジユメを作成、報告します) 12. レポートの発表 (全員によるレポートの報告会) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
バーバラ・ミント、『新版.考える技術・書く技術』、ダイヤモンド社		授業中の報告内容とレポート	

05年度(秋)	基礎演習(秋学期)	担当者	阿部 正浩
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 どうすれば他人とのコミュニケーションが上手くいくのでしょうか。この演習では、上手なレポートの作成と上手なプレゼンテーションの仕方について学習します。テキストの筆者は30年以上にわたり「プロの」経営コンサルタントに「書く技術」と「考える技術」を指導しています。彼女の「技」を一緒に盗みましょう。</p> <p>講義概要 テキストをベースにしなが、「書く技術」と「考える技術」を習得していきます。そのため、毎回OJT(On the Job Training)をする必要があります。受講者は OJTを通して「技」を盗むことになります。具体的には毎回テキストに書かれているように沿ってレジユメを作成してもらい、報告してもらいます。また、自分の興味のあることについて レポートを提出してもらいます。詳細については第一回目の授業で説明します</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 第1章 (教員がレジユメを作成、報告します) 3. 第2章 (受講生がレジユメを作成、報告します) 4. 第3章 (受講生がレジユメを作成、報告します) 5. 第4章 (受講生がレジユメを作成、報告します) 6. 図書館オリエンテーションの実施 7. 第5章 (受講生がレジユメを作成、報告します) 8. 第6章 (受講生がレジユメを作成、報告します) 9. 第7章 (受講生がレジユメを作成、報告します) 10. 第8章 (受講生がレジユメを作成、報告します) 11. 第9章 (受講生がレジユメを作成、報告します) 12. レポートの発表 (全員によるレポートの報告会) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
バーバラ・ミント、『新版.考える技術・書く技術』、ダイヤモンド社		授業中の報告内容とレポート	

05年度(春)	基礎演習(春学期のみ開講)	担当者	犬井 正
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標・ 大学での学際的、専門的知識を習得できるようになるためにはどのような取り組みが効果的であるのかを理解し、それを発見することにある。将来、各専門領域やコースに分かれて、それぞれの専門科目の講義を受ける際に必要となる基礎的・基本的方法を習得する。</p> <p>講義概要 本講義は問題意識をもちながら文献を購読する方法、学習や研究テーマの見つけ方、次にそれをレポートにまとめる時の手順、また議論の展開の仕方、さらに効果的なプレゼンテーションの技法等について実習をまじえながらすすめていく。問題意識の発見から効果的な相手への伝え方の技術を磨くため討論を何回か行い、適当なトピックスに関する小レポートを作成したり、他の受講者の前で実際にプレゼンテーションを行ったりする方法を採用する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション - 大学への適応 2. 大学でなにをどのように学ぶか(1) - 講義への対応と心構え 3. 経済学部でなにをどのように学ぶか(1) - 社会科学入門 4. 経済学部でなにをどのように学ぶか(2) - 人文科学・自然科学・野外科学との協働 5. 調査・研究の方法(1) 図書館の利用 - 文献収集方法 6. 調査・研究の方法(2) 文献解題と学習・研究テーマの発見 7. 調査・研究の方法(3) コンピュータの利用 - 文献検索・資料収集 8. 調査・研究の方法(4) コンピュータの利用 - 資料分析 9. レポートの作成(1) 10. レポートの作成(2) 11. レポートの発表 プレゼンテーションの方法 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト： 特になし。必要に応じて資料を配付する。</p> <p>参考文献： 適宜、提示する。</p>		講義への出席状況と小レポートの提出、発表・討論などの貢献度を総合的に判定する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

05年度(春)	基礎演習(春学期)	担当者	今福 啓
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コンピュータを用いてデータ処理を行う際には、市販されているソフトに搭載されたマクロと呼ばれる機能を利用して行うことが、幅広く行われています。しかし、大量のデータをより高速に処理するには、開発言語を用いて、データ処理を行う方法(アルゴリズム)をプログラム化することが、処理を円滑に行うための近道です。</p> <p>この授業では、WindowsやUNIXといったオペレーティングシステムに依存しない開発言語であるJavaを使用して、データ処理の基本と、ソフトウェアの作成の基礎を学びます。Javaの文法の基礎を学習し、簡単な統計処理に関するプログラムを作成して、最終的には一人一人が簡単なデータ処理を実行するプログラムを作成して、アルゴリズムを考え、作成することの楽しさを実感できることを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方について 2. Javaの開発環境について 3. Javaの文法の基礎1 4. Javaの文法の基礎2 5. Javaの文法の基礎3 6. Javaの文法の基礎4 7. プログラム化しやすいアルゴリズムとは 8. アルゴリズムを考えるーその1 9. アルゴリズムを考えるーその2 10. 作成したアルゴリズムの説明ープレゼンテーションによる解説1 11. 作成したアルゴリズムの説明ープレゼンテーションによる解説2 12. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特にありません。		期末試験は行わず、授業の出席と、提出された課題により評価します。	

05年度(秋)	基礎演習(秋学期)	担当者	今福 啓
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コンピュータを用いてデータ処理を行う際には、市販されているソフトに搭載されたマクロと呼ばれる機能を利用して行うことが、幅広く行われています。しかし、大量のデータをより高速に処理するには、開発言語を用いて、データ処理を行う方法(アルゴリズム)をプログラム化することが、処理を円滑に行うための近道です。</p> <p>この授業では、WindowsやUNIXといったオペレーティングシステムに依存しない開発言語であるJavaを使用して、データ処理の基本と、ソフトウェアの作成の基礎を学びます。Javaの文法の基礎を学習し、簡単な統計処理に関するプログラムを作成して、最終的には一人一人が簡単なデータ処理を実行するプログラムを作成して、アルゴリズムを考え、作成することの楽しさを実感できることを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方について 2. Javaの開発環境について 3. Javaの文法の基礎1 4. Javaの文法の基礎2 5. Javaの文法の基礎3 6. Javaの文法の基礎4 7. プログラム化しやすいアルゴリズムとは 8. アルゴリズムを考えるーその1 9. アルゴリズムを考えるーその2 10. 作成したアルゴリズムの説明ープレゼンテーションによる解説1 11. 作成したアルゴリズムの説明ープレゼンテーションによる解説2 12. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特にありません。		期末試験は行わず、授業の出席と、提出された課題により評価します。	

05年度(春)	基礎演習(春学期)	担当者	岡村 国和
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、1年生が大学での専門的知識を修得できるようになるためにはどのような勉強方法が効果的であるかを理解し、それを身につけることにあります。経済学部の学生として何を学び、それをどのように現実社会で生かしていくかについてのビジョンを持ち、さらに将来、各専門コースに分かれてそれぞれの専門科目の講義を受ける際に、いま学んでいる講義がこれから専攻する他の専門科目にどのように関連しているのかを明確にイメージできるようにすることが重要だと思います。</p> <p>第2学年次の専門演習(ゼミナール)への架け橋として、経済学・経営学の基礎的な話が解るように工夫した講義を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 開講にあたって、基本的な授業の進め方やテーマの選び方などについての説明します。 2 テーマ選定作業とその際に注意すべき事項の検討や参考文献などの探し方。 3 社会科学の勉強の仕方(方法論)の概説。レポートの書き方や図表の読み方などの解説。 4 具体的なトピックやテーマなどを探し出してどのように考えていけばよいかを検討します。 5 各自のテーマに基づいてプレゼンテーションを実際に行います。 6 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示します。当面は資料をプリントして配布します。		講義参加者の平常点により行いますので、特に期末試験などは予定していません。	

05年度(秋)	基礎演習(秋学期)	担当者	岡村 国和
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この演習では、大学での講義を受ける際に必要な準備や組立てテーマの組立て方などを講義します。また、日頃あまり考えることがない時事問題などについても取り上げ、皆で考えていきます。</p> <p>春学期と同様に、第2学年次の専門演習(ゼミナール)への架け橋として、経済学や経営学の基礎的な話が分かるように工夫した講義を行います。</p> <p>また、問題意識を培いながらテーマを発見し、次にそれをレポートにまとめる時の手順、議論の展開の仕方、さらに効果的なプレゼンテーション技法などについて講義します。</p> <p>なお、この科目は自分で考える習慣を付けることが大切な科目なので、日頃から新聞やニュース等にこまめに目を通しておくことが必要だと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 開講にあたって、基本的な授業の進め方やテーマの選び方などについての説明します。 2 テーマ選定作業とその際に注意すべき事項の検討や参考文献などの探し方。 3 社会科学の勉強の仕方(方法論)の概説。レポートの書き方や図表の読み方などの解説。 4 具体的なトピックやテーマなどを探し出してどのように考えていけばよいかを検討します。 5 各自のテーマに基づいてプレゼンテーションを実際に行います。 6 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示します。当面は資料をプリントして配布します。		講義参加者の平常点により行いますので、特に期末試験などは予定していません。	

05年度（春）	基礎演習（春学期）	担当者	上坂 卓郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は経済学部の学生が、大学で効果的に学習を進めるために必要な技術を身につけます。次に現実の経済や企業について実証的に勉強を進める上で最初に必要になる経済統計と企業の財務情報に関する基礎知識を身につけることを意図している。</p> <p>講義では手際よく発表資料を作成し、プレゼンテーション、ディスカッションを行える力を養い、2年生から始まる演習Ⅰの事前準備を行う。さらにデータを加工してレポートを作成する。</p> <p>授業計画やパソコン演習の日程は受講生数や講義の進捗に合わせて変更がありうる。ワード・エクセルが少し使えることが必要です。</p> <p><u>履修する場合は第1回から参加してください。第2回目からの参加は不可。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに、大学での学習の進め方、ノートをとる 2 読み方・レポートの書き方 3 経済記事の読み方 4 経済統計の見方（1） 5 経済統計の見方（2） 6 経済統計の見方（3） 7 エクセルによる経済統計の加工実習 8 企業の見方（1） 9 企業の見方（2） 10 企業の見方（3） 11 エクセルによる企業分析実習 12 企業分析のレポートを作成する <p>※ 内容を若干変更する可能性がある</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時に指示する		毎回出席と課題作成・発表は必須事項。原則欠席は不可。詳細は開講時に説明する。	

05年度（秋）	基礎演習（秋学期）	担当者	上坂 卓郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基礎演習春期と同様。<u>履修する場合は第1回から参加してください。第2回目からの参加は不可。</u></p>		基礎演習春期と同様	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時に指示する		基礎演習春期と同様	

05年度(春)	基礎演習(春学期)	担当者	日下泰夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大学に入学して環境変化にとまどっていませんか？ レポート・論文の作成方法は？ 大学では何を学ぶべきか？ どのような能力を修得すべきか？ 大学生活の過ごし方は？ 実社会で必要とされる問題解決能力とは？ 夢の効用とは？ そんな疑問を皆さんと共に考えていく演習にしたいと考えています。</p> <p>今後の大学生活を方向づけるうえで重要と考えられることがらを取り上げ、教員からの課題提起、グループ討論、グループ発表・討議を通じて課題に対する認識を深めていきます。自ら考え、他の人とコミュニケーションをはかり、自分の考え方を明確にさせていく能力の修得を重視しています。皆さんのこれからの大学生活を方向づけるうえで、何らかの指針となり得るような演習をめざしています。説明はパソコンによるプレゼンテーション(プレゼン)によって行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとプレゼンテーション：ガイダンス、レポート・論文の書き方(プレゼンによる講義) 2 大学で学ぶとは1：教員からの課題提起(プレゼン)、グループ討議 3 大学で学ぶとは2：グループ討議、発表のまとめ 4 大学で学ぶとは3：グループ発表・討議 5 変化の時代を生き抜く知恵1：教員からの課題提起(プレゼン)、グループ討議 6 変化の時代を生き抜く知恵2：グループ討議、まとめ 7 変化の時代を生き抜く知恵3：グループ発表・討議 8 私の夢：教員からの課題提起(プレゼン)、グループ討議 9 私の夢：グループ発表・討議 10 実社会で必要とされる問題解決能力とは1：教員からの課題提起(プレゼン)、グループ討議 11 実社会で必要とされる問題解決能力とは2：まとめとプレゼンの準備 12 実社会で必要とされる問題解決能力とは3：グループ発表(プレゼン)・討議 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に使用しません。 必要に応じて資料を配布します。		2回の提出レポートを中心に、平常点・出席点を加味して評価します。	

05年度(秋)	基礎演習(秋学期)	担当者	日下泰夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大学に入学して環境変化にとまどっていませんか？ レポート・論文の作成方法は？ 大学では何を学ぶべきか？ どのような能力を修得すべきか？ 大学生活の過ごし方は？ 実社会で必要とされる問題解決能力とは？ 夢の効用とは？ そんな疑問を皆さんと共に考えていく演習にしたいと考えています。</p> <p>今後の大学生活を方向づけるうえで重要と考えられることがらを取り上げ、教員からの課題提起、グループ討論、グループ発表・討議を通じて課題に対する認識を深めていきます。自ら考え、他の人とコミュニケーションをはかり、自分の考え方を明確にさせていく能力の修得を重視しています。皆さんのこれからの大学生活を方向づけるうえで、何らかの指針となり得るような演習をめざしています。説明はパソコンによるプレゼンテーション(プレゼン)によって行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとプレゼンテーション：ガイダンス、レポート・論文の書き方(プレゼンによる講義) 2 大学で学ぶとは1：教員からの課題提起(プレゼン)、グループ討議 3 大学で学ぶとは2：グループ討議、発表のまとめ 4 大学で学ぶとは3：グループ発表・討議 5 変化の時代を生き抜く知恵1：教員からの課題提起(プレゼン)、グループ討議 6 変化の時代を生き抜く知恵2：グループ討議、まとめ 7 変化の時代を生き抜く知恵3：グループ発表・討議 8 私の夢：教員からの課題提起(プレゼン)、グループ討議 9 私の夢：グループ発表・討議 10 実社会で必要とされる問題解決能力とは1：教員からの課題提起(プレゼン)、グループ討議 11 実社会で必要とされる問題解決能力とは2：まとめとプレゼンの準備 12 実社会で必要とされる問題解決能力とは3：グループ発表(プレゼン)・討議 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に使用しません。 必要に応じて資料を配布します。		2回の提出レポートを中心に、平常点・出席点を加味して評価します。	

05年度(春)	基礎演習(春学期)	担当者	倉橋 透
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 大学で勉強するにあたり必要なのは、問題意識を持つことと、問題意識に沿ってさまざまな情報を収集・整理し自分の考えをまとめ他の人にわかりやすく伝える技術を得ることである。問題意識やこうした技術は、社会にでてからも非常に大事である。</p> <p>しかし、問題意識や上に述べた技術は黙っていて得られるものではなく、それなりの努力が必要である。この講義では、問題意識を持つこと、上に述べた技術を得ることの練習をする。</p> <p>【講義概要】 この講義では、新聞記事及び身近なまちづくりを題材に自分の考えをまとめたレポートを何回か作成し、順番に発表していただくこととする。レポートについては添削して返却する。</p> <p>身近なまちづくりとしては大分県の由布院における地元の人々を中心とした取り組みをとりあげる。テキストを分担して発表する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方についてのガイダンス 由布院におけるまちづくりの取り組みについて教員から説明 2. 教員から発表(発表の仕方についてみていただきたい) 3～12. 受講生から発表 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 木谷文弘『由布院の小さな奇跡』(新潮選書)。 新聞記事はその都度指示する。		出席、授業態度及びレポートによる。	

05年度(秋)	基礎演習(秋学期)	担当者	倉橋 透
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 大学で勉強するにあたり必要なのは、問題意識を持つことと、問題意識に沿ってさまざまな情報を収集・整理し自分の考えをまとめ他の人にわかりやすく伝える技術を得ることである。問題意識やこうした技術は、社会にでてからも非常に大事である。</p> <p>しかし、問題意識や上に述べた技術は黙っていて得られるものではなく、それなりの努力が必要である。この講義では、問題意識を持つこと、上に述べた技術を得ることの練習をする。</p> <p>【講義概要】 この講義では、新聞記事及び身近なまちづくりを題材に自分の考えをまとめたレポートを何回か作成し、順番に発表していただくこととする。レポートについては添削して返却する。</p> <p>身近なまちづくりとしては大分県の由布院における地元の人々を中心とした取り組みをとりあげる。テキストを分担して発表する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方についてのガイダンス 由布院におけるまちづくりの取り組みについて教員から説明 2. 教員から発表(発表の仕方についてみていただきたい) 3～12. 受講生から発表 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト 木谷文弘『由布院の小さな奇跡』(新潮選書)。 新聞記事はその都度指示する。		出席、授業態度及びレポートによる。	

05年度（春）	基礎演習（春学期）	担当者	黒川文子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今後、経営学を勉強する上で、また2年次以降の演習に参加するための最低限必要とされるスキルを身に付けていきます。</p> <p>ノートの取り方、レジュメの書き方、レポートの作成方法、プレゼンテーション、資料収集、ディスカッション等のスキルを高めていきます。また、工場見学やフィールドワークを通して、実際に自分自身の目で企業経営を把握します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 資料収集方法 2 ノートの取り方、レジュメの書き方、レポートの作成方法 3 配布資料を通してのディスカッション (1) 4 配布資料を通してのディスカッション (2) 5 工場見学 6 フィールドワーク 7 フィールドワークの成果の発表 (1) 8 フィールドワークの成果の発表 (2) 9 配布資料を通してのディスカッション (3) 10 配布資料を通してのディスカッション (4) 11 配布資料を通してのディスカッション (5) 12 配布資料を通してのディスカッション (6) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		出席と授業態度によって、総合的に評価する。	

05年度（秋）	基礎演習（秋学期）	担当者	黒川文子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今後、経営学を勉強する上で、また2年次以降の演習に参加するための最低限必要とされるスキルを身に付けていきます。</p> <p>ノートの取り方、レジュメの書き方、レポートの作成方法、プレゼンテーション、資料収集、ディスカッション等のスキルを高めていきます。また、工場見学やフィールドワークを通して、実際に自分自身の目で企業経営を把握します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 資料収集方法 2 ノートの取り方、レジュメの書き方、レポートの作成方法 3 配布資料を通してのディスカッション (1) 4 配布資料を通してのディスカッション (2) 5 工場見学 6 フィールドワーク 7 フィールドワークの成果の発表 (1) 8 フィールドワークの成果の発表 (2) 9 配布資料を通してのディスカッション (3) 10 配布資料を通してのディスカッション (4) 11 配布資料を通してのディスカッション (5) 12 配布資料を通してのディスカッション (6) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		出席と授業態度によって、総合的に評価する。	

05年度(春)	基礎演習(春学期のみ開講)	担当者	黒木 亮
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標</p> <p>本演習の目的は、大学での学習に必要な不可欠なスキルを身につけることにある。独力で「読み、考え、書く」ことができるようになるために、まず読解力を磨くきっかけを提供したい。</p> <p>講義の概要</p> <p>1回の授業で、テキストを1章ずつ読み進める。あらかじめ担当者を決めず、参加者全員で例題を解き、解答について討論しながら授業を進めていく。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
野矢茂樹『論理トレーニング』産業図書。		出席状態、議論への参加姿勢や発言内容。	

01年以降(秋)		担当者	
00年以前(秋)			
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

05年度(春)	基礎演習(春学期のみ開講)	担当者	小林哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大学生生活の目的は、自分の頭で考えることのできる自立した精神を養うことだと思います。そのためのツールが、「教養」や「専門」などの学科目であり、図書館をはじめとする諸施設です。基礎演習は、こうしたツールを使いこなすための準備と考えてください。今年は、「グローバル化」および「情報社会」のテーマを中心に、調べごとをしたり、グループで議論をしていきます。これらのテーマに関心がある人の参加を歓迎します。</p>		<p>以下のような内容を、参加者の皆さんと勉強していきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学・学問へのオリエンテーション 2. テキストの読み方・レジュメの作り方 3. 「グローバル化」をめぐる議論 4. 「情報社会」をめぐる議論 5. インターネットを実現している仕組み 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参加者と相談して決めますが、当面はこちらから配布します。このテーマをめぐる議論の概要を知りたい人は、こんな本をどうぞ。公文俊平『情報社会学序説』NTT出版 スーザン・ジョージ『オルター・グローバル化宣言』作品社</p>		参加態度+レポート	

01年以降(秋)		担当者	
00年以前(秋)			
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

05年度(春)	基礎演習(春学期)	担当者	塩田尚樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大学での勉強の醍醐味は、「ゼミ(演習)」と呼ばれる少人数の授業です。「ゼミ」では、教員は補助的な役割を果たすに過ぎず、「各学生が、自分が勉強したことを発表し、お互いに教えあう」ということが中心となります。けれども、「いきなりそんなことを要求されても困ってしまう」というのが実情でしょう。</p> <p>そこでこの授業では、本格的な「ゼミ」を始める前のウォーム・アップとして、大学生としての本の読み方と発表の仕方について学びます。『日本がわかるデータブック』というサブタイトルのついているテキストを使って、少子高齢化・不況・産業空洞化・環境問題などについての日本の現状を、各人の関心に応じてまとめ、発表する練習をしてもらいます。高校までの勉強との違いをぜひ体で味わって下さい。</p> <p>なお、授業方針の確認など重要な連絡をするため、第一回目の授業は必ず出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 世界の国々 2 気候と国土 3 人口の動き 4 府県と都市 5 労働 6 国民所得 7 資源・エネルギー 8 農林水産業 9 鉱工業 10 サービス業 11 貿易と国際収支 12 環境問題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
矢野恒太記念会編『日本国勢図会』		発表と出席状況で評価します。	

05年度(秋)	基礎演習(秋学期)	担当者	塩田尚樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大学での勉強の醍醐味は、「ゼミ(演習)」と呼ばれる少人数の授業です。「ゼミ」では、教員は補助的な役割を果たすに過ぎず、「各学生が、自分が勉強したことを発表し、お互いに教えあう」ということが中心となります。けれども、「いきなりそんなことを要求されても困ってしまう」というのが実情でしょう。</p> <p>そこでこの授業では、本格的な「ゼミ」を始める前のウォーム・アップとして、大学生としての本の読み方と発表の仕方について学びます。『日本がわかるデータブック』というサブタイトルのついているテキストを使って、少子高齢化・不況・産業空洞化・環境問題などについての日本の現状を、各人の関心に応じてまとめ、発表する練習をしてもらいます。高校までの勉強との違いをぜひ体で味わって下さい。</p> <p>なお、授業方針の確認など重要な連絡をするため、第一回目の授業は必ず出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 世界の国々 2 気候と国土 3 人口の動き 4 府県と都市 5 労働 6 国民所得 7 資源・エネルギー 8 農林水産業 9 鉱工業 10 サービス業 11 貿易と国際収支 12 環境問題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
矢野恒太記念会編『日本国勢図会』		発表と出席状況で評価します。	

05年度(春)	基礎演習(春学期)	担当者	立田ルミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>これから大学で学ぶに当たって必要な基礎的な知識や調査方法やコンピュータ技能などを身につけ、個人やグループで調査研究ができることを目標とする。基礎演習では、コンピュータに関する特定のテーマについて書物や雑誌、新聞記事、インターネットを用いて調査を行い、調査結果をまとめてワープロで作成する。また、データを収集し、表計算ソフトを用いてグラフを作成する。それらの結果を統合してプレゼンテーションソフトを用いて一人一人発表し、基礎演習の受講生からの評価についてメールなどを用いて交換することにより、調査方法、調査内容、調査結果の文書化、プレゼンテーションの方法の基礎を身につける。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎演習の概要 大学での学習方法、ガイダンス 2 情報の集め方 書籍の探し方、インターネット 3 情報の整理とワープロの利用方法 ワープロの機能 4 ワープロによる発表 調査内容の発表 5 統計データの集め方 インターネット、検索エンジン 6 データの整理と表計算ソフトの利用 表計算ソフトの機能 7 表計算ソフトによる発表 調査内容の発表 8 データの表示方法 効果的な表示 9 プレゼンテーションツールの利用(1) PowerPointの利用法 10 プレゼンテーションツールの利用(2) PowerPoint応用 11 プレゼンテーションツールによる調査内容発表 効果的な発表方法 12 ディスカッション 個人発表の自己評価と他者評価 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指定		出席20%、授業内での発表40%、レポート40%	

05年度(秋)	基礎演習(秋学期)	担当者	立田ルミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>これから大学で学ぶに当たって必要な基礎的な知識や調査方法やコンピュータ技能などを身につけ、グループで調査できることを目標とする。基礎演習では、コンピュータに関する特定のテーマについて書物や雑誌、新聞記事、インターネットを用いて調査を行い、調査結果をまとめてワープロで作成する。また、データを収集し、表計算ソフトを用いてグラフを作成する。それらの結果を統合してプレゼンテーションソフトを用いて一人一人発表し、基礎演習の受講生からの評価についてメールなどを用いて交換することにより、調査方法、調査内容、調査結果の文書化、プレゼンテーションの方法の基礎を身につける</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎演習の概要 大学での学習方法、ガイダンス 2 情報の集め方 書籍の探し方、インターネット 3 情報の整理とワープロの利用方法 ワープロの機能 4 ワープロによる発表 調査内容の発表 5 統計データの集め方 インターネット、検索エンジン 6 データの整理と表計算ソフトの利用 表計算ソフトの機能 7 表計算ソフトによる発表 調査内容の発表 8 データの表示方法 効果的な表示 9 プレゼンテーションツールの利用(1) PowerPointの利用法 10 プレゼンテーションツールの利用(2) PowerPoint応用 11 プレゼンテーションツールによる調査内容発表 効果的な発表方法 12 ディスカッション 個人発表の自己評価と他者評価 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に指定		授業内での発表40%、レポート60%	

05年度(春)	基礎演習(春学期のみ開講)	担当者	富田 幸弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大学生がどのように講義ノートをとるのか。同じ講義なのに、異なる形のノートを取り、データや資料の整理がずいぶん違う。いろいろな疑問は、講義だけではなく、学内活動全般にわたって起きてくる。この大学生活での各種の疑問やその時々 の意思表示の仕方について、みんなで考えて、実際の形ある表現をしてみたい。こんなことを考えて、基礎演習を有効に活用できれば、大学生としての準備が徐々に整うのではと思っています。</p> <p>この基礎演習では、時間を2つに分け、前半は、ホームページ(HP)の作成を通して、自分自身を表現する力を養う。後半は、各種データの扱い方を理解し、基礎的な特性値への考え方を学習します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎演習概説 2 HPの基本(HTML)・データとは 3 HP作成1(ページ構成)・平均は万能か 4 HP作成2(画像、背景)・企業収益での平均 5 HP作成3(文書整形)・ベースの異なる比率 6 HP作成4(文字飾り)・比率と指数 7 HP作成5(リスト)・平均株価 8 HP作成6(リンク)・偏差値 9 HP作成7(フレーム)・回帰と変動 10 HP作成8(テーブル)・法律との係わり 11 HP作成9(アップロード)・医学との係わり 12 基礎演習のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要なものは、プリントで配布します。		レポート・発表などでの総合評価。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

05年度(秋)	基礎演習(秋学期のみ開講)	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は新聞の経済記事を読みこなし、それを自分なりに論理的に考える力を養うことを目的としている。</p> <p>そのために経済学の基礎的な知識を正確に学び、現実起こっている経済問題に応用している。</p> <p>1. 日本経済、アジア経済を理解するための基礎的な経済用語を学ぶ。</p> <p>2. 与えられた課題に対して報告レジュメを作成し、発表の練習をする。</p> <p>(自分の意思を的確に表現し、相手に伝えることは、今後みなさんがいかなる仕事をするにしても絶対に必要なことです。また、基礎的な知識を習得するのは少し根気がいりますが、ごく基本的な知識でさまざまな事柄がすっきり理解できる楽しさをぜひ味わってほしいと思っています。)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の長期不況 2. デフレ 3. ゼロ金利 4. 銀行の危機 5. 財政の危機 6. 日本経済の課題 7. 日本経済の展望 8. アジア経済の動向(Ⅰ) 9. アジア経済の動向(Ⅱ) 10. レジュメの作成 11. レジュメの作成及び発表の練習(Ⅰ) 12. レジュメの作成及び発表の練習(Ⅱ) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて配布する。		授業の平常の参加状況(出欠)、レジュメ作成・報告への取り組み姿勢などを勘案して評価する。	

05年度（春）	基礎演習（春学期のみ開講）	担当者	中野隆史
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大学で何をどう学ぶか、どのようにして充実した大学生活を送るかを考えていく。そのための基盤として、健康管理に気をつけることと、良い生活習慣を身につけることが重要である。</p> <p>学習・研究の方法論として、テーマの見つけ方、資料情報の検索の仕方、資料情報の整理分析の仕方、結果の発表の仕方を学ぶ。これらを各自が自主的に調べ、レポートし、討論する。並行して、テキスト（医療経済、社会保障に関する入門書）の輪読を行う。担当の箇所を精読した上、分からないところを調べ、レジュメを作り、報告し、討論する。これらを通して学問の方法を身につけることを目標とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 研究・学習テーマの見つけ方 3 図書館の使い方 4 文献の探し方 5 資料情報の整理分析の仕方 6 自分の考えをまとめ結論を導く 7 レポートの書き方（1） 8 レポートの書き方（2） 9 論文の書き方 10 口頭発表の仕方 11 討論の仕方 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業の際に指示する。		出席、プレゼンテーション、討論での発言、レポートで評価する。	

講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

05年度(秋)	基礎演習(秋学期のみ開講)	担当者	中村泰将
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私の「基礎ゼミ」の授業は、私の専門の会計学の勉強はしません。専門科目の勉強は、2年生の専門ゼミである「演習Ⅰ」から始めます。この授業では皆さんが高校の授業から大学の授業へ脱皮するためのアカデミック・スキル(大学生活に必要な基本的技法)を学びます。大学でどのように学ぶかの「学ぶ方法」を学びます。</p> <p>具体的には次の5つに要約されます。</p> <p>①大学においてどのように学ぶかの「学ぶ姿勢」(attitude)を学びます。</p> <p>②自分の言いたいことをどのように発表(プレゼンテーション)できるかを学びます。</p> <p>③現代社会のさまざまな問題(トピックス)についての「切り口」(access)を学びます。</p> <p>④どのように新聞・雑誌・著書を読んだらよいかの「読み方」を学びます。</p> <p>⑤レポートの「書き方」を学びます。(図書館で文献の検索方法も含みます。)</p> <p>授業内容： 毎週、自分の興味を持った新聞等のトピックスについてレポートを作成し、それについて2,3分程度の発表をします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己紹介(準備してくること。2, 3分以内)。 2. 図書館の利用の仕方。(1回) 3. 新聞のトピックスを選び、それについて自分の意見を含めたレポートの作成の仕方。(毎回) 4. 工場見学の企画。(他のゼミとの合同企画。) 5. 証券取引所の見学。 6. ゼミの選び方、コースの選び方、授業科目の選択の仕方。 7. 将来の進路について実社会の経験を聞きます。 8. 「本の読み方」について、適当な本を選んでそれについてディスカッションをします。(毎回) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
文章の書き方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方、などの参考文献を授業のときに紹介します。		授業で与えられた課題について取り組む姿勢を評価。3回以上の欠席は評価(F)となります。	

05年度(春)	基礎演習(春学期)	担当者	奈倉文二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマ:「三菱」を通じて日本経済を考える。</p> <p>「三菱自動車、三菱重工などで数々の不祥事が噴出する一方、三菱フィナンシャル・グループとUFJホールディングスの合併など、大きなうねりの中で揺れ動く日本の会社組織の象徴「三菱」。転換期にある日本経済を「三菱」を通して鋭く見通す。」</p> <p>上記引用は、下記テキスト文献の宣伝文(帯)。 著者は、「法人資本主義論」(複数の大会社が互いに株式を持ち合って結合している現代日本大企業システム)を最初に提起した論者。 大企業(グループ)の代表格としての「三菱」の様々な問題を通じて日本経済の歴史と現状を考えて行く上で適切な書であり、初学者にもさほど難しい書き方をしているわけではないので、これを題材にして検討して行く。</p> <p>もちろん見方・考え方はいろいろなので、他の文献情報(雑誌・新聞・インターネット情報も含む)をも集め、自分で考えることが重要。教室にはPCも設置されているので、インターネット情報も検索しながら質疑応答も行う。</p> <p>下調べ、報告、質疑応答への参画を通じて、勉学意欲を高めることに努め、自主的積極的に勉学する素地を培うことが本基礎演習の目的。</p>		<p>1 はじめに。</p> <p>2 第1章 三菱自動車の欠陥事件</p> <p>3 第2章 三菱東京とUFJの統合</p> <p>4 第3章 三菱グループとは何か</p> <p>5 第4章 戦前の三菱財閥</p> <p>6 第5章 戦後の三菱グループ</p> <p>7 第6章 資本家と経営者</p> <p>8 第7章 重化学工業化とその壁</p> <p>9 第8章 金融構造の変化</p> <p>10 第9章 国家とともに</p> <p>11 第10章 三菱はどこへ行く</p> <p>12 まとめ</p> <p>上記各章は左記テキストの目次構成であり、必ずしも1回分授業を意味するものではない。ほかにも文献・雑誌・新聞・インターネット情報等を調べ報告してもらう。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト:奥村宏『三菱とは何か—法人資本主義の終焉と「三菱」の行方—』太田出版。参考文献:奥村宏『最新版 法人資本主義の構造』、岩波(現代文庫)ほか。</p>		<p>出席、講義時の報告、討議への参画状況、期末レポート。</p>	

05年度(秋)	基礎演習(秋学期)	担当者	奈倉文二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同様。</p> <p>ただし、テキストについては、秋学期開始までに本演習にふさわしい文献が刊行された場合はそちらを主に取り上げることもあり得るので、掲示等に注意されたい。</p>		<p>春学期と同様だが、文献の追加変更いかんにより、項目、順序等も変更の可能性あり。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>春学期と同様だが、テキスト・参考文献は追加変更の可能性あり。</p>		<p>春学期と同様</p>	

05 年度春期	基礎演習（春学期）	担当者	波形 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基礎演習の目標は、経済学部に入學した若い諸君に、まずは経済を学ぶことの面白さ、楽しさを知ってもらうことにある。したがって、あまり型にはまらないトーク形式の授業にしたいので、教材には新聞（朝日新聞）を使うことにした。具体的には最初の授業で指示する。</p> <p>なお、経済を学ぶには経済辞典が絶対に必要である。必ず購入すること。大学で4年間使える金森久雄ほか編『経済辞典（第4版）』（有斐閣）が最適。</p>		<p>新聞を教材にした自由なトーク形式の授業にしたので、とくに定型的な授業計画は立てない。毎日、新聞に目を通す癖を身につけ、社会の動きに関心を持つような若者になってもらいたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
朝日新聞。		出席状況、教室での積極的な発言、学期末試験などで総合評価	

05 年度秋期	基礎演習（秋学期）	担当者	波形 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
春期と同じ。		春期と同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春期と同じ。		春期と同じ。	

05年度(春)	基礎演習(春学期)	担当者	浜本 光紹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大学での学習に必要な基本的能力および方法について習得することを目標とする。</p> <p>入学したばかりの1年生は、講義の形式、試験、レポート課題などの大学での授業・評価方法に直面すると、高校までの学習の仕方では対応が難しいと感じられたり、とまどったりすることが多いと想像される。この基礎演習では、こうした点を考慮して、初年度から大学の講義および試験に充分対応できるよう、学習を進めるうえで必要な能力や方法を身につけるとともに、2年次より始まる専門科目の演習も視野に入れて、報告・発表・議論の仕方を、比較的取り組みやすい題材を用いて実践を通じて習得していく。知的好奇心の旺盛な学生の参加を望む。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 文献・研究レジュメの書き方 2 輪読などを通じた文献の読み方・報告の仕方 3 ディベート(3回程度予定) 4 レポート・論文作成の礼儀作法 5 関心のある題材についてのレポート作成(グループでの作業による) <p>注：以上の5つのテーマはそれぞれ2～4回の講義回数にわたって取り組む。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義のなかで指示、あるいはコピーの配布を行う。		出席などの平常点、およびレポートによって評価する。	

05年度(秋)	基礎演習(秋学期)	担当者	浜本 光紹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大学での学習に必要な基本的能力および方法について習得することを目標とする。</p> <p>入学したばかりの1年生は、講義の形式、試験、レポート課題などの大学での授業・評価方法に直面すると、高校までの学習の仕方では対応が難しいと感じられたり、とまどったりすることが多いと想像される。この基礎演習では、こうした点を考慮して、初年度から大学の講義および試験に充分対応できるよう、学習を進めるうえで必要な能力や方法を身につけるとともに、2年次より始まる専門科目の演習も視野に入れて、報告・発表・議論の仕方を、比較的取り組みやすい題材を用いて実践を通じて習得していく。知的好奇心の旺盛な学生の参加を望む。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 文献・研究レジュメの書き方 2 輪読などを通じた文献の読み方・報告の仕方 3 ディベート(3回程度を予定) 4 レポート・論文作成の礼儀作法 5 関心のある題材についてのレポート作成(グループでの作業による) <p>注：以上の5つのテーマはそれぞれ2～4回の講義回数にわたって取り組む。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義のなかで指示、あるいはコピーの配布を行う。		出席などの平常点、およびレポートによって評価する。	

05年度(春)	基礎演習(春学期)	担当者	平井 岳哉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大学生としての入門講義と位置づけ、「話す」、「読む」、「書く」のコミュニケーション能力に関する基本的事柄について授業を行います。</p> <p>一連の作業を行うことによって、今後必要になるプレゼンテーション(自己主張などの発表など)やレポートの作成に係る知識や技能について習得してほしいと思います。</p> <p>できるだけわかりやすい題材を使って、楽しめる内容にするとともに、受講者の出席を喚起していきたいと考えています。</p> <p>図書館の利用法についても、機会があったら授業に組み込みたいと思います。</p>		<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 話す①(グループ討議、救命ボートゲーム)</p> <p>3 話す②(グループ討議、KJ法)</p> <p>4 話す③(グループ討議、KJ法)</p> <p>5 話す④(個人発表、商品売り込みプレゼン)</p> <p>6 話す⑤(グループ発表)</p> <p>7 話す⑥(ディベート)</p> <p>8 読む、書く①(論旨の要約、見出しつけ)</p> <p>9 読む、書く②(表、グラフの活用)</p> <p>10 読む、書く③(絵からストーリーを書く)</p> <p>11 読む、書く④(長文の感想、自分の主張)</p> <p>12 読む、書く⑤(課題作文)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。		出席を重視します。 それから授業での貢献と数回のミニレポート	

05年度(秋)	基礎演習(秋学期)	担当者	平井 岳哉
講義目的、講義概要		授業計画	
前期と同じ		前期と同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
前期と同じ		前期と同じ	

05年度(春)	基礎演習(春学期)	担当者	藤山英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>演習の目的：</p> <p>(1) 大学で必要となる論理性を学ぶ。</p> <p>(2) 大学での勉強において便利なツールを紹介する。</p> <p>演習の進め方：</p> <p>講義の前半30分は教員による、様々なツールや勉強方法の紹介をする。後半60分は、毎回、テキストにある練習問題を解いてゆく。</p>		<p>『論理トレーニング』は、日本語における、論理的な読解および表現の場合に必要な、基礎知識および修得のためのトレーニング(練習問題)を提供する。</p> <p>このトレーニングを積むことによって、論文執筆、プレゼンテーション、ディベートのすべてにおいて必要な論理性の素養を身に付けることができる。</p> <p>ゼミでは、答えへの導出過程を議論することを重視する。したがって、ゼミ生の状況にその進捗状況は大きく依存し、その予測は不可能である。さしあたりは、テキストを1章から、ゆっくりと進めてゆくことにする。</p> <p>前半は勉強のためのコツを紹介します。(例：コンピュータソフトの便利な利用法、数学の学び方、わからなさとのつきあい方。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『論理トレーニング』 野矢茂樹 産業図書 1997年		ゼミへの貢献度(出席、課題、発言)	

05年度(秋)	基礎演習(秋学期)	担当者	藤山英樹
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ。		春学期と同じ。	

05年度(春)	基礎演習(春学期)	担当者	本田浩邦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「グローバル化を考える」というテーマで、文献を読み進めます。</p> <p>今日の世界には政治、経済、社会、文化、宗教などをめぐり実に多くの問題があります。社会科学は個々の分野からそれらの断片を扱いうるにすぎません。しかし、私たちがそれぞれ関心のある問題を掘り下げ、議論することをつうじて、一人では理解できないこと、一人では解決できないことの糸口を見いだすことができるかもしれません。</p> <p>このゼミでは、できるだけ多くの文献を読むことによって、今日の社会問題についての関心を培いたいと思います。社会問題に関心があり、読書の意欲がある人を歓迎します。</p>		<p>さしあたり以下の文献を輪読します。</p> <p>ジャン・ジグレル『世界の半分が飢えるのはなぜ？』 ——ジグレル教授がわが子に語る飢餓の真実』 合同出版、2003年、1680円</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、平常点、その他による。	

05年度(秋)	基礎演習(秋学期)	担当者	本田浩邦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「グローバル化を考える」というテーマで、文献を読み進めます。</p> <p>今日の世界には政治、経済、社会、文化、宗教などをめぐり実に多くの問題があります。社会科学は個々の分野からそれらの断片を扱いうるにすぎません。しかし、私たちがそれぞれ関心のある問題を掘り下げ、議論することをつうじて、一人では理解できないこと、一人では解決できないことの糸口を見いだすことができるかもしれません。</p> <p>このゼミでは、できるだけ多くの文献を読むことによって、今日の社会問題についての関心を培いたいと思います。社会問題に関心があり、読書の意欲がある人を歓迎します。</p>		<p>さしあたり以下の文献を輪読します。</p> <p>ジャン・ジグレル『世界の半分が飢えるのはなぜ？』 ——ジグレル教授がわが子に語る飢餓の真実』 合同出版、2003年、1680円</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、平常点、その他による。	

05年度(春)	基礎演習(春学期)	担当者	益山光央
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済学をはじめとしてさまざまな学問分野で必要となる基礎的な事柄、あるいは大学生として知っておくべき「常識」を扱います。具体的には経済学の入門書を使って、レポート、発表などの訓練をします。受講生には各自関心のあるテーマでの発表を義務づけます。</p> <p>参考文献、資料はそのつど指示します。 毎回出席調査します。</p>		<p>1 入門</p> <p>2 獨協大学の学習環境</p> <p>3 レポート作成について</p> <p>4 発表と議論</p> <p>5 発表と議論</p> <p>6 発表と議論</p> <p>7 発表と議論</p> <p>8 発表と議論</p> <p>9 発表と議論</p> <p>10 発表と議論</p> <p>11 発表と議論</p> <p>12 発表と議論</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席15%、発表70% レポート15%	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	基礎演習(秋学期)	担当者	益山光央
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済学をはじめとしてさまざまな学問分野で必要となる基礎的な事柄、あるいは大学生として知っておくべき「常識」を扱います。具体的には経済学の入門書を使って、レポート、発表などの訓練をします。受講生には各自関心のあるテーマでの発表を義務づけます。</p> <p>参考文献、資料はそのつど指示します。 毎回出席調査します。</p>		<p>1 入門</p> <p>2 獨協大学の学習環境</p> <p>3 レポート作成について</p> <p>4 発表と議論</p> <p>5 発表と議論</p> <p>6 発表と議論</p> <p>7 発表と議論</p> <p>8 発表と議論</p> <p>9 発表と議論</p> <p>10 発表と議論</p> <p>11 発表と議論</p> <p>12 発表と議論</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席15%、発表70% レポート15%	

05年度（春）	基礎演習（春学期）	担当者	松井 敬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済学部に入學したもの、何を勉強したらいいのか、どう勉強したらいいのかといったことははっきりしていない学生は多いと思います。大体、「何故われわれは学ばねばならないのか」、とか「大学とは何か」といったことをまともに考えたことはあるでしょうか。この基礎演習ではこういったことを考えることから始めたいと思います。演習では右の授業計画にあるようなことをテーマとしますが、要は次の2点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 参加と協調で、全員が、個別の、あるいはあらかじめ決められたテーマについて調べ、考え、そのことについての自分の意見を述べること。 2. 「学ぶ」ための色々な技法を意識しつつ、興味を持った分野の情報収集を行い、レポートないし報告書を書く、あるいは要領よく説明すること。 <p>それぞれの学生の参加の意思、意欲の大きさによって自らへのリターンが決まってくる、そんな方向で考えています。</p>		<p>「演習」では下記のようなことを考えています。興味を持続させるために、授業時間を2つに分け、前半と後半で異なる内容のこと（たとえば、前半は資料読み、後半は個別の報告）を進めることなども考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学について考え、討論すること。 ・新聞、雑誌、などの記事、論文、その他の書物を読んで要約（まとめ）、感想、討論を行うこと。テーマは広く設定したいと思います。 ・日ごろ気がつくちょっとした疑問などについて、話題提供をし、議論し、まとめること。 ・演習参加者の興味に応じて設定されたテーマについて、それをどのように総合的にまとめてゆくかを（章立てなどを含むその過程を）考えること。 ・その他 <p>参加している学生みんなで、経済、経営（あるいはスポーツといった話題など何でも）に関連した問題を整理し、討論しながら新たな知見を得る道を探っていくような（そして、それが結果的に知的な創造につながっていけるような）演習にしたいと考えています。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要なプリントは準備する。		レポート、演習への貢献度（参加）。	

05年度（秋）	基礎演習（秋学期）	担当者	松井 敬
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		春学期に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要なプリントは準備する。		レポート、演習への貢献度（参加）。	

05年度(春)	基礎演習(春学期)	担当者	御園生 眞
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大学での学習・研究の基礎となる、図書館の利用方法、インターネットによる情報検索、新聞・雑誌・著書の読み方、レポートの作成方法などについて説明し、その習得を目標とする。</p> <p>(注意) 履修者は必ず第1回の授業に出席してください。 授業のマナーを守り遅刻をしない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと序論 2 図書館の利用方法 3 (続) 4 インターネットによる情報検索 5 (続) 6 新聞・雑誌の記事や専門書の読み方 7 (続) 8 レポートの作成方法 9 (続) 10 (続) 11 (続) 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントなどを利用する。		出席とレポートの提出(数回実施)。 3回以上欠席した場合は単位が認定されない。	

05年度(秋)	基礎演習(秋学期)	担当者	御園生 眞
講義目的、講義概要		授業計画	
春期に同じ。		春期に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントなどを利用する。		出席とレポートの提出(数回実施)。 3回以上欠席した場合は単位が認定されない。	

05年度(春)	基礎演習(春学期)	担当者	森 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この演習の目的は、第一に、これから本格的に経済学を学ぶための準備として、経済学的な考え方とはどういうものであるかを、いくつかの身近な題材を例にとりながら学ぶことにある。第二は、ディベート方式によって、経済的な考え方、論考・議論の進め方、情報収集の仕方、既存の関連する議論の調査(サーベイ)の仕方などを学ぶ。さらにディベートは、仲間を得ることによって、自分だけではなかなか引き出せない自分自身の創造性を実感する機会となることを期待している。第三の目的は、平易な経済学のテキストを使って、初歩的な経済学の理論を学ぶと共に、レジメの作り方、発表の仕方を学ぶ。最後に、論文の書き方、執筆上の決まりを学ぶこととしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 経済学で何を学ぶか。 2 経済学的な考え方：実例の検証(1) 3 経済学的な考え方：実例の検証(2) 4 ディベートのやり方 5 情報収集の仕方 6 ディベートの実施 7 平易な経済学のテキストのグループ発表訓練。 8 平易な経済学のテキストのグループ発表訓練。 10 平易な経済学のテキストのグループ発表訓練。 11 平易な経済学のテキストのグループ発表訓練。 12 論文の書き方 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		普段点	

05年度(秋)	基礎演習(秋学期)	担当者	森 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この演習の目的は、第一に、これから本格的に経済学を学ぶための準備として、経済学的な考え方とはどういうものであるかを、いくつかの身近な題材を例にとりながら学ぶことにある。第二は、ディベート方式によって、経済的な考え方、論考・議論の進め方、情報収集の仕方、既存の関連する議論の調査(サーベイ)の仕方などを学ぶ。さらにディベートは、仲間を得ることによって、自分だけではなかなか引き出せない自分自身の創造性を実感する機会となることを期待している。第三の目的は、平易な経済学のテキストを使って、初歩的な経済学の理論を学ぶと共に、レジメの作り方、発表の仕方を学ぶ。最後に、論文の書き方、執筆上の決まりを学ぶこととしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 経済学で何を学ぶか。 2 経済学的な考え方：実例の検証(1) 3 経済学的な考え方：実例の検証(2) 4 ディベートのやり方 5 情報収集の仕方 6 ディベートの実施 7 平易な経済学のテキストのグループ発表訓練。 8 平易な経済学のテキストのグループ発表訓練。 10 平易な経済学のテキストのグループ発表訓練。 11 平易な経済学のテキストのグループ発表訓練。 12 論文の書き方 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		普段点	

05年度(春)	基礎演習(春学期)	担当者	山越 徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済学の理論がどのような前提や考え方によって成り立っているのか、またその理論が現実の経済を、またその変化をどの程度捉え、説明しているのか、何が捉えられていないのかを通して、経済学や経済を身近に感ずるとともに、現在の経済における諸問題を共に考え、理解を進めていくことにする。</p> <p>そのため、講義の最初の頃は、種々の資料やデータを使って、経済学の考え方や理論、経済の大きさや構造について説明していくが途中からは受講生の関心や興味のある問題、疑問に思っていることや理解が不明確な事柄について採り上げて共に議論し学習する方法もとる。なおその対象は限定しない。積極的な取組みを望みたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学とは：家計、企業、産業、地域社会、国の経営、経済学・経済学の対象など、なおこの時学生の関心事を提出してもらう 2. 経済と理論：現実の経済、理論図式、統計データ、実証分析についてとそれらの関係を事例を挙げて考える。 3. 経済統計データ：統計データとは、分類、時系列とクロスセクション 4. 統計データの見方、読み方 統計の意味するもの 5. 統計学、経済学の文献 基本的文献、古典などについて 6. 以後受講生から出された、テーマや課題、質問等により、議論し考察をすすめていく。 7. 議論しただいでは、その関連について調べてきてもらうよう要請し、その報告で議論していくこともありうる 	
テキスト、参考文献		評価方法	
要望があれば受講生と相談の上決めることもありうるが、基本文献リストおよび資料のコピーは配布する		出席のみならず講義、議論への参加およびその内容ならびにレポート等で評価	

05年度(秋)	基礎演習(秋学期)	担当者	山越 徳
講義目的、講義概要		授業計画	
同上		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

05年度(春)	基礎演習(春学期のみ開講)	担当者	山本 美樹子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済学部に入学者1年生が経済、経済学とはどういうものなのかを肌で感じてもらうことを目的とし、新聞、雑誌等で日ごろの日本経済の中で問題となっていることをとりあげ全員で理解する、というゼミナール形式をとる。 その中で各自興味のあるテーマを見つけ、学年末にそのテーマでレポートを提出してもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、イントロダクション 講義の進め方 2、各自(3, 4名程度)を行い、全員で考えていく。 3、各自(3, 4名程度)を行い、全員で考えていく。 4、各自(3, 4名程度)を行い、全員で考えていく。 5、各自(3, 4名程度)を行い、全員で考えていく。 6、各自(3, 4名程度)を行い、全員で考えていく。 7、各自(3, 4名程度)を行い、全員で考えていく。 8、レポート中間報告 9、レポート中間報告 10、レポート中間報告 11、レポート最終報告 12、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		出席と授業態度、レポート	

講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

05年度(春)	基礎演習(春学期のみ開講)	担当者	湯田 雅夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>企業の環境経営について学習します。</p> <p>① まず、はじめに、皆さん一人一人の日常生活を振り返ってみましょう。</p> <p>② 皆さんの日常生活を精査すると、それらは、エネルギー、水、紙、食料などに分類でき、物量で測定することが可能です。</p> <p>③ この物量について、「リデュース」「リユーズ」「リサイクル」を実行すれば、お金をかけない地球環境にやさしい生活が実現します。</p> <p>④ 企業も上記の活動をより専門的な視点から環境保全活動に取り組んでいます。</p> <p>⑤ 大企業や公営企業で実践されている『環境経営』について、学習しましょう。</p>		<p>1. オリエンテーション 本演習の進め方</p> <p>2. 個別研究テーマの選択</p> <p>3. 資料の入手方法 インターネットの活用他</p> <p>4. 入手資料の確認、不足資料の確認</p> <p>5. レポート作成方法①</p> <p>6. レポート作成方法②</p> <p>7. レポート作成方法③</p> <p>8. レポート中間報告会①</p> <p>9. レポート中間報告会②</p> <p>10. 質問、修正</p> <p>11. レポート提出日</p> <p>12. レポートの講評</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度指示します。		レポートと出席状況から総合的に評価します。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

05 年度 (秋)	基礎演習 (秋学期のみ開講)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>自分の興味のあるテーマについて、調べ、まとめ、表現するということを主にコンピュータを利用してできるようになることを目標とします。具体的には、自分の設定したテーマに沿って、コンピュータ上で、情報を収集し、それを自分の実力に応じた方法でまとめ、最終的なレポートとして自分のホームページ上で発表してもらいます。</p> <p>講義の目標を達成するためのコンピュータの利用方法について説明します。同時に自分のテーマについて調べ、ホームページを完成させていく過程で出てきた内容、技術に関する問題点を全員で話し合い解決していく形式で授業を進めていきます。</p> <p>小人数のクラスなので、できるだけそのメリットを生かせる形式で授業を行いたいと思います。</p> <p>ホームページ作成など、コンピュータをこれから積極的に利用したいと思っている学生で、授業の進行に合わせた毎回の宿題を実施する意欲のある学生の受講を望みます。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 ホームページ作成のための準備1 電子メールの利用とホームページの設定</p> <p>第3回 ホームページ作成のための準備2 FTPの利用とP2P技術</p> <p>第4回 宿題の評価</p> <p>第5回 オークションをサンプルにネット利用の現状と個人情報の保護について</p> <p>第6回 掲示板をサンプルにネット利用の現状と問題点</p> <p>第7回 ホームページ作成と著作権</p> <p>第8回 各自のホームページ作成途上の問題点</p> <p>第9回 ホームページの多様な表現方法</p> <p>第10回 ホームページを使っての学生プレゼンテーション1</p> <p>第11回 ホームページを使っての学生プレゼンテーション2</p> <p>第12回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		出席回数、授業への参加姿勢、毎回の宿題、レポートとしてのホームページの内容	

01年以降(春)	経済学 a (経済学科)	担当者	片岡 晴雄
00年以前(春)	経済学 (経済学科)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近代経済学の一方の柱であるミクロ経済学について講義する。ミクロ経済学は市場経済下における個々人の合理的な経済行動を体系化した学問である。このような個々人の合理的な経済行動を通じて形成される経済秩序は優れた経済効率を達成している。その経済効率とは如何なるものかについて述べる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 経済学の目的と役割 2 近代経済学誕生までの経済学の流れ 3 市場と価格 4 需要と供給の基礎理論 5 家計の行動 6 企業行動の理論 7 完全競争市場と経済効率 8 所得分配 9 市場機構の限界 10 不完全競争の理論 I 11 不完全競争の理論 II 12 ミクロ経済学の応用 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 小野俊夫編『現代経済学の基礎』(学文社)</p>		出席とテストの結果を見て総合的に判断する。	

01年以降(秋)	経済学 b (経済学科)	担当者	片岡 晴雄
00年以前(秋)	経済学 (経済学科)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>マクロ経済学について講義する。マクロ経済学は、集計量と呼ばれる操作可能な戦略的に重要な少数の変数を用いて一国全体の経済の動きを明らかにすることを目的としている。そのような重要な集計量とは、GNP、国民所得、消費、投資、貯蓄、貨幣量、物価、利子率、国際収支、雇用量等々である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 マクロ経済循環 2 経済学の危機とケインズ革命 3 国民所得の決定 4 投資乗数の理論 5 投資の決定 6 政府活動と国民所得 7 貨幣市場 8 生産物市場と貨幣市場の同時均衡 9 経済のマクロ的一般均衡体系 10 インフレーション 11 経済の変動と成長 12 開放体系のマクロ経済学 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 小野俊夫編『現代経済学の基礎』(学文社)</p>		出席とテストの結果を見て総合的に判断する。	

01年以降(春)	経済学 a	担当者	倉橋 透
00年以前(春)	経済学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 皆さんがコンビニでお弁当を買うところから、政府が景気対策を行うところまで、経済学は世の中の実に広い範囲の活動に関係する学問である。その意味で、経済学的な考え方は現代に生きる一人ひとりが身につけるべきものである。 本講義は、皆さんが今後経済学を深く勉強していくに当たっての基礎知識を提供し、経済学的な考え方を身につけてもらうことを狙いとする。</p> <p>【講義内容】 春学期はマイクロ経済学分野を扱う。</p>		<p>1. 経済学とは何だろうか。経済学は何を研究してきたか。 マイクロ経済学とマクロ経済学</p> <p>2～3. 家計の消費行動 (家計による財やサービスの消費)</p> <p>4～5. 企業の生産行動 (企業による財やサービスの生産)</p> <p>6. 市場 (競争的均衡での価格、消費量、生産量の決定)</p> <p>7. 市場 (独占等不完全競争)</p> <p>8. 競争的均衡の効率性 (社会的余剰) と所得分配</p> <p>9～10. 市場の失敗と政府の失敗 (市場は失敗しないのか、市場の失敗の補正策、政府は失敗しないのか)</p> <p>11. 家計の貯蓄行動 (家計の消費と貯蓄)</p> <p>12. 企業の投資行動 (企業の投資決定)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは指定しない。レジメを配布する。 参考文献：伊藤元重『入門 経済学』第2版 (日本評論社)</p>		レポート及び定期試験による。	

01年以降(秋)	経済学 b	担当者	倉橋 透
00年以前(秋)	経済学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 皆さんがコンビニでお弁当を買うところから、政府が景気対策を行うところまで、経済学は世の中の実に広い範囲の活動に関係する学問である。その意味で、経済学的な考え方は現代に生きる一人ひとりが身につけるべきものである。 本講義は、皆さんが今後経済学を深く勉強していくに当たっての基礎知識を提供し、経済学的な考え方を身につけてもらうことを狙いとする。</p> <p>【講義内容】 秋学期はマクロ経済学分野を扱う。</p>		<p>1. 景気とマクロ経済学 (景気とは何か。マクロ経済学の役割)</p> <p>2. GDP (GDPの内訳)</p> <p>3. ケインズ型消費関数 (所得と消費の関係)</p> <p>4. 国民所得の決まり方 (乗数理論)</p> <p>5. 貨幣の需要と供給 (貨幣需要関数)</p> <p>6. " (利子率の決定)</p> <p>7. IS-LM分析 (経済政策は有効か)</p> <p>8. 財政赤字 (国債は後世代の負担か)</p> <p>9～10. インフレーションと失業 (インフレの要因、フィリップス曲線)</p> <p>11. 経済成長 (経済成長の要因)</p> <p>12. 国際経済 (為替レート、経常収支の決定)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは指定しない。レジメを配布する。 参考文献：伊藤元重『入門 経済学』第2版 (日本評論社)</p>		レポート及び定期試験による。	

01年以降(春)	経済学 b [経済学科]	担当者	小林 進
00年以前(春)	経済学 [経済学科] (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>最近は経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば多重債務者の増加に見られるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮されるので、一年生を対象にしたこの講義では特に経済理論の必要性を十分に理解できるように講義を進める。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。</p>		<p>最初の講義のときにプリント配布 (マクロ経済学を中心にして講義)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>使用しない。参考文献は講義の中で指示する。</p>		<p>学期末試験</p>	

01年以降(秋)	経済学 a [経済学科]	担当者	小林 進
00年以前(秋)	経済学 [経済学科] (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>最近は経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば多重債務者の増加に見られるように経済学の基礎が十分に理解できていないことが憂慮されるので、一年生を対象にしたこの講義では特に経済理論の必要性を十分に理解できるように講義を進める。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。</p>		<p>最初の講義のときにプリント配布 (ミクロ経済学を中心にして講義)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>使用しない。参考文献は講義の中で指示する。</p>		<p>学期末試験</p>	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済学 a [経済学科] 経済学 [経済学科] (通年)	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の目的と方法 2. 家計の行動① 3. 家計の行動② 4. 家計の行動③ 5. 企業の行動① 6. 企業の行動② 7. 企業の行動③ 8. 不完全競争の理論 9. 市場の理論① 10. 市場の理論② 11. 厚生経済学の基本定理 12. 市場の失敗 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として試験の成績で評価する。出席を考慮する場合もある。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済学 b [経済学科] 経済学 [経済学科] (通年)	担当者	野村 容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p>講義目的 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学の体系 2. 国民所得の諸概念 3. 消費と貯蓄の理論 4. 投資の理論 5. 国民所得決定の理論 6. 生産物市場の分析 7. 金融市場の分析 8. IS-LM 分析 9. 物価とインフレーション 10. 失業の問題 11. 経済成長論 12. 開放マクロ経済 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として試験の成績で評価する。出席を考慮する場合もある。	

01年以降(春)	経済学 a [経済学科]	担当者	浜本 光紹
00年以前(春)	経済学 [経済学科] (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、現実の経済の仕組みを理解し、理論的に考察するうえで必要な分析道具であるマクロ経済学およびミクロ経済学の基礎を習得し、経済理論を用いながら現実の経済問題の本質的要因を探り処方箋を考える力を養うことを目標とする。</p> <p>経済学 a では、国民所得の決定メカニズムおよびマクロ経済における家計・企業・政府の各部門の関係について解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 経済学という学問について 2 マクロ経済学の課題について 3 家計の消費・貯蓄行動 4 企業の投資行動 5 企業の資金調達と株価市場 6 貨幣と経済活動 7 マクロ経済モデル 	
テキスト、参考文献		評価方法	
福田・照山『マクロ経済学・入門』有斐閣		定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。	

01年以降(秋)	経済学 b [経済学科]	担当者	浜本 光紹
00年以前(秋)	経済学 [経済学科] (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済学 b では、経済学 a の講義内容を踏まえて、マクロ経済政策の効果や失業問題、および為替レートの決定メカニズムなどについて解説する。続いて、ミクロ経済学を取り上げ、需要と供給および経済厚生について解説し、規制緩和や環境税などの経済政策・公共政策の基礎理論について講義を行なう。</p> <p>受講を希望する学生は、経済学 a を既習であることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 マクロ経済政策 2 労働市場と失業 3 開放マクロ経済 4 ミクロ経済学の課題について 5 需要曲線と供給曲線 6 社会的余剰の考え方 7 競争市場と独占 8 市場の失敗と公共政策 9 環境政策の理論と実際 	
テキスト、参考文献		評価方法	
経済学 a で用いたものを引き続き使用するほか、ミクロ経済学についてはプリントを配布する予定である。		定期試験の結果に出席状況を加味して評価する。	

01年以降(春)	経済学 a [経済学科]	担当者	益山光央
00年以前(春)	経済学 [経済学科] (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ミクロ経済学の基本的な諸概念を学びます。 毎回出席調査します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ミクロ経済学概観 2 消費者の理論 3 消費者の理論 4 消費者の理論 5 生産者の理論 6 生産者の理論 7 生産者の理論 8 完全競争市場 9 完全競争市場 10 不完全競争市場 11 不完全競争市場 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
大石泰彦ほか『エレメンタルミクロ経済学』 英創社		試験70%、レポート20%、出席10%	

01年以降(秋)	経済学 b [経済学科]	担当者	益山光央
00年以前(秋)	経済学 [経済学科] (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>マクロ経済学の基本的な諸概念を学びます。 毎回出席調査します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国民所得の諸概念 2 国民所得決定 3 国民所得決定 4 投資関数 5 利子率の決定 6 利子率の決定 7 IS 曲線 8 LM 曲線 9 物価水準と労働市場 10 物価水準と労働市場 11 国民所得と経済成長 12 国民所得と経済成長 	
テキスト、参考文献		評価方法	
大石泰彦ほか『エレメンタルミクロ経済学』 英創社		試験70%、レポート20%、出席10%	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済学 a 経済学 (通年)	担当者	米 山 昌 幸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。</p> <p>講義の目的は、はじめて経済学を勉強する学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい、経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この2つです。この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としていますが、2年生以上でまだ経済学を履修していない学生にも是非履修してもらいたいと思っています。経済学科の学生だけでなく経営学科の学生にとっても、経済学は必要だと考えます。</p> <p>経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。春学期は、ミクロ経済学の分野を中心に講義します。</p>		週	内容
		1	第1章 経済学とは
		2	第2章 経済学的な考え方
		3	基本的競争モデル、価格システムとインセンティブ、機会集合、費用
		4	第3章 取引と貿易
		5	1. 取引からの利益 2. 国家間の取引
		6	比較優位と貿易利益
		7	1. 比較優位と生産可能性曲線
		8	2. 貿易開始後の生産調整と貿易利益
		9	第4章 需要・供給と価格
		10	1. 市場需要曲線と需要曲線のシフト 2. 市場供給曲線と供給曲線のシフト
		11	市場メカニズムと経済厚生分析—需要・供給曲線分析
12	1. 市場メカニズムの原理と市場均衡 2. 限界分析と余剰概念		
テキスト、参考文献		評価方法	
ジョセフ E. スティグリッツ, 藪下史郎(他)訳『スティグリッツ入門経済学(第2版)』東洋経済新報社, 1999年		定期試験および練習問題の総得点によって評価する。評価基準は第1回目の授業で説明する。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済学 b 経済学 (通年)	担当者	米 山 昌 幸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちが経済学を勉強するのは、経済学の理論的枠組みを用いて現実の経済社会についての理解を深め、さらには問題解決の手掛かりを見出すためです。</p> <p>講義の目的は、はじめて経済学を勉強する学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい、経済学に興味をもってもらうこと、そして分析用具としての経済学の基礎的な考え方を理解してもらうこと、この2つです。この講義は、経済学を学ぼうとする初心者をおもな対象としていますが、2年生以上でまだ経済学を履修していない学生にも是非履修してもらいたいと思っています。経済学科の学生だけでなく経営学科の学生にとっても、経済学は必要だと考えます。</p> <p>経済学の分野は、ミクロ経済学とマクロ経済学に大別されます。秋学期は、マクロ経済学の分野を中心に講義します。</p>		週	内容
		1	第1章 マクロ経済学と GDP の測定
		2	GDP の定義と三面等価の原則
		3	失業とインフレーション
		4	物価指数の算定方法—パーシェ指数とラスパイルス指数
		5	第2章 基本的完全雇用マクロ・モデル—長期マクロ・モデル
		6	1. 労働市場・生産物市場・資本市場
		7	2. 一般均衡とモデルの拡張
		8	第3章 失業と総需要—短期マクロ・モデル
		9	所得・支出分析—生産物市場における国民所得決定の理論：45度線分析
		10	1. 需給の不均衡と調整メカニズム
		11	2. 閉鎖経済における国民所得決定の理論 3. 総需要管理政策と乗数効果 4. 開放経済における国民所得の決定
12	総需要曲線の導出 まとめ		
テキスト、参考文献		評価方法	
ジョセフ E. スティグリッツ, 藪下史郎(他)訳『スティグリッツ入門経済学(第2版)』東洋経済新報社, 1999年		定期試験および練習問題の総得点によって評価する。評価基準は第1回目の授業で説明する。	

01 年以降 (春) 00 年以前 (春)	統計学 a 統計学 (通年)	担当者	富田 幸弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達は、データの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組みとその重要性を十分に理解し、応用力を身につけることを目標としている。</p> <p>その内容は、以下のとおりである。</p> <p>(1) データの整理 (2) 確率分布</p>		<p>1 統計学とは、評価・受講上の注意など</p> <p>2 データの整理 (1) 位置の尺度・散布の尺度</p> <p>3 データの整理 (2) 度数分布表・ヒストグラム</p> <p>4 データの整理 (3) 各種のグラフ・指数</p> <p>5 データの整理 (4) 簡便法</p> <p>6 データの整理 (5) 相関係数・回帰直線</p> <p>7 データの整理 (6) 計算演習とまとめ</p> <p>8 確率・順列と組合せ・二項定理</p> <p>9 確率分布 (1) 二項分布・漸化式</p> <p>10 確率分布 (2) 正規分布・標準化</p> <p>11 確率分布 (3) その他の確率分布</p> <p>12 確率分布の計算演習とまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献などは、必要に応じて紹介する。</p> <p>毎回の講義概要については、プリントを配布する。</p>		<p>定期試験の結果により評価する。</p> <p>出席状況・レポートなども考慮する。</p>	

01 年以降 (秋) 00 年以前 (秋)	統計学 b 統計学 (通年)	担当者	富田 幸弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達は、データの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組みとその重要性を十分に理解し、応用力を身につけることを目標としている。</p> <p>その内容は、以下のとおりである。</p> <p>(1) 統計的推定 (2) 統計的仮説検定</p>		<p>1 春学期の復習、評価・受講上の注意など</p> <p>2 母集団と標本・標本調査・中心極限定理</p> <p>3 統計的推定 (1) 比率</p> <p>4 統計的推定 (2) 平均</p> <p>5 統計的仮説検定 (1) 概説</p> <p>6 統計的仮説検定 (2) 比率・比率の差</p> <p>7 統計的仮説検定 (3) 分割表</p> <p>8 統計的仮説検定 (4) 平均・平均の差</p> <p>9 統計的仮説検定 (5) 相関係数・等分散</p> <p>10 統計的仮説検定 (6) その他検定</p> <p>11 統計的仮説検定 (7) 推定と検定のまとめ</p> <p>12 統計学のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献などは、必要に応じて紹介する。</p> <p>毎回の講義概要については、プリントを配布する。</p>		<p>定期試験の結果により評価する。</p> <p>出席状況・レポートなども考慮する。</p>	

01年以降(春)	統計学 a	担当者	本田 勝
00年以前(春)	統計学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>我々の身の回りには大量のデータが存在する。それらは観測や測定あるいは実験のデータであったり、各種の調査から得られたデータであったり、その種類は様々である。これらのデータを解析し、推論していく、推測統計学を軸とする近代統計学の手法は、経済学や経営学の分野でもいろいろな形で応用されている。</p> <p>この講義では、統計学の基本的考え方とそれらを具体的に 응용していく方法について述べていく。</p> <p>講義は以下のような内容についてテキストを中心に進めるが、スライドを使用することもある。</p> <p>データの整理の方法 確率の概念 確率分布の考え方 特殊な確率分布</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 統計学とは何かについて、統計学の導入を行なう。 2 標本として得られるデータの整理のしかたについて述べる。平均、中央値、最頻値など。 3 ばらつきの尺度によるデータ特性の把握の方法を述べる。 4 データ整理の方法を理解するための演習をおこなう。 5 確率導入の準備として、集合および事象について述べる。 6 確率を導入し、加法定理、条件付確率および乗法定理について述べる。 7 確率変数と確率分布の考え方を述べ、離散型および連続型の例を考えてみる。 8 平均 や分散などの特性値について述べる。 9 2項分布を例に、離散型確率分布の性質を調べる。 10 ポアソン分布の性質を調べる。問題演習。 11 連続型確率分布の性質について、一様分布、指数分布、正規分布を例に述べる。 12 正規分布の確率の求め方と確率変数の標準化について述べる。問題演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
本田 勝『基本統計学』 産業図書		定期試験および出席調査による総合評価	

01年以降(秋)	統計学 b	担当者	本田 勝
00年以前(秋)	統計学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は統計学 a と同じ</p> <p>講義は以下のような内容についてテキストを中心に進めるが、スライドを使用することもある。</p> <p>標本分布の考え方といくつかの例 統計学における推定の問題 統計学における仮説検定の問題 2変量間の関係のとらえ方</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 標本分布とは何かについて述べ、中心極限定理についても言及する。 2 標本比率の確率分布について述べ、2項分布の正規分布近似についても言及する。 3 カイ2乗分布およびt分布を説明したあと、標本分散の確率分布について述べる。 4 母集団パラメータの推定について、点推定、区間推定の考え方を述べる。 5 母平均の区間推定のし方を述べる。問題演習。 6 母集団比率及び母分散の区間推定のし方を述べる。 7 統計的仮説検定の考え方と母平均の検定法について述べる。 8 2変量間の相関とは何かについて述べる。 9 回帰直線について述べる。(線形回帰、最小2乗法) 10 カイ2乗検定の考え方について述べる。 11 問題演習 12 一年間の総復習を行う。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
本田 勝『基本統計学』 産業図書		定期試験および出席調査による総合評価	

01年以降(春)	統計学 a	担当者	松井 敬
00年以前(春)	統計学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学、経営学を含む諸科学に大きく貢献してきた。近年は、コンピュータなどのデータ処理システムの発展もあって、人間活動のあらゆる分野で広く利用されている。本講義は、統計学の基礎的な概念と方法について正確な知識と応用能力を身につけることを目的とする。統計学は現実への応用に大きく関わった学問なので、出来るだけ具体的な問題を意識し、適宜計算演習をまじえながら進めてゆく。</p> <p>内容は記述的な統計から現代統計学の枠組み、データの得られるメカニズム(モデル)などである。</p> <p>試験問題は講義中の演習問題が中心になるので、普段からキチンと出席し、テーマ毎に理解しておくことが大切である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学とはどんな学問か、なぜ統計学を学ぶのか。ほかに授業の進め方、方針。 2. 統計的な見方、考え方とは。データを測定する尺度。 3. データを記述するための尺度の意味と特徴、計算など。 4. 探索的なデータ解析の方法と考え方。 5. 2つの変数間の関連性を説明する尺度について。 6. 2つの変数間の"線型"な関係を調べる。回帰直線。 7. 確率—統計と確率の接点。確率の基本的な考え方。 8. データの得られるしくみ。データとそのモデル(分布)。 9. 現代統計学の枠組み—母集団と標本。 10. 離散型の分布—二項分布、ポアソン分布など。 11. 連続型の分布—正規分布の意味と特徴など。 12. 正規分布とその周辺の事柄について。前期のまとめ。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
池田、松井、富田、馬場著『統計学』—データから現実をさぐる、内田老鶴圃。		期末の試験と出席による。	

01年以降(秋)	統計学 b	担当者	松井 敬
00年以前(秋)	統計学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、統計的応用のための様々な手法の意味や考え方を説明する。データは実験、観察、調査など社会の様々な場から得られるが、データの処理にはその背景にある諸条件を勘案しつつ、適切な統計的方法を選択する必要がある。その際に留意すべき点や問題となる点を明確にしながら説明してゆきたい。</p> <p>取り扱うのは推定、検定、ノンパラメトリック法などで、それぞれの方法が、どのような考え方で組み立てられているかを詳説したい。また、統計的概念の理解は、実際にデータに対峙し、計算を行うことで(データ処理によって)深まってゆくの、随時演習を行い、各手法がより十分に理解されるようにしたい。例題や演習問題には積極的に取り組んでいただきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. データ解析の考え方—母集団と標本の枠組み、統計的推測について。 2. 統計的推定—点推定、最尤推定、標本分布など。 3. 比率と母平均の推定、推定量の意味、性質、比較。 4. 区間推定。サンプルの大きさを決める方法。 5. 統計的仮説検定の考え方。 6. 比率の検定—考え方と定式化。 1 標本と2 標本。 7. 正規分布の母平均の検定など。 8. 2×2 分割表の考え方と方法。$r \times c$ 表。 9. 適合度検定。 10. ノンパラメトリックな方法。符号検定など。 11. 順位にもとづく検定など。 12. 統計的推測：統計的方法の枠組みと様々な手法の関連を再考する。後期のまとめ。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
池田、松井、富田、馬場著『統計学』—データから現実をさぐる、内田老鶴圃。		期末の試験と出席による。	

01年以降(春) 00年以前(春)	コンピュータ入門 a 情報処理概論 (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、大学でのレポート作成や、ゼミでのプレゼンテーションにおいて必要となる、ワードプロセッサ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な使用法を、Microsoft Office を使用し、実習を通して身につけることを目的とします。</p> <p>また、リレーショナルデータベースとよばれる、大規模なデータ管理の際に使用されるデータの作成についても取り扱います。</p> <p>なお、各テーマが取り扱われる順序や、時間配分については、担当教員によって異なることがあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方について 2. コンピュータの基礎、ID の管理について 3. ワードプロセッサの使用法 1 文章の作成、各種書式の設定 4. ワードプロセッサの使用法 2 図形描画、表の作成、数式の入力 5. 表計算ソフトの使用法 1 表の入力、グラフの作成 6. 表計算ソフトの使用法 2 関数を用いた計算 7. 表計算ソフトの使用法 3 マクロを用いた計算 8. プレゼンテーションソフトの使用法 1 スライドの作成、プレゼンテーション方法 9. プレゼンテーションソフトの使用法 2 アニメーションの設定 10. データベースの作成 1 ソフトの概要とデータの入力方法 11. データベースの作成 2 データの関連づけ、検索 12. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>情報処理教育担当者会監修 『コンピュータ入門』</p>		出席、レポート、試験などで総合評価します。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	コンピュータ入門 b 情報処理概論 (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コンピュータを用いて作業を行う最には、市販のアプリケーションソフトを使用するだけではなく、コンピュータプログラムを作成し、既存のソフトを使うだけでは出来ないことを行うこともできます。コンピュータプログラムを作成する際には、プログラム言語の文法を覚えることにくわえて、どのような手順でコンピュータにより問題を解くのかを考え、それをプログラムとして表現することが重要です。</p> <p>この講義では、Java、C 言語、Visual Basic といったコンピュータ言語のひとつを使用して、プログラム作成の基礎を学びます。使用する言語は、担当教員ごとに異なりますが、各種言語を用いたプログラム法を学び、基礎的な問題解決の手順をプログラムで表現できるようになることを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の進め方について 2. コンピュータ言語の文法 1 使用言語の特徴とプログラムの作成方法 3. コンピュータ言語の文法 2 変数と配列、演算式 4. コンピュータ言語の文法 3 条件分岐、繰り返し 5. コンピュータ言語の文法 4 関数、ファイル処理 6. アルゴリズム 1－ソート 数値の昇順、降順への並べ替え 7. アルゴリズム 2－数値計算法－ ニュートン法、二分法 8. アルゴリズム 3－乱数を用いた計算－ 円周率の計算 9. 基礎的な問題のプログラム作成 1 10. 基礎的な問題のプログラム作成 2 11. 基礎的な問題のプログラム作成 3 担当教員が指定した問題を、数回の講義に分けて作成します。 12. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
各担当教員指定の教科書および印刷物		出席、レポート、試験などで総合評価します。	

講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

01年以降(秋)	プレゼンテーション技法	担当者	富澤儀一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>本科目は、プレゼンテーションの基本と、新しい時代の最新の技術をふまえた「デジタル・プレゼンテーション」のやり方を説明し、実践する。</p> <p>次の3項目を目標とする。</p> <p>(1) 日本式と欧米式の発表方法を融合し、効果的な標準的な手法を学習する。</p> <p>(2) プレゼンテーションの基本技法とパソコン・液晶プロジェクタとを組み合わせ、最適なデジタル・プレゼンテーションのやり方を具体的に提示する。</p> <p>(3) デジタル・プレゼンテーション計画、デザイン、発表の3つを組み合わせ、プレゼンテーションの生産性・効率の向上を目指す。</p> <p>学習態度・目標</p> <p>プレゼンテーションは「伝えたいこと」が相手に伝わることである。プレゼンテーションには「発表」の他に「送呈」の意味がある。相手にプレゼントするような気持ちで発表することに他ならない。相手の立場に立って、発表するように練度を高めよう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、プレゼンテーションの基本 2. 内容構成、視覚資料資料の作成法、図式化 3. 印象付ける話し方：ボディランゲージ、声と話し方 4. 自己紹介の視覚資料作成 5. 演習(1)自己紹介 6. 演習(1)自己紹介 7. 研究発表の方法、研究発表用資料作成、リハーサル法 8. 問題の出題、シミュレーションの実行 9. スライド作成 10. 演習(2)発表 (1人ずつスクリーンの前で発表) 11. 演習(2)発表 12. 演習(2)発表 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト、資料は「 ¥¥dainet¥¥tomizawa 」に用意しておく。		スクリーンの前で数回の発表をする。その際の発表が、評価の対象となる。	

01年以降(春)	経営学 a〔経済学科〕	担当者	清水絹代
00年以前(春)	経営学〔経済学科〕(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講義の目的は大別して三つあります。第一の目標は、経営に関する基礎理論を学び、その応用能力を身につけることです。第二の目標は、経営に関する問題発見と解決策を提示する能力を獲得することにあります。最後に、組織内で効果的に他者と関わるために必要なコミュニケーション能力を獲得することも目指します。</p> <p>講義概要 本講義では、上記目標を達成するために右記テーマ、内容に基づき、様々なレポートやディスカッション、チーム・プロジェクトなどが課せられます。毎回講義終了前10分程度で、講義フィードバックを書きます。</p> <p>その他 遅刻厳禁。携帯電話、PHSの電源は切ること(マナーモードは禁止)。履修希望者は初回講義に必ず出席すること。欠席は原則2回まで許可されます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. チーム・プロジェクト及びレポートの書き方説明① 3. 経営戦略① 4. 経営戦略② 5. チーム・プロジェクト説明及びレポートの書き方説明② 6. 経営戦略③ 7. シミュレーション・ゲーム 8. 組織のマネジメント① 9. 組織のマネジメント② 10. 組織のマネジメント③ 11. プレゼンテーション・コンテスト 12. 今期の総復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時にお知らせします。		出欠席、参加態度、課題レポート等の提出物、プレゼンテーションなどを総合的に評価します。	

01年以降(秋)	経営学 b〔経済学科〕	担当者	清水絹代
00年以前(秋)	経営学〔経済学科〕(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 上記同様</p> <p>講義概要 上記同様</p> <p>その他 上記同様</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. チーム・プロジェクト説明① 3. リーダーシップ① 4. リーダーシップ② 5. チーム・プロジェクト説明② 6. 日本的経営① 7. 日本的経営② 8. 経営計画 9. 企業文化 10. 企業のガバナンス 11. プレゼンテーション・コンテスト 12. 今学期の総復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時にお知らせします。		出欠席、参加態度、課題レポート等の提出物、プレゼンテーションなどを総合的に評価します。	

01年以降(春)	経営学 a [経営学科]	担当者	上坂 卓郎
00年以前(春)	経営学 [経営学科]		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は経済学部経営学科の学生として学習を進める上で、また将来企業人として仕事をする上で必要となる「企業」や「経営」に関する基礎的知識の習得をめざす。また諸君の企業に対する関心の惹起や見方を形成するための契機や導入になるような講義を意図している。</p> <p>事前に次週のテキストの該当章に目を通していただくこと。日頃より新聞やニュース等で企業の動向に関心を持つこと。</p> <p>まじめで、真摯な学習態度をこころがけてください。<u>1学年の必修科目ですから必ず単位を取得することが重要です。そのためにはやはり講義の出席とテキストの学習が近道です。なお同一教員の経営学 b の履修者は履修できないので注意すること。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 変貌するビジネス 2 会社制度と企業経営 3 会社の目的と業績評価 (1) 4 会社の目的と業績評価 (2) 5 経営戦略の策定 (1) 6 経営戦略の策定 (2) 7 経営組織の姿、中間小テスト IT革新とネットワーク組織 9 人的資源戦略 10 財務戦略 (1) 11 財務戦略 (2)、コーポレートガバナンス 12 まとめ、期末テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
高橋宏幸ほか著『現代経営・入門』有斐閣 2002年。また参考資料を適宜配布する		中間小テスト・期末定期試験が主体なので必ず受験すること。また出席も勘案する可能性がある。	

01年以降(秋)	経営学 b [経営学科]	担当者	上坂 卓郎
00年以前(秋)	経営学 [経営学科]		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経営学 a と同様。<u>従って同一教員の経営学 a の履修者は履修できないので注意すること。</u></p>		経営学 a と同様	
テキスト、参考文献		評価方法	
経営学 a と同様		経営学 a と同様	

01年以降(春)	経営学 a (経営学科)	担当者	日下泰夫
00年以前(春)	経営学 (経営学科)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>入門講座として、経営学の基本的な概念を説明する。《変化の時代》の経営学が極めて興味深い学問領域であることを理解できるような講義をめざしている。</p> <p>講義の前半(1~6)は経営学の基本的な概念を説明する。後半(7~11)は、現在、経営の重要課題として脚光を浴びている技術経営/研究開発マネジメントを、いくつかの視点から考察する。最後に、経営学と関係の深い経営システム工学と経営学との接点を紹介する。</p> <p>講義の終わりには、最新のトピックスについても出来るだけ紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 企業と外部環境 2 経営資源とマネジメント 3 経営戦略 4 環境経営 5 経営と情報 6 コーポレート・ガバナンス 7 イノベーション:プロダクト・イノベーション 8 イノベーション:テクノイノベーションと技術戦略 9 イノベーション:マーケティング・イノベーション 10 研究開発(R&D)組織と人材マネジメント 11 経営のグローバル化と研究開発 12 経営学と経営システム工学の接点を求めて: 経営学を学ぶ皆さんへ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 日本経済新聞社(編):「ベーシック経営入門」、参考文献は開講時に紹介する。</p>		<p>期末試験を中心に、提出レポートと出席状況を加味して評価する。経営学 a と経営学 b は、必ず、異なる教員を登録します。同一教員は履修不可です。</p>	

01年以降(秋)	経営学 b (経営学科)	担当者	日下泰夫
00年以前(秋)	経営学 (経営学科)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>入門講座として、経営学の基本的な概念を説明する。《変化の時代》の経営学が極めて興味深い学問領域であることを理解できるような講義をめざしている。</p> <p>講義の前半(1~6)は経営学の基本的な概念を説明する。後半(7~11)は、現在、経営の重要課題として脚光を浴びている技術経営/研究開発マネジメントを、いくつかの視点から考察する。最後に、経営学と関係の深い経営システム工学と経営学との接点を紹介する。</p> <p>講義の終わりには、最新のトピックスについても出来るだけ紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 企業と外部環境 2 経営資源とマネジメント 3 経営戦略 4 環境経営 5 経営と情報 6 コーポレート・ガバナンス 7 イノベーション:プロダクト・イノベーション 8 イノベーション:テクノイノベーションと技術戦略 9 イノベーション:マーケティング・イノベーション 10 研究開発(R&D)組織と人材マネジメント 11 経営のグローバル化と研究開発 12 経営学と経営システム工学の接点を求めて: 経営学を学ぶ皆さんへ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 日本経済新聞社(編):「ベーシック経営入門」、参考文献は開講時に紹介する。</p>		<p>期末試験を中心に、提出レポートと出席状況を加味して評価する。経営学 a と経営学 b は、必ず、異なる教員を登録します。同一教員は履修不可です。</p>	

01年以降(春)	経営学 a [経営学科]	担当者	黒川文子
00年以前(春)	経営学 [経営学科]		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経営学が学問として認知されるようになったのは、古いことではない。20世紀に入ってから確立した領域が経営学であろう。そのため、研究対象となる分野は、細分化の方向に向かうと同時に、近年では総合化の方向に進んでいる。</p> <p>本講義では、企業の競争力の重要な源泉となっている新製品開発力について理解を深めていく。製造コストではアジア諸国に競争優位があるが、日本は高い技術力を駆使した新製品の開発に競争力がある。新製品開発のすべてのプロセスを、自動車やファッション衣料等のケースを用いて考察する。</p> <p>本講義に関心を持つならば、いかに経営学が生きた学問であるかを実感として把握できるようになるであろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 新製品開発の意義 2 新製品開発のプロセス 3 自動車開発のケース 4 医薬品開発のケース 5 ファッション衣料開発のケース 6 機会の探索とコンセプト形成 7 ITと新製品開発 8 社会・環境問題と新製品開発 9 開発の組織 10 評価の原理 11 発売後の管理 12 新製品の発売中止と現在製品の廃止 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		<p>期末試験と出席によって、総合的に評価する。経営学 a と経営学 b は、必ず、異なる教員を登録します。同一教員は履修不可です。</p>	

01年以降(秋)	経営学 b [経営学科]	担当者	黒川文子
00年以前(秋)	経営学 [経営学科]		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経営学が学問として認知されるようになったのは、古いことではない。20世紀に入ってから確立した領域が経営学であろう。そのため、研究対象となる分野は、細分化の方向に向かうと同時に、近年では総合化の方向に進んでいる。</p> <p>本講義では、企業の競争力の重要な源泉となっている新製品開発力について理解を深めていく。製造コストではアジア諸国に競争優位があるが、日本は高い技術力を駆使した新製品の開発に競争力がある。新製品開発のすべてのプロセスを、自動車やファッション衣料等のケースを用いて考察する。</p> <p>本講義に関心を持つならば、いかに経営学が生きた学問であるかを実感として把握できるようになるであろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 新製品開発の意義 2 新製品開発のプロセス 3 自動車開発のケース 4 医薬品開発のケース 5 ファッション衣料開発のケース 6 機会の探索とコンセプト形成 7 ITと新製品開発 8 社会・環境問題と新製品開発 9 開発の組織 10 評価の原理 11 発売後の管理 12 新製品の発売中止と現在製品の廃止 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		<p>期末試験と出席によって、総合的に評価する。経営学 a と経営学 b は、必ず、異なる教員を登録します。同一教員は履修不可です。</p>	

01年以降(春) 00年以前(春)	経営学 a〔経営学科〕 経営学〔経営学科〕	担当者	小林哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代企業をめぐる情報化と国際化の動きを中心に、経営学の基礎的な学習を進めることを目的とする。</p> <p>現代企業を取り巻く条件は、急速に変化している。情報技術革命が、企業の組織や戦略に大きな変化をもたらすようになってきた。またアジア諸国の工業化にともなって、世界の産業地図は大きく描き直されようとしている。いわゆる日本的経営も、システムとして再検討されるようになってきた。</p> <p>本講義では、主として日本企業の経験に学びながら、経営学の基本的な知識とともに、現代企業の直面する新しい課題について議論していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学と経営学 勉強の進め方・ノートの取り方 2. 情報技術革命のインパクト 3. 「失われた10年」と日米企業 4. 現代における技術革新と競争優位 5. 日本的生産システムの確立と進化 6. 情報化とネットワーク 7. ——経済・経営情報検索術—— 8. 世界の多国籍企業 9. 技術革新と新しい国際分業 10. 日本企業の海外進出 11. グローバリゼーション 12. 日本的経営の行方 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは特に定めないが参考書として、三橋規宏他『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞社</p>		<p>小レポートおよび定期試験 経営学 a と経営学 b は、必ず、異なる教員を登録します。同一教員は履修不可です。</p>	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経営学 b〔経営学科〕 経営学〔経営学科〕	担当者	小林哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代企業をめぐる情報化と国際化の動きを中心に、経営学の基礎的な学習を進めることを目的とする。</p> <p>現代企業を取り巻く条件は、急速に変化している。情報技術革命が、企業の組織や戦略に大きな変化をもたらすようになってきた。またアジア諸国の工業化にともなって、世界の産業地図は大きく描き直されようとしている。いわゆる日本的経営も、システムとして再検討されるようになってきた。</p> <p>本講義では、主として日本企業の経験に学びながら、経営学の基本的な知識とともに、現代企業の直面する新しい課題について議論していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学と経営学 勉強の進め方・ノートの取り方 2. 情報技術革命のインパクト 3. 「失われた10年」と日米企業 4. 現代における技術革新と競争優位 5. 日本的生産システムの確立と進化 6. 情報化とネットワーク 7. ——経済・経営情報検索術—— 8. 世界の多国籍企業 9. 技術革新と新しい国際分業 10. 日本企業の海外進出 11. グローバリゼーション 12. 日本的経営の行方 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは特に定めないが参考書として、三橋規宏他『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞社</p>		<p>小レポートおよび定期試験 経営学 a と経営学 b は、必ず、異なる教員を登録します。同一教員は履修不可です。</p>	

01年以降(春)	経営学 a〔経営学科〕	担当者	高松和幸
00年以前(春)	経営学〔経営学科〕		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、経営学の入門講座としての性格をもつ。すなわち、経営学科で学ぶ専門科目の基礎として、経営学の基本的な考え方、経営学でとりあげられる諸問題について、トピック的な講義を行う。この講義をつうじて、経営学への関心・興味が高まることを目的とする。</p> <p>春・秋学期交代による授業のため、授業の最初により詳しい講義レジメ(シラバス)を配布してガイダンスをする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ベンチャー起業について 2. 現代企業について 3. 環境と組織について 4. 新事業の創出について 5. 競争戦略について 6. M&Aについて 7. 日本的経営について 8. ゲーム・寡占について 9. よい会社とは何かについて 10. 製品開発について 11. ネットワーク組織について 12. 会社は誰のものか 	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で指示する		期末定期試験・平常授業の課題・出席など 経営学 a と経営学 b は、必ず、異なる教員を登録します。同一教員は履修不可です。	

01年以降(秋)	経営学 b〔経営学科〕	担当者	高松和幸
00年以前(秋)	経営学〔経営学科〕		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、経営学の入門講座としての性格をもつ。すなわち、経営学科で学ぶ専門科目の基礎として、経営学の基本的な考え方、経営学でとりあげられる諸問題について、トピック的な講義を行う。この講義をつうじて、経営学への関心・興味が高まることを目的とする。</p> <p>春・秋学期交代による授業のため、授業の最初により詳しい講義レジメ(シラバス)を配布してガイダンスをする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ベンチャー起業について 2. 現代企業について 3. 環境と組織について 4. 新事業の創出について 5. 競争戦略について 6. M&Aについて 7. 日本的経営について 8. ゲーム・寡占について 9. よい会社とは何かについて 10. 製品開発について 11. ネットワーク組織について 12. 会社は誰のものか 	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で指示する		期末定期試験・平常授業の課題・出席など 経営学 a と経営学 b は、必ず、異なる教員を登録します。同一教員は履修不可です。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経営学 a (経営学科) 経営学 (経営学科)	担当者	富田忠義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>企業、経営、管理をキーワードとして取り上げて、実践学としての現代経営学について概説する。はじめて経営学を学ぶ受講生を前提にして、最新の内容と入門的易しさを両立させたいと考えている。本講義は、「経営学入門の入門」である。</p> <p>ここでは現代企業とその経営の解明を、現代経営学の最新の研究成果の紹介を通して行う。まず経営学の研究対象と研究方法について概説し、この学問が企業の経営と管理を実践学的方法で研究するものであることを明らかにする。次に企業についてその種類や性格、他の企業との関係の仕方について概説する。最後に、現代企業についてその目的や理念、戦略を、激動する企業環境と関連させて概説して、全体として現実の企業行動を専門的に理解するための経営学的見方を教授する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春期授業計画の概要 2 経営と管理 3 経営職能 4 企業形態 5 株式会社 6 企業間関係 7 企業集団 8 経営理念 9 経営社会責任 10 経営環境 11 経営戦略 12 春期授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
河野重榮『マネジメント要論』八千代出版		<p>期末試験の結果と、授業出席状況による。 経営学 a と経営学 b は、必ず、異なる教員を登録します。同一教員は履修不可です。</p>	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経営学 b (経営学科) 経営学 (経営学科)	担当者	富田忠義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>企業、経営、管理をキーワードとして取り上げて、実践学としての現代経営学について概説する。はじめて経営学を学ぶ受講生を前提にして、最新の内容と入門的易しさを両立させたいと考えている。本講義は、「経営学入門の入門」である。</p> <p>ここでは現代企業とその経営の解明を、現代経営学の最新の研究成果の紹介を通して行う。まず経営学の研究対象と研究方法について概説し、この学問が企業の経営と管理を実践学的方法で研究するものであることを明らかにする。次に企業についてその種類や性格、他の企業との関係の仕方について概説する。最後に、現代企業についてその目的や理念、戦略を、激動する企業環境と関連させて概説して、全体として現実の企業行動を専門的に理解するための経営学的見方を教授する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋期授業計画の概要 2 経営と管理 3 経営職能 4 企業形態 5 株式会社 6 企業間関係 7 企業集団 8 経営理念 9 経営社会責任 10 経営環境 11 経営戦略 12 秋期授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
河野重榮『マネジメント要論』八千代出版		<p>期末試験の結果と、授業出席状況による。 経営学 a と経営学 b は、必ず、異なる教員を登録します。同一教員は履修不可です。</p>	

01年以降(春) 00年以前(春)	経営学 a [経営学科] 経営学 [経営学科]	担当者	平井 岳哉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「経営」とは、複数の人々が集まり、特定の目的を達成するために協働するもので、その場合、知恵をしぼって効率的と思われる最善の方法を講じることです。そこには、①組織の形成、②人を動かす仕組み、③成功の確率が高まるための戦略の策定、などいろいろな工夫が必要です。</p> <p>この授業では、経営学全般の項目について、できるだけわかりやすい事例を使って基礎的な知識の習得を図ります。</p>		1 オリエンテーション 2 組織 3 分業と協業 4 モチベーション 5 リーダーシップ 6 競争と協調 7 人の配置と育成 8 事業評価 9 マーケティング 10 情報活用 11 生産戦略 12 経営戦略	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は、特に指定しない。 参考書は、高村寿一 『ベーシック経営入門』(日経文庫)		期末試験の結果と授業での貢献 経営学 a と経営学 b は、必ず、異なる教員を登録 します。同一教員は履修不可です。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経営学 b [経営学科] 経営学 [経営学科]	担当者	平井 岳哉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「経営」とは、複数の人々が集まり、特定の目的を達成するために協働するもので、その場合、知恵をしぼって効率的と思われる最善の方法を講じることです。そこには、①組織の形成、②人を動かす仕組み、③成功の確率が高まるための戦略の策定、などいろいろな工夫が必要です。</p> <p>この授業では、経営学全般の項目について、できるだけわかりやすい事例を使って基礎的な知識の習得を図ります。</p>		1 オリエンテーション 2 組織 3 分業と協業 4 モチベーション 5 リーダーシップ 6 競争と協調 7 人の配置と育成 8 事業評価 9 マーケティング 10 情報活用 11 生産戦略 12 経営戦略	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は、特に指定しない。 参考書は、高村寿一 『ベーシック経営入門』(日経文庫)		期末試験の結果と授業での貢献 経営学 a と経営学 b は、必ず、異なる教員を登録 します。同一教員は履修不可です。	

01年以降(春) 00年以前(春)	簿記原理 a 簿記原理 (通年)	担当者	井出 健二郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>黒字だ、赤字だ、と新聞で見ることがあるかもしれません。また、バイト先の店長もそのような言葉を口にするときがあるでしょう。実はこうしたコトバは簿記から出来上がった情報なのです。</p> <p>簿記は皆さんの将来にも関係しています。学部を問わず、『資格』は強い味方になります。簿記に関する資格は日本商工会議所が主催する検定試験をはじめとしてさまざまなものがあり、社会で評価されています。さらに、公認会計士や税理士など独立開業して、国税専門官として国で、あるいは米国会計士として海外で活躍することも可能です。</p> <p>講義はまったくの初心者を対象としていきます。大学でやはり一つくらいは資格をな、というきっかけでも結構です。まずは簿記の基礎の基礎から入っていくことにします。</p> <p>また、他学部の方にも簿記の大切さと利用価値を知ってもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義にあたってのイントロダクション 2 簿記とは 3 簿記の手続き 仕訳 4 簿記の手続き 仕訳 5 簿記の手続き 転記 6 簿記の手続き 試算表 7 簿記の手続き 貸借対照表 8 簿記の手続き 損益計算書 9 簿記の手続き 精算表 10 個別の処理 現金預金 11 個別の処理 商品売買 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
井出・平岡編『基本商業簿記演習』創成社		出席 50% 試験 40% その他 10%	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	簿記原理 b 簿記原理 (通年)	担当者	井出 健二郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>簿記原理 a を受講された方を前提としています。</p> <p>簿記は資格に直結する科目という説明をしてきました。ということは、可能な限り資格取得に役立つような講義形式としていきます。</p> <p>目標を日本商工会議所簿記検定 3 級において、新しい内容を理解しながらも、問題を解いていくなど実践的な講義としていきます。</p> <p>すなわち、電卓をそばにおいて問題を考えてもらうこととなります。</p> <p>また、簿記は 2 年時以降にあるさまざまな会計学専門科目の基礎といえます。そうした科目に対してスムーズに入っていけるように、新聞・雑誌なども活用し配慮するつもりです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義を始めるにあたってのイントロダクション(簿記原理 a の復習) 2 個別の処理 掛取引 3 個別の処理 有価証券 4 個別の処理 貸倒れ 5 個別の処理 固定資産 6 個別の処理 手形 7 個別の処理 減価償却 8 個別の処理のまとめ 9 試験対策① 10 試験対策② 11 試験対策③ 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
井出・平岡編『基本商業簿記演習』創成社		出席 50% 試験 40% その他 10%	

01年以降(春) 00年以前(春)	簿記原理 a 簿記原理 (通年)	担当者	内倉 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>企業会計は、しばしば「事業の言語」であると言われる。言葉にはすべて文法があるように、企業会計という1つの言語にも「文法」に相当するものがある。「簿記原理」という科目は、いわば、その企業会計の「文法」に相当するものの基本的部分を純粋に形式的に解明していく分野であると言えることができる。</p> <p>会計という言語は、今日では1つの世界共通語である。それゆえその「文法」に相当するものの中身もまた、基本的には共通的なものであろう。本講義では、そうした共通的な中身のうちの、とりわけ「最大公約数」の部分だけを、丹念に議論していきたいと考えている。そのうち「簿記原理 a」では、「決算整理」を含まない、「分記法」を前提とした「簿記一巡の手続き」までの内容を取り扱うこととなる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 企業の財政状態と貸借対照表……簿記の目的：資本；貸借対照表の内容 2 企業の経営成績と損益計算書……簿記の第2目的の達成方法；損益計算書等式（損益計算書） 3 取引と取引の分解……期首 B/S と「取引」記録からの B/S・P/L の作成；「取引」記録のルール 4 仕訳帳と総勘定元帳その1：「仕訳」……設例による説明 5 その2：「勘定口座」……その必要性；勘定口座の形式；勘定口座への記入ルール 6 その3：「仕訳帳と元帳」……仕訳帳；元帳（形式、「仕丁」欄、「摘要」欄、「相手勘定科目」） 7 試算表と精算表その1：「試算表」……決算について；合計試算表；残高試算表；合計残高試算表 8 試算表と精算表その2：「精算表」……仮設例の提示（次回と共通）；精算表の原理 9 「勘定の振替え」という技法について……定義；具体例による説明 10 決算手続その1：純損益の振替……決算の第1の目的（＝資本金勘定を正しい値に修正） 11 決算手続その2：帳簿の締切りと繰越試算表……財務諸表の作成を含む 12 総復習……同形式の問題により、期末試験の予行演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> ①中村泰將編著、『演習現代簿記』（中央経済社）。 ②現代会計教育研究会編『簿記練習帳3級商業簿記』（多賀出版）。 		<p>評価の中心は期末試験の結果である。その際には、相対評価を基本とし、絶対評価を加味したい。</p>	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	簿記原理 b 簿記原理 (通年)	担当者	内倉 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「簿記原理 a」の知識を前提としてこの「簿記原理 b」では、「商品3分法」や各種の「決算整理」といったディテールを内容的に付け加えていき、「会計言語」の文法の中身を、より実際の会計実践に近い形のものに深化させていくことしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 現金と預金・有価証券……当座借越・有価証券の評価の問題を含む 2 商品の3分法その1……設例の提示：“修正された”分記法；3分法 3 商品の3分法その2……値引・返品処理；諸経費の処理 4 仕入と売上の記帳その1……帳簿の種類：仕入帳・売上帳；掛け売買の記帳（貸倒れの問題含む） 5 仕入と売上の記帳その2：商品有高帳……その必要性・位置付け；移動平均法と先入先出法 6 貸倒引当金繰入と貸倒引当金……貸倒れの見越しの意義；原理；償却債権の取立て 7 受取手形と支払手形……手形の種類；簿記上の勘定と処理；手形の裏書譲渡；手形記入帳 8 有形固定資産……固定資産の記帳：減価償却（意義、毎期の減価償却費、売却時の処理） 9 その他の債権債務・資本金と引出金……その他の債権・債務の処理：個人企業の資本の記帳 10 収益・費用の見越しと繰延べ……設例の提示；収益・費用の繰延べ；収益・費用の見越し 11 決算整理項目と決算整理仕訳・振替仕訳……8桁精算表の作成を含む 12 総復習……同形式の問題により、期末試験の予行演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
「簿記原理 a」と同様。		「簿記原理 a」と同様。	

01年以降(春)	簿記原理 a	担当者	香取 徹
00年以前(春)	簿記原理 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>簿記は、実社会に出るすべての人が身に付けておいた方が良い基本的な技術です。どのような職業についても簿記の知識は実社会で不可欠ですから、全学生が履修することが望ましいと思います。そのため経済学部以外の学部の学生にも理解しやすいように解説したいと思っています。</p> <p>この講義では日本商工会議所簿記検定3級の範囲を網羅します。また、会計学原理、財務会計論、管理会計論、原価計算などの会計関連科目を学ぶ上でとても重要な基礎になります。</p> <p>簿記は、決して難しいものではありませんが、身に付ける技術ですから、練習が必要です。そのため毎回の講義では、一つずつ項目を説明し、例題を解説、ワークブックやプリントで練習します。練習中に質問を受けていきますし、プリントに意見や質問を書いてください。</p> <p>とにかく欠席しないで、練習してください。(皆さんの進度に応じて変更あります)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. テーマ1 簿記の基礎 2. 同上 3. テーマ2 日常の手続き(I) 4. 同上 5. テーマ3 日常の手続き(II) 6. テーマ4 商品売買(I) 7. テーマ5 商品売買(II) 8. テーマ6 現金 9. テーマ7 当座預金 10. テーマ8 小口現金 11. テーマ9 手形(I) 12. テーマ10 手形(II) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
TAC 出版『合格テキスト日商簿記3級』 『合格トレーニング日商簿記3級』		試験 100点、プリントとプリント、ワークブック 10点	

01年以降(秋)	簿記原理 b	担当者	香取 徹
00年以前(秋)	簿記原理 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>簿記は、実社会に出るすべての人が身に付けておいた方が良い基本的な技術です。どのような職業についても簿記の知識は実社会で不可欠ですから、全学生が履修することが望ましいと思います。そのため経済学部の学生はもちろん、経済学部以外の学部の学生にも理解しやすいように解説したいと思っています。</p> <p>この講義では日本商工会議所簿記検定3級の範囲を網羅します。また、会計学原理、財務会計論、管理会計論、原価計算などの会計関連科目を学ぶ上でとても重要な基礎になります。</p> <p>簿記は、決して難しいものではありませんが、身に付ける技術ですから、練習が必要です。そのため毎回の講義では、一つずつ項目を説明し、例題を解説、ワークブックやプリントで練習します。練習中に質問を受けていきますし、プリントに意見や質問を書いてください。</p> <p>とにかく欠席しないで、練習してください。(皆さんの進度に応じて変更あります)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. テーマ11 その他の期中取引(I) 2. テーマ12 その他の期中取引(II) 3. テーマ13 その他の期中取引(III) 4. テーマ14 その他の期中取引(IV) 5. テーマ15 試算表の作成(I) 6. テーマ16 試算表の作成(II) 7. テーマ17 決算の手続き(I) 8. テーマ18 決算の手続き(II) 9. テーマ19 決算の手続き(III) 10. テーマ20 決算の手続き(IV) 11. テーマ21 決算の手続き(V) 12. テーマ22 決算の手続き(VI) 13. テーマ23 伝票式会計 	
テキスト、参考文献		評価方法	
TAC 出版『合格テキスト日商簿記3級』 『合格トレーニング日商簿記3級』		試験 100点、プリントとプリント、ワークブック 10点	

01年以降(春)	簿記原理 a	担当者	金井繁雅
00年以前(春)	簿記原理(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>複式簿記の計算原理を探究することに主眼を置き、商企業の経済活動つまり取引を正確に記録・計算・整理する能力を身につけることを目的とする。</p> <p>複式簿記の原理および計算構造を学び、複式簿記の一連の手続を習得し、商企業の日常取引の記帳処理と決算処理を理解してもらう。まず、資産、負債、資本、収益および費用という5つの概念とその相互関係、資本等式や貸借対照表等式を解説し、資本をストックとして捉えて利益を計算する財産法と資本をフローとして捉えて利益を計算する損益法の計算原理を理解してもらう。さらに、簿記の対象である取引を分解し、仕訳帳に記入し、それを総勘定元帳に転記し、決算において試算表を作成し、その記録の正確性を検証し、精算表を作成し、決算本手続である帳簿決算の手続を経て、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表を作成するという簿記手続の全体像を把握してもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ① 簿記の意義と目的 ② 資産・負債・資本の諸概念 ③ 収益・費用の諸概念 ④ 財産法と損益法 ⑤ 取引と勘定記入 ⑥ 仕訳と転記 ⑦ 試算表と精算表 ⑧ 帳簿決算手続 ⑨ 現金・預金の会計処理 ⑩ 売買目的有価証券の会計処理 ⑪ 商品勘定の3分法 ⑫ 仕入帳と売上帳 	
テキスト、参考文献		評価方法	
中村泰将 編著『演習 現代簿記』 中央経済社		定期試験の結果に出席率を加味して、総合的に成績評価を行う。	

01年以降(秋)	簿記原理 b	担当者	金井繁雅
00年以前(秋)	簿記原理(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、基本的な簿記手続の一巡の理解を前提として、企業の複雑な日常取引の会計処理の理解を目的とするとともに、種々の計算表の作成にも習熟してもらうこととする。</p> <p>ここでは、財産法(ストック計算)や損益法(フロー計算)とよばれている複式簿記の計算構造を再確認しながら、各勘定科目毎に詳細な検討を加えていくことにする。具体的には、企業の日常の諸取引の仕訳を通して種々の会計処理を概説し、それを総勘定元帳へ転記していく主要簿の流れとともに、各勘定科目の詳細を記録する補助元帳や補助記入帳などの補助簿の流れも検討することにする。また、初級簿記の完全な理解のために、複雑な試算表や精算表の作成に多くの時間を取ることにしたい。</p> <p>簿記は数多くの練習問題を繰り返し解くという勉強態度が要求されるので、講義の前半では、各項目のポイントを説明し、後半で練習問題を解答するという形式で講義を進めることとする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> ① 商品勘定の3分法 ② 仕入帳・売上帳・商品有高帳 ③ 得意先元帳と仕入先元帳 ④ 手形取引の記帳 ⑤ その他の債権・債務について ⑥ 貸倒れと貸倒引当金 ⑦ 固定資産と減価償却 ⑧ 資本金と引出金 ⑨ 収益と費用の見越・繰延 ⑩ 試算表の作成と伝票会計 ⑪ 8桁精算表の作成 ⑫ 財務諸表の作成 	
テキスト、参考文献		評価方法	
中村泰将 編著 『演習現代簿記』 中央経済社		定期試験の結果に出席率を加味して総合的に成績評価を行う	

01年以降(春) 00年以前(春)	簿記原理 a 簿記原理 (通年)	担当者	千葉啓司
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 簿記は、企業が行う経済活動を記録する手段であり、最終的に企業が一年間の活動の結果、どれだけ利益を上げたか、またいかなる財政状態にあるかを計算し、表示するための基礎資料を提供する。簿記が企業のどのような経済活動を記録の対象としているか、そしてどのように記録するのか。これには一定の規則があり、この規則は簿記をコンピュータ化するときにも非常に役に立っている。これらの規則のうち基本的なものを習得することが本講義の目的である。		1 簿記の意義、役割、体系 2 簿記における記録の対象と記録方法 3 仕訳と勘定 4 記録の集計 5 決算の意味と方法 6 勘定の体系 7 現金・預金の取引とその記録 1 現金と現金出納帳 8 現金・預金の取引とその記録 2 小切手と当座預金、当座借越 9 商品売買取引とその記録 1 分記法、総記法、三分法、掛取引 10 商品売買取引とその記録 2 仕入帳、商品有高帳 11 商品売買取引とその記録 3 売上原価の算定 12 まとめ	
講義概要 まず、現在企業において広く使われている簿記の全体的な仕組み、体系について解説を加える。つぎに取引の記録の目的および基本原則、取引記録の集計および決算の意味を概説する。そして企業が行う一般的な取引のうち、現金・預金に関する取引および商品売買に関する取引を取り上げ、その取引の仕組みと簿記における記録の仕方について説明する。			
テキスト、参考文献		評価方法	
百瀬房徳著『体系複式簿記』森山書店 加古宜士監修『段階式日商簿記ワークブック 3級商業簿記』税務経理協会		ほぼ毎回行う予定の練習問題、出席状況と期末試験によって成績を総合的に評価する。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	簿記原理 b 簿記原理 (通年)	担当者	千葉啓司
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目的 本講義の目的は2つある。1つ目は簿記原理 a の知識を前提に、より多くの企業の取引およびその記録方法を習得することである。これらを習得することで簿記の記録の規則をより正確に理解することができるようになる。		1 簿記原理 a の復習 2 手形取引とその記録 1 約束手形と為替手形 3 手形取引とその記録 手形の裏書と手形の売却 4 その他の債権債務取引とその記録 1 前払い金・前受金、未収金・未払金 商品券、貸付金・借入金 5 その他の債権債務取引とその記録 2 立替金・預り金、仮払金・仮受金 6 引当金 引当金の意義・種類、貸倒引当金 7 有価証券の取引とその記録 1 有価証券の分類、取得、売却、評価 8 固定資産の取引とその記録 固定資産の取得、減価償却 9 資本取引とその記録 個人事業の資本、株式会社の資本 10 決算 1 決算整理仕訳のまとめ、収益・費用の整理 11 決算 2 試算表・財産目録の作成 12 決算 3 精算表の作成	
講義概要 まず、簿記原理 a の知識を呼び戻すべく、復習の講義をする。つぎに簿記の基本を理解するために不可欠といえる各種の取引の記録方法について解説を加える。その後、決算の意義、手続きについて詳細な説明を行っていくことにする。			
テキスト、参考文献		評価方法	
百瀬房徳著『体系複式簿記』森山書店 加古宜士監修『段階式日商簿記ワークブック 3級商業簿記』税務経理協会		ほぼ毎回行う予定の練習問題、出席状況と期末試験によって成績を総合的に評価する。	

01年以降(春) 00年以前(春)	簿記原理 a 簿記原理 (通年)	担当者	中村泰將
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業目的： コンピュータの発達により、計算技術と記憶能力は急速に高まり、また正確な計算も可能になりました。しかし、経済活動を体系的に記録し、計算する技術と原理は、コンピュータに取って代わることはできません。なぜならば、コンピュータにインプットするデータは、コンピュータの専門家でなく、簿記の技術と原理を備えた専門家が考えなければならないからです。</p> <p>本講座の目的は、企業の利益を計算したり、財産の有高を計算したりする、記録と計算のシステムを学ぶことです。</p> <p>授業概要： 春学期は、簿記の基本原則を学び、簿記の一連のプロセス[経済活動の識別→仕訳→勘定→試算表→(精算表)→決算→B/SとP/Lの作成]を学ぶことです。これを「簿記のワン・サイクル」といいます。ここまでが春学期で学ぶ簿記の基本的構造です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記とは何か。 2. 複式簿記の基本構造 3. 簿記上の取引と種類 4. 貸借対照表と損益計算書 5. 勘定 6. 仕訳 7. 仕訳帳と総勘定元帳 8. 試算表 9. 精算表 10. 決算(1) 11. 決算(2) 12. 現金と当座預金 	
テキスト、参考文献		評価方法	
中村泰將編著『演習 現代簿記』中央経済社、2005年3月		出席・宿題・小テスト(20%)、定期試験(80%)	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	簿記原理 b 簿記原理 (通年)	担当者	中村泰將
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：春学期と同様。</p> <p>講義概要： 秋学期の授業では、春学期で学んだ「簿記の記録と計算の原理」を基礎に、秋学期で出てくる新しい勘定科目がについて、それらをどのように各種の帳簿に記録し、計算するかを学ぶことです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 商品の仕入・管理・販売の処理 <ol style="list-style-type: none"> (1)商品の売買利益の計算 (2)商品の3分法 (3)商品有高帳の作成 (4)仕入帳と売上帳 2. 有価証券の処理 3. 固定資産の処理 4. その他の債権・債務 5. 手形の取引 6. 資本金と引出金の処理 7. 決算の修正手続き(1) 8. " (2) 9. " (3) 10. 8桁精算表の作成(1) 11. " (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
中村泰將編著『演習 現代簿記』中央経済社、2005年3月		出席・宿題・小テスト(20%)、定期試験(80%)	

01年以降(春)	簿記原理 a	担当者	細田 哲
00年以前(春)	簿記原理 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標</p> <p>「複式簿記」の基本的仕組み、簿記一巡の手続きについて理解すること。また企業における基本的な取引について記帳し、決算手続きを遂行し、損益計算書、貸借対照表作成ができるようになることを目標とする。</p> <p>講義概要</p> <p>前期講義は、学生諸君が複式簿記を理解し、簡単な精算表の作成、決算本手続を遂行できるようにすることを目的とする。講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複式簿記とは ・ 簿記の仕組み ・ 試算表と精算表 ・ 決算(I) 		<p>1.1.複式簿記とは(1) a)簿記の目的と種類</p> <p>2.1.複式簿記とは(2) b)複式の要素</p> <p>3.2.簿記の仕組み(1)</p> <p>a)取引と勘定、b)勘定記入法</p> <p>4.2.簿記の仕組み(2)</p> <p>a)取引と勘定、b)勘定記入法</p> <p>5.2.簿記の仕組み(3)</p> <p>c)仕訳と転記、d)仕訳帳と総勘定元帳</p> <p>6.2.簿記の仕組み(4)</p> <p>c)仕訳と転記、d)仕訳帳と総勘定元帳</p> <p>7.3.試算表と精算表(1)</p> <p>a)試算表の作成、b)精算表の作成</p> <p>8.3.試算表と精算表(2)</p> <p>a)試算表の作成、b)精算表の作成.</p> <p>9.4.決算(I) (1) a)決算の意味と手続</p> <p>10.4.決算(I)</p> <p>(2) b)大陸式決算法、c)英米式決算法</p> <p>11.4.決算(I)</p> <p>(3) b)大陸式決算法、c)英米式決算法</p> <p>12.4.決算(I) (4)</p> <p>d)損益計算書と貸借対照表の作成、e)開始記入</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
中村泰将(編著)「講座 現代簿記」(中央経済社)		期末試験の結果による。	

01年以降(秋)	簿記原理 b	担当者	細田哲
00年以前(秋)	簿記原理 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>後期講義は、学生諸君が次の事項を容易に遂行できるようにすることを目的とする。個々の取引に対する記帳、8桁精算表の作成、決算本手続の遂行、損益計算書と貸借対照表の作成である。講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現金・預金取引の記帳 ・ 商品売買取引の記帳 ・ 手形取引の記帳 ・ その他の取引の記帳 ・ 決算(II)決算整理 ・ 損益計算書と貸借対照表の作成 		<p>1.5.現金・預金取引の記帳</p> <p>2.6.商品売買取引の記帳(1) a)分記法、3分法</p> <p>3.6.商品売買取引の記帳(2)</p> <p>b)仕入帳と売上帳、c)商品有高帳</p> <p>4.6.商品売買取引の記帳(3) b)仕入帳と売上帳、c)商品有高帳、d)掛取引の記帳</p> <p>5.7.手形取引の記帳(1) a)約束手形と為替手形、b)受取手形勘定と支払手形勘定、c)手形の裏書と割引</p> <p>6.7.手形取引の記帳(2)</p> <p>a)受取手形記入帳と支払手形記入帳</p> <p>b)不渡手形、f)手形貸付金と手形借入金</p> <p>7.8.その他の取引の記帳</p> <p>a)その他の債権、債務取引、b)有価証券取引</p> <p>c)固定資産取引、d)営業費等の取引</p> <p>8.9.決算(II)決算整理(1)</p> <p>a)決算整理の意味、b)棚卸減耗損及び商品評価損</p> <p>9.9.決算(II)決算整理(2)</p> <p>c)有価証券評価損、d)固定資産の減価償却</p> <p>10.9.決算(II)決算整理(3)</p> <p>e)費用・収益の繰延と見越、f)8桁精算表の作成</p> <p>11.9.決算(II)決算整理(4)</p> <p>e)費用・収益の繰延と見越、f)8桁精算表の作成</p> <p>12.損益計算書と貸借対照表の作成</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
中村泰将(編著)「講座 現代簿記」(中央経済社)		期末試験の結果による。	

01年以降(春)	簿記原理 a	担当者	百瀬 房徳
00年以前(春)	簿記原理 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>簿記原理では、複式簿記を内包した簿記を取り上げる。この簿記を商業簿記と称する。複式簿記は、取引の借方と貸方による仕訳に基づき勘定に分解し、元帳における勘定へ転記し、このシステムを通じて、事業の資産、負債および資本の増減を測定する。この勘定システムと事業体の組織に関連して、各勘定の意義および機能と、各勘定の具体的な処理について基本的な理解を深める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 複式簿記の現代における意義 2 複式簿記の体系および簿記における取引とは何か 3 仕訳の基本的原理および取引勘定への転記 4 補助簿への記入および試算表の作成 5 精算表の作成原理および損益勘定と残高勘定への転記 6 取引パターン別の仕訳例の説明 7 パターン別に仕訳された例の勘定への転記 8 例題による取引の仕訳および勘定への転記 9 例題による精算表の作成および決済に際しての損益勘定および残高勘定の完成 10 練習問題 取引の仕訳帳記入および仕訳帳から元帳への転記 11 練習問題 試算表の作成および精算表の作成 12 練習問題 元帳の締め切りによる損益勘定および残高勘定の完成、および試算表および精算表の作成 	
テキスト、参考文献		評価方法	
百瀬 房徳「体系複式簿記」森山書店		テスト	

01年以降(秋)	簿記原理 b	担当者	百瀬 房徳
00年以前(秋)	簿記原理 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>複式簿記の基本的勘定システムを理解した後、各勘定について、勘定とそれに関連する補助簿の記入を具体的に理解する。そして、最終的に決算制度に関連して、試算表および精算表の作成を通じて、損益勘定から損益計算表を、残高勘定(大陸法)から貸借対照表を作成するプロセスを理解する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 現金勘定と現金出納帳 2 当座預金と当座預金出納帳、および小口現金と小口現金出納帳 3 商品勘定の記入方法 単純な商品勘定、混合商品勘定および商品勘定の分割 4 仕入勘定と仕入帳、商品の仕入価格および商品の返品と値引き 5 売上勘定と売上帳 6 繰越商品勘定と商品有高帳、および棚卸減耗損および商品評価損 7 売掛金勘定と得意先元帳、および買掛金勘定と仕入先元帳 8 受取手形勘定と受取手形記入帳、および支払手形勘定と支払手形記入帳 9 その他の債権・債務の諸勘定、有価証券勘定 10 固定資産の諸勘定 特に減価償却による処理 11 決算前の諸勘定の整理について 12 決算 勘定の締め切り、損益勘定および残高勘定(大陸法)の完成、および8桁精算表の作成 	
テキスト、参考文献		評価方法	
百瀬 房徳「体系複式簿記」森山書店		テスト	

01年以降(春)	簿記原理 a	担当者	湯田 雅夫
00年以前(春)	簿記原理 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、受講生全員が日本商工会議所検定3級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。</p> <p>複式簿記の基礎的な原理と技法を修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行う。</p> <p>受講生は、授業の進捗度に応じて教科書の練習問題について、記帳練習を重ねる必要がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション： 講義概要ならびに授業の進め方 2. 簿記の歴史 3. 第1章 簿記の意義と目的； 第2章 資産・負債・資本と貸借対照表 4. 第2章 東京商会の事例解説； 第3章 収益・費用と損益計算書 5. 第4章 取引；第5章 勘定 6. 第6章 仕訳と転記 7. 第7章 帳簿 8. 第8章 簿記一巡の手続き 9. 第9章 現金預金 10. 第10章 商品売買 11. 第10章 商品売買 12. 第11章 有価証券； 第12章 売掛金と買掛金 	
テキスト、参考文献		評価方法	
上田・小川・渋谷・湯田『演習 商業簿記入門』中央経済社		期末試験と授業中に行う小テスト、出席状況から総合的に評価する。	

01年以降(秋)	簿記原理 b	担当者	湯田 雅夫
00年以前(秋)	簿記原理 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、受講生全員が日本商工会議所検定3級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。</p> <p>複式簿記の基礎的な原理と技法を完全に修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行う。</p> <p>受講生は、授業の進捗度に応じて教科書の練習問題について、記帳練習を重ねる必要がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第13章 その他の債権・債務 2. 第14章 手形 3. 第15章 貸倒れと貸倒引当金 4. 第16章 固定資産；第17章 資本金と引出金 5. 第18章 収益・費用の繰延と見越 6. 第19章 決算予備手続 7. 第19章 決算予備手続 8. 第20章 例題解説 9. 第20章 決算本手続 10. 第20章 決算本手続 11. 総合問題 12. 本講義の結びとして、 「簿記学習の継続」の必要性を指摘。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
上田・小川・渋谷・湯田『演習 商業簿記入門』中央経済社		期末試験と授業中に行う小テスト、出席状況から総合的に評価する。	

01年以降(春)	数学 a	担当者	高木 悟
00年以前(春)	数学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済・経営学を学ぶ上で、線形代数(行列・ベクトル)や解析(微積分)の知識が必要になることが多々ある。この講義では、線形代数として主に、行列の計算や連立1次方程式の解法について解説する。実践力をつけるため、講義だけでなく問題演習の時間をとり、各自問題を解いてもらう。また、理解度をはかるために課題を出すこともある。問題演習中は机間巡視をするので、授業中に理解できなかった点や解き方がわからない点などを質問するとよい。この講義で得た知識を活用し、実際の経済・経営学の問題を解決できるようになることを望む。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 行列の定義 2. 行列の演算 3. 行列の分割 4. 行列と連立1次方程式 5. 行列の基本変形 6. 簡約な行列 7. 連立1次方程式の解法 8. 正則行列 9. 行列式の定義 10. 行列式の性質 11. クラームルの公式 12. 経済・経営学への応用 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>三宅 敏恒 著『入門 線形代数』培風館 毎回持参すること。参考書は授業中に紹介する。</p>		<p>試験で60点以上を合格とする。わずかに満たない場合は、課題の内容を考慮することもある。</p>	

01年以降(秋)	数学 b	担当者	高木 悟
00年以前(秋)	数学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済・経営学を学ぶ上で、線形代数(行列・ベクトル)や解析(微積分)の知識が必要になることが多々ある。この講義では、解析として主に、関数とその微分、曲線の概形や極値問題について解説する。実践力をつけるため、講義だけでなく問題演習の時間をとり、各自問題を解いてもらう。また、理解度をはかるために課題を出すこともある。問題演習中は机間巡視をするので、授業中に理解できなかった点や解き方がわからない点などを質問するとよい。この講義で得た知識を活用し、実際の経済・経営学の問題を解決できるようになることを望む。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 1次関数 2. 初等関数 3. 微分の定義 4. 初等関数の微分 5. 2項定理 6. 曲線の概形と極値 7. 指数関数・対数関数 8. 多変数関数の微分 9. 陰関数の微分 10. 多変数関数の極値問題 11. 条件付き極値問題 12. 経済・経営学への応用 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>竹之内 脩 著『経済・経営系 数学概説』新世社 毎回持参すること。参考書は授業中に紹介する。</p>		<p>試験で60点以上を合格とする。わずかに満たない場合は、課題の内容を考慮することもある。</p>	

01年以降(春) 00年以前(春)	高齢化社会論 a 高齢化社会論 (通年)	担当者	奥山 正司
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要</p> <p>年間を通して、人口高齢化がもたらす社会的インパクトや老年期における高齢者の社会生活の変化及び老人福祉、老後保障の動向などについて学ぶ。</p> <p>前半では、人口高齢化、寿命、健康寿命、エイジズム、家族、居住形態、ライフ・サイクル、就業など高齢者の客観的な生活の様相についての側面から講義し、高齢(化)社会の全体像を明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の進め方と授業の内容について 2 ジェロントロジイと 離脱理論、活動理論 3 人口高齢化と高齢化社会・エイジング(加齢、Aging) 平均余命、長寿社会、エイジズム等について 4 齢者と家族、老親子の居住形態を、縦断的、横断的に比較する 5 ライフ・サイクル、家族周期と老年期 6 ライフ・サイクルの過程及び高齢者の生きかたについて、戦前と戦後との比較 7 高齢者と生計をとりまく経済状況はどのような状況か。 8 高齢者世帯の所得水準、高齢者世帯の所得構造、高齢者世帯の消費水準などについて。 11 高齢者と就業・雇用について、高齢者の就業意向とその現実、高年齢雇用を概説する 	
テキスト、参考文献		評価方法	
小笠原祐次・橋本泰子・浅野仁編『高齢者福祉』(新版) 有斐閣		出席、レポート、試験による総合評価	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	高齢化社会論 b 高齢化社会論 (通年)	担当者	奥山 正司
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>半年間を通して、老人福祉、老後保障の動向などについて学ぶ。</p> <p>人口高齢化、寿命、健康寿命、長寿社会、エイジズム、家族、居住形態、ライフ・サイクル、就業など高齢者の客観的な生活の様相について学んだことを基礎にして、後半では、老人福祉、老後保障、介護保険などの側面について講義し、高齢(化)社会の全体像を明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅福祉及び施設福祉 ゴールドプラン、新ゴールドプラン、ゴールドプラン21とはどのような計画か。特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、ケア付き集合住宅などの整備状況 2. 高齢者と介護保険制度 介護保険法の制度と保険料の地域格差、及び利用者がどのような問題をかかえているのか等。高齢者及び高齢化対策と社会保障、財政支出 老後保障の柱となるのは公的年金である。その歴史と現状、将来にむけての問題点とは何か。 3. 諸外国の高齢者対策 福祉先進国といわれるスウェーデン、デンマーク、イギリス、その対極にあるアメリカの高齢者対策の状況について。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
小笠原祐次・橋本泰子・浅野仁編『高齢者福祉』(新版) 有斐閣		出席、レポート、試験による総合評価	

03年以降(春)	精神衛生論 a	担当者	中野隆史
02年以前(春)	精神衛生論(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の社会では心の健康に関連するできごとが大きな問題となっている。とくに長引く経済不況下で中高年の自殺が増加し、自殺者は年間2万人から3万人へと激増した。精神衛生(=精神保健=メンタルヘルス)の知識は現代を生きる上で不可欠である。本講義では精神保健と精神医学の基本的な知識を身につけることによって、自己を理解し自身の学生生活とその後的人生を豊かにし、友人・家族など身近な人、職場の同僚や部下に対する援助のできる社会人を育成することを目標とする。</p> <p>精神保健の概念とその実践の対象から講義を始める。次いで精神保健の理解に必要な精神医学の基本的知識を学ぶ。これらを踏まえて、ライフサイクルから見た精神保健すなわち各ライフステージにおける発達課題とその障害について考えていく。講義全体を通して、自分の身の回りの実例やマスメディアの報道などを精神保健の視点からとらえ、これらの事例に関する討論を通じて精神保健の知識と理解を深めてゆく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 精神衛生(=精神保健)を学ぶ意味 2 精神保健の実践の対象—健常者の精神の健康管理、精神保健不全者への対応、精神障害に対する社会的偏見 3 精神医学の基本的知識(1) 精神障害の概念・成因・分類 4 精神医学の基本的知識(2) 心因性精神障害 神経症(不安障害など)、心因反応(PTSDなど) 5 精神医学の基本的知識(3) 内因性精神障害 うつ病(気分障害)、統合失調症 6 精神医学の基本的知識(4) 精神科の治療 薬物療法、精神療法、精神科リハビリテーション 7 ライフサイクルから見た精神保健(1) 乳幼児期 基本的信頼感、分離個体化、精神遅滞、広範性発達障害 8 ライフサイクルから見た精神保健(2) 児童期 社会化、注意欠陥/多動障害(ADHD) 9 ライフサイクルから見た精神保健(3) 思春期・青年期 自我同一性、モラトリアム、不登校、統合失調症 10 ライフサイクルから見た精神保健(4) 成人期 職場不適応、ストレス反応、うつ病、自殺 11 ライフサイクルから見た精神保健(5) 老年期 老化、喪失体験、うつ病、痴呆(アルツハイマー病など) 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはとくに指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。参考文献は講義の際に紹介する。</p>		<p>試験の成績による。</p>	

03年以降(秋)	精神衛生論 b	担当者	中野隆史
02年以前(秋)	精神衛生論(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>精神保健(メンタルヘルス)や精神障害の問題は一部の特別な人だけのものではない。現代のストレスフルな社会(虐待、いじめ、リストラ...)では誰もが必ず関わることがある問題である。「明日はわが身」である。本講義では健常者の精神的健康の維持増進のためのストレス対処法やメンタルヘルス不全者への対応などの基本的な知識を身につけることによって、自己を理解し自身の学生生活とその後的人生を豊かにし、友人・家族など身近な人、職場の同僚や部下に対する援助のできる社会人を育成することを目標とする。</p> <p>精神衛生論(健康学)aを踏まえて、生活の場から見た精神保健を考えていく。さらに、精神障害の予防と精神の健康管理(精神的健康の維持増進)、わが国の精神科医療の現状について学ぶ。講義全体を通して、自分の身の回りの実例やマスメディアの報道などを精神保健の視点からとらえ、これらの事例に関する討論を通じて精神保健の知識と理解を深めてゆく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 生活の場から見た精神保健(1) 家族の精神保健(1) 家族の形態と機能、社会の変化と家族機能の変化 2 生活の場から見た精神保健(2) 家族の精神保健(2) 夫婦関係、親子関係、育児不安、育児支援 3 生活の場から見た精神保健(3) 学校の精神保健(1) 小中高校—学校精神保健、スクールカウンセラー 4 生活の場から見た精神保健(4) 学校の精神保健(2) 大学—保健センター、摂食障害、統合失調症、うつ病 5 生活の場から見た精神保健(5) 職場の精神保健(1) 労働安全衛生法、メンタルヘルスケア、うつ病 6 生活の場から見た精神保健(6) 職場の精神保健(2) 産業保健サービスシステム、復職システム 7 生活の場から見た精神保健(7) 地域の精神保健 地域リハビリテーション、社会復帰のための社会資源 8 わが国の精神科医療の現状 入院治療中心から通院治療中心へ 9 精神障害の予防と健康管理(1) 心の健康づくり、ストレスとその対処法 10 精神障害の予防と健康管理(2) 専門機関、専門家 11 精神障害の予防と健康管理(3) 医療システム、保健システム、福祉システム 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはとくに指定しない。必要に応じてレジュメを配布する。参考文献は講義の際に紹介する。</p>		<p>試験の成績による。</p>	

01年以降(春) 00年以前(春)	医療・福祉概論 a 医療福祉概論〔通年〕	担当者	藤井賢一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>平成16年度政府予算案では、社会保障関係費は19兆7900億円で、一般会計82兆1100億円の4分の1近くにのぼっている。少子高齢化が進む中で、年金、医療、介護などの社会保障関係費はますますわが国にとって重い負担となりつつある。</p> <p>この講義の目的は、少子高齢化を迎えるわが国の負担と給付のあり方を探ると共に、医療、年金、介護制度を理解し、今後の社会保障制度のあり方を議論することである。また、実生活にも役立つ知識を身につけることも目指している。</p> <p>なお、春学期は、社会保障の負担と給付及び年金制度を中心に授業を実施する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 超高齢社会を迎えるわが国 3 少子化と女性の社会参加 4 社会保障の国際比較(1) 5 社会保障の国際比較(2) 6 税と社会保険料 7 社会保障制度まとめ 8 年金制度(1) 制度改革のゆくえ 9 年金制度(2) 女性と年金 10 厚生行政とレントシーキング(1) (薬害エイズ問題を素材として) 11 厚生行政とレントシーキング(2) (薬害エイズ問題を素材として) 12 春学期のまとめ <p>※選択希望者は、第1回目に、必ず出席すること。第1回目に欠席すると、単位取得に大きな支障がある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
三菱総合研究所「図説 福祉・介護ハンドブック」東洋経済新報社		試験のみによる。ただし、授業での発表、レポート等を付加点として勘案する。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	医療・福祉概論 b 医療福祉概論〔通年〕	担当者	藤井賢一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>平成16年度政府予算案では、社会保障関係費は19兆7900億円で、一般会計82兆1100億円の4分の1近くにのぼっている。少子高齢化が進む中で、年金、医療、介護などの社会保障関係費はますますわが国にとって重い負担となりつつある。</p> <p>この講義の目的は、少子高齢化を迎えるわが国の負担と給付のあり方を探ると共に、医療、年金、介護制度を理解し、今後の社会保障制度のあり方を議論することである。また、実生活にも役立つ知識を身につけることも目指している。</p> <p>なお、秋学期は、医療制度及び介護制度を中心に授業を実施する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 医療保険の仕組み(1) (TVCMの民間保険に加入する必要があるの?) 3 医療保険の仕組み(2) (あなたの入っている保険はなに?) 4 医療保険の仕組み(3) (病院にかかるほどのくらい払う必要があるの?) 5 わが国の医療の課題(1) 6 わが国の医療の課題(2) 7 医療事故がなぜ起きるか 8 医療制度のまとめ 9 介護保険制度(1) (介護保険制度の概要) 10 介護保険制度(2) (要介護認定とケアマネジメント) 11 介護保険制度(3) (サービスの内容) 12 秋学期のまとめ <p>※選択希望者は、第1回目に、必ず出席すること。第1回目に欠席すると、単位取得に大きな支障がある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
三菱総合研究所「図説 福祉・介護ハンドブック」東洋経済新報社、(他1冊、出版予定)		試験のみによる。ただし授業での発表、レポート等を付加点として勘案する。	

01年以降(春)	現代文化論 a	担当者	柴崎 信三
00年以前(春)	現代文化論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「文化」というと頭に浮かぶのは文学や芸術をはじめ、その時代の表現と人々が生み出す創作物というのが一般的かもしれない。この授業ではそれをもっと幅広く、同時に深くとらえてその時代と社会をリードするルールやモラルの源泉、あるいは価値観にまで広げ、現代社会を動かす原理を探って行きたい。</p> <p>春学期の「グローバリゼーションを巡って」では、米国という巨大な「帝国」が世界の秩序と文化をすみずみまで支配する一方で、その統合に反発する地域、民族、宗教的なパワーとの対立や抗争をとらえて、国境を超える文化統合とその反発の意味をさまざまな領域に探ってみたい。</p> <p>歴史的に見ても、大英帝国をはじめ世界への強大な支配力を誇った文化は価値やルールの普遍化というかたちで影響力を高めてきた。とくに冷戦後の現代において、文化の力はそれまでの軍事力や経済力に代わって世界の秩序をリードするきわめて重要な要素になりつつあることを、ジョセフ・ナイは「ソフトパワー」という概念を通して説明している。ここでは米国というモデルを中心に据えて、そのビジネスや消費を支えるルールや価値観、社会システムやモラルの普遍性と特殊性を考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 「帝国」の様式 3 米国型民主主義の特殊性 4 フランクリン的人間像 5 フォーディズム 6 大量消費社会の影 7 「信頼」と社会的資本 8 ビジネス倫理と世界標準 9 グローバル化と覇権 10 ハリウッドと大衆文化 11 冷戦後から 9/11 へ 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐伯啓思著『新「帝国」アメリカを解剖する』(ちくま新書)を参考文献とする。		定時試験の成績に平常の授業で課すりポートの実績を勘案して評価する。	

01年以降(秋)	現代文化論 b	担当者	柴崎 信三
00年以前(秋)	現代文化論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期の「日本の表象と世界」ではグローバリゼーションのもとで「日本」という文化モデルがどんな存在として意味づけられてきたかをさまざまな観点から検証する。</p> <p>日本は中国文明に接する列島という地勢的な条件の下、アジアの先頭に立つ近代国家として欧米列強に対抗しようとした歴史的な歩みが、近代以降の「文化」のありように大きな影響を及ぼしてきたといえる。</p> <p>「ジャポニズム」に象徴される欧米からのまなざしや「脱亜入欧」をスローガンにした近代化がそうであり、後発資本主義国としての歩みが固有の「日本型システム」を生み出した。それは普遍文化に対する特殊性として位置づけられるが、戦後の経済的復興と再生の過程で優れたパフォーマンスをもたらしたことに留意すべきだろう。</p> <p>集団主義や終身雇用制度など、欧米の競争システムとは異質に見える社会の仕組みと、自動車産業やエレクトロニクスなどものつくりのみならず世界的な洗練性はどこから生まれたのか。アニメーションやファッションなど大衆文化の市場における高い評価など、「日本モデル」の価値形成の検証を通して、ローカルとグローバルを結ぶ文化のダイナミズムを学んで行きたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 脱亜入欧とジャポニズム 3 日本型システムの起源 4 集団主義と天皇制 5 アメリカニズムの受容 6 ものつくり 7 高度成長と総中流社会 8 日本礼賛と日本たたき 9 日本的経営 10 Social capital (社会的資本) 11 ジャパニーズ・クール 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献として夏目漱石『三四郎』(新潮文庫) 同 荒井一博『文化の経済学』(文春新書)など		定時試験の成績に平常授業で課すりポートの実績を加味して評価する。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語 (通年)	担当者	青木 雅明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>経済学の基本的な英文が読めるようになる。</p> <p>講義概要</p> <p>下記テキストの①音読、②専門用語および基本となる事実と理論の解説、③日本語訳の提出、④訳文の講評、⑤その他からなる翻訳教室である。</p> <p>毎回、中型英和辞書を持参のこと。</p>		<p>最初の授業時に説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Stiglits,J.E. (1997) "Economics 2nd Edition", W.W.Norton		翻訳文、出席・遅刻による。欠席4回を超えると単位権を喪失する。(遅刻3回で欠席1回の扱い)	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語 (通年)	担当者	青木 雅明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>経済学の基本的な英文が読めるようになる。</p> <p>講義概要</p> <p>下記テキストの①音読、②専門用語および基本となる事実と理論の解説、③日本語訳の提出、④訳文の講評、⑤その他からなる翻訳教室である。</p> <p>毎回、中型英和辞書を持参のこと。</p>		<p>最初の授業時に説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Stiglits,J.E. (1997) "Economics 2nd Edition", W.W.Norton		翻訳文、出席・遅刻による。欠席4回を超えると単位権を喪失する。(遅刻3回で欠席1回の扱い)	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語 Ia・経営外国語 Ia 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	阿部正浩
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済・ビジネス雑誌を正確に早く読めるようなスキルを受講者に身につけてもらうための授業である。</p> <p>授業では、まず速読するために必要な英文法および英語文系を徹底的に学習すると同時に、語彙力の養成にも力を入れる。</p> <p>この授業は単なる講義形式ではなく、受講者の主体的な発表と自習を中心に進める。</p> <p>英語(読解力)をもう一度勉強したいと思う諸君は是非受講されたい。</p>		<p>第1回目の授業で教科書を指示します。この教科書に沿って授業を行います。毎回報告者を決めて発表してもらいます。必ず予習をしてきてください。この発表内容は成績に反映させます。詳細については、第1回目の授業で説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の授業で指示する。		授業への出席、授業中の発表内容、期末試験により決める。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語 Ib・経営外国語 Ib 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	阿部正浩
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>上記参照のこと。なお、春学期の授業を履修しなかった者は、原則として秋学期の履修を認めない。</p>		<p>上記参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期の授業で利用したテキスト。		上記参照のこと。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語 (通年)	担当者	井出 健二郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大リーグやサッカーなど海外が近くなった印象がありませんか。</p> <p>実はビジネスの世界では、ずいぶん前から近くなっているわけです。より近くするにはご承知のとおり語学力を身につける必要があります。</p> <p>この講義では、基本的には経済・経営の比較的易しいテキストを用いて、受講される皆さんと読み進めていきます。</p> <p>方法としては、①皆さんに必要な単語等を調べてもらう、②それにもとづき指名された箇所に葉をつけて、発表する、③内容の理解が進むよう、こちらで講義したり、新聞や雑誌でフォローする等です。</p> <p>また、願いは単なる講義というよりは、皆さんに事前に学習してもらうことが前提です。ということは出席が重要となります。受講にあたって、その責任が果たせることを条件としておきます。</p>		<p>1 講義を始めるにあたってのイントロダクション</p> <p>2 マネジメントとは</p> <p>3から12にかけては皆さんの訳をもとにしてテキスト等を読み進めていきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		出席 50%、授業による評価 20%、試験・レポート 20%、その他 10%	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語 (通年)	担当者	井出 健二郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済・経営外国語 I aを受講された方を前提としています。</p> <p>引き続き、経済・経営に関するテキスト、具体的には会計関連の分野あるいは、NPO・非営利組織に関連するテーマを読み進めていきます。</p> <p>方法は、①皆さんに必要な単語等を調べてもらう、②それにもとづき指名された箇所に葉をつけて、発表する、③内容の理解が進むよう、こちらで講義したり、新聞や雑誌でフォローする等です。</p>		<p>1 講義を始めるにあたってのイントロダクション</p> <p>2 内容についての説明</p> <p>3から12にかけては皆さんの訳をもとにしてテキスト等を読み進めていきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します		出席 50%、授業による評価 20%、試験・レポート 20%、その他 10%	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	伊藤爲一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済ニュースや論文を読んで読解力・専門用語の理解等を高めることを目標とします。 受講者は予習をして参加し、内容を理解しておくことを希望します。 教材を受講者が輪読する形で進めます。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時にプリントを配布します。		平常点と期末試験の成績を加味して評価します。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	伊藤爲一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済ニュースや論文を読んで読解力・専門用語の理解等を高めることを目標とします。 受講者は予習をして参加し、内容を理解しておくことを希望します。 教材を受講者が輪読する形で進めます。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時にプリントを配布します。		平常点と期末試験の成績を加味して評価します。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語 (通年)	担当者	岡村 国和
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目標は、主として英国の社会保障分野の専門書を講読し、その内容を理解した上で討論することにあります。さしあたりテキストの輪読を行います。翻訳することが目的ではなく、内容の検討が主要目標であることを十分に認識して下さい。区切れごとに、あるいは適宜、トピックなどを取り上げて、ディスカッションやディベートすることを予定しています。</p> <p>英国型福祉国家の基本理念及びそれに基づく福祉政策を研究する予定です。さしあたり社会保障改革をめぐる経済・社会環境の変化を検討するため、同書の抄訳部分を時間をかけて検討します。本講義は英国の社会保障とくに年金や医療について論及されることが多いので、基本理論について別途学習する機会を設けます。なお、時間に余裕があれば日本とイギリスの社会保障の比較研究を行います。</p>		<p>本年度は1998年のイギリスのグリーン・ペーパーおよびその関連文献を用いて、英国型福祉国家の基本理念やそれに基づく福祉政策を研究する予定です。</p> <p>邦文参考書などは必要に応じて紹介しますが、特にこの分野は日本語の文献も多く、勉強し易いと思います。英国政府と国民との新しい福祉契約に関しては新しい考え方も入っていますので、図書館などで各自探してみてください。</p> <p>英国の基本的な社会保障制度の概要などについての参考文献は豊富です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは初回にいくつか紹介しますが、受講者の希望により変更することもあります。</p>		<p>出席を重視し、輪読時の発表回数や小テスト等で評価します。</p>	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語 (通年)	担当者	岡村 国和
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期も引き続き英国の社会保障関連の文献を読んで制度の解説を行います。春学期とは独立したテーマを選びます(秋学期からの受講者への配慮)。</p> <p>将来必ず考えなければならない年金問題などを社会保障の先進国(日本への影響が大きい)と比較して、より深く検討します。</p> <p>なお、企業年金に関しては、英国より米国の影響を受けていますので、米国の制度も考察対象とします。とくに401kを素材とすることを予定しています。</p>		<p>春学期と同様の手順で講義を進めます。ただし、場合によってはトピックを挿入したり、CDによる簡単なリスニング(1文1行程度の短文)を行って、実践的な英語の習得を培うことも考えています。CDを聞きながら表現力を養えるような時間を設けたいと思います。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは初回にいくつか紹介しますが、受講者の希望により変更することもあります。</p>		<p>出席を重視し、輪読時の発表回数や小テスト等で評価します。</p>	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	奥山 正司
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>21世紀を目前にして本格的な高齢社会をむかえようとしている日本社会では、高齢化や高齢者に関しては、社会福祉や保健・医療だけでなく、経済的、法律的な問題などさまざまな視点から論ぜられるようになってきている。こうした中で、特に寝たきり老人や痴呆老人など要介護老人を対象とした介護にかかわる狭義の福祉や保健・医療などについては、今後どのようにしていくかというきわめて重要な課題がある。本年度はそれらの課題を視野に入れながら、高齢化について考える力を身につけさせる。</p>		<p>日本における高齢化の状況と基本的な社会経済的な動向と関連させながら学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢化の側面 人口高齢化の要因及び状況 世帯・家族の変化と人口 2. 高齢化の側面と社会経済的な状況 労働力、世代間扶養 3. 社会保障、高齢者への保健福祉、 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業のはじめに配布する。		出席、レポート、試験等の合計点によって評価する。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	奥山 正司
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>21世紀を目前にして本格的な高齢社会をむかえようとしている日本社会では、高齢化や高齢者に関しては、社会福祉や保健・医療だけでなく、経済的、法律的な問題などさまざまな視点から論ぜられるようになってきている。こうした中で、特に寝たきり老人や痴呆老人など要介護老人を対象とした介護にかかわる狭義の福祉や保健・医療などについては、今後どのようにしていくかというきわめて重要な課題がある。本年度はそれらの課題を視野に入れながら、高齢化について考える力を身につけさせる。</p>		<p>日本における高齢化の状況と基本的な保健福祉について、学ぶ。</p> <p>高齢者福祉の歴史 明治時代から昭和の20年代までの 高齢者福祉について</p> <p>老人福祉法制定以降の高齢者福祉について 在宅福祉サービス 施設福祉サービス 介護保険サービスなどについて</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業のはじめに配布する。		出席、レポート、試験等の合計点によって評価する。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	金井繁雅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済社会の変動にともなって企業を取り巻く環境は大きく変化し、会計はさまざまな問題を抱えるようになった。これらの問題の一つとして、企業活動の国際化・グローバル化を背景とした会計処理や国際会計基準の設定が問題となっている。会計基準は、それぞれの国において独自の経済・法律および文化などを背景に形成されており、各国の企業が公表する財務諸表はそれぞれの国の会計基準に基づいて作成される。したがって、それらの財務諸表を単純に比較することはできない。そこに会計基準の国際的調和化の必要性が生まれてくるわけである。</p> <p>この科目では、国際会計に関するテキストを中心に精読し、会計の国際的側面を多面的に検討することにする。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時にコピーを配布する。		定期試験の結果に出席率を加味して総合的に成績評価を行う。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	金井繁雅
講義目的、講義概要		授業計画	
「経済外国語 I a」と同一内容です。			
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時にコピーを配布する。		試験の成績に出席率を加味して、総合的に成績評価を行う。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経済外国語(通年)	担当者	倉橋 透
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 国際化に伴い、英文を読み英文で意見を書く、英語で会議を行うなどの経験をする人がますます増えていくと思われる。また企業における評価もそうした能力がどの程度あるかが一つの要素になっている場合がある。</p> <p>この講義では、日本経済を扱ったテキストを題材に英文に慣れることを目的とする。</p> <p>なお、テキストを読むことで日本経済についての認識が深まる点でも効果があろう。</p> <p>【講義概要】 テキストを分担して和訳する。</p> <p>また、学期中3回ほど指定した箇所について要約し、レポートとして提出してもらう。</p>		<p>Key economic challenges facing Japan”及び“Ending deflation and achieving self-sustained expansion”を扱う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
OECD "Economic Survey of Japan 2005"		出席、レポート及び定期試験による。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経済外国語(通年)	担当者	倉橋 透
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 国際化に伴い、英文を読み英文で意見を書く、英語で会議を行うなどの経験をする人がますます増えていくと思われる。また企業における評価もそうした能力がどの程度あるかが一つの要素になっている場合がある。</p> <p>この講義では、日本経済を扱ったテキストを題材に英文に慣れることを目的とする。</p> <p>なお、テキストを読むことで日本経済についての認識が深まる点でも効果があろう。</p> <p>【講義概要】 テキストを分担して和訳する。</p> <p>また、学期中3回ほど指定した箇所について要約し、レポートとして提出してもらう。</p>		<p>“Achieving fiscal sustainability”及び“Getting the most out of public sector desentralisation”を扱う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
OECD "Economic Survey of Japan 2005"		出席、レポート及び定期試験による。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	黒川文子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、国際人として活躍するために必要である国際ビジネスに関する知識を獲得し、かつ実践的な英語能力を習得することを目標とする。</p> <p>グローバル企業で働くためには、外国人とのコミュニケーション能力が必須となる。しかし、ビジネス英語の能力には、単なる会話能力だけではなく、相手の国の文化や、習慣、エチケットに関する知識まで含まれる。異文化を理解した上で国際ビジネスに携わるならば、ビジネスで成功することがより容易となるであろう。本講義ではそのようなニーズに答えるために、ビジネスに関する英語の読解、英作文の勉強をしていきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Knowledge is Power, But Whose? 2 The Magic of Harry Potter 3 The Fast-Food Revolution... 4 Beauty is in the Eye of the Beholder 5 One World, One Language? 6 A Gray Future? 7 'Til Death Us Do Part? Marriage and Divorce in the 21st Century 8 The Pursuit of Happiness 9 The World Through Rose-tinted Glasses 10 ... And the Slow-Food Rebellion 11 Articles of International Business (1) 12 Articles of International Business (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Barton et al., "Knowledge is Power", SEIBIDO, 2005.		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	黒川文子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、経営学の入門から専門書、論文までの読解できる能力を身につけることが目標である。</p> <p>この分野の読解は、単なる表面的な語句上の意味を学ぶのではなく、その語の背景となっている経営状況を理解しなければ、正しい読解は不可能である。</p> <p>経営に関する基本的文献を、まずテキストを使って輪読する。ある程度、経営学用語を用いた英文に慣れた後に、英文雑誌や新聞から抜粋した経営に関する論文や記事を配布して、講義を進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 The War for Talent 2 China and India-the Future of the World? 3 A Global Balancing Act 4 The Ethics of Cloning 5 Information Overload and Multi-tasking Madness 6 Why the Internet Will Destroy the World 7 Energy Problems-Blackouts in America, Britain and Italy 8 Globalization-A Global Solution? 9 The Nature of Terrorism-One Man's Freedom Fighter is Another Man's Terrorist 10 What is Democracy? 11 Articles of International Business (1) 12 Articles of International Business (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Barton et al., "Knowledge is Power", SEIBIDO, 2005.		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	黒木 亮
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目標 本講義の目的は、経済英語に慣れることである。 丁寧に翻訳をつけ、ゆっくりと文献を読み進めることによって、基礎的な読解力を養う。</p> <p>講義概要 あらかじめ担当者を決めず、毎回ランダムに当て、ひとり数行ずつ、できるだけ多くの人に訳出してもらう。</p> <p>受講者への要望 毎回しっかり予習をし、辞書(例えば小学館『プログレッシブ英和中辞典』)を持参して授業に臨んでください。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
M. Blackford. <i>The Rise of Modern Business in Great Britain, the United States, and Japan.</i>		出席状態、予習の程度、報告(翻訳)内容、期末テスト。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	黒木 亮
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目標 本講義の目的は、経済英語に慣れることである。 丁寧に翻訳をつけ、ゆっくりと文献を読み進めることによって、基礎的な読解力を養う。</p> <p>講義概要 あらかじめ担当者を決めず、毎回ランダムに当て、ひとり数行ずつ、できるだけ多くの人に訳出してもらう。</p> <p>受講者への要望 毎回しっかり予習をし、辞書(例えば小学館『プログレッシブ英和中辞典』)を持参して授業に臨んでください。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
M. Blackford. <i>The Rise of Modern Business in Great Britain, the United States, and Japan.</i>		出席状態、予習の程度、報告(翻訳)内容、期末テスト。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	小林 進
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済学の文献を通じて英語の力を一層向上させたいか、または英語の実力を維持したい人の受講が望ましい。英語の能力は努力を怠ると簡単に下がってしまうので、受講者は日頃の予習を十分に行なうことが大切である。なお再履修者には英語の基礎力をつけるために数回のレポート提出を求めるので十分注意して履修登録を行なってほしい。</p>		<p>受講者のレベルを考慮しながら講義の中で述べる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定(プリント配布の予定)		平常の出欠と受講態度を重視する。さらに期末の試験を加味して評価する。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	小林 進
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済学の文献を通じて英語の力を一層向上させたいか、または英語の実力を維持したい人の受講が望ましい。英語の能力は努力を怠ると簡単に下がってしまうので、受講者は日頃の予習を十分に行なうことが大切である。なお再履修者には英語の基礎力をつけるために数回のレポート提出を求めるので十分注意して履修登録を行なってほしい。</p>		<p>受講者のレベルを考慮しながら講義の中で述べる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定(プリント配布の予定)		平常の出欠と受講態度を重視する。さらに期末の試験を加味して評価する。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語 (通年)	担当者	小林哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済関係のニュースを、英語で収集・分析するための基礎的な英語力の養成を目的とする。</p> <p>ニュースの中には、国内(日本語)での報道と、海外のメディアによる報道とで大きな視点の違いがあることが多い。また紛争地域に関する報道、あるいはグローバル化や経済格差をめぐる報道などでは、発信するメディアの立場によっても、同一の事件が全く異なった「ニュース」になることもしばしばである。</p> <p>日本経済に生じている変化や世界の流れを読むうえでも、複数の視点による「ニュース」を理解することが是非とも必要である。とはいえ、基本は日本語の新聞記事をきちんと理解すること、基礎的な英語力をつけることから始めなければならない。</p> <p>本講義では、英字新聞や雑誌の読解力をつけることをめざすが、同時に単語力やリスニング力などの基本的な英語力も養成する。そのために毎時間の小テストとテキストの予習が課せられる。基本的に通年の履修が前提である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語のニュース・日本語のニュース 2. サバイバル英語のすすめ 3. News in the world bussiness 4. News in the world bussiness 5. News in the world bussiness 6. News in the world bussiness 7. News in the world bussiness 8. News in the world bussiness 9. News in the world bussiness 10. News in the world bussiness 11. News in the world bussiness 12. News in the world bussiness 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Business Week 各号 Voice of America (インターネット・ラジオ)		小テストを含めた平常点+定期試験	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語 (通年)	担当者	小林哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済関係のニュースを、英語で収集・分析するための基礎的な英語力の養成を目的とする。後期は、英語で読む・調べる・書く、をテーマに、プレゼンテーション演習を取り入れる。参加者は、各自テーマを設定し、英語の資料やソースにあたり、英語で発表することが課せられる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語で読む・書く・調べる 2. 英語で読む 新聞・雑誌 3. 英語で読む インターネット 4. 英語で聞く ニュース番組 5. 英語で聞く インターネット・ラジオ 6. 英語で調べる 辞書・資料の調べ方 7. 英語で調べる 検索エンジンの使い方 8. 英語で書く 身近な文章 9. 英語で書く 専門用語 10. 英語で発表する プレゼンとは 11. 英語で発表する 演習1 12. 英語で発表する 演習2 	
テキスト、参考文献		評価方法	
西村肇『サバイバル英語のすすめ』筑摩新書		授業への参加態度+発表レポート	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	齋藤 正章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>外国語で書かれた良書は日本語で読めることが少なくありません。最近では、海外で出版されるのとほぼ同時に翻訳されることもあります。また、インターネットの進展によって翻訳支援ツールも充実してきています。こうした状況は、読解のための語学力はさして高める必要はないと感じさせるかもしれません。しかし、それらはいくまでも「他人の訳」であって自分のものではありません。原著にある微妙なニュアンスは、原著を読んだ人にしか分からないものです。本講義では、原著の内容を自分の言葉で理解するための読解力の養成を目標としています。</p>		<p>皆さんに和訳してもらいますので、積極的に授業に参加して下さい。</p> <p>講義を進めていくと、問題なのは英語力ではなく、経済や経営あるいは社会に関する問題意識の欠如や知識不足が原因で読みこなせないという場面に出くわすことが多いです。こういう場合は、基礎概念を平易に解説しながら進めていきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時に指示します。		試験 70 点、出席、発表などの平常点 30 点の合計 100 点。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	齋藤 正章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>外国語で書かれた良書は日本語で読めることが少なくありません。最近では、海外で出版されるのとほぼ同時に翻訳されることもあります。また、インターネットの進展によって翻訳支援ツールも充実してきています。こうした状況は、読解のための語学力はさして高める必要はないと感じさせるかもしれません。しかし、それらはいくまでも「他人の訳」であって自分のものではありません。原著にある微妙なニュアンスは、原著を読んだ人にしか分からないものです。本講義では、原著の内容を自分の言葉で理解するための読解力の養成を目標としています。</p>		<p>皆さんに和訳してもらいますので、積極的に授業に参加して下さい。</p> <p>講義を進めていくと、問題なのは英語力ではなく、経済や経営あるいは社会に関する問題意識の欠如や知識不足が原因で読みこなせないという場面に出くわすことが多いです。こういう場合は、基礎概念を平易に解説しながら進めていきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時に指示します。		試験 70 点、出席、発表などの平常点 30 点の合計 100 点。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	清水絹代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目標 第1の目標は、大量の英文を読むために必要な英文の効率的な読み方そのものを扱い、基礎力の向上をはかることにあります。第2の目標は、英語によるビジネス・プランを作成するプロセスの中で、経営に関する基礎理論やその応用を英文の資料に基づいて考える能力を養うことにあります。第3の目標は、自身で考えたことに自信を持って、英語で表現する能力を獲得することにあります。</p> <p>講義概要 本講義では、上記目標を達成するために右記テーマ、内容に基づき、様々な課題が出されます。毎回講義終了前10分程度で、講義フィードバックを書きます。</p> <p>その他 遅刻厳禁。携帯電話、PHSの電源は切ること(マナーモードは禁止)。履修希望者は初回講義に必ず出席すること。欠席は原則2回まで許可されます。</p>		<p>1) テーマ: 講義の流れを掴む 内容: シラバスを元に取り扱い事項、課題の把握</p> <p>2) テーマ: ビジネス・プランの構成 内容: 実際に取り組む事業を決め、その全体像を把握</p> <p>3) テーマ: 人前で「英語で話す」ことに慣れる 内容: 「我が社のビジョン」</p> <p>4) テーマ: ビジョンとは何か 内容: 日本人の時間感覚の理解</p> <p>5) テーマ: ミッションとは何か 内容: 自社のミッションを考える</p> <p>6) テーマ: 自社の製品をアピールしよう 内容: 製品紹介プレゼンテーション</p> <p>7) テーマ: 目標とは何か 内容: 目標を設定するまでのプロセスを掴む</p> <p>8) テーマ: 戦略とは何か 内容: 戦略とは何かを考え、代表的なモデルを使って市場分析を行なう</p> <p>9) テーマ: 自社の目標と戦略を英語で表現してみよう 内容: ビジネス・プラン・プレゼンテーション</p> <p>10) テーマ: 計画とは何か 内容: 計画に関わる諸問題を考え、現実的な計画を立案する</p> <p>11) テスト: プレゼンテーション・コンテスト</p> <p>12) 総まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Horan, J. (1998). <i>The One Page Business Plan</i> . CA: The One Page Business Plan Company. (インターネット等で自力で購入)		出欠席、参加態度、課題レポート等の提出物、プレゼンテーションなどを総合的に評価します。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	清水絹代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目標 第1の目標は、ビジネスに関わる様々な事柄を英語で表現する能力を養うことにあります。第2の目標は、国際ビジネスの現場で効果的な協働を行なうために必要なコミュニケーション能力を養うことにあります。</p> <p>講義概要 上記目標達成のため、様々な課題が出されます。経済・経営外国語 I a 同様、講義フィードバックを毎回書きます。</p> <p>その他 本講義の履修希望者は、前期に行なわれる清水の経済・経営外国語 I a を必ず履修して下さい。遅刻厳禁。携帯電話やPHSの電源は切ること(マナーモードは禁止)。欠席は原則2回まで許可されます。</p>		<p>1) テーマ: 夏期休業で得た成果をシェアする 内容: ブック・レポート</p> <p>2) テーマ: 自社の製品紹介を工夫する 内容: 効果的なアピールの方法を考える</p> <p>3) テーマ: 他者にプラスの印象を与える表現 内容: 自社製品紹介プレゼンテーション</p> <p>4) テーマ: ビジョンとは何か 内容: 自社ビジョンの見直し</p> <p>5) テーマ: ミッションのトレンド 内容: 自社のミッションについて再度考える</p> <p>6) テーマ: 自社のビジネス・プランを考える 内容: プレゼンテーション</p> <p>7) テーマ: 目標と自分自身、チームに向きあう 内容: これまでの目標設定及び成果を振り返る</p> <p>8) テーマ: 適切な戦略 内容: 現在のマーケットのトレンドと自社戦略の適合性を考える</p> <p>9) テーマ: 自社の目標と戦略を振り返る 内容: 成果報告プレゼンテーション</p> <p>10) テーマ: 計画と自分自身、チームに向きあう 内容: 計画に関わる自身の諸問題を考え、現実的な計画を立案する</p> <p>11) ビジネス・プラン・プレゼンテーション</p> <p>12) 総まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Horan, J. (1998). <i>The One Page Business Plan</i> . CA: The One Page Business Plan Company. (インターネット等で自力で購入)		出欠席、参加態度、課題レポート等の提出物、プレゼンテーションなどを総合的に評価します。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語〔通年〕	担当者	千葉啓司
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>簿記・会計分野の英文を読み、簿記および会計学が英米でどのように考えられているかを理解することが本講義の目的である。英米では日本のように簿記と会計学が区別されずに、Accounting の名の下に体系化されている。簿記原理で学習した知識を生かして英文が読み進められるようにしていきたい。</p> <p>講義概要</p> <p>簿記および会計学の基礎概念と貸借対照表 (Balance Sheet) の内容について学習する。英文に慣れてもらうために多くの文章を読んでもらうことになる。そのため比較的平易な文章のテキストが選ばれている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Basic Concepts 2 Elements of Balance Sheet 3 Assets ,Liabilities and Equity 4 Dual-Aspect Concept 5 Money-Measurement Concept Entity Concept 6 Going-Concern Concept 7 Assets-Management Concept 8 Balance Sheet Items Assets 9 Balance Sheet Items Liabilities 10 Balance Sheet Items Current Ratio 11 Balance Sheet Items Equity 12 Key Points to Remember 	
テキスト、参考文献		評価方法	
R.N.Anthony and L.K.Breitner <i>Core Concepts of Accounting</i> Peason Prentice Hall		ほぼ毎回行う予定の練習問題、出席状況と期末試験によって成績を総合的に評価する。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語〔通年〕	担当者	千葉啓司
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>簿記・会計分野の英文を読み、簿記および会計学が英米でどのように考えられているかを理解することが本講義の目的である。英米では日本のように簿記と会計学が区別されずに、Accounting の名の下に体系化されている。簿記原理で学習した知識を生かして英文が読み進められるようにしていきたい。</p> <p>講義概要</p> <p>資産・負債の分類といった貸借対照表項目にかかわる事柄、損益計算書にかかわる事柄、簿記にかかわる事柄について学習する。簿記の基本的な体系の英語表現を解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Current Assets 2 Noncurrent Assets 3 Current Liabilities 4 Noncurrent Liabilities 5 Balance Sheet Changes 1 6 Balance Sheet Changes 2 7 Income Measurement 8 The Account 9 Debit and Credit 10 The Ledger and The Journal 11 The Closing Process 12 Key Points to Remember 	
テキスト、参考文献		評価方法	
R.N.Anthony and L.K.Breitner <i>Core Concepts of Accounting</i> Peason Prentice Hall		ほぼ毎回行う予定の練習問題、出席状況と期末試験によって成績を総合的に評価する。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	中村泰將
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 1. 英文を意味内容を的確に理解すること。 2. 専門用語をできるだけ覚えること。 3. 辞書は妻子の辞書を使い、辞書を引きのではなく、読むことに心がけること。</p> <p>講義概要： 本講座は、アメリカの代表的なビッグ・ビジネスを取り上げ、これらの企業がどのようにして世界のトップに上り詰めたか、これらの企業の経営戦略は一体どのようなものかについて本「テキスト」を通じて学ぶことを目的とします。世界のトップの経営者はどのような経営理念を持っているのかを学ぶことも本講座の目的です。 本書では、ファースト・フードのマクドナルド、自動車のフォード、ソフト・ドリンクのコカ・コーラ、コピー機のゼロックス、テーマ・パークのディズニーランド、小売店のシアーズ、通信のAT&Tなどの企業などを取り上げています。 なお、これらの企業のアニュアル・レポートを入手し、それを利用して企業の状態を調べることも行ないます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コカ・コーラ 2. " 3. " 4. ディズニーランド 5. " 6. " 7. フォード、GM 8. " 9. " 10. マクドナルド 11. " 12. " 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>“BIG BUSINESS in AMERICA” by 廣原真由子、Blake Baxter、SEIBIDO、2001年</p>		<p>出席重視(3回以上欠席者は認めない)、授業の購読、定期試験、アサイメントなどの総合評価。</p>	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	中村泰將
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的、講義概要は春学期と同じである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. シアーズ・ローバック 2. " 3. ゼロックス 4. " 5. IBM 6. " 7. AT&T 8. " 9. フォード、GM 10. " 11. アメリカン・ライフと先端技術 12. " 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは、春学期の続きである。</p>		<p>評価基準は、春学期と同じである。</p>	

01年度以降(春) 00年度以前(春)	経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語 (通年)	担当者	波形 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>あらゆる分野についていえることだが、経済学・経営学についても基礎的知識の習得が重要である。基礎がしっかりしていないと、その後の発展が望めないからである。その意味で本講義では、特に経済学の基礎を外国語(英語)で習得することに目標をおく。下記の教科書は経済学の基礎を平明な英語で解説しており、本講義の目的にかなっていると思われる。学生諸君の輪読を中心に授業を進めていきたい。当たり前のことだが、予習を必ずやることを義務づける。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Chap.1 A Matter of Choice 2. 3. 4. 5. Chap.2 Meaning of Micro 6. 7. 8. 9. Chap.3 Meaning of Macro 10. 11. 12. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Tilmant 著 (新井恵理注解) 『Economics in Our Life』 成美堂		定期試験に平常授業中の熱意(出席状況、発表状況)を加味して評価する。	

01年度以降(秋) 00年度以前(秋)	経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語 (通年)	担当者	波形 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的およびその概要は春期と同様。春期授業を受けていなければ理解できないというわけではないが、春期授業を受けていたほうが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Chap.4 Politics & Policy 2. 3. 4. 5. Chap.5 AtLeast The inTheory 6. 7. 8. 9. Chap.6 The International Arena 10. 11. 12. 	
テキスト、参考文献		評価方法	
前期と同じ。継続使用。		前期と同じ。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a(フランス語) 経済外国語・経営外国語 (フランス語)	担当者	原口武彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 比較的やさしいフランス語の経済関連文献の購読を通じて、フランス、フランス語圏アフリカ諸国の経済の現状を世界経済との関連で理解すること。</p> <p>講義概要 主に下記のテキストを購読する。ただし、授業内容の難易度は、受講者のフランス語修得レベルに応じて調整する。</p>		<p>第1回 (1) 授業の進め方。受講者のフランス語修得度の調査。 (2) 最近のフランスの政治経済情勢の基礎知識</p> <p>第2回以降はテキストの購読を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><テキスト> クリスチャン・ボームルー、長谷川公昭著『時事フランス語(2005年版)』(フランス語書名: Variétés françaises) 朝日出版社、2005年。</p>		<p>前期末の課題についてのレポート(仏文和訳)によって評価する。出席回数は成績評価の50%とする。</p>	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b(フランス語) 経済外国語・経営外国語 (フランス語)	担当者	原口武彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 比較的やさしいフランス語の経済関連文献の購読を通じて、フランス、フランス語圏アフリカ諸国の経済の現状を世界経済との関連で理解すること。</p> <p>講義概要 主に下記のテキストを購読する。ただし、授業内容の難易度は、受講者のフランス語修得レベルに応じて調整する。</p>		<p>第1回 (1) 授業の進め方。受講者のフランス語修得度の調査。 (2) 最近のフランスの政治経済情勢の基礎知識</p> <p>第2回以降はテキストの購読を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><テキスト> クリスチャン・ボームルー、長谷川公昭著『時事フランス語(2005年版)』(フランス語書名: Variétés françaises) 朝日出版社、2005年。</p>		<p>後期末の課題についてのレポート(仏文和訳)によって評価する。出席回数は成績評価の50%とする。</p>	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	平井 岳哉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>これからの社会生活では、仕事や私生活でも英語を使う機会が増えるはずで、ここでは、英語の長文を読む機会を自分に課して、英語に慣れる場にしてほしいと思います。</p> <p>題材は、経営学に関する本もしくは雑誌・新聞を想定していますが、受講者の興味・関心が高く内容を選ぶつもりです。毎回ランダムに発表者を指名して、区切りのいいところまで(段落を想定。1人数行ずつ)を、訳してもらいやり方をとります。予習を必ずお願いします。</p> <p>1つの題材で、3、4週分の授業を想定しており、その度に、事前に配布します。</p>		<p>毎回、経営学に関する本もしくは雑誌・新聞を題材として想定しています。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
題材を事前に配布する予定		出席と授業での貢献	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	平井 岳哉
講義目的、講義概要		授業計画	
前期と同じ		前期と同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
前期と同じ		前期と同じ	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	本田浩邦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>語学力はわれわれが生きていく上での大きな武器です。この授業の目的は、経済英語の学習を通じて英語に親しみ、基礎的な力を身につけることです。週1回という限られた時間ですが、できるだけたくさんリーディングとリスニングを行いたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Grammar 毎回授業のはじめに簡単な文法テストを行います。 ■ Listening 繰り返しリスニングをします。1年続けるだけでもかなり聞き取れるようになるはずです。 ■ Reading 経済関連の記事を速読します。 ■ Presentation 学期末に英語に関する事柄を調べて発表します。一人10分程度。 		<p>授業は3つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① Grammar (15min) ② Listening (30min) ③ Reading (30 min) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>随時配布します。必ず毎回、英和中辞典を持参してください。</p>		<p>出席、毎回の文法テスト、その他平常点による。</p>	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	本田浩邦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>語学力はわれわれが生きていく上での大きな武器です。この授業の目的は、経済英語の学習を通じて英語に親しみ、基礎的な力を身につけることです。週1回という限られた時間ですが、できるだけたくさんリーディングとリスニングを行いたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Grammar 毎回授業のはじめに簡単な文法テストを行います。 ■ Listening 繰り返しリスニングをします。1年続けるだけでもかなり聞き取れるようになるはずです。 ■ Reading 経済関連の記事を速読します。 ■ Presentation 学期末に英語に関する事柄を調べて発表します。一人10分程度。 		<p>授業は3つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① Grammar (5min) ② Listening (30min) ③ Reading (30 min) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>随時配布します。必ず毎回、英和中辞典を持参してください。</p>		<p>出席、毎回の文法テスト、その他平常点による。</p>	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	益山光央
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テキサスインスツルメント社製の関数電卓 BAI plus の英文マニュアルに挑戦する。受講生は電卓を購入し、電卓とマニュアルのセットで受講することとなる。電卓操作をマスターしたのちに、さまざまな経済計算に移る。教材の電卓は高価なので、一年間、落ち着いてじっくり学習することのできる受講生を希望する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 1 基本操作 2 基本操作 3 基本操作 4 基本操作 5 基本操作 6 基本操作 8 複利と単利 9 割引現在価値 10 割引現在価値 11 投資 12 投資 	
テキスト、参考文献		評価方法	
TI 社製関数電卓 BAI Plus		出席 50%、試験 50%	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語(通年)	担当者	益山光央
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続き電卓操作の習得を目標とする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 1 償還 2 償還 3 償還 4 基本操作 5 基本操作 6 基本操作 7 基本操作 8 対数と指数 9 対数と指数 10 三角関数 11 三角関数 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
TI 社製関数電卓 BAI Plus		出席 50%、試験 50%	

01年以降(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	松本栄次
00年以前(春)	経済外国語・経営外国語(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済地理または環境経済関係の外国書(英文)または論文をテキストに、学術的英文の読解力を高める。とくに、単なる直訳ではなく、内容のイメージを的確に把握できるような能力を養う。</p>		<p>毎回、無差別にできるだけ多数の人を指名し、訳出・内容説明を担当してもらう。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントして配布する。</p>		<p>出席状況、授業中の発表の成績、および期末筆記試験により、総合的に評価する。</p>	

01年以降(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	松本栄次
00年以前(秋)	経済外国語・経営外国語(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>aと同じ。</p>		<p>aと同じ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントして配布する。</p>		<p>出席状況、授業中の発表の成績、および期末筆記試験により、総合的に評価する。</p>	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済・経営外国語 I a 経済・経営外国語 (通年)	担当者	御園生 眞
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済英語に慣れると同時に、読解力の向上を目指す。</p> <p>毎回ランダムに当て、できるだけ多くの人に訳出してもらう。</p> <p>定期試験を実施するとともに、簡単な小テストを頻繁に実施する予定。</p> <p>(注意) 毎回しっかり予習して出席する。 辞書(電子辞書でもよい)を毎回必ず持参する。 授業のマナーを守り遅刻しない。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用する予定。辞書などについては第1回の授業で説明する。		出席、試験成績、訳出内容、予習内容で評価。3回以上欠席した場合は単位が認定されない。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済・経営外国語 I b 経済・経営外国語 (通年)	担当者	御園生 眞
講義目的、講義概要		授業計画	
春期に同じ。			
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用する予定。辞書などについては第1回の授業で説明する。		出席、試験成績、訳出内容、予習内容で評価。3回以上欠席した場合は単位が認定されない。	

01年以降(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	百瀬 房徳
00年以前(春)	経済外国語・経営外国語(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ヨーロッパ経済共同体が、1993年より形成され、現在では欧州連合(EU)として拡大している。この形成のために種々の制度が統一されてきた。そのうちの付加価値税を通じて、統一過程を理解する。</p> <p>ヨーロッパで発展した付加価値税が日本において消費税として導入された。その意味では、付加価値税について知識を得ておくことは意義がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 The European Economic Community 2 The Aims of the European Community 3 The White Paper 4 The Community's Institutions The European Parliament 5 The Community's Institutions The Council of Ministers 6 The Community's Institutions The Court of Justice 7 The Financial Means of The Community 8 The Value Added Tax 9 VAT in The Community 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ernst & Young : VAT in Europe		テスト	

01年以降(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	百瀬 房徳
00年以前(秋)	経済外国語・経営外国語(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>付加価値税が、ヨーロッパ経済共同体の財源になって以来、非常に大きな役割を果たすようになってきた。付加価値税の基礎概念、計算方法、付加価値税を全加盟国に導入するための障壁の除去等について理解する。この付加価値税の考え方は、日本の消費税の基礎となっている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Harmonization of VAT in The European Community General 2 Harmonization of VAT in The European EC Council Directive 3 The Proposals for Future Harmonization 4 Commission's Proposals for a Single Market 5 The 1987 Proposals for The Commission Removal of Fiscal Barriers 6 The 1987 Proposals for The Commission The Clearing System 7 The 1987 Proposals for The Commission The Approximation of VAT Rates 8 The 1987 Proposals for The Commission Services 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ernst & Young : VAT in Europe		テスト	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語	担当者	森 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>まず、辞書なしで読む訓練をする。テレビや新聞でよく取り上げているような事柄に関する英文の経済社会記事(論文を含む)を用意するので、知っている語句のみを手掛かりに、自分の持っている知識を総動員して他の知らない単語の意味、さらに、大意を想像する(当て推量する)ことに専念する。自分の持っている知識(日本語の)が多ければ当て推量は限りなく真実に近づく。この訓練を続ければ英文に対する抵抗感は薄れ、単なる暗号解きになる。</p> <p>この講義を通じて、英文経済記事への心理的抵抗感をなくし、日頃から日本語で書かれた新聞、経済誌、あるいはテレビ解説等で経済問題に触れておくことが、英文記事を理解する早道であることを痛感してくれることを願っている。</p>		<p>特記するような計画は持たないが、教材には、日本経済の国際化、アジア太平洋諸国の経済事情等に関するものをできるだけ選び、教員もこの周辺の問題の解説を行う予定である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		普段点と定期試験。出席率が一定基準に達しない場合は採点の対象としない。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語	担当者	森 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>まず、辞書なしで読む訓練をする。テレビや新聞でよく取り上げているような事柄に関する英文の経済社会記事(論文を含む)を用意するので、知っている語句のみを手掛かりに、自分の持っている知識を総動員して他の知らない単語の意味、さらに、大意を想像する(当て推量する)ことに専念する。自分の持っている知識(日本語の)が多ければ当て推量は限りなく真実に近づく。この訓練を続ければ英文に対する抵抗感は薄れ、単なる暗号解きになる。</p> <p>この講義を通じて、英文経済記事への心理的抵抗感をなくし、日頃から日本語で書かれた新聞、経済誌、あるいはテレビ解説等で経済問題に触れておくことが、英文記事を理解する早道であることを痛感してくれることを願っている。</p>		<p>特記するような計画は持たないが、教材には、日本経済の国際化、アジア太平洋諸国の経済事情等に関するものをできるだけ選び、教員もこの周辺の問題の解説を行う予定である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		普段点と定期試験。出席率が一定基準に達しない場合は採点の対象としない。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a 経済外国語・経営外国語 (通年)	担当者	山越 徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この課目は、外国語(英語)を通して、経済の新しい動きや姿について触れると同時に、専門用語についての知識を増して、国際化の進行に少しでも順応できるようにすることを意図している。そこで本講では、ニュービジネス、新商品、技術変化、グローバル化、産業集積、地域活性化、雇用問題などの中から、いくつかのペーパーを選び出し、それを読み、議論し、理解を進めていくことにする。そのためより多くの課題に触れるよう、多くのペーパーに取り組みたい。</p>		<p>なるべく多くの論文を読み進めるため、1回につき4～5頁は読み進めていきたい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
順次、ペーパーのコピーを授業で配布		課題ペーパー(講義中に配布)を訳し、レポートを提出したものと、期末テストの結果および出席と授業の受け答えによる。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b 経済外国語・経営外国語 (通年)	担当者	山越 徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>I aの課題のペーパーを更に読み進めていく。したがってI aを受け継いで履修するのが望ましい。</p>		同上	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

01年以降(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a	担当者	山本 美樹子
00年以前(春)	経済外国語・経営外国語(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英字新聞や英語の雑誌の経済記事を読みながら、日常の経済活動についての認識を深めていく。記事は英字新聞やエコノミスト英字版、フィナンシャルタイムズ等から取り上げる。日ごろの日本経済に関わることをトピックスとしたものを取り上げる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、 イントロダクション 演習の進め方とプリントを配る 2、 記事を輪読していく。次回のプリントを配布 3、 同上 4、 同上 5、 同上 6、 同上 7、 同上 8、 同上 9、 同上 10、 同上 11、 同上 12、 同上 (秋学期初回のプリントを配布) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回次回のプリントを配布する		出席、授業態度(予習の有無)、学期末試験	

01年以降(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b	担当者	山本 美樹子
00年以前(秋)	経済外国語・経営外国語(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英字新聞や英語の雑誌の経済記事を読みながら、日常の経済活動についての認識を深めていく。記事は英字新聞やエコノミスト英字版、フィナンシャルタイムズ等から取り上げる。国際経済、国際禁輸に関わるものを取り上げる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1、 輪読をする。次回のプリントを配布。 2、 同上 3、 同上 4、 同上 5、 同上 6、 同上 7、 同上 8、 同上 9、 同上 10、 同上 11、 同上 12、 同上 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし、 毎回次回のプリントを配布する		出席、授業態度(予習の有無)、学期末試験	

01年以降(春)	経済外国語 I a ・ 経営外国語 I a	担当者	米 山 昌 幸
00年以前(春)	経済外国語 ・ 経営外国語 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、経済学部すべての学生にとって専門領域の基礎となる経済学を英文テキストの輪読を通して学びます。講義科目の「経済学」とは異なり、主体的な報告形式によって経済学への理解と興味がいっそう深まることが期待されます。「経済学 a」「ミクロ経済学」とあわせて履修すると経済学の習得に効果的です。</p> <p>春学期は、テキストのミクロ経済学の基礎的な範囲を輪読します。基本的には受講者の輪読で授業を進め、必要に応じて講義を取り入れて補足します。報告者はレジュメを作成しそのレジュメをもとに報告します。英文和訳よりもむしろ内容理解に重点を置き、毎回できるだけ多くの分量を読み進みたいと思います。</p> <p>受講者は予習、復習が不可欠ですし、欠席は禁物です。なお、テキストの各章末には練習問題と解答が用意されていますので自習に利用してください。</p>		週	内容(Chapter:テキストの範囲)
		1	1. WHAT IS ECONOMICS ALL ABOUT?
		2	
		3	
		4	2. HOW TO USE GRAPHS IN ECONOMICS
		5	3. SUPPLY AND DEMAND: PART ONE
		6	
		7	
		8	4. SUPPLY AND DEMAND: PART TWO
		9	
		10	18. THE THEORY OF DEMAND 24. EFFICIENCY AND REGULATION
11	17. ELASTICITY		
12			
テキスト、参考文献		評価方法	
Wessels, Waiter J., <i>Economics(3rd edn.)</i> , (Business Review Books) New York: Barron's Educational Series, Inc., 2000.		定期試験、報告および練習問題の総得点によって評価する。評価基準は第1回目の授業で説明する。	

01年以降(秋)	経済外国語 I b ・ 経営外国語 I b	担当者	米 山 昌 幸
00年以前(秋)	経済外国語 ・ 経営外国語 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、経済学部すべての学生にとって専門領域の基礎となる経済学を英文テキストの輪読を通して学びます。講義科目の「経済学」とは異なり、主体的な報告形式によって経済学への理解と興味がいっそう深まることが期待されます。「経済学 b」「マクロ経済学」とあわせて履修すると経済学の習得に効果的です。</p> <p>秋学期は、テキストのマクロ経済学の基礎的な範囲を輪読します。基本的には受講者の輪読で授業を進め、必要に応じて講義を取り入れて補足します。報告者はレジュメを作成しそのレジュメをもとに報告します。英文和訳よりもむしろ内容理解に重点を置き、毎回できるだけ多くの分量を読み進みたいと思います。</p> <p>受講者は予習、復習が不可欠ですし、欠席は禁物です。なお、テキストの各章末には練習問題と解答が用意されていますので自習に利用してください。</p>		週	内容(Chapter:テキストの範囲)
		1	5. MEASURING NATIONAL OUTPUT
		2	
		3	
		4	6. INFLATION AND UNEMPLOYMENT
		5	
		6	
		7	7. INTRODUCTION TO MACROECONOMICS: OUTPUT, GROWTH, AND CAPITAL
		8	
		9	
		10	8. AGGREGATE DEMAND AND SUPPLY: THE KEY TO MACROECONOMICS
11			
12			
テキスト、参考文献		評価方法	
Wessels, Waiter J., <i>Economics(3rd edn.)</i> , (Business Review Books) New York: Barron's Educational Series, Inc., 2000.		定期試験、報告および練習問題の総得点によって評価する。評価基準は第1回目の授業で説明する。	

01年以降(秋)	経済外国語 I a・経営外国語 I a (中国語)	担当者	全 載旭
00年以前(秋)	経済外国語・経営外国語 I (中国語)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では中国語の初級段階を終え、さらに中国語の学習を継続しようとする学生、特に中国経済に関心のある学生を対象にする。</p> <p>最初には、中国語の基礎的な文法を勉強する。中国経済関連記事を選び、それに沿って授業を進めるが必要に応じて講義もする</p>		<p>【秋学期週 2回授業】</p> <p>最初の授業時に説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて配布する。		出席状況と筆記試験によって評価する	

01年以降(秋)	経済外国語 I b・経営外国語 I b (中国語)	担当者	全 載旭
00年以前(秋)	経済外国語・経営外国語 I (中国語)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語や中国経済をもっと深く勉強する。</p> <p>中国経済が抱えているいろいろな問題を、原典から理解できるように授業を進めていきたい。</p> <p>経済・経営外国語 I b も秋学期の授業である。</p>		<p>【秋学期週 2回授業】</p> <p>最初の授業時に説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて配布する。		出席状況と筆記試験によって評価する	

01年以降(春)	経済外国語 I a・経営外国語 I a (留学生用)	担当者	ジム・ブローガン
00年以前(春)	経済外国語・経営外国語 I (留学生用)		
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の講義で説明する。		最初の講義で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の講義で説明する。		最初の講義で説明する。	

01年以降(秋)	経済外国語 I a・経営外国語 I a (留学生用)	担当者	ジム・ブローガン
00年以前(秋)	経済外国語・経営外国語 I (留学生用)		
講義目的、講義概要		授業計画	
最初の講義で説明する。		最初の講義で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
最初の講義で説明する。		最初の講義で説明する。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済・経営外国語Ⅱa 外国書講読(通年)	担当者	岡村 国和
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、外国の福祉制度、特に英国の福祉制度や社会保障のアウトラインを知ることにあります。できるだけ平易な文章を選びますが、福祉をめぐる一般用語は専門用語のように一部難解というか普段耳にしない単語、あるいは知っている単語でも決まった専門訳がある単語が出てきますので、注意が必要です。ここを乗り切れば、内容的には我が国も制度とあまり変わりませんので、比較的とりつきやすいと思います。その理由は、日本自体が英国の制度を多く取り入れているからです。</p> <p>なお、適宜トピックスなどを取り入れていきますので、関連書物(邦文)を図書館などで探して予習・復習することをお勧めします。</p>		<p>参考書などは随時紹介します。</p> <p>翻訳書がないテキストを使用しますが、関連した内容については邦文の書籍が多数ありますので、概要を知ることにはそれ程努力をしなくてもできるかと思います。</p> <p>ただし、福祉関連の単語は固有の意味を持った専門用語がありますので、解説時に特に注意して指示しますので、注意して下さい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回に用意しますが、履修者と相談して変更することも可能です。		出席を重視し、輪読時の発表回数や小テスト等で評価します。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済・経営外国語Ⅱb 外国書講読(通年)	担当者	岡村 国和
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期も基本的には春学期と同様の方法で講義を進めます。</p> <p>ここでは特に年金問題を中心に考えていきますが、福祉全般について興味がある履修者については相談の上、プレゼンテーションを導入することも考えています。</p> <p>なお、秋学期は特にCDを使って実践的な短文のリスニングの練習を随時行うことを計画していますので、希望があればその旨お知らせ下さい。</p>		<p>参考書などは随時紹介します。</p> <p>翻訳書がないテキストを使用しますが、関連した内容については邦文の書籍が多数ありますので、概要を知ることにはそれ程努力をしなくてもできるかと思います。</p> <p>ただし、福祉関連の単語は固有の意味を持った専門用語がありますので、解説時に特に注意して指示しますので、注意して下さい。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回に用意しますが、履修者と相談して変更することも可能です。		出席を重視し、輪読時の発表回数や小テスト等で評価します。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語Ⅱa.経営外国語Ⅱa 外国書講読(通年)	担当者	香取 徹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>管理会計は Management(経営) Accounting(会計) といいます。これは、経営と会計の両方の接点という意味です。会計の数値を経営に生かすことは大切です。授業の内容は決して難しくはありません。すこしでも英文会計の基本を理解してほしいと思います。</p> <p>授業では管理会計の基礎的なテキストを解説したうえで、読んでいこうと思います。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
資料は配布します。		出席 50 点、試験 50 点	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語Ⅱb.経営外国語Ⅱb 外国書講読(通年)	担当者	香取 徹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>管理会計は Management(経営) Accounting(会計) といいます。これは、経営と会計の両方の接点という意味です。会計の数値を経営に生かすことは大切です。授業の内容は決して難しくはありません。すこしでも英文会計の基本を理解してほしいと思います。</p> <p>授業では管理会計の基礎的なテキストを解説したうえで、読んでいこうと思います。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
資料は配布します。		出席 50 点、試験 50 点	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語Ⅱa・経営外国語Ⅱa 外国書講読(通年)	担当者	斉藤美彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 経済・金融関係の英文を読むのに不可欠な専門用語に慣れ、関連の専門書および雑誌・新聞が読め理解できるようなレベルになることを目標とする。</p> <p>(概要) テキストはアメリカの商業銀行の2003年の収益状況をFRBのエコノミストが分析したものである。これについてあらかじめ報告者を決め、担当箇所を訳してもらい、これに解説を加えるという形で授業を進める。なお、随時専門用語に関する小テスト(問題はあらかじめ教えておくことを予定)、指示したパラグラフの暗誦のテストを行う。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
Carlson, M. and Perli, R. [2004] "Profits and Balance Sheet Developments at U.S. Commercial Banks in 2003," <i>Federal Reserve Bulletin</i> , Spring 2004.		出席・担当箇所の発表・単語テスト・パラグラフ暗誦テストの結果を勘案して評価する。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語Ⅱb・経営外国語Ⅱb 外国書講読(通年)	担当者	斉藤美彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 経済・金融関係の英文を読むのに不可欠な専門用語に慣れ、関連の専門書および雑誌・新聞が読め理解できるようなレベルになることを目標とする。春学期から続けて履修している場合は単語力・英語力がアップしているはずであり、そのさらなる実力のアップを目標とする。</p> <p>(概要) テキストはシカゴ連銀のエコノミストがアメリカの商業銀行の長期的な収益状況について分析したものである。これについてあらかじめ報告者を決め、担当箇所を訳してもらい、これに解説を加えるという形で授業を進める。なお、随時専門用語に関する小テスト(問題はあらかじめ教えておくことを予定)、指示したパラグラフの暗誦のテストを行う。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
De Young, R. and Rice, T. [2004] "How do banks make money? The fallacies of fee income," <i>Economic Perspectives</i> , 4Q/2004.		出席・担当箇所の発表・単語テスト・パラグラフ暗誦テストの結果を勘案して評価する。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語Ⅱa・経営外国語Ⅱa 外国書講読(通年)	担当者	塩田尚樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済学に必要な英語と数学の基礎力の習得を目指します。使用するテキストは、経済学で使用する数学の基礎部分全体をほぼ網羅していますが、今期は特に『線形代数』にかかわる部分を集中的に取り上げる予定です。</p> <p>事前に担当者を決めておいて、毎回数人ずつ順番に報告してもらい、その質疑応答を中心にすすめていきます。担当者は必ず、発表用のレジュメを作成し、クラス全体に配布するようにして下さい。</p> <p>なお、授業方針の確認など重要な連絡をするため、第一回目の授業は必ず出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Matrices and Vectors 2 Matrix Operations 3 Notes on Vector Operations 4 Commutative, Associative, and Distributive Laws 5 Identity Matrices and Null Matrices 6 Transposes and Inverses 7 Conditions for Nonsingularity of a Matrix 8 Test of Nonsingularity by Use of Determinant 9 Basic Properties of Determinants 10 Finding the Inverse Matrix 11 Cramer's Rule 12 Leontief Input-Output Models 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Chiang, A.C. <i>Fundamental Methods of Mathematical Economics</i> , McGraw-Hill		発表と出席状況で評価します。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語Ⅱb・経営外国語Ⅱb 外国書講読(通年)	担当者	塩田尚樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済・経営外国語Ⅱaからの継続履修を前提とします。</p> <p>経済学に必要な英語と数学の基礎力の習得を目指します。使用するテキストは、経済学で使用する数学の基礎部分全体をほぼ網羅していますが、今期は特に『線形計画法』にかかわる部分を集中的に取り上げる予定です。</p> <p>事前に担当者を決めておいて、毎回数人ずつ順番に報告してもらい、その質疑応答を中心にすすめていきます。担当者は必ず、発表用のレジュメを作成し、クラス全体に配布するようにして下さい。</p> <p>なお、授業方針の確認など重要な連絡をするため、第一回目の授業は必ず出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 Some Examples of Linear Programming 2 General Formulation of Linear Programming 3 Convex Sets and Linear Programming 4 The Simplex Method 5 Finding the Extreme Points 6 Finding the Optimum 7 Further Notes on the Simplex Method 8 Duality 9 Economic Interpretation of a Dual 10 Activity Analysis: Micro Level 11 Activity Analysis: Macro Level 12 Some Concluding Remarks 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Chiang, A.C. <i>Fundamental Methods of Mathematical Economics</i> , McGraw-Hill		発表と出席状況で評価します。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済・経営外国語Ⅱa (中国語) 外国書講読 (中国語)	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では経済・経営外国語Ⅰ(中国語)を履修し、さらに中国経済に関心のある学生を対象にする。ただし経済・経営外国語Ⅰ(中国語)を履修しなくてもこの授業が履修できる中国語の能力があれば対象にする。授業の内容は履修者の中国語習得レベルに合わせて調整する。</p> <p>中国政治・経済に関する新聞記事を取り上げて授業を進めるが、必要に応じて講義もする。</p>		<p>【秋学期週2回開講】</p> <p>最初の授業時に説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
今田好彦・梁春香編『新聞で読む21世紀の中国』白帝社、2003年		出席状況と筆記試験によって評価する。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済・経営外国語Ⅱb (中国語) 外国書講読 (中国語)	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>最近の中国経済の動向や日中経済関係などの経済関連記事を選び、それに沿って授業を進める。</p> <p>講読資料の選択には学生諸君の提案も可能である。</p> <p>経済・経営外国語Ⅱbも秋学期の授業である。</p>		<p>【秋学期週2回開講】</p> <p>最初の授業時に説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
今田好彦・梁春香編『新聞で読む21世紀の中国』白帝社、2003年		出席状況と筆記試験によって評価する。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済外国語Ⅱa・経営外国語Ⅱa 外国書講読(通年)	担当者	野村容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 私たちの生活に身近な存在である租税に関する基礎的なテキストを題材にして、そうした個々の税金の仕組み、経済に与える影響、各国での実施状況などについて学んでいく。本講義を終了する頃には、英語の専門書の内容が辞書を引きながらでも何とか理解できるようになることを期待している。</p> <p>講義概要 あらかじめ報告者にその担当箇所を割当て、英文を日本語に訳してもらい、その邦訳に対してコメントを加える形で講義を進める。テキストを一区切り読み終えた段階で、それまでの内容や専門用語に関する小テストを行う。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業において指定、配布する。		出席、担当箇所の発表、小テストの結果を勘案して評価する。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済外国語Ⅱb・経営外国語Ⅱb 外国書講読(通年)	担当者	野村容康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 私たちの生活に身近な存在である租税に関する基礎的なテキストを題材にして、そうした個々の税金の仕組み、経済に与える影響、各国での実施状況などについて学んでいく。本講義を終了する頃には、英語の専門書の内容が辞書を引きながらでも何とか理解できるようになることを期待している。</p> <p>講義概要 あらかじめ報告者にその担当箇所を割当て、英文を日本語に訳してもらい、その邦訳に対してコメントを加える形で講義を進める。テキストを一区切り読み終えた段階で、それまでの内容や専門用語に関する小テストを行う。</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業において指定、配布する。		出席、担当箇所の発表、小テストの結果を勘案して評価する。	

01年以降(春)	マクロ経済学 a	担当者	塩田尚樹
00年以前(春)	マクロ経済学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>マクロ経済理論の標準的な内容の理解をめざします。新聞・雑誌などの経済記事を読むための基礎知識としても有効です。</p> <p>まず、「一国全体の経済活動をどのようにとらえるか」ということからスタートし、GDP・国民所得・物価指数といった経済指標を解説します。それから、これらの水準がどのような要因によって決まるのかということに目を向けて、貨幣や証券の需給との関係、さらには、労働市場との関係について検討します。なお、右の計画は最速の場合を想定しています。</p> <p>見慣れない記号や用語が多く登場すると思います。また内容も、はじめは抽象的に感じられるかもしれませんが、一度『ノル』と後は一本調子です。一気に見通しがよくなると思います。そこまで辛抱してください。</p> <p>「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので、授業態度のよくない人は退出してもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済活動 2. 国民経済計算 3. 国民所得と雇用 4. 消費需要 5. 投資需要 6. 貨幣 7. 証券市場と利子率 8. 均衡生産量と均衡利子率 9. 金融政策と財政政策(1) 10. 物価と総需要・総供給 11. 金融政策と財政政策(2) 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
菊本義治 他(1999)「マクロ経済学」勁草書房		定期試験で評価します。なお、講義中の私語などの迷惑行為で減点する場合があります。	

01年以降(秋)	マクロ経済学 b	担当者	塩田尚樹
00年以前(秋)	マクロ経済学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今年度の「マクロ経済学 a」の内容の理解を前提として進めます。履修しなかった人は、独習してください。</p> <p>春学期の進度に応じて授業計画を変更する場合がありますので、第一回目の授業には必ず出席してください。</p> <p>物価の変動を考慮した、より複雑なマクロモデルを取り上げます。また、開放経済への拡張、景気循環・経済成長や技術進歩といった、やや進んだトピックについても触れる予定です。</p> <p>なお、春学期同様、「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので、授業態度のよくない人は退出してもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 比較静学分析のための数学的準備 2. IS-LM モデルの復習 3. AD-AS モデルの復習 4. 国際収支と為替レート(1) 5. 国際収支と為替レート(2) 6. 国際マクロ経済政策(1) 7. 国際マクロ経済政策(2) 8. 経済変動の実際 9. 経済動学のための数学的準備 10. 成長経路の不安定性 11. 成長と技術進歩 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
菊本義治 他(1999)「マクロ経済学」勁草書房		定期試験で評価します。なお、講義中の私語などの迷惑行為で減点する場合があります。	

01年以降(春)	マクロ経済学 a	担当者	山本 美樹子
00年以前(春)	マクロ経済学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
マクロ経済学の基本である、国民所得とは何か？からはじめ、各種マクロ経済政策効果を分析する上で欠くことのできない分析ツールである IS-LM 曲線について学んでいく。		1、イントロダクション マクロ経済学とは 2 国民所得決定の理論 GDP, NDP, NI 3、三面等価の原則 貯蓄と投資の均衡 4、有効需要の基礎理論 5、均衡国民所得の決定 図による解釈 6、乗数理論 6、消費の理論 7、投資の理論 1、 8、投資の理論 2 9、財市場の均衡と IS 曲線 10、貨幣の需要 11、貨幣の供給 12、貨幣市場の均衡と LM 曲線	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定 講義初回に参考書を提示		講義時の小テスト(春学期に2, 3回実施予定) 学期末試験	

01年以降(秋)	マクロ経済学 b	担当者	山本 美樹子
00年以前(秋)	マクロ経済学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に学んだ基本的なマクロ経済学を基にして、応用的なことを学んでいく。		1、 IS-LM 同時均衡と財政政策 2、 財政政策のマクロ分析 3、 財政政策のマクロ分析 2 4、 中央銀行と金融政策 5、 総需要と総供給 1 6、 総需要と総供給 2 7、 インフレーションと失業 8、 消費者行動の理論 貯蓄のパラドックス 9、 国際貿易と海外直接投資 10、国際金融と開放マクロ経済学 1 11、国際金融と開放マクロ経済学 2 12、まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定 (講義時に提示)		講義時の小テスト (2, 3回を予定) と学期末試験	

01年以降(春)	ミクロ経済学 a	担当者	小林 進
00年以前(春)	ミクロ経済学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者すべてのレベルが必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論にも随時触れる予定である。参考書については(原則として本学図書館にあるもの)必要に応じて推薦し、受講者の一層の学習努力を促すようにする。</p>		<p>最初の講義のときにプリント配布 (完全競争を中心にして講義)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>使用しない。参考文献は講義の中で指示する。</p>		<p>学期末試験</p>	

01年以降(秋)	ミクロ経済学 b	担当者	小林 進
00年以前(秋)	ミクロ経済学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者すべてのレベルが必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論にも随時触れる予定である。参考書については(原則として本学図書館にあるもの)必要に応じて推薦し、受講者の一層の学習努力を促すようにする。</p>		<p>最初の講義のときにプリント配布 (不完全競争を中心にして講義)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>使用しない。参考文献は講義の中で指示する。</p>		<p>学期末試験</p>	

01年以降(春)	ミクロ経済学 a	担当者	藤山英樹
00年以前(春)	ミクロ経済学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義の目的> ミクロ経済学の基礎を習得する。より具体的には、第1に諸概念の直感的な理解を得る。第2に諸概念の抽象的な記号表現をマスターする。以上は専門課程に進み、応用をおこなうときに必要不可欠となる。</p> <p><講義の方針> できるだけ予備知識を前提とせず、授業内で自己完結した形で講義を行う。</p>		<p>1 イントロダクションおよび最大化の計算の仕方 2 独占市場：利潤を最大にする価格設定 3 ナッシュ均衡：駆け引きのとりえ方 4 ゲーム理論1(戦略形)：ジャンケン型のゲーム 5 ゲーム理論2(展開形)：時間をとまなうゲーム 6 他のゲーム理論の応用例 7 寡占市場1：生産量での競争 8 寡占市場2：価格での競争 9 不確実性について</p> <p>10 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。 11 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。 12 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書：『新しい教養のすすめ 経済学』大西・三土編 昭和堂		試験で評価する。	

01年以降(秋)	ミクロ経済学 b	担当者	藤山英樹
00年以前(秋)	ミクロ経済学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的・方針ともに、前期と同じである。秋期は完全競争市場についての講義をする。</p>		<p>1 イントロダクション 2 市場における需要と供給の作用 3 弾力性とその応用 4 需要、供給、および政府の政策 5 消費者、生産者、市場の効率性 6 応用：課税の費用 7 応用：国際貿易 8 外部性 9 公共財と共有資源</p> <p>10 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。 11 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。 12 時間が余れば補足的なトピックスを説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『マンキュー経済学Iミクロ編』N.グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社		試験で評価する。	

01年以降(春)	経済学史 a	担当者	黒木 亮
00年以前(春)	経済学史 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的 本講義の目的は、経済学の形成過程を追体験し、経済理論への理解を深めてゆくための手がかりとして、経済学者が実際に取り組んだ問題や社会的背景、時代的文脈を考察することである。</p> <p>講義の概要 近代自由主義社会の確立を基礎づけた17世紀の経済思想から、19世紀末の経済思想までを通覧する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 経済学史とはどのような学問か 2 ロックとヒューム 市場社会の成立を支えた思想 3 フランソワ・ケネー 人類最初のエコノミスト 4-5 アダム・スミス 市場社会の仕組みを解明した経済学の父 6 ジェレミー・ベンサム 「最大多数の最大幸福」を夢想した功利主義者 7 トーマス・ロバート・マルサス 市場社会における貧困と「人口の原理」 8 デイビッド・リカードウ 古典派経済学の体系化 9 ジョン・スチュアート・ミル 功利主義思想と古典派経済学の批判的統合 10-11 カール・マルクス 資本主義社会と古典派経済学への根源的批判 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
高哲男編『自由と秩序の経済思想』 名古屋大学出版会、2002.		レポート、期末試験。	

01年以降(秋)	経済学史 b	担当者	黒木 亮
00年以前(秋)	経済学史 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的 本講義の目的は、経済学の形成過程を追体験し、経済理論への理解を深めてゆくための手がかりとして、経済学者が実際に取り組んだ問題や社会的背景、時代的文脈を考察することである。</p> <p>講義の概要 19世紀末の経済思想から、われわれの社会を支え、将来を基礎づけるであろう経済思想までを通覧する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 春季から秋季への橋渡し 2 グスタフ・シュモラー 新歴史学派の社会政策思想 3 カール・メンガー 主観主義のミクロ経済学 4 ジェヴォンズとワルラス 経済学の数理科学化 5-6 アルフレッド・マーシャル 「冷静な頭脳と暖かい心」の経済学 7-8 ソースティン・ヴェブレン 大量生産・大量消費社会の制度分析 9 ヨゼフ・シュンペーター 企業者の創造的破壊が生み出すダイナミクス 10-11 ジョン・メイナード・ケインズ 貨幣経済のマクロ分析 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
高哲男編『自由と秩序の経済思想』 名古屋大学出版会、2002.		レポート、期末試験。	

01年度以降(春)	経済変動論 a	担当者	松本 正信
00年度以前(春)	経済変動論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目標</p> <p>経済成長と景気循環のメカニズムの理論的枠組を、現代ケインズ派・古典派ならびに現代マネタリスト・合理的期待形成学派・新古典派などの諸説について年間に渡って講義するなかで、全体として理解して貰うのが目標である。今日の世界経済や日本の国内経済をみると、景気循環のメカニズムの本質がどのように関連しているかを示唆することも本講の大事な役割だと考えているが、これは第2の目標としたい。</p> <p>講義概要</p> <p>詳しくは授業計画を御覧あれ。</p> <p>はじめに景気変動の歴史的素描とその時代々々の諸説を対称させてみて行き、景気変動の現代的意義を考えることから出発する。本論では「講義の目標」で示したような諸説を順次紹介しながら現代景気循環論を構成して行く積りである。</p> <p>また、諸説の随所にカオス動学的視点の解釈を試みたいと考えている。</p>		<p>以下の講義内容を春学期および秋学期の年間を通じて行なう。</p> <p>「経済成長と景気循環」に関する講義。ケインズならびにポスト・ケインズ学派以降今日までの有力諸説を中心としながら、現代経済の現状に即した理論分析を講義する。</p> <p>序論 経済変動論の現代的課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに——現代の経済成長と景気循環 2 経済変動の歴史的素描 産業革命前夜とアダム・スミス、産業革命と資本主義経済の勃興、資本主義経済の発展と問題 3 経済変動の諸要因：その学説史的素描 資本蓄積論、恐慌論にみるマルクス、革命論、動態的経済発展論にみるシュンペーター、長期停滞論 4 ケインズ経済思想とニュー・ディール、The Great Depression, New-Deal policy ; New-Economics、修正資本主義と混合経済体制、市場の不完全性、公共経済の拡大、社会保障、金本位制から管理貨幣制度へ、WTO体制と自由貿易、民主制政治と現代経済、ハーバー・ロードの前提崩壊 5 経済変動要因の理論的類別 6 有効需要拡大の「拡大」解釈—グローバル化— <ol style="list-style-type: none"> I 均衡成長とその不安定性論 1 経済成長の不可避的要素と必要性 古典的マルサスにみる循環的成長論と長期定常経済、アダム・スミスの市民社会の定常状態、シュンペーター的動態経済発展論、現代における経済成長の不可避的要素と必要性、ゼロ経済成長とその意義(経済変動論 bへ) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。私の「講義ノート」による。</p> <p>参考文献は講義の都度、指示する。</p>		春学期末定期試験によって評価する。	

01年度以降(秋)	経済変動論 b	担当者	松本 正信
00年度以前(秋)	経済変動論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
(経済変動論 a と同じ)		<p>(経済変動論 a より)</p> <ol style="list-style-type: none"> 2 ハロッド・ドマーの均衡成長理論 3 独立投資と誘発投資 4 外生要因と内生要因 II 景気循環のメカニズム <ol style="list-style-type: none"> 1 定常状態の経済 2 新投資の循環(更新投資循環) 3 在庫投資の循環 4 ヒックスの景気循環モデル 5 カレッキーの景気循環論 6 カルドアの景気循環論 7 景気変動への安定化要因 8 景気循環論の類型と循環の局面 9 景気循環と経済諸変量 10 景気の転換点と景気動向指数 III 経済成長と景気循環 <ol style="list-style-type: none"> 1 成長経済における「定型化された事実」 2 新古典派成長理論の登場 3 新古典派の経済成長理論 4 技術進歩と資本蓄積(技術移転と資本移動) IV 現代景気循環論 <ol style="list-style-type: none"> 1 経済ケインズ学派とマネタリスト・合理的期待形成学派 2 経済成長軌道は安定か不安定か 3 現代諸説の経済社会に対する考え方と経済制度の問題 4 これからの景気循環論への展望 	
テキスト、参考文献		評価方法	
(経済変動論 a と同じ)		秋学期末定期試験の結果に、春学期末試験の結果を加味して評価する。	

01年度以降(春) 00年度以前(春)	経済統計論 a 経済統計論 (通年)	担当者	松本 正信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済統計は現に経済現象のほとんどあらゆる方面に関連し、また実際調査もなされているから、これを全て講義の対象としたのではとても時間が足りないし、また大学の経済学講義の一環としての意義も乏しい。それらは実社会にあって実際に必要になってから参照すればよい。本講では「経済統計」をば、むしろその体系的、方法的ならびに経済理論的な対応において、つぎの三部構成でなされよう。すなわち経済統計学の理論的枠組を理解していただくことが、講義の狙いである。</p> <p>第Ⅰ部 指数の問題、その成り立ちと理論的根拠</p> <p>第Ⅱ部 国民所得統計と産業連関表</p> <p>第Ⅲ部 時系列分析と回帰分析</p> <p>以上、詳しくは授業計画を見られよ。ただし、講義の順序はこの通りとは限らない。また、例年時間的余裕があるので、教科書の付録にしたがって、付論「オペレーションズ・リサーチとゲームの理論」を現代の経済・経営の実際応用と経済戦略という有意義な視点で講話します。</p>		<p>以下の、序論を含めた19の項目を前期・後期を通じて1~3回にわたる講義で進める予定である。</p> <p>序 論 経済と経済統計と経済学</p> <p>第Ⅰ部 指数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 指数について(指数理論) 2 平均値について 3 物価指数と数量指数 4 消費者物価指数(付論:消費者選好理論とヴォルトケウィッチの関係式) 5 その他の物価指数の例と各種デフレーター 6 生産数量と生産指数—いくつかの代表例 <p>第Ⅱ部 国民所得統計と産業連関表</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国民所得統計と国民所得分析 2 社会会計の考え方とマトリックス(2の付論:コンピュータ通信システムの発達と国民総番号制) 3 新 SNA 4 産業連関表 5 産業連関分析とその応用 <p>(経済統計論 b へ)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト ・ 森田優三『経済統計読本』東洋経済新報社、1991年(21刷)</p> <p>参考文献 ・ 講義の都度指示</p>		春学期末定期試験によって評価する。	

01年度以降(秋) 00年度以前(秋)	経済統計論 b 経済統計論 (通年)	担当者	松本 正信
講義目的、講義概要		授業計画	
(経済統計論 a と同じ)		<p>(経済統計論 a より)</p> <p>第Ⅲ部 時系列分析と回帰分析</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 時系列データとその解析 2 時系列分析—トレンド(趨勢、傾向線)、循環変動、季節変動、不規則変動— 3 時系列分析の方法—移動平均法、趨勢線のあてはめ、他— 4 景気動向指数—ディフュージョン・インデックス— 5 回帰分析と回帰方程式 6 計量経済学の方法 7 構造推計と将来予測 <p>付 論 OR の話: オペレーション・リサーチとゲームの理論</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
(経済統計論 a と同じ)		秋学期末定期試験の結果に、春学期末試験の結果を加味して評価する。	

01年以降(春)	計量経済学 a	担当者	藤山英樹
00年以前(春)	計量経済学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>自習ではなかなか理解できない、理論的な側面を重視して、計量経済学を解説していきます。</p> <p>予備知識は前提としませんが、数学を多く使います。しかし、進度はなるべくゆっくりとし、理解することの楽しさを求めてゆきます。</p>		<p>平均と分散 確率変数・期待値 データと確率変数の関係 確率変数の変換 平均・分散・確率変数の行列表現 行列を用いての確率変数の変換</p> <p>最小2乗法 (ぴったりと線を引く方法) 残差平方和 行列の演算規則 行列の微分 逆行列 決定係数 (モデルの説明力について) 2変数における例</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし。		定期テストと授業中の質問カード	

01年以降(秋)	計量経済学 b	担当者	藤山英樹
00年以前(秋)	計量経済学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>自習ではなかなか理解できない、理論的な側面を重視して、計量経済学を解説していきます。</p> <p>予備知識は前提としませんが、数学を多く使います。しかし、進度はなるべくゆっくりとし、理解することの楽しさを求めてゆきます。</p>		<p>最小2乗法の不偏性 最小2乗法がBLUEである。 F検定について t検定について</p> <p>その他のいろいろな推定の際の工夫。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし。		定期テストと授業中の質問カード	

01年以降(春)	経済政策論 a	担当者	阿部正浩
00年以前(春)	経済政策論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、法と経済に関する様々なトピックスについて講義をします。</p> <p>日々様々な経済問題が司法の場で解決されています。たとえば、マンション景観問題や知的財産所有権の問題などですが、これらには法学と経済学の狭間に重要な問題をはらんでいると考えられています。</p> <p>この授業では、法と経済、および関連する諸政策を分析するための基礎的枠組みを講義します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 情報の経済学 I 3. 情報の経済学 II 4. モラルハザード I 5. モラルハザード II 6. 予備日 7. アドバースセクション I 8. アドバースセクション II 9. アドバースセクション III 10. インセンティブ契約 I 11. インセンティブ契約 II 12. インセンティブ契約 III 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。		授業中のレポートと期末テストによる。	

01年以降(秋)	経済政策論 b	担当者	阿部正浩
00年以前(秋)	経済政策論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>上記参照のこと。なお、春学期の授業を履修していない者は、秋学期の履修を原則として認めない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 法と経済学入門 2. コミットメントと完備契約 I 3. コミットメントと完備契約 II 4. 情報開示 I 5. 情報開示 II 6. 予備日 7. 契約法の経済学 I 8. 契約法の経済学 II 9. 契約法の経済学 III 10. 不完備契約とコーポレート・ガバナンス I 11. 不完備契約とコーポレート・ガバナンス II 12. 不完備契約とコーポレート・ガバナンス III 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。		授業中のレポートと期末テストによる。	

01年以降(春)	環境政策論 a	担当者	塩田尚樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>環境政策の手段の有効性について、ミクロ経済学の立場から検討します。環境問題の具体的なトピックとしては、主として地球温暖化問題を取り上げます。</p> <p>環境税や排出量取引のような「経済的」手段が、直接規制などの「非経済的」手段と比べてどう優れているのかが主要論点です。ここでは、ミクロ経済学で学ぶ資源配分の効率性についての考え方が基礎になります。</p> <p>なおこの講義では履修者の予備知識に配慮し、利用するミクロ経済理論の抽象度を二段階に分ける予定です。春学期は、主に図を使って理論を展開します。企業行動・家計行動について、まず極限概念をまったく使用せずに解説を試み、その後ミクロ経済学でおなじみの限界費用・限界便益といった概念との関連について解説する予定です。</p> <p>「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので、授業態度のよくない人は退出してもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 地球温暖化問題の概説(1) 2 地球温暖化問題の概説(2) 3 地球温暖化問題の概説(3) 4 環境問題の経済学的把握 5 利潤と単位当たり変化量のグラフ化 6 企業行動(1) 7 企業行動(2) 8 環境汚染による家計の被害 9 市場均衡と社会的最適汚染量 10 単位税の導入 11 汚染削減費用の最小化 12 環境税による環境政策とその限界 	
テキスト、参考文献		評価方法	
塩田尚樹「環境税の経済学的基礎」(ホームページよりダウンロード可能にする予定)		定期試験で評価します。なお、講義中の私語などの迷惑行為で減点する場合があります。	

01年以降(秋)	環境政策論 b	担当者	塩田尚樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今年度の「環境政策論 a」の内容の理解を前提として進めます。履修しなかった人は、独習してください。</p> <p>「環境政策の手段の有効性について、ミクロ経済学の立場から検討する」というテーマは春学期と全く同じですが、議論の一般性を追求するため、利用するミクロ経済理論が少し抽象的になります。分析ツールとして、「微分による関数の極値問題の解法」などの数学的概念を使用します。履修者の知識に合わせて数学的準備の時間を設定しますので、第一回目の授業には必ず出席してください。なお、春学期の進度に応じて授業計画を変更する場合があります。</p> <p>春学期同様、「各人の授業を受ける権利」は「他の人の授業を受ける権利」を侵害しない範囲内で行使されるべきだと考えますので、授業態度のよくない人は退出してもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 最適化問題の解法(1) 2 最適化問題の解法(2) 3 企業行動(1) 4 企業行動(2) 5 家計行動(1) 6 家計行動(2) 7 市場均衡 8 資源配分の効率性(1) 9 資源配分の効率性(2) 10 単位税の導入 11 汚染削減費用の最小化(1) 12 汚染削減費用の最小化(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
履修者の予備知識を確認し、講義中に指示します。		定期試験で評価します。なお、講義中の私語などの迷惑行為で減点する場合があります。	

01年以降(春) 00年以前(春)	日本経済史 a 日本経済史 (通年)	担当者	奈倉文二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、戦前(第二次大戦前)日本における独特の資本主義成立・発展過程を述べながら、とくに財閥などの大企業システムはどのように成立し、どのような特徴をもっていたのか、を明らかにする。</p> <p>国際環境との関連に留意しながら、日本資本主義の成立発展過程(とくに独占資本形成確立過程)を概観した上で、1920年代を中心に「戦前日本型大企業システム」の特徴を明らかにし(全体構造及び財閥・紡績独占・国家資本の類型別)、さらに鉄鋼独占についてやや詳述する。</p> <p>学生諸君の講義に対する参画意欲を引き出すため、極力質疑応答方式を取り入れるので積極的に応じてもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 幕末維新期の経済社会(発展段階と構造) 3 日本資本主義の形成(1870年代~90年代) 4 同(その2「上からの資本主義化」を中心に) 5 資本主義の確立と帝国主義転化(1900年前後) 6 独占資本の確立過程(1907年頃~1920年代) 7 同(その2) 8 戦前日本型大企業システム(財閥・紡績独占・国家資本) 9 同(その2) 10 同(その3) 11 鉄鋼独占(その1) 12 同(その2) <p>(項目・順序は変更することがあり得る。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
山本・寺谷・奈倉『近代日本経済史』有斐閣(新書)。その他適宜参考文献を指示し、講義資料も必要に応じて配付する。		筆記試験。 質疑応答への積極的参画も考慮する。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	日本経済史 b 日本経済史 (通年)	担当者	奈倉文二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、昭和恐慌・準戦時経済及び戦時経済から「戦後改革」を経て「高度成長」に至る日本資本主義の構造変化・発展過程を述べながら、とりわけ日本独特の大企業システムがいかなる歴史過程のもとで、どのような特徴をもって形成されてきたのかを明らかにする。</p> <p>「日本経済史 a」の受講をしていることが、講義内容理解の上で望ましい。</p> <p>また、「日本経済史 a」同様、極力質疑応答方式を取り入れるので積極的に応じてもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 金解禁・昭和恐慌と準戦時経済(1931~36) 3 旧財閥の転換と新興コンツェルン 4 戦時統制経済(1937~45)の特徴 5 戦時「重化学工業化」と独占資本 6 戦後改革と財閥解体 7 日本資本主義の復興・再建 8 企業集団の形成 9 日本経済の「高度成長」と寡占資本間競争 10 重化学工業化と鉄鋼独占 11 企業集団の発展 12 企業集団体制の定着(と変容) <p>(項目・順序は変更することがあり得る。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
山本・寺谷・奈倉『近代日本経済史』有斐閣(新書)。奥村宏『最新版 法人資本主義の構造』岩波(現代文庫)、その他。講義資料も必要に応じて配付する。		筆記試験。 質疑応答への積極的参画も考慮する。	

01年以降(春)	日本社会史 a	担当者	新井孝重
00年以前(春)	日本社会史(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>◎ 十四世紀の物質文化と東アジア交通との関係を論ずる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バサラ大名の美意識 ・ 大陸からの経済の波 ・ ユニークな「元」帝国 ・ にぎわう東シナ海 ・ 貿易の構造 ・ 禅律文化の国際性 		<ol style="list-style-type: none"> 1 大名たちの競争的な浪費 2 「自由狼藉」・綾羅錦繡・唐物 3 新安沖沈没船に積まれていた物資 4 中国経済の世界規模の拡がり 5 拡がりの起動力となった「元」 6 海の交通、泉州・寧波に浮かぶ船 7 中国の船・日本の船 8 戦争と貿易の共存 9 再び新安船から考える 「寺社造営料唐船」 10 貿易を担う組織 11 中国に渡る日本の僧 12 禅文化が日本列島にもたらしたもの 	
テキスト		評価方法	
村井章介編『南北朝の動乱』(吉川弘文館、2003年)		出席状態	試験成績

01年以降(秋)	日本社会史 b	担当者	新井孝重
00年以前(秋)	日本社会史(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>◎ 十四世紀における悪党と天皇子息たちの動きを内乱史の中で観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宮(みや)の武力の淵源 (悪党狼藉) ・ 宮の武力の爆発 (元弘内乱) ・ 宮の武力の終息 (幕府成立) ・ 網野史学を読む 		<ol style="list-style-type: none"> 1 「武勇」のかたち 2 〈悪〉の変化、〈悪〉の増殖 3 権力を飲み込む 4 楠木乱国 5 大衆に依拠する天皇(そのⅠ) 6 大衆に依拠する天皇(そのⅡ) 7 動きを止める武士 8 武士の生き残り策(そのⅠ) 9 武士の生き残り策(そのⅡ) 10 列島に散る宮たち 11 観応擾乱期の常陸親王 12 中世の権威と卑賤観をめぐって 	
テキスト		評価方法	
村井章介編『南北朝の動乱』(吉川弘文館、2003年)		出席状態	試験成績

01年以降(春)	西洋経済史 a	担当者	御園生 眞
00年以前(春)	西洋経済史 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>イギリスは、産業革命を達成して19世紀中葉に世界経済の中心国となる。しかし、19世紀後半になるとイギリス経済は衰退過程に入る。講義では、このイギリス経済の衰退について、多面的に考えてみたい。</p> <p>(注意)</p> <p>最新のシラバスは、第1回の授業で配布するので履修者は必ず出席すること。</p> <p>授業のマナーを守り遅刻しない。</p> <p>このシラバスの予定は変更される場合がある。</p> <p>試験は論述問題で行う。</p>		<p>1 ガイダンスと序論</p> <p>2～5 「世界の工場」としてのイギリス</p> <p>6～9 イギリス経済衰退の諸要因</p> <p>10～12 19世紀後半の世界経済とイギリス</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回の授業で説明する。		単位認定の条件は、8回以上の授業出席と試験成績60点以上の両方を満たすこと。	

01年以降(秋)	西洋経済史 b	担当者	御園生 眞
00年以前(秋)	西洋経済史 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>イギリス経済を19世紀後半から衰退に向かわせた要因の1つは、ドイツ、アメリカなどの後発諸国の急速な工業化であった。講義では、後発諸国の工業的発展を対象として、その特徴と問題点を考えてみたい。昨年度はドイツを対象として講義した。</p> <p>(注意)</p> <p>最新のシラバスは第1回の授業で配布するので履修者は必ず出席すること。</p> <p>授業のマナーを守り遅刻しない。</p> <p>このシラバスの予定は変更される場合がある。</p> <p>試験は論述問題で行う。</p>		<p>1 ガイダンスと序論</p> <p>2～4 後発国工業化の前提条件</p> <p>5～8 後発国の工業化過程とその特徴</p> <p>9～12 後発国の工業化の問題点</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
第1回の授業で説明する。		単位認定の条件は、8回以上の授業出席と試験成績60点以上の両方を満たすこと。	

01年以降(春)	国際経済論 a	担当者	益山光央
00年以前(春)	国際経済論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際経済を理解するのに最低限必要と思われる基本的事項を講義します。講義の中心は貿易理論、国際貿易の一般均衡、貿易政策となります。講義で扱う内容は、よりすすんだ諸理論を学ぶのに必須の事項なので厳密な展開を心がけたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 入門 2 リカード的比較優位説 3 ヘクシャー・オリーオン定理 4 ヘクシャー・オリーオン定理 5 国際貿易の一般均衡 6 国際貿易の一般均衡 7 経済成長と貿易 8 国際生産要素移動 9 国際生産要素移動 10 関税・輸入数量制限 11 関税・輸入数量制限 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
大山道広・伊藤元重『国際貿易』 岩波書店		定期試験80%、出席20%	

01年以降(秋)	国際経済論 b	担当者	益山光央
00年以前(秋)	国際経済論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に扱った貿易理論とともに国際経済学の柱である国際収支調整メカニズムに関連する事柄を学びます。</p> <p>国際収支の赤字、黒字からはじまり、だんだんと高度な内容へと移行します。すべて基本的内容なので、きちんと理解する必要があります。</p> <p>前期の国際経済論 a を履修しているほうがより理解が深まります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際収支と国民所得勘定 2 国際収支と国民所得勘定 3 外国為替市場 4 外国為替市場 5 外国為替市場 6 固定相場制下の所得決定 7 固定相場制下の所得決定 8 変動相場制下の所得決定 9 変動相場制下の所得決定 10 国際収支と財政・金融政策 11 国際資本移動と財政・金融政策 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		定期試験80%、出席20%	

01年以降(春)	国際金融論 a	担当者	山本 美樹子
00年以前(春)	国際金融論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
国際金融論をまなぶうえで基本となる事柄についての説明をしていく。		1、 イントロダクション 2、 国際収支構造 1 国際収支表 3、 2 経常収支が黒字であることの意味 4、 3 経常収支の金融的側面 5、 4 Jカーブ効果 6、 外国為替市場と為替レート 1 外国為替相場 7、 2 リスクヘッジ 8、 3 投機(i) 9、 投機(ii) 10、 4 介入 11、 外国為替相場決定の理論 1 ASETアプローチ 12、 2、 フローアプローチ 購買力平価説	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定 講義初回に提示		講義時の小テストと 学期末試験	

01年以降(秋)	国際金融論 b	担当者	山本 美樹子
00年以前(秋)	国際金融論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に学んだことを基礎として、国際金融論にとって応用的なことを中心に抗議する。		1、 固定相場制と通貨統合 1 2、 固定相場制と通貨統合 2 3、 開放マクロ経済学 1 外国貿易乗数 4、 2 固定相場制の開放マクロ経済政策 5、 3 マンデルフレミングモデル 6、 4、 変動相場制の開放マクロ経済政策 7、 5 国際政策協調 8、 国際資本移動 1 国際資本取引の拡大 9、 2 金融デリバティブ取引 1 10 3 禁輸デリバティブ取引 2 11、 4 累積債務問題と通貨危機 12、 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定 講義時に提示		講義時の小テストと 学期末試験	

01年度以降(春) 00年度以前	日本経済論 a 日本経済論 (通年)	担当者	波形 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現在の日本経済を理解するには、その生い立ちを知っておくことが重要である。とりわけ高度成長期についての知識が不可欠である。そのため「日本経済論 a」では、高度成長期における日本経済の問題を中心に講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 戦後民主化政策と経済改革 3. 戦後経済復興対策 4. ドッジ・ラインとシャープ勧告 5. 朝鮮戦争と日本経済 6. 高度成長時代の到来 7. 高度成長の構造 8. 高度成長の精神的土台 9. 高度成長の時代背景 10. 高度成長の終焉 (1) ドル・ショック 11. 高度成長の終焉 (2) オイル・ショック 12. 日本経済の構造転換 	
テキスト、参考文献		評価方法	
主に統計表などのプリントを配布。		学期末試験の結果(通年講義は春期・秋期の合計)で評価する。相対評価方法を採用。	

01年度以降(秋) 00年度以前	日本経済論 b 日本経済論	担当者	波形 昭一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1970年代後半から日本経済をめぐる内外の諸環境は大きく構造転換し、その結果として現在の日本経済がある。したがって「日本経済論 b」では、春学期の講義をふまえて、70年代後半からの日本経済の構造変化、その結果としてのバブル経済と「失われた10年」について論述し、そのうえで最近における日本経済の再建論議の可否を議論してみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. スタグフレーションとトリレンマ 2. レーガノミクス 3. グローバル化の波 4. 日本経済のバブル化 5. バブル経済の発生原因 6. バブル崩壊と複合不況 7. 「失われた10年」(1) 8. 「失われた10年」(2) 9. 景気対策か構造改革か(1) 10. 景気対策か構造改革か(2) 11. 「第三の道」論 12. まとめ 日本経済の現状 	
テキスト、参考文献		評価方法	
主に統計表などのプリントを配布		学期末試験の結果(通年講義は春期・秋期の合計)で評価する。相対評価方法を採用。	

01年以降(春) 00年以前(春)	アメリカ経済論 a 北アメリカ経済論 (通年)	担当者	本田浩邦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代アメリカ経済の発展を、その歴史、理論、政策の諸側面から講義します。</p> <p>春学期では、1930年代の大恐慌とニューディールから戦後50年代までをお話します。アメリカの大恐慌には多くの未解明の問題が含まれており、今日でも多くの経済学者がこの時代の解明に取り組んでいます。現在の経済政策をめぐるさまざまな論争でも頻繁に言及される特別な時代であり、この時代をよく理解することは、現代の経済学の骨格を理解する上でとても重要だと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 受講上の注意 評価方法の説明 2 大恐慌とニューディール——発生と展開 3 大恐慌とニューディール——発生と展開 4 大恐慌とニューディール——新しいシステム 5 大恐慌とニューディール——新しいシステム 6 大恐慌とニューディール——主要な論争点 7 大恐慌とニューディール——主要な論争点 8 戦時経済体制 9 ケインズ経済学 10 戦後第1期：戦後成長体制 11 戦後第1期：戦後成長体制 12 現代アメリカ経済史研究の課題——まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストなし。適宜プリントを配布します。</p> <p>参考文献 (1) 平井規之他『概説アメリカ経済』有斐閣、1994年 (2) W・カール・ビブン『誰がケインズを殺したか——物語で読む現代経済学』斎藤精一郎訳、日経ビジネス文庫、2002年 (3) ハーバート・スタイン『大統領の経済学——ルーズベルトからレーガンまで』土志田征一訳、日本経済新聞社、1985年</p>		定期試験による。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	アメリカ経済論 b 北アメリカ経済論 (通年)	担当者	本田浩邦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>戦後60年代から今日までのアメリカ経済の発展をお話しします。戦後のアメリカ経済は1960年代末を境にいろいろな経済指標が悪化します。</p> <p>前半は、長期的な視点に立ってこの時期にどのような変化が起こったのか、またそれらは今日から見てどのような意味を持つのかを考えたいと思います。後半は、現在のアメリカ経済の問題をさまざまな側面から見て行きたいと思います。少し難しい話題も出てきますが、アメリカ経済の発展や現在の構造の大まかな輪郭をつかんでもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のアウトライン、受講上の注意 評価方法の説明 2 冷戦体制から60年代「ゆたかな社会」へ 3 ニクソンショックと低成長期への移行 4 レーガノミクス 5 プラザ合意とその後の国際マネーフロー 6 1990年代のマクロ経済 7 産業基盤の変化とIT革命 8 金融資本市場と制度改革 9 財政政策と債務拡大 10 所得格差の長期的変化 11 アメリカ経常収支赤字の持続可能性 12 現代アメリカ経済論の課題——まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストなし。適宜プリントを配布します。</p> <p>参考文献 (1) 平井規之他『概説アメリカ経済』有斐閣、1994年 (2) W・カール・ビブン『誰がケインズを殺したか——物語で読む現代経済学』斎藤精一郎訳、日経ビジネス文庫、2002年 (3) ハーバート・スタイン『大統領の経済学——ルーズベルトからレーガンまで』土志田征一訳、日本経済新聞社、1985年</p>		定期試験による。	

01年以降(春)	ラテンアメリカ経済論 a	担当者	松本栄次
00年以前(春)	ラテンアメリカ経済論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>自然的基盤、歴史的背景、政治的社会的特性などの分析の上に立って、ラテンアメリカ全域の経済の特性について多面的に考察する。</p> <p>ラテンアメリカ経済の特徴をもたらした自然的基盤と歴史的背景などについて概観したうえで、ラテンアメリカ経済の発展過程について通覧する。さらに、変革期にある現代のラテンアメリカ経済の状況、およびこの地域の社会・経済が抱える諸問題とその将来展望について考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ラテンアメリカ (LA) の地域と経済の特徴 2 LA 経済の自然的基盤(1)土地条件と資源 3 LA 経済の自然的基盤(2)農牧林業環境 4 LA 経済の歴史的背景(1)先住民文化とその影響 5 LA 経済の歴史的背景(2)ヨーロッパ人による植民地の開発 6 LA 経済の歴史的背景(3)住民と社会の形成 7 LA 経済の発展過程(1)植民地期の経済 8 LA 経済の発展過程(2)輸出経済期の経済 9 LA 経済の発展過程(3)輸入代替工業化期の経済 10 現代の LA 経済(1)債務危機と失われた 10 年 11 現代の LA 経済(2)新自由主義経済とラテンアメリカ 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		定期試験の成績と出席状況を総合して行う。	

01年以降(秋)	ラテンアメリカ経済論 b	担当者	松本栄次
00年以前(秋)	ラテンアメリカ経済論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>自然的基盤、歴史的背景、政治的社会的特性などの分析の上に立って、多面的に、国および地方レベルの地域の経済について考察する。</p> <p>おもに、ラテンアメリカ経済の一つの中核をなすブラジルをとりあげ、その特色のある産業経済の発展過程および諸地域における経済活動の特質を考察し、同国の経済発展の現状と問題点を指摘する。また、アマゾン川流域地域 (アマゾン) を事例としてとりあげ、その自然環境・住民と社会・地域経済の特性、および国際的関心の高い経済開発と環境保全の調和の問題について考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ブラジル経済の地理的基盤 2 ブラジル産業史の特質:ブームとバーストの産業サイクル 3 現在のブラジル経済と社会 4 ブラジルの諸地域と経済(1)先進経済地域 5 ブラジルの諸地域と経済(2)開発途上地域 6 アマゾニアの自然生態的基盤 7 アマゾニアの住民と居住の歴史 8 アマゾニアにおける地域開発政策 9 アマゾニアにおける地域開発と環境問題(1)熱帯林の消失 10 アマゾニアにおける地域開発と環境問題(2)その他の環境問題 11 アマゾニアにおける経済開発と生態系保全調和の道 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
M. ゲールディング他著(山本・松本訳)『恵みの洪水-アマゾン沿岸の生態と経済』同時代社、2001年		定期試験の成績と出席状況を総合して行う。	

01年度以降(春)	西ヨーロッパ経済論 a	担当者	大西 健夫
00年度以前(春)	西ヨーロッパ経済論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2004年に25カ国に拡大したEUは、西ヨーロッパのみならず東欧・中欧を含む世界最大規模の地域経済共同体である。</p> <p>先ず、世界経済秩序を概説した後、そこにおける地域経済統合の位置付けをNAFTA, AFTA, EUなどを例として解説する。</p> <p>その上で、世界経済におけるヨーロッパ経済の位置付け、その発展と構造を分析し、ヨーロッパ経済が抱える諸問題を説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 戦後世界経済秩序の形成 2. ヨーロッパ経済の形成 3. 国際貿易秩序 4. 国際決済秩序 5. GATT・WTOにおける地域経済統合 6. 貿易取引と地域経済統合 7. 国際収支表にみるヨーロッパ経済 8. ヨーロッパの産業構造 9. ヨーロッパの主要企業 10. ヨーロッパの雇用問題 11. ヨーロッパの金融市場 12. 統合ヨーロッパ経済 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示する		期末に論文形式での試験を行い、評価する	

01年度以降(秋)	西ヨーロッパ経済論 b	担当者	大西 健夫
00年度以前(秋)	西ヨーロッパ経済論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>2004年に25カ国に拡大したEUは、西ヨーロッパのみならず東欧・中欧を含む世界最大規模の地域経済共同体である。</p> <p>ヨーロッパの経済安全保障体制として発足した石炭鉄鋼共同体が地域経済共同体へと発展していく過程を概観し、単一通貨ユーロ導入により超国家的金融政策の一元化にまで進展したEUの構造と機能を解説する。</p> <p>先ず、ECからEUまでの統合過程を概説し、さらに、共同市場の拡大と深化がヨーロッパ経済を活性化してゆくメカニズムを分析する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 戦後世界経済秩序の形成 2. ヨーロッパ経済の形成 3. ヨーロッパ統合の理念 4. 石炭鉄鋼共同体 5. 関税同盟と共通政策 6. 域内貿易の進展 7. 単一欧州議定書と共同市場の完成 8. マーストリヒト条約によるEU 9. 経済・通貨同盟 10. EUの組織機構 11. EUの法的地位 12. EUの拡大と深化 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業で指示する		期末に論文形式での試験を行い、評価する	

01年以降(春)	東アジア・中国経済論 a	担当者	駒形 哲哉
00年以前(春)	東アジア・中国経済論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、その動向が、今や世界の経済に大きなインパクトをもたらすようになった中国経済を中心に論ずる。今年度は、通論的な地域経済論とは趣を変え、東アジアの経済成長と中国の体制移行をとともによく体現していると考えられる「中小企業」「産業集積」を切り口に、論じていく予定である。雇用の場、起業家の自己実現の場、市場の変化へ迅速で弾力的な対応が可能な供給者として、中小企業は市場経済の存続と発展に不可欠の存在である。ただし、現在の中国では、中小企業の役割・性質は市場経済におけるそれにとどまらず、移行期に固有の役割や問題を含んでいる。そこでこの講義では、中国における中小企業の現状、政策と問題点について、主に実際に調査を行なった個別事例にもとづきながら論じていく。</p>		<p><中国の中小企業></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ中小企業なのか? ①—計画から市場へ 2. なぜ中小企業なのか? ②—中小企業と民営企業 3. なぜ中小企業なのか? ③—グローバル化の下で 4. 村の経済と企業①—人民公社と農村改革 5. 村の経済と企業②—対外開放と市場経済化 6. 村の経済と企業 ③—公的所有の限界と社会変容 7. 産業のつながりと中小零細企業 ①—アジア最大の市場 8. 産業のつながりと中小零細企業 ②—地域産業連関 9. 産業のつながりと中小零細企業 ③—持続的発展の課題 10. 体制改革と「産業集積」 ①—世界の自転車産地・中国 11. 体制改革と「産業集積」 ②—国有企業の分解と民営企業の形成 12. 体制改革と「産業集積」 ③—北上する産地と東アジア 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>拙著『移行期・中国の中小企業—産業発展と地域変容』(仮題) 税務経理協会, 2005年(刊行予定) その他必要に応じて資料を配布する。</p>		<p>毎回の出席と学期末の試験の結果による。</p>	

01年以降(秋)	東アジア・中国経済論 b	担当者	全 載旭
00年以前(秋)	東アジア・中国経済論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、今や世界の一つの極をなすようになった中国・東アジア経済の現状を実態にそくして論ずる。今年度は、通論的な地域経済論とは趣を変え、東アジアの経済成長と中国の体制移行をとともによく体現していると考えられる「中小企業」を切り口に、論じていく予定である。雇用の場、起業家の自己実現の場、市場の変化への迅速で弾力的な対応が可能な供給者として、中小企業は市場経済の存続と発展に不可欠の存在であり、現在の東アジアにおける国際分業のありようにも中小企業は大きな影響を与えている。そこでこの講義では、移行期にある中国における中小企業の現状、政策と問題点を、中国大陸のほか、台湾・韓国など、東アジア諸地域の中小企業の状況も参照しつつ論じていく。可能であれば、東アジア・中国経済論 a とあわせて履修されたい。</p>		<p><中国の中小企業と東アジアの中小企業></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中国：東アジア経済と中小企業 2. 中国：商品経済のエッセンスとネットワーク 3. 中国：商品経済のエッセンスと計画経済の成果との結合 4. 中小企業金融の現実① 5. 中小企業金融の現実② 6. 台湾：中小企業中心の経済発展① 7. 台湾：中小企業中心の経済発展② 8. 台湾：中小企業中心の経済発展③ 9. 韓国：財閥体制と中小企業 10. 韓国：財閥体制の解体と中小企業① 11. 韓国：財閥体制の解体と中小企業② 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>駒形哲哉『移行期・中国の中小企業—産業発展と地域変容』(仮題) 税務経理協会, 2005年(刊行予定) その他必要に応じて資料を配布する。</p>		<p>毎回の出席と学期末の試験の結果による。</p>	

01年以降(春) 00年以前(春)	オセアニア経済論 a 東南アジア・オセアニア経済論(通年)	担当者	森 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、オーストラリアを中心に取り上げる。但し、オーストラリアを理解するために必要な場合は、他のアジア太平洋諸国についても言及する。</p> <p>近年、オーストラリアは、先進国の中でトップクラスの好調な経済運営を続ける国として、また、自国およびアジア太平洋地域の貿易・投資の自由化に熱心な国として、さらに、多様な文化の維持、発展に努め、世界で最も人気の高い移住先国、留学先としても知られている。しかし、同国は70年代中期から80年代にかけては、経済パフォーマンスの最も悪い国の一つであった。また、かつては名だたる保護貿易主義国であり、有色人種移民を排除する人種差別国家でもあった。オーストラリアがこのような政策転換を行った理由は何か。新政策はどのような変化をもたらしてしてきたのか。この講義では、このような課題について、経済的視点を中心に据えながら、自然環境、歴史条件、文化的背景、政治社会体制、地政学的環境など、多様な切り口から解明する。これらの切り口の中で、春学期においては、自然条件、歴史条件、および、1970年代初頭までの、文化的背景について取り上げる予定である。</p>		<p>1 講義の目的。地域研究の意義。ビデオ教材によるオーストラリア社会概観。</p> <p>2 総論：オーストラリア社会構造変化の大きな流れ(1)</p> <p>3 総論：オーストラリア社会構造変化の大きな流れ(2)</p> <p><注意> この「総論」は、年間を通じるこの講義の基本的なメッセージ(仮設)を述べるもので特に重要。</p> <p>4 歴史：流刑囚労働と羊毛産業の発展</p> <p>5 歴史：金発見とその影響(1)</p> <p>6 歴史：金発見とその影響(2)</p> <p>7 歴史：平等主義、仲間主義の起源。 ：19世紀に30年続いた好況</p> <p>8 歴史：1890年代の恐慌とその影響</p> <p>9 歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで(1)</p> <p>10 歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで(2) 歴史：経済ナショナリズム</p> <p>11 文化：エトス、アイデンティティ問題</p> <p>12 文化：アボリジニ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリント中心。なお、テキストとしては使用しないが、次の書物は講義を理解する上で有用。竹田いさみ。森健編『オーストラリア入門』東大出版会 2005年(第5刷)</p>		定期試験	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	オセアニア経済論 b 東南アジア・オセアニア経済論(通年)	担当者	森 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的と概要については春期「オセアニア経済論 b」を参照。秋期では、春期に引き続き、多文化社会政策、政治社会体制、対外経済政策、産業構造変化、日豪関係などを切り口としてオーストラリアを分析する。なお、この講義は事実上、1年間で完結しているため、春期の講義を履修しておくこと。)</p>		<p>1 前期講義の復習を兼ねたオーストラリア歴史概観</p> <p>2 移民政策の変化</p> <p>3 女性進出と家族</p> <p>4 多文化主義社会政策導入の経緯</p> <p>5 反多文化主義の流れ</p> <p>6 政治システム</p> <p>7 1970年代以前の主要政策体系</p> <p>8 ホーク＝キーティング労働党政権の政策(1)</p> <p>9 ホーク＝キーティング労働党政権の政策(2)</p> <p>10 ハワード保守連立政権の政策(1)</p> <p>11 ハワード保守連立政権の政策(2)</p> <p>12 日豪関係</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
(春期「オセアニア経済論 a」に同じ)		(春期「オセアニア経済論 a」に同じ)	

01年以降(春) 00年以前(春)	アフリカ経済論 a 中東・アフリカ経済論	担当者	原口武彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 世界の中でも今日もっとも経済的に停滞しているとされるアフリカ地域(特にサハラ以南アフリカ)を、経済面のみ限定せず、政治・社会・歴史・文化面も加えて多角的に捉えて、まずこの地域の歴史と現状についての正確な基礎的知識を獲得し十分に理解した後、今日アフリカが当面している諸問題について経済問題を中心に考察する。そしてそれらが世界の国々に、とくに日本とそこで生活しているわたくしたちにどのような関わりを持っているのか考えてみる。</p> <p>講義概要 アフリカ大陸(とくにサハラ以南アフリカ)の全体像、アフリカの歴史的背景について、第二次世界大戦後、西欧植民地から脱却し独立を達成したアフリカ諸国の今日までの経済発展の過程を考察する。 講義では合計6年間にわたるアフリカ滞在中にとり貯めたビデオ映像、スライドなどを援用してよりなじみやすい臨場感をかもしだせる内容のものにすることを心がける。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講師の自己紹介、授業の進め方、参考文献の紹介 2. アフリカの地域区分、開発途上地域としてのアフリカ 3. スライドによるアフリカ概観 I(世界史の中のアフリカ、アフリカの自然) 4. スライドによるアフリカ概観 II(アフリカの食糧生産) 5. スライドによるアフリカ概観 III(アフリカの輸出作物) 6. スライドによるアフリカ概観 IV(アフリカの宗教) 7. アフリカの言語 8. アフリカの文化(結婚式、音楽) 9. アフリカの部族と国家 I 10. アフリカの部族と国家 II 11. アフリカの部族と国家 III 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献 原口武彦著『部族と国家』アジア経済研究所、1996年。 原口武彦著『アビジャン日誌』アジア経済研究所、1992年。</p>		<p>期末試験による</p>	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	アフリカ経済論 b 中東・アフリカ経済論	担当者	原口武彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 アフリカ経済論 a と同じ。</p> <p>講義概要 今日のアフリカ諸国が当面している諸問題—食糧生産、人口移動、環境、国内紛争、難民、累積債務、エイズ、—について、その現実を正確に把握し、問題の解決策を考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. アフリカ諸国が当面する諸問題(総論) 2. 食糧問題(生産と流通、都市と農村) 3. 人口移動(農村流出、都市化、難民) 4. 環境問題(旱魃、森林伐採、砂漠化、都市公害) 5. 国内紛争と民主化 6. 難民問題 7. 輸出産業(石油、鉱物資源、一次産品) 8. 累積債務 9. エイズ問題 10. 地域統合(AU, ECOWAS, UMEOA, SADC など) 11. アフリカと日本(貿易、経済協力、N.G.O) 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献 北川勝彦・高橋基樹編著『アフリカ経済論』ミネルヴァ書房、2004年。</p>		<p>期末試験による</p>	

01年以降(春)	中東経済論 a	担当者	平井文子
00年以前(春)	中東・アフリカ経済論(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 中東は、その政治地理的位置、大量の石油埋蔵・生産量のゆえに、20世紀初頭より西欧列強に、そして現在アメリカにより軍事的、政治的、経済的、文化的な干渉を受け続けている。それらに対する抵抗、国内、域内権力闘争が、中東を戦争と紛争の耐えること無い地域とさせてきた。本講義では、伝統と近代化のせめぎあうポストコロニアル時代における中東の政治経済社会の推移を国際問題と絡めて分かりやすく説明することにより、学生諸君の世界認識の一助とさせたい。		1、授業の進め方、参考文献の紹介等 2、中東に関する基礎知識①—地理、民族、言語、宗教、文化 3、中東に関する基礎知識②—イスラム栄光の歴史と中東の近代 4、中東理解①—牟田口義郎、「われわれの中東認識は確かか」を読む 5、中東理解②—後藤明「アラブは西欧中心仕官を揺るがす」を読む 6、中東理解③—大塚和男「問い直される日本人の宗教観」を読む 7、パレスチナ問題の発生 8、イスラエル誕生から中東紛争へ 9、中東石油をめぐる諸問題① 10、中東石油をめぐる諸問題② 11、湾岸問題①—イラン革命、イラン-イラク戦争 12、湾岸問題②—湾岸戦争、イラク戦争	
講義概要 はじめに、中東についての基礎知識を学び、ついで、中東理解に欠かせない歴史的、宗教的常識を確認し、さらに、パレスチナ問題、湾岸問題、石油問題について講義する。 できる限り、ビデオ等を使用するとともに、必要な資料をプリントして配布することにより、学生諸君の理解を深めるように試みる。			
テキスト、参考文献		評価方法	
板垣雄三編『中東パースペクティブ』、第三書館、'90 伊藤・清水・野口著『中東政治経済論』、国際書院		期末試験による	

01年以降(秋)	中東経済論 b	担当者	平井文子
00年以前(秋)	中東・アフリカ経済論(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 中東経済論 a と同じ		1、中東経済史概観 ①—イスラム帝国時代の経済原理 2、②—19世紀以来の工業化史 3、中東諸国の経済開発政策 ①—総論 4、 ②—産油国 5、 ③—イラン 6、 ④—トルコ 7、 ⑤—エジプト 8、社会経済構造の変貌 ①—移動労働 9、 ②—人口増加 10、 ③—中産階級の増大 11、 ④—女性問題 12、イスラム主義の台頭とその意味	
講義概要 中東の経済開発というテーマに接近する。 中東における工業化の歴史を踏まえた上で、独立以後の中東諸国の経済開発のプロセスを、サウジアラビア、クウェート、UAE、イラン、エジプト、トルコを例にあげて検証し、中東全般にかかわる移動労働、人口増加、中産階級の増大、女性問題を取り上げる。最後に、イスラム主義の台頭とその意味について考える。			
テキスト、参考文献		評価方法	
平井文子「中東の開発」（土生長徳編『開発とグローバルイゼーション』所収、柏書房、2000 伊藤・清水・野口著『中東政治経済論』、国際書院、2003		期末テストによる。	

01年以降(春) 00年以前(春)	金融経済論 a 金融経済論 (通年)	担当者	斉藤美彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 金融の基礎を理解し、金融に関連した新聞記事が読め、議論が理解できることを目的とする。</p> <p>(概要) 講義は、まずマネーと銀行業との関わり、すなわちマクロ的に貨幣供給はどのように行われているかの解説からはじめる。そしてそれと決済システムとの関わりについても解説する。その後に金融におけるフローとストック、金融取引における金利の役割等について解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マネー(貨幣)と銀行業(1) *現代のマネーと決済システム 2. マネー(貨幣)と銀行業(2) *銀行の信用創造機能 3. マネー(貨幣)と銀行業(3) *マネーの価値とインフレーション 4. マネー(貨幣)と銀行業(4) *マネーの変遷 5. 金融のフローとストック(1) 6. 金融のフローとストック(2) *金融業の役割 7. 金融のフローとストック(3) 8. 金融のフローとストック(4) *金融取引・金融資産の全体図 9. 金利・資産価格・利回り(1) *シグナルとしての金利 10. 金利・資産価格・利回り(2) *資産市場における金利 11. 金利・資産価格・利回り(3) *株式と株価 12. 金利・資産価格・利回り(4) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
辻信二『新版 金融と銀行』学文社、1995年		期末試験およびレポートによる。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	金融経済論 b 金融経済論 (通年)	担当者	斉藤美彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 金融政策、国際金融、現下の金融問題等についての議論を理解でき、自分なりの見解をもつことができるようになることを目的とする。</p> <p>(概要) 金融政策の基本から、いわゆる日本銀行による「量的緩和」政策についてまでの解説を行う。その後国際金融の基本、近年の金融に関わる諸問題等を幅広く解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 中央銀行の役割(1) *内生的貨幣供給説と外生的貨幣供給説 2. 中央銀行の役割(2) *金融政策の目的と波及経路 3. 中央銀行の役割(3) *金融政策の手段と準備預金制度 4. 中央銀行の役割(4) *「量的緩和」政策採用後の日本銀行の金融政策 5. 金融の国際的側面(1) 6. 金融の国際的側面(2) *国際通貨制度の変遷 7. 金融の国際的側面(3) *銀行の国際業務 8. 現代の金融・銀行経営(1) *金融自由化の進展 9. 現代の金融・銀行経営(2) *金融の「証券化」 10. 現代の金融・銀行経営(3) *派生商品市場の発展 11. 現代の金融・銀行経営(4) 12. 現代の金融・銀行経営(5) *銀行の収益とリスク 	
テキスト、参考文献		評価方法	
辻信二『新版 金融と銀行』学文社、1995年		期末試験およびレポートによる。	

01年以降(春)	金融システム論 a	担当者	斉藤美彦
00年以前(春)	金融システム論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 世界各国の金融システムはそれぞれの国の歴史等を反映して個性的なものとして発展してきた。そしてそれらはグローバル化の進展の過程で変化しつつあることを理解することを目的とする。</p> <p>(概要) 近代的な銀行業・金融システムが世界で最も早く発達し、今日においても世界の金融の中心のひとつであるイギリスの金融システムについての解説を中心とする。講義では預金取扱金融機関および機関投資家だけでなく、金融法制、監督体制についても解説を行う。また、イギリスとの比較の観点から大陸ヨーロッパ諸国やアメリカの金融システムについても簡単に解説し、EUの金融統合についても解説することとする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イギリスの金融システム (1) *金融システムの長期的傾向 2. イギリスの金融システム (2) *金融サービス法から金融サービス市場法へ 3. イギリスの金融システム (3) *商業銀行の再編 4. イギリスの金融システム (4) *マーチャントバンクとウィンブルドン現象 5. イギリスの金融システム (5) *住宅金融組合 6. イギリスの金融システム (6) *信託貯蓄銀行 7. イギリスの金融システム (7) *国民貯蓄銀行 8. イギリスの金融システム (8) *年金基金 9. イギリスの金融システム (9) *保険会社 10. イギリスの金融システム (10) *投資信託 11. EUの金融統合 12. アメリカ・大陸ヨーロッパ諸国の金融システム 	
テキスト、参考文献		評価方法	
斉藤美彦『イギリスの貯蓄金融機関と機関投資家』日本経済評論社、1999年(その他プリントを配布)		期末試験およびレポートによる。	

01年以降(秋)	金融システム論 b	担当者	斉藤美彦
00年以前(秋)	金融システム論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(目的) 日本の金融システムおよび規制・監督制度の特性を理解し、近年の金融システムの変化とその要因について理解できるようになることを目的とする。</p> <p>(概要) 戦後日本の金融システムの特徴およびそれが近年どのように変化してきたかを各種金融機関の変貌とともに解説する。また近年の金融機関、規制において重要なトピックスについても解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 戦後的制度としての専門金融機関制度 2. 高度成長期の金融構造 3. 日本の金融機関 (1) *普通銀行等預金取扱金融機関 4. 日本の金融機関 (2) *保険会社・ノンバンク 5. 日本の金融機関 (3) *証券会社と証券市場 6. 日本の金融機関 (4) *公的金融機関と財政投融资制度 7. 規制・監督 (1) *金融監督機関と新たな監督体制 8. 規制・監督 (2) *自己資本比率規制と早期是正措置 9. 金融制度改革とビッグバン 10. 金融危機と金融再生法 11. 金融大再編と不良債権処理 12. 預金保険制度 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：日本銀行銀行論研究会編『金融システムの再生にむけて』有斐閣、2001年。その他授業時に指示する。		期末試験およびレポートによる。	

01年以降(春)	財政学 a	担当者	野村容康
00年以前(春)	財政学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 本講義では、財政赤字、税制改革、年金改革、公共事業といったわが国の財政問題を考えていく際の手掛かりとなるように財政学の基礎的事項について概説する。本講の受講を通じて、財政の基礎的な制度とその機能について理解を深め、現実の財政問題について自分なりに考える力を身につけてほしい。</p> <p>講義概要 前期は、どちらかと言えば政府の支出活動面に重点を置きながら、財政の機能とわが国財政の現状、公共支出に関する理論、政府債務の問題、公的年金問題等について解説する。後期は、政府収入の中で最も重要な租税に関する議論(租税理論、制度、税制改革論等)に焦点を絞って授業を進める。</p> <p>受講者への要望 受講生は新聞などを通じてできるだけ財政制度改革、税制改正の動向についてフォローし、わが国の財政に関する問題意識を高めてほしい。なお、受講のためにはミクロ経済学の基礎的知識を習得していることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 財政とは何か 2. 財政学とその変遷 3. 資源配分の調整機能 4. 財政と所得再分配 5. 財政政策の理論① 6. 財政政策の理論② 7. 公共財の理論① 8. 公共財の理論② 9. わが国財政の現状 10. 公債の制度と理論 11. 公的高齢年金① 12. 公的高齢年金② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 里中恆志・八巻節夫『新財政学』文眞堂 参考書 大島通義・神野直彦・金子勝『日本が直面する財政問題』八千代出版</p>		前期・後期の試験の成績で評価する。出席は考慮しない。	

01年以降(秋)	財政学 b	担当者	野村容康
00年以前(秋)	財政学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
(財政学 a 参照)		<ol style="list-style-type: none"> 1. 租税の意義と根拠 2. 租税の基礎的概念 3. 課税の公平性と中立性 4. 租税の転嫁と帰着 5. 包括的所得税論 6. 支出税と最適課税の考え方 7. 二元的所得税の考え方 8. 個人所得課税 9. 法人所得課税 10. 間接消費課税 11. 資産課税 12. グローバル化と課税 	
テキスト、参考文献		評価方法	
(財政学 a 参照)		(財政学 a 参照)	

01年以降(春) 00年以前(春)	公共経済学 a 公共経済学 (通年)	担当者	伊藤爲一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしたちの日々の生活は公共部門の活動によって支えられています。上下水道、ゴミ処理、教育、福祉、警察、外交、国防などさまざまな公共サービスの恩恵を受けています。公共部門と民間部門の経済活動とはどのような関係があるのか、公的規制はどうあるべきか、公共部門の活動を活性化するにはどのように対応するべきか。</p> <p>経済の発展とともに公共部門の活動領域は量的にも質的にも大きく変動してきました。その歴史の変遷をたどりながら、現代の公共部門の諸活動の特徴を明らかにします。</p>		<p>はじめに 生活と公共サービス 生産と公共サービス 公共部門と市場の関係 市場の失敗をめぐる議論 公共部門とは。 公共部門の失敗をめぐる議論 公共部門存在の理由 公共部門の活動領域の拡大 生産と生活の社会化の進展 公共政策の展開 公共政策の多様化と総合性 主体の多様化 中央政府と地方政府 分権の推進力 公共部門の課題</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義中文献の紹介をし、関連するプリントを配布します。		期末テストおよび小テストの成績により評価します。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	公共経済学 b 公共経済学 (通年)	担当者	伊藤爲一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしたちの日々の生活は公共部門の活動によって支えられています。上下水道、ゴミ処理、教育、福祉、警察、外交、国防などさまざまな公共サービスの恩恵を受けています。公共部門と民間部門の経済活動とはどのような関係があるのか、公的規制はどうあるべきか、公共部門の活動を活性化するにはどのように対応するべきか。</p> <p>経済の発展とともに公共部門の活動領域は量的にも質的にも大きく変動してきました。その歴史の変遷をたどりながら、現代の公共部門の諸活動の特徴を明らかにします。</p>		<p>はじめに 財政の現状と課題 文献紹介 租税国家の危機 公債の累増 公共サービスの供給と財源調達 なぜ租税が必要か 公平な租税とは 租税原則と租税配分 わが国の租税構造の変遷とその特徴 所得に課せられる税 消費の課せられる税 資産に課せられる税 少子高齢化社会の到来と財政 少子化対策と年金 地方財政の発展 地域の経済的自立と発展 経済再生と財政改革</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義中文献の紹介をし、関連するプリントを配布します。		期末テストおよび小テストの成績により評価します。	

01年以降(春)	地方財政論 a	担当者	伊藤爲一郎
00年以前(春)	地方財政論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地方財政は「行政のデパート」といわれるように、義務教育、警察、消防、上・下水道、商工政策のような地域振興政策、まちづくり等多様な公共サービスを提供しています。</p> <p>地方公共団体のこのような活動を金銭面からとらえたものが地方財政です。」住民の日常生活と密接に関連している地方財政の役割を明らかにすることが目標です。</p> <p>都道府県から市町村まで3000もある地方団体は、自然条件、地理的要因、産業構造、人口構成等がさまざまに異なっています。それぞれの地域が活力を持って自立していくための公共政策がもとめられています。</p>		<p>はじめに 文献紹介</p> <p>地方財政の現状</p> <p>地方政府と中央政府</p> <p>経済の発展と地方財政の機能の拡大</p> <p>地方財政の国際比較</p> <p>地方財政の多様性</p> <p>地方分権の推進・町村合併</p> <p>機関委任事務の廃止</p> <p>地方税・財源の改革をめぐる議論</p> <p>地方財政の課題</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義の中で紹介します。		期末テスト及び中間での小テストの成績により評価します。	

01年以降(秋)	地方財政論 b	担当者	伊藤爲一郎
00年以前(秋)	地方財政論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地方財政は「行政のデパート」といわれるように、義務教育、警察、消防、上・下水道、商工政策のような地域振興政策、まちづくり等多様な公共サービスを提供しています。</p> <p>地方公共団体のこのような活動を金銭面からとらえたものが地方財政です。」住民の日常生活と密接に関連している地方財政の役割を明らかにすることが目標です。</p> <p>都道府県から市町村まで3000もある地方団体は、自然条件、地理的要因、産業構造、人口構成等がさまざまに異なっています。それぞれの地域が活力を持って自立していくための公共政策がもとめられています。</p>		<p>はじめに</p> <p>地方財政の状況</p> <p>地方政府サービスと財源</p> <p>財源配分をめぐる対立の歴史</p> <p>地方税</p> <p>地方財政調整制度</p> <p>地方交付税制度</p> <p>国庫支出金制度</p> <p>地方債制度</p> <p>地方分権の推進</p> <p>地方におけるまちづくり</p> <p>地方自治と行財政改革</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義の中で紹介します。		期末テスト及び中間での小テストの成績により評価します。	

01年以降(春) 00年以前(春)	環境経済学 a 環境経済学 (通年)	担当者	浜本 光紹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近年の環境問題の深刻化とともに、環境保全と経済活動の調和を求めて、新たな社会経済システムの構築への模索が試みられている。本講義では、経済学の立場から、環境破壊が進行する要因を検討し、環境保全型社会経済システムの構築のために環境政策はどのように設計される必要があるのかについて考えていく。</p> <p>「環境経済学 a」では、環境経済学の理論的基礎、環境資源の貨幣的評価とその手法、および環境問題の解決において司法や行政が果たす役割について講義を行なう。</p>		<p>1 インTRODクシヨン…環境経済学がいかなる分析視点から環境問題を考察するのかについて解説する。</p> <p>2 費用便益分析…環境と開発をめぐる問題における費用便益分析の意義・限界について考察する。</p> <p>3 環境評価手法…経済理論に則った環境価値の評価手法の意義と限界について考察する。</p> <p>4 環境問題の調整のあり方と環境政策…環境問題の調整において司法や行政が果たす役割について理論的に検討する。</p> <p>注：以上の4つのテーマはそれぞれ2～4回の講義にわたって解説が行なわれる。また、参考文献については講義中に適宜指示する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
バリー・C・フィールド『環境経済学入門』 日本評論社、 および講義中に配布するプリント		定期試験による。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	環境経済学 b 環境経済学 (通年)	担当者	浜本 光紹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「環境経済学 b」では、日本や米国、欧州における現実の環境政策の諸事例を検討しながら、地球温暖化に代表されるような地球環境問題に対処するための環境政策の設計はいかにあるべきかということに関する政策的含意を導き出していく。</p> <p>この講義は、環境経済学 a の講義内容を前提として行なわれるので、これを既習のうえで受講することが望ましい。</p>		<p>1 日本の環境政策…日本の公害問題とその対策について、1960～70年代の環境政策を中心に検討する。</p> <p>2 米国の環境政策…米国の酸性雨対策において導入されている二酸化硫黄排出許可証取引制度について検討する。</p> <p>3 地球温暖化…地球温暖化をめぐる国際的取り組みの経緯を解説し、京都メカニズムの課題について考察する。</p> <p>4 環境税制改革…欧州における環境税導入の事例を検討しながら環境保全型社会経済システムの構築に向けた税体系のあり方を考察する。</p> <p>注：以上の4つのテーマはそれぞれ2～4回の講義にわたって解説が行なわれる。また、参考文献については講義中に適宜指示する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義中に配布するプリント、および バリー・C・フィールド『環境経済学入門』 日本評論社		定期試験による。	

01年以降(春)	都市経済学 a	担当者	倉橋 透
00年以前(春)	都市経済学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 近年、わが国の大都市圏について国際的な地盤沈下、また地方都市について中心部の空洞化が指摘され、これらに対処するため都市再生が推進されているところである。 こうした状況において、この講義は、都市と都市政策についてミクロ経済学を応用して分析することを通じて、今後わが国の都市政策はどうあるべきか考えることを目的とする。</p> <p>【講義内容】 都市経済学 a では、都市経済学の総論的な部分の講義を行う。 具体的には、都市の発生要因、都市の発展段階、都市の土地利用構造、都市の規模について論じた後、実際の都市政策として地方拠点都市法、都市再生・構造改革特区・地域再生をとりあげ、その効果・影響を検討する。 講義では、経済学的な分析の基礎となる都市に係る現状や制度について解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 都市と都市問題 1 (都市の定義、都市の成立原因) 2 都市と都市問題 2 (交通費や競争の産業の立地への影響、都市問題の発生原因) 3 都市の発展段階 1 (都市の発展段階、日本の都市の発展段階) 4 都市の発展段階 2 (地方都市の中心市街地の空洞化の現状と対策、大都市の郊外住宅地の将来) 5 都市の土地利用構造 1 (都市におけるオフィスや住宅の立地決定メカニズム) 6 都市の土地利用構造 2 (土地利用規制とその経済的影響) 7 都市の規模 1 (都市の規模の決定メカニズム) 8 都市の規模 2 (最適な都市の規模) 9 都市の規模 3 (日本の都市の規模の変遷) 10 都市政策ケーススタディ 1 (地方拠点都市法の意図と効果) 11 都市政策ケーススタディ 2 (都市再生・構造改革特区・地域再生の大都市圏での効果) 12 都市政策ケーススタディ 3 (都市再生・構造改革特区・地域再生の地方都市での効果) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは指定しない。レジメを配布する。 参考文献は宮尾尊弘『現代都市経済学』第2版(日本評論社)、金本良嗣『都市経済学』(東洋経済新報社)。</p>		定期試験及びレポートによる。	

01年以降(秋)	都市経済学 b	担当者	倉橋 透
00年以前(秋)	都市経済学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 近年、わが国の大都市圏について国際的な地盤沈下、また地方都市について中心部の空洞化が指摘され、これらに対処するため都市再生が推進されているところである。 こうした状況において、この講義は、都市と都市政策についてミクロ経済学を応用して分析することを通じて、今後わが国の都市政策はどうあるべきか考えることを目的とする。</p> <p>【講義内容】 都市経済学 b では、都市経済学の各論的部分を講義する。 具体的には、土地市場と土地政策、住宅市場と住宅政策、都市と交通、都市と環境及び都市と財政をとりあげる。 講義では、経済学的な分析の前提となる都市に係る現状や制度についても解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 土地市場と土地政策 1 (地代と地価の決定メカニズム) 2 土地市場と土地政策 2 (土地税制とその効果) 3 土地市場と土地政策 3 (平成土地バブルの原因、当時の土地政策と効果) 4 住宅市場と住宅政策 1 (大都市の住宅事情の現状、住宅問題の発生原因) 5 住宅市場と住宅政策 2 (日本の住宅政策とその効果) 6 都市と交通 1 (日本の都市交通の現状、混雑対策) 7 都市と交通 2 (道路等交通施設の費用効果分析) 8 都市と交通 3 (開発利益—新駅開設による地価上昇等の効果—の計測と還元) 9 都市と環境 1 (都市の環境問題—尼崎道路公害訴訟を例として) 10 都市と環境 2 (都市の環境政策—下水道の費用効果分析を例として) 11 都市と財政 1 (都市自治体の財政状況、日本の都市の社会資本整備水準) 12 都市と財政 2 (魅力的なまちづくりに向けた国と地方のあるべき関係—まちづくり交付金について) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは指定しない。レジメを配布する。 参考文献は宮尾尊弘『現代都市経済学』第2版(日本評論社)、金本良嗣『都市経済学』(東洋経済新報社)。</p>		定期試験及びレポートによる。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経済地理学 a 経済地理学〔通年〕	担当者	犬井 正
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目標 経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の受講の心構え、講義方法、講義内容等についてのオリエンテーションを行い受講者数を決定。 2. 経済地理学の研究方法と研究対象について、経済学と地理学の方法の相違をふまえながら講述する。 3. 経済地理学研究のためのデータの収集とその活用の方法。特にセンサスデータ、地図の活用などを中心として。 4. 農業活動と自然環境との関係を、具体的な農業地域を事例にして考察する。 5. 農業生産と農業労働力を中心として、専業・兼業別農家の経営形態の地域的差異を考察する。(小論提出) 6. 農業経営規模と土地の保有形態を中心として、農業経営形態や他産業との競合を視点として考察する。 7. 農産物と市場・流通・輸送形態の関係について具体的な農業地域を事例として考察する。 8. 国家と農業政策、土地利用と土地利用計画・政策について考察する。 9. 日本と世界の諸地域の農業経営形態の差異と農業地域区分の方法を考察する。 10・11. 東京近郊洪積台地上の農業地域のフィールドワーク実施(日曜日に振り替えて実施する)。 12. 前期のまとめと評価。フィールドワークのレポート提出 	
講義概要 単に講義による農業地理学の理論だけでなく、フィールドワークをおこなうとともに、スライドなどを用いできるだけ農業の具体的な現実のすがたが把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、ディベート形式などもとり入れ、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに受講者は与えられた課題に関する小論を提出し、レポート・論文の書き方の基本を習得する。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：D. グリッグ著『農業地理学』1997年、農林統計協会 参考文献：山本正三他編著『日本の農村空間』1990年、古今書院		小論、およびフィールドワークのレポート結果と講義への貢献度などから総合的に判定する。毎回必ず講義に積極的に出席できる勉学意欲旺盛な者に限る。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経済地理学 b 経済地理学〔通年〕	担当者	犬井 正
講義目的、講義概要		授業計画	
講義の目標 経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の農業の特色と農業地域の概観。 2. 首都圏の農業地域の構造と特色。 3. 輸送園芸農業地域の構造と特色。 4. 米作地域の農業経営の特色と問題点。(小論提出) 5. 農産物の自由化と日本の農業の関係を文化、経済の視点からみる。 6. イギリスの農業の特色と農業地域の概観。 7. イギリスのLFA地域と集約農業地域の特色を考察する。 8. イギリスの工業化する農業と農業地域の特色。 9. 農産物の過剰生産と農業補助金政策をイギリスの小麦、日本の米を対象にして考察し、それぞれの国の農業地域の対応の仕方を考察する。 10. 同上 11. パネルディスカッションの実施。 12. 後期の講義のまとめと評価。パネルディスカッションのレポート提出。 	
講義概要 単に講義による農業地理学の理論だけでなく、VTRやスライドなどを用いできるだけ農業の具体的な現実の姿がたが把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、ディベート形式などもとり入れ、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに課題テーマの小論を提出し、レポート・論文の書き方の基本を習得する。			
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：D. グリッグ著『農業地理学』1997年、農林統計協会 参考文献：山本正三他編著『日本の農村空間』1990年、古今書院		指定小論、およびレポート結果と講義への貢献度などから総合的に判定する。毎回必ず講義に積極的に出席できる勉学意欲旺盛な者に限る	

01年以降(春)	産業組織論 a	担当者	青木雅明
00年以前(春)	産業組織論		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済学の一分野である産業組織論 (Industrial Organization) の基本的考え方と手法、応用分野について学びます。産業組織論は、財貨・サービス、労働、資本の各市場において生産者または供給者と消費者または需要者の行動を研究しますが、それらに影響を与える市場の構造や政府の規制その他の条件を明らかにします。その成果を経済政策に応用します。</p> <p>産業組織論の基礎となっているのはミクロ経済学ですので、産業組織論を応用する経済政策はミクロ経済政策です。その中心は競争政策または独占禁止政策ですが、近年その他の分野にも拡大しています。</p> <p>企業の機能と構造、独占企業の行動、垂直的制限、競争の形態、市場参入の効果、カルテルなどについて学びます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 産業組織分析の基礎概念 3. 企業① 4. 企業② 5. 独占企業の行動① 6. 独占企業の行動② 7. 垂直的制限① 8. 垂直的制限② 9. 競争の形態 10. 市場参入① 11. 市場参入② 12. カルテル① 	
テキスト、参考文献		評価方法	
長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』 日本評論社 1998年		定刻出席の状況、テキストおよび講義内容に関する小レポートの提出によって評価します。	

01年以降(秋)	産業組織論 b	担当者	青木雅明
00年以前(秋)	産業組織論		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>産業組織論 b に引き続いて情報の非対称性と企業行動、企業の戦略的行動、技術進歩と研究開発競争、知的財産権、共同研究開発、貿易と直接投資、規制と規制改革などについて学びます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. カルテル② 3. 情報の非対称性と企業行動① 4. 情報の非対称性と企業行動② 5. 企業の戦略的行動 6. 技術進歩と研究開発競争① 7. 技術進歩と研究開発競争② 8. 知的財産権 9. 共同研究開発とネットワーク外部性 10. 貿易と直接投資 11. 規制と規制改革 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』 日本評論社 1998年		定刻出席の状況、テキストおよび講義内容に関する小レポートの提出によって評価します。	

01年以降(春) 00年以前(春)	産業構造論 a 産業構造論 (通年)	担当者	山越 徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済の発展、成長に伴い、様々な側面の経済構造が変化することはよく知られており、またその変化がより一層の発展、成長を促す。本講義ではそれらの構造変化の主たる産業構造の変動に注目し、近代的経済発展、産業社会の形成、生産技術構造、それらを支える経済構造、相互依存関係を考察し、高度経済成長や重化学工業化の意味を考える。そのため、その姿を捉える有力な分析道具の1つである産業連関表についても解説、それを用いた日本経済の分析についてもデータを用いて見ていくことにする。</p> <p>11. 産業連関表による分析Ⅱ：素原材料系統の転換、工業原材料と生産規模、ユニットストラクチャー、構造転換、規模別I-O表</p> <p>12. 産業連関表による分析Ⅲ：資本マトリックス、産職マトリックス、地域I-O表、国際I-O表、国際分業、公害I-O表</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済成長、経済発展：経済成長とは、S、クズネットの指標、経済構造の変化、工業化、高度化、多様化 2. 近代的経済発展：1人当り国民所得、GNP、労働生産性、産業規模、産業社会、産業革命 3. 産業の概念：産業の経済学、生産構造、生産技術、産業分類、分業、産業統計、商品ベースと企業ベース 4. 経済成長と産業構造Ⅰ：経済進歩の歴史過程、エネルギー集約化、基本三部門分類、ペティの法則、AMS分類 5. 経済成長と産業構造Ⅱ：労働力構成と所得構成、成長の弾性、所得弾性、時系列データとクロスセクションデータ 6. 経済成長と産業構造Ⅲ：発展段階説、製造業内部の構造と発展、消費財と投資財、最終財と中間財、輸入と国産化、輸入代替、生産規模 7. 経済成長と産業構造Ⅳ：輸入指向型工業化、先進工業国とNIES、雁行形態、重化学工業化、ローマクラブ、石油危機 8. 産業連関表とはⅠ：新SNA、投入係数、産出係数、逆行列、中間投入、中間需要、最終需要、付加価値部門、直接および間接の生産波及、相互依存関係 9. 産業連関表とはⅡ：産業特性、感応度係数と影響度係数、前方連関と後方連関、投入係数の固定性と変化、貿易構造、スカイライン分析 10. 産業連関表による分析Ⅰ：構造変化の要因分析、投入係数の変化と技術変化、生産プロセスと産業部門、部門の再配列、ブロック化、三角形化、部門の独立性 	
テキスト、参考文献		評価方法	
宮沢健一『産業の経済学』第2版(東洋経済新報社) 米倉誠一郎『経営革命の構造』(岩波新書)		レポート(課題は講義の中で提示)と期末テストによる。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	産業構造論 b 産業構造論 (通年)	担当者	山越 徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>産業構造論 a の講義内容を踏まえて、石油危機後の激しい構造変化、サービス経済化、ソフト化、情報化、国際化などの変動の事例の分析を通して、新しく出てきた経済の諸問題、これまでの構造変化の指標にとってかわるべき新しい指標、産業構造の捉え方をいっしょに考察していくことにする。</p> <p>11. 産業と地域Ⅱ：大都市産業、産業集積、地域の取組みの事例</p> <p>12. 経済政策、産業政策、労働政策の結びつき、地域活力、インキュベータ、自治体の役割</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業構造の新しい方向Ⅰ：サービス化、ソフト化、情報化、多様化、高度化、複合化、国際化、構造変化の指標 2. 産業構造の新しい指標Ⅱ：財とサービス、サービスの生産物と生産性、有形財と無形財、間接労働と直接労働、労働投入と評価、構造変化の流れ 3. 産業内部の構造変化・ケーススタディⅠ：3つのオートメーション、高度経済成長期の生産技術と80年代、90年代の生産技術、技術波及 4. 産業内部の構造変化・ケーススタディⅡ：鉄鋼、電機、時計、印刷、銀行、小売などの事例 5. 産業内部の構造変化・ケーススタディⅢ：ロボットとコンピューター、労働への影響分析 6. 産業内部の構造変化・ケーススタディⅣ：ME革命とIT化、何が起きているか 7. 構造変化と就業構造Ⅰ：労働力の需要と供給、人口構造、産業構造と職業構造、基幹労働力と縁辺労働力、性別労働力 8. 構造変化と就業構造Ⅱ：日本の労働市場、新規学卒労働力、大企業と中小企業、雇用制度、雇用慣行、雇用調整、労働の属性 9. 構造変化と就業構造Ⅲ：ソフト化、知識集約化と職業構造および女子労働 10. 産業と地域Ⅰ：地域活性化と産業、国際化と地域、大企業と中小企業、地場産業 	
テキスト、参考文献		評価方法	
関満博『フルセット型産業構造を越えて』(中公新書)清成忠男、橋本寿朗『日本型産業集積の未来像』(日本経済新聞社)他		レポート(課題は講義の中で提示)と期末テストによる。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経営学原理 a 経営学原理 (通年)	担当者	黒川文子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経営学が他の学問領域と異なる最も基本的かつ重要な問題を中心に講義する。その上に立って、今日の問題、すなわち規制緩和、企業の国際化と空洞化、E ビジネス等をアプローチする。経営学ほど変化の激しい領域はないので、原理を把握していれば、どのような状況にもうまく対処できよう。</p> <p>講義では、経営学の理論の紹介だけでなく、実際の企業のケースを取り上げて、理解しやすいように授業を進めていく。経営学原理 a では、企業の目的、株式会社制度などの企業経営の基本的なコンセプトを理解した上で、経営戦略の策定について学習する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 企業経営とは何か 2 変貌する現代のビジネス 3 企業とビジネスの関係 4 ニュービジネスの登場と経営革新 5 現代の会社制度と企業経営 6 資本主義経済と株式会社 7 経済のグローバル化と株式会社の機構改革 8 企業の目的と業績評価 9 業績評価尺度 10 多角化企業と競争環境 11 持続的競争優位と戦略 12 職務とは何か 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経営学原理 b 経営学原理 (通年)	担当者	黒川文子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経営学原理 b では、まず経営戦略と密接な関係にある組織について講義する。最近、「アウトソーシング」や「バーチャル・コーポレーション」などで注目を浴びている「IT 革新とネットワーク組織」についても見ていく。</p> <p>次に、生産、マーケティング、人的資源等の現代的な経営オペレーション・システムについて理解を深める。最後に、経営倫理やイノベーションとベンチャーといった、現代の経営にとって重要な問題についても焦点をあてて講義していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 機能別組織とプロセス組織 2 事業別組織とカンパニー制 3 IT 革新とネットワーク組織 4 伝統的な組織間関係 5 日本的な企業グループと系列 6 伝統的なジョブ・ショップと流れ作業生産 7 モジュール組立方式とセル生産 8 トヨタのカンバン方式とリーン生産 9 マーケティング戦略 10 人的資源戦略 11 経営倫理 12 イノベーションとベンチャー 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

01年以降(春)	経営学原理 a	担当者	富田忠義
00年以前(春)	経営学原理(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>われわれにとって「企業」とは一体なにか、その「経営」はどのような種類の人間によって、どのように行われているのか。本講義は、この種の疑問にたいして、経営学の最新の研究成果を概観することによって、答えようとしている。</p> <p>講義では、組織の行動を基本的に方向づけ特色を与える企業目的と経営理念、経営の担い手としての専門経営者(CEO)の機能と役割、取締役会などの最高経営機関の仕組み、経営管理機能について研究を進めてきた現代経営学の生成と発展、経営管理の過程と要素機能、計画技法とコントロール技法、組織構造と組織過程、組織の活性化などの個別テーマについて順次考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春期授業計画の概要 2 (経営学方法論) 経営学の対象 3 マネジメント経営学の方法 4 実践経営学の方法 5 (経営理念) 現代企業の目的 6 経営理念 7 経営倫理、経営社会責任 8 (経営リーダーシップ論) 最高経営機関とその機能 9 株主総会、取締役会 10 CEO(最高経営責任者) 11 コーポレート・ガバナンス 12 春期授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
河野重榮『マネジメント要論』八千代出版 小椋康宏『経営学原理<第2版>』学文社		期末試験の結果と、授業出席状況による	

01年以降(秋)	経営学原理 b	担当者	富田忠義
00年以前(秋)	経営学原理(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>われわれにとって「企業」とは一体なにか、その「経営」はどのような種類の人間によって、どのように行われているのか。本講義は、この種の疑問にたいして、経営学の最新の研究成果を概観することによって、答えようとしている。</p> <p>講義では、組織の行動を基本的に方向づけ特色を与える企業目的と経営理念、経営の担い手としての専門経営者(CEO)の機能と役割、取締役会などの最高経営機関の仕組み、経営管理機能について研究を進めてきた現代経営学の生成と発展、経営管理の過程と要素機能、計画技法とコントロール技法、組織構造と組織過程、組織の活性化などの個別テーマについて順次考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋期授業計画の概要 2 (経営管理学説史) 現代経営学の生成と発展 テイラーとフォード 3 ファヨールとフォレット 4 バーナードとサイモン 5 (マネジメント技法論) マネジメント・プロセス 6 問題解決と意思決定 7 戦略策定技法、計画技法、コントロール技法 8 (経営組織論) 組織構造と組織過程 9 組織の類型化、経営組織の設計、権限と責任 10 リーダーシップ 11 経営組織の活性化 12 秋期授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
河野重榮『マネジメント要論』八千代出版 小椋康宏『経営学原理<第2版>』学文社		期末試験の結果と、授業出席状況による	

01年以降(春)	企業論 a	担当者	平井 岳哉
00年以前(春)	企業論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大学卒業後の進路として、就労の場である企業の存在は無視できないものがあります。学生における企業への問題意識は総じて希薄であり、企業に関する情報や知識も断片的・表層的なものでしかないものと考えられます。</p> <p>企業論では、現代の日本企業における一連の諸制度や多面的な性格について、最新情報を取りまぜながら論じていくつもりです。特に昨今、日本の経営システムは大きな転換期を迎えていると言われています。その具体的な内容と今後の方向性について、ともに考えていきたいと思えます。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 会社の種類と形態 3 終身雇用 4 年功賃金 5 人事異動 6 昇進 7 労働組合 8 高齢者・女性雇用 9 採用 10 福利厚生 11 労働時間 12 社会貢献 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>教科書は、特に指定しない。 前期の参考文献は、津田真澄『新・人事労務管理』(有斐閣)</p>		<p>期末試験の結果と授業での貢献</p>	

01年以降(秋)	企業論 b	担当者	平井 岳哉
00年以前(秋)	企業論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期と同じ</p>		<ul style="list-style-type: none"> 1 トップマネジメント 2 家族経営者と専門経営者 3 横の企業グループ 4 縦の企業グループ 5 コーポレートガバナンス 6 系列取引 7 アウトソーシング 8 中小企業とベンチャー企業 9 企業リスク 10 リストラクチャリング 11 持株会社 12 業界再編 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>教科書は、特に指定しない。</p>		<p>期末試験の結果と授業での貢献</p>	

01年以降(春) 00年以前(春)	会計学 a 会計学(通年)	担当者	内倉 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>企業会計もまた1つの言語であるとしばしば評されるが、言語を対象とした科学の分野には、その文法を純粹形式的に明らかにしていく「構文論」と、言葉の持つ意味の解明を試みる「意味論」と、社会的制度の中での言葉の用いられ方を研究する「語用論」とがある。本講義は、「簿記原理」という構文論の知識を前提に(それゆえ、少なくとも「簿記原理 a」を修得していることが望ましい)、それに内容的な意味付けを試みていくところの、会計学における「意味論」に相当するものである。その後に展開される会計学における「語用論」(「経営分析論」等の応用・専門学科目)への1つの橋渡しとなるものだ、とも言える。</p> <p>なお授業計画は右に掲げるとおりであるが、おおむね「会計学 a」では、会社の決算書の作成にかかわる諸ルールの概要説明をしていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 本講義の目的等 2 テキスト節1章:決算書から見える世界 [≒会計学の2つの領域] 3 テキスト節2章:会計と決算 [≒複式簿記の原理] … その1 4 テキスト節2章:会計と決算 [≒複式簿記の原理] … その2 5 テキスト節2章:会計と決算 [≒複式簿記の原理] … その3 6 テキスト節2章:会計と決算 [≒複式簿記の原理] … その4 7 テキスト節3章:決算書のルール…その1 8 テキスト節3章:決算書のルール…その2 9 テキスト節3章:決算書のルール…その3 10 テキスト節3章:決算書のルール…その4 11 テキスト節4章:製造会社の決算書 [≒原価計算論] … その1 12 テキスト節4章:製造会社の決算書 [≒原価計算論] … その2 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山浦公司・廣本敏郎 編著、「ガイダンス企業会計入門 [第2版]」(白桃書房)		評価の中心は期末試験の結果である。その際には、相対評価を基本とし、絶対評価を加味したい。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	会計学 b 会計学(通年)	担当者	内倉 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「会計学 a」の知識を前提として「会計学 b」では、「会計監査論」、「管理会計論」、「経営分析論」、「税務会計論」といった領域の諸問題を、テキストブックに沿った形で講義していきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 テキスト第5章:決算書の信頼性を確かめる [≒会計監査論] … その1 2 テキスト第5章:決算書の信頼性を確かめる [≒会計監査論] … その2 3 テキスト第6章:決算書の内部利用 [≒管理会計論] … その1 4 テキスト第6章:決算書の内部利用 [≒管理会計論] … その2 5 テキスト第7章:決算書を読んでみよう [≒経営分析論] … その1 6 テキスト第7章:決算書を読んでみよう [≒経営分析論] … その2 7 テキスト第7章:決算書を読んでみよう [≒経営分析論] … その3 8 テキスト第7章 補論書:キャッシュフロー計算書の作成 9 テキスト第8章:決算書と税金 [≒税務会計論] … その1 10 テキスト第8章:決算書と税金 [≒税務会計論] … その2 11 テキスト第8章:決算書と税金 [≒税務会計論] … その3 12 特論(03年度は「1株当たり利益」の問題を取り上げた) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
「会計学 a」と同様。		「会計学 a」と同様。	

01年以降(春) 00年以前(春)	応用統計学 a 応用統計学 (通年)	担当者	本田 勝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では「統計学」で学んだ1変量統計学の知識をもとにして、多変量統計解析の考え方を習得する。</p> <p>多変量統計解析とは、お互いに何らかの関係を持つ多変量データを用いて、その背後にある総合特性を探り、判断あるいは評価の道具に利用することである。この解析にはコンピュータの利用が不可欠であり、本講義でも EXCEL や SAS などのプログラムパッケージを使用する。</p> <p>したがって、受講者は<u>統計学の既習者に限るし、コンピュータの操作はもちろんのこと EXCEL についても熟達している必要がある</u>ので、受講の際は注意すること。<u>安易な気持ちで履修しないで欲しい。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 多変量解析とは何かについての概観を行う。 2 統計学の基本事項についての復習をする。 3 統計学の基本事項についての復習をする。 4 行列および行列式についての復習をする。 5 行列および行列式についての復習をする。 6 単回帰分析について述べる。 7 単回帰係数の評価方法について述べる。 8 実例データを各自用意し、演習を行う。 9 重回帰分析への拡張を行う。 10 データによる重回帰分析の演習を行う。 11 回帰分析演習(結果の解釈) 12 回帰分析における変数選択の方法について述べる。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定 講義時に指示		定期試験、レポートおよび出席調査による総合評価	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	応用統計学 b 応用統計学 (通年)	担当者	本田 勝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>応用統計学 a と同じ</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 2変量データの主成分分析の考え方とその数式化。 2 変量データの主成分分析の考え方とその数式化。 3 実例データを用いた例題と主成分の解釈。 4 実例データを各自用意し、演習を行う。 5 分析結果の解釈および検討 6 2変量判別分析の考え方とその定式化 7 実例データを用いた判別分析の演習 8 P変量判別分析の定式化 9 実例データによるP変量判別分析の演習 10 実例データを各自用意し、P変量判別分析の演習 11 分析結果の解釈および検討 12 クラスタ分析など他の多変量解析手法の概略を述べる。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定 講義時に指示		定期試験、レポートおよび出席調査による総合評価	

01年以降(春)	標本調査論 a	担当者	松井 敬
00年以前(春)	標本調査論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>新聞、TVなどのメディア、官庁、企業など様々な機関から私たちの生活や社会にかかわる数多くの調査結果とその分析が公表されている。多くの場合、それらはあたかも私たちの総意であるかのように扱われているが、調査の実態は何であろうか。本講義では抽出の方法という観点から標本調査の問題点を整理してみる。</p> <p>講義では調査の歴史から始まり、授業計画に見られるような抽出法に関連した様々な問題を取り扱う。</p> <p>本講義の特色は応用例やコンピュータによるシミュレーションの結果を多く取り入れ、理解の助けとしていることである。そのため、演習などによる数値計算の作業が多いが、それらを厭わないことが大切である。</p> <p><u>出席と演習への貢献を大きく評価するので受講を考える学生はその点に十分留意していただきたい。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 標本調査とは何か、その意味や方法、問題点など。講義の進め方方針と受講生への要請。 2. 良いサンプルとは何か、そのための歴史的な試み。 3. 母集団と標本の枠組み。無作為抽出法の意味。 4. 単純無作為抽出法と標本の作り方。乱数。 5. 推定量と標本分布。推定量の性質。 6. 母平均と母集団総計の推定量。誤差の評価。 7. 標準誤差、推定量の精度、推定量の相互比較。 8. 標本の大きさを決める際の考え方。 9. 層化無作為抽出法。構造模型。抽出の方法。 10. 同上。比例配分と最適配分。誤差評価と比較。 11. 層化抽出法における層の作り方、層の数。 12. 層化抽出法で、調査項目が複数個の場合の取り扱い。サンプルの大きさの決定。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布。インターネット上にもテキスト、資料をのせている。松井敬『標本調査論』、内田老鶴圃。</p>		<p>講義中の演習と出席。期末のレポート。</p>	

01年以降(秋)	標本調査論 b	担当者	松井 敬
00年以前(秋)	標本調査論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、「標本調査論 a」で述べたことと同じである。本講義でも、現在実際に行われている幾つかの抽出法を取り上げ、その方法や特徴を説明する。シミュレーションや演習を通してそれぞれの手法をより深く理解してもらおうとする試みも同じである。基本的な概念や用語などの説明はすでに「標本調査論 a」で済んでいるので、「標本調査論 b」のみの受講は「a」の基本的な内容について十分に理解しておく必要がある。そのためにはインターネット上にテキストや用語集、Q&Aを含めた諸情報が展開されているので、それらを参考にされたい。</p> <p>秋学期には、現在行われている諸抽出法の全体像がつかめてくるので、右の授業計画の順序にかかわらず、具体的なトピック（たとえば、視聴率やRDD法など）を取り上げ講義の中の抽出法との関連で解説したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統抽出法。意味と方法。推定量とその分散。 2. 系統抽出法が有効な事例など。他の抽出法との関連。 3. 比推定の考え方と推定量。抽出法の実際。 4. 回帰推定の考え方と実際。抽出法の例。 5. 抽出確率が一定でない抽出法。究極の抽出法は？ 6. 1段クラスターサンプリング。等確率抽出の場合。 7. 同上。確率比例抽出の場合。 8. 2段クラスターサンプリング。考え方、構造模型。 9. 同上、1段目が等確率抽出の場合。 10. 同上、1段目が確率比例抽出の場合。 11. 抽出法再考—様々な抽出法相互の関係、意味、比較など。実際の標本調査における問題。 12. 標本調査関連のQ&A。まとめ。課題。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布。インターネット上にもテキスト、資料をのせている。松井敬『標本調査論』、内田老鶴圃。</p>		<p>講義中の演習と出席。期末のレポート。</p>	

01年以降(春)	データベース論 a	担当者	高柳敏子
00年以前(春)	データベース論(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>はじめに、ファイルシステムの欠点を改善するために経験的に開発・改良されてきたデータベースの歴史を概観する。</p> <p>続いて、現在汎用機からパソコンまで多くの専用ソフトが作られ、使われている関係データベースのもっとも単純な例として、身近な表計算ソフト(MS-Excel)のデータベース機能を利用し、実習しながらデータベースおよびその検索の基礎を学ぶ。</p> <p>表計算ソフトは大変多彩な機能を持ったソフトで、データベース機能も充実しており、データベースおよび検索処理の入門および基礎を学習するには十分である。</p> <p>実際のデータベースとしては国勢調査の結果の人口情報と、古くから日本人が親しんでいる百人一首を利用し、それらの取り扱いを通じて数値中心のデータベースと文字列中心のデータベースの扱いの基礎を学ぶ。</p>		<p>1 ガイドンス、データベースとは(1) データベース概観、簡単な歴史</p> <p>2 データベースとは(2) データベースモデル(航海型、関係型、次世代型)</p> <p>3 データベースとは(3) データベースの三層スキーマ</p> <p>4 データベースとは(4) データベース管理システム</p> <p>5 データベースの実際(1) データの準備、レポート、項目、フィールド</p> <p>6 データベースの実際(2) レポートの分類と集計</p> <p>7 データベースの実際(3) レポートの抽出</p> <p>8 データベースの実際(4) 条件検索(1) 文字列データの条件設定</p> <p>9 データベースの実際(5) 条件検索(2) 数値データの条件設定</p> <p>10 データベースの実際(6) 条件検索演習</p> <p>11 データベースの実際(7) クロス集計 2項目の集計 3項目の集計</p> <p>12 データベースの実際(8) 問題とまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：前田、松山、和高、高柳、石田共『Windowsによる情報活用』共立出版、2002</p> <p>参考書：鈴木健司『データベースがわかる本』ホーム社、1998</p>		定期試験、1~2回程度のレポートおよび出席を加味して評価する。	

01年以降(秋)	データベース論 b	担当者	高柳敏子
00年以前(秋)	データベース論(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は「データベース論 a」の既習が前提となる。関係データベースモデルの理論と実際を実習を通して学習する。</p> <p>はじめに、1970年 E.F.Codd により提案され、現在テキストベースのデータベースとして最も普及している関係データベースの特徴を順に解説していく。その基礎となっている関係代数、二次元の表として表現される関係を示すデータ構造、専用言語 SQL について、実際に専用ソフト(MS-Access)を使用しながら順に理解していく。</p> <p>使用する主なデータベースは、表計算ソフト(MS-Excel)上に用意されている国勢調査の結果を利用した人口情報と百人一首の情報である。これらが関係データベースとして専用ソフト上でどのように取り扱われるか、また要求する検索が SQL 言語を使用してどのように表現されるか等を通して関係データベースの実際を学ぶ。</p>		<p>1 関係データベース(1) 関係データベースモデルと SQL、タプル、アトリビュート、ドメイン</p> <p>2 関係データベース(2) キー、関数従属、正規形と正規化</p> <p>3 関係データベース(3) 候補キー、主キー、外部キー、参照整合性</p> <p>4 関係データベースの実際(1) Excel上の表の正規化と Access へのインポート</p> <p>5 関係データベースの実際(2) 関係の確認、主キーの設定、関係間の関連付</p> <p>6 関係データベースの実際(3) クエリの表現 QBE による検索</p> <p>7 関係データベース(4) 関係代数の演算 和、査、積(共通部分)、直積、選択、射影、結合、商</p> <p>8 関係データベース(5) 関係代数の演算と SQL</p> <p>9 関係データベース(6) SQLの構文と演算子</p> <p>10 関係データベースの実際(4) QBEとSQL</p> <p>11 関係データベースの実際(5) SQLによる検索</p> <p>12 関係データベースの実際(6) SQLのデータベース定義、更新処理、まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：前田、松山、和高、高柳、石田共著『Windowsによる情報活用』共立出版、2002</p> <p>参考書：芝野耕司『SQLがわかる本』ホーム社、1998</p>		定期試験、1~2回程度のレポートおよび出席を加味して評価する。	

01年以降(春) 00年以前(春)	コンピュータシミュレーション論 a コンピュータシミュレーション論 (通年)	担当者	富田幸弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>情報処理の応用コースとして開設されている科目である。「コンピュータ入門」で学習した <u>Excel</u> をより高度に利用し、「プログラミング論」で学習した <u>Visual Basic</u> の技法をも利用する。</p> <p>さらに、経営科学の考え方とその分析方法を学習するとともに、コンピュータシミュレーションの技法についても学習する。</p> <p>また、パソコンのより高度な利用法について体験学習するとともに、各自の興味に従ったコンピュータシミュレーションを作成する。</p> <p>必ず、第一回目の講義に出席して、自分が履修可能であるかどうかを判断すること。</p>		<p>1 必要な基礎知識・評価・受講上の注意など</p> <p>2 シミュレーションを必要とする経営科学と 利用例</p> <p>3 時系列データと経済変動</p> <p>4 時系列分析と需要予測とシミュレーション</p> <p>5 在庫の種類と費用</p> <p>6 在庫管理とABC分析</p> <p>7 在庫管理シミュレーション</p> <p>8 日程管理とPERT</p> <p>9 日程管理シミュレーション</p> <p>10 待ち行列問題</p> <p>11 待ち行列シミュレーション</p> <p>12 経営科学とシミュレーションのまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献などは、必要に応じて紹介する。 毎回の講義概要については、プリントを配布する。		数回のレポート、各自の作成したデータ処理の内容、出席状況などを考慮して総合評価する。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	コンピュータシミュレーション論 b コンピュータシミュレーション論 (通年)	担当者	富田幸弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>情報処理の応用コースとして開設されている科目である。「コンピュータ入門」で学習した <u>Excel</u> をより高度に利用し、「プログラミング論」で学習した <u>Visual Basic</u> の技法をも利用する。</p> <p>さらに、経営科学の考え方とその分析方法を学習するとともに、コンピュータシミュレーションの技法についても学習する。</p> <p>また、パソコンのより高度な利用法について体験学習するとともに、各自の興味に従ったコンピュータシミュレーションを作成する。</p> <p>必ず、第一回目の講義に出席して、自分が履修可能であるかどうかを判断すること</p>		<p>1 必要な基礎知識・評価・受講上の注意など</p> <p>2 一様乱数列とその発生法・検定</p> <p>3 その他の乱数とモンテカルロシミュレーション</p> <p>4 経営シミュレーション概説</p> <p>5 シミュレーションモデルの作成手順</p> <p>6 各経営部門などの要因関連構造</p> <p>7 価格戦略シミュレーション</p> <p>8 生産戦略シミュレーション</p> <p>9 販売戦略シミュレーション</p> <p>10 シミュレーションゲームと競争力決定構造</p> <p>11 部門管理ゲームの例</p> <p>12 コンピュータシミュレーションのまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献などは、必要に応じて紹介する。 毎回の講義概要については、プリントを配布する。		各自の作成したシミュレーションゲームの内容・レポートなどを考慮して総合評価する。	

01年以降(春)	マルチメディア論 a	担当者	立田ルミ
00年以前(春)	マルチメディア論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>マルチメディア作成のソフトウェアを利用して図形・画像処理、静止画、アニメーションに関する講義と実習を行う。ここでは、マルチメディアシステムがどのようなものかを、実例を挙げながら実習する。また図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、画像編集などの機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成のためのソフトウェアを用いて実習する。これらで作成したファイルを、WordやPower Pointで利用し、プレゼンテーションを行う。また、静止画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについて講義し、画像取り込みや合成方法について実習する。また、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーション並びに実習すると共に、最終レポートとしてマルチメディア作品を制作する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 マルチメディアの基礎：講義 年間予定、授業方法、マルチメディアについて説明 2 情報のデジタル表現：講義 デジタル化のメリット、2進法、文字の表現 3 静止画像の作成：講義と実習 静止画作成ソフトの利用 4 画像ソフトとファイル形式：講義 解像度、画像圧縮、ファイル形式 5 静止画の作成：講義と実習 レイヤーの利用、ファイル形式と記憶容量 6 スキャナーの利用：講義と実習 スキャナーのタイプ、解像度、取り込み、加工 7 デジカメ取り込みと画像処理：講義と実習 画像の取り込みと処理、画像の合成 8 ワープロによるマルチメディアの処理：実習 ワープロによる静止画、音声処理 9 アニメーション作成(1)：講義と実習 GIFアニメーションソフトの解説と実習 10 プレゼンテーションツールの利用：実習 プレゼンテーションツールで静止画の処理 11 プレゼンテーションツールの利用：実習 音声、アニメーションの処理 12 マルチメディア作品作成：実習 マルチメディア作品を作成 	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ他『情報メディア入門』 実教出版		出席 20%、試験 40%、レポート 40%	

01年以降(秋)	マルチメディア論 b	担当者	立田ルミ
00年以前(秋)	マルチメディア論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>インターネット上でのマルチメディアシステムがどのようなものかを、実例を挙げながら講義し、それらを作成するためにいくつかのソフトウェアを用いて実習を行なう。また、先輩の作成した作品を紹介する。ここでは、音声の取り込みおよび編集について講義と実習を行なう。またアニメーション作成のためのソフトウェアを用いて、アニメーション作成および音声入力を行なう。3Dに関しては、ワイヤフレームモデルやサーフェスモデルなどのモデリングを行い、レンダリングを行なって作品を作成する。また、ビデオの取り込みのために必要なハードウェアとソフトウェアと、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法について講義とデモンストレーションを行い、ビデオクリップを用いて動画編集を行なう。最後レポートとして、受講生が独自の作品を制作しインターネット上に発表する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 インターネットとマルチメディア：講義 インターネットの概説とマルチメディア作品の紹介 2 音声取り込みと処理：実習 オーディオファイル作成、音声出力 3 音楽作成と編集：講義と実習 音階、音の長さ、音色、音声ファイルの種類 4 音楽作成と編集：講義と実習 音の合成および編集 5 ホームページ作成(1)：講義と実習 タグを用いたホームページと静止画 6 ホームページ作成(2)：講義と実習 複数のホームページの作成と音声 7 ホームページ作成(3)：講義と実習 ホームページ作成ソフトによる作成 8 アニメーション作成：講義と実習 Flashによるアニメーション 9 アニメーション作成：講義と実習 Flashにより図形を変化させる 10 3D画像作成：講義と実習 モデリングとレンダリング 11 ビデオ画像編集：講義と実習 ビデオ画像の合成と文字挿入 12 マルチメディア作品作成：実習 インターネット上に作品発表 	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ他『情報メディア入門』 実教出版		出席 20%、試験 40%、レポート 40%	

01年以降(春)	マルチメディア論 a	担当者	森 園子
00年以前(春)	マルチメディア論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 現在インターネット上でどのようなマルチメディアが利用され、インターネットでマルチメディア対応のプログラムを作成するためには、どのような手順が必要かを理解することを目標とする。そのために、いくつかのソフトウェアを利用して図形・画像処理・静止画・動画・音声処理に関する実習を行う。また、インターネットを用いてアメリカなどの大学にアクセスし、マルチメディアがどのような授業に使われているか、ネットワーク上でどのように利用されているかも紹介する。また、最新のマルチメディアの動向としての図形・画像処理・静止画・動画・音声を紹介する。</p> <p>講義概要: 前期はマルチメディアシステムがどのようなものかを、CD-ROMなどで実例を挙げながら実習する。また図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、フォトタッチなどの機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成のためのソフトウェアを用いて実習する。これらで作成したファイルを、Word やPowerPoint で利用する。また、静止画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについての事例を通して、色彩変換や合成方法についても学び、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーションを通して実習すると共に、マルチメディア作品を制作する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マルチメディアの基礎: 年間予定、授業方法についての説明。 マルチメディアとは何か、マルチメディアで使う用語、マルチメディアの利用とは何か、どのコンピュータの部分でマルチメディアが重要かについての解説およびデモンストレーション。情報メディアについて 2. 情報のデジタル表現: アナログとデジタル、デジタル化のメリット、2進文字の表現 3. 静止画: ラスターグラフィック、ベクターグラフィック、ファイル形式 4. 画像ソフトとファイル形式: マルチメディアを扱うソフトとファイル形式の解説。ドロー系ソフト、ペイント系ソフト、プレゼンテーション画像ソフト、スライドショー画像ソフト解説。解像度、画像圧縮について解説。 5. 静止画の作成: 大学にある画像作成ソフトウェアを用い、静止画像を作成。ファイル形式と記憶容量の確認。 6. スキャナー取り込みと画像処理: スキャナーのタイプ、解像度、カラーとグレースケールの解説。スキャナーからの画像を取り込み、加工。 7. デジカメ取り込みと画像処理: デジカメによる画像取り込みと処理、画像の合成、効果の処理 8. ワープロによる画像処理: ワープロで静止画を扱う。ファイル形式と記憶容量の確認。 9. アニメーション作成(1): 静止画像とアニメーション、GIF アニメーション、ソフトウェアの解説と実習 10. アニメーションの作成(2): バナー作成、写真の効果、トランジション 11. プレゼンテーションツールでマルチメディアを扱う: プレゼンテーションツールで図形、静止画、アニメーションを扱う。 12. マルチメディア作品作成: マルチメディア作品を作成する。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ他『情報メディア入門』実教出版 各種ソフトの参考文献については、 授業時に紹介する。		後期:定期試験を行い、それを40%の評価とする。各実習でネットワーク上にレポートを提出してもらい、それを60%の評価とする。	

01年以降(秋)	マルチメディア論 b	担当者	森 園子
00年以前(秋)	マルチメディア論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: 現在インターネット上でどのようなマルチメディアが利用され、インターネットでマルチメディア対応のプログラムを作成するためには、どのような手順が必要かを理解することを目標とする。そのために、いくつかのソフトウェアを利用して図形・画像処理・静止画・動画・音声処理に関する実習を行う。また、インターネットを用いてアメリカなどの大学にアクセスし、マルチメディアがどのような授業に使われているか、ネットワーク上でどのように利用されているかも紹介する。また、最新のマルチメディアの動向としての図形・画像処理・静止画・動画・音声を紹介する。</p> <p>講義概要: 後期はインターネット上でマルチメディアシステムがどのようなものかを、インターネット上で実例を挙げながら講義し、それらを作成するために、いくつかのソフトウェアを用いて実習を行う。 ここでは、図形・画像作成のためのソフトウェアを利用し、三次元空間や画像変換などの機能を学ぶ。さらに音声とアニメーション作成のためのソフトウェアや、ワイヤフレームモデルやサーフェスモデルなどのモデルレンダリングなどを実習する。また、3D やビデオ画面作成のために必要なハードウェアとソフトウェアについて事例を通して学び、これらのマルチメディアに対するファイルと圧縮方法についても講義とデモンストレーション並びに実習すると共に、受講生が独自の作品を制作し、インターネット上に発表する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. インターネットとマルチメディア: インターネットの概説とマルチメディア作品の紹介と解説。 2. 音声取り込みと処理: オーディオファイル作成、ワープロで音声出力 3. 音楽作成と編集: 音楽作成ソフトウェアの解説、音階、音の長さ、音色、音声ファイルの種類。 4. オーサリングソフトウェア(1): プレゼンテーション向きソフトウェア、カードベースオーサリング、アイコンベースオーサリング、タイムベースオーサリング、オーサリングプログラムの紹介と解説。 5. オーサリングソフトウェア(2): 大学にあるオーサリングソフトウェアを使って、簡単なマルチメディア作品を作成する。 6. ネットワーク: ネットワーク対応のマルチメディア素材がどのように出来ているかを解説。ネットワークにあるマルチメディアのコースを探す。 7. 3D の概要: 3D ソフトウェアの解説。インターネット上で3Dを用いた作品の紹介。Java、JavaScript を用いたWeb ページの紹介。 8. 3D ソフトウェアの利用: 3D ソフトウェアを用いて、3D 作品の作成を行う。 9. 動画取り込みと編集: ビデオ標準、ビデオボード、デジタルビデオカメラの紹介と解説。 10. 動画処理: 動画編集、音声貼り付け、エフェクト、テロップ作成 11. 作品作成: 静止画、音声、3D、アニメーション、動画を統合させ、ネットワークに載せる。 12. 作品発表: 受講生の作成したマルチメディア作品を発表し、ディスカッションを行う。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ他『情報メディア入門』実教出版 各種ソフトの参考文献については、 授業時に紹介する。		後期:定期試験を行い、それを40%の評価とする。各実習でネットワーク上にレポートを提出してもらい、それを60%の評価とする。	

01年以降(春)	プログラミング論 a	担当者	高柳敏子
00年以前(春)	プログラミング論(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>はじめに、コンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から概観する。続いて、シミュレータを利用して、仮想のコンピュータとその上で動くアセンブラ言語(COMET II および CASL II)のプログラミングおよび実習を通じて、ライオン型コンピュータの動作や制御の仕組み、およびコンピュータ内部における情報の表現、さらに基本的なプログラムの仕組み等コンピュータの原理を学ぶ。</p> <p>ライオン型コンピュータは1945年に von Neumann によって提案され、実現されたプログラム内臓方式の電子計算機であるが、現在大型機からパソコンに至るまで身の周りで稼働しているもののほとんどがライオン型であり、見かけの進化に対してコンピュータの内部構造は50年前とほとんどかわらない。基本原理は相変わらずプログラム内臓方式、二進法、逐次制御であり、その基本およびプログラミングの原理を理解するには、上述のような素朴で原始的なコンピュータと言語がむしる向いている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、コンピュータの歴史(1) ハードウェア、ライオン型、世代論と記憶素子 2 コンピュータの歴史(2) ソフトウェア、プログラミング言語、オペレーティングシステム 3 ライオン型コンピュータの構成と COMET II 五大装置、 語・ビット構成、アドレッシング、命令語、レジスタ 4 情報の表現(2) 整数と2の補数表記、2進法、16進法 5 CASL II プログラミング(1) CASL II の命令 (アセンブラ、マクロ、機械)、プログラム形式 6 CASL II プログラミング(2) ロード・ストア命令、 加減算命令、定数と領域の確保 7 CASL II シミュレータとその実行(3) プログラムの入力、編集、アセンブル、実行、記憶 8 CASL II プログラミング(4) 乗除算処理、シフト演算 9 CASL II プログラミング(5) 比較演算、分岐処理 10 CASL II プログラミング(6) 繰り返し処理 11 CASL II プログラミング(7) 情報の表現(2) 文字の内部表現とその扱い 12 CASL II プログラミング(8) 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>随時必要な資料を提示する。</p> <p>参考書：『CASL II プログラミング』ITEC、2001</p>		<p>定期試験、2回ほどのレポートおよび出席を加味して評価する。</p>	

01年以降(秋)	プログラミング論 b	担当者	高柳敏子
00年以前(秋)	プログラミング論(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ここでは、上記「プログラミング論 a」の既習すなわちライオン型のコンピュータの基礎を理解していることが前提になる。</p> <p>その上で主にコンパイル言語 C++ をプログラミング言語として使用し、プログラミングの基礎から、問題解決のためのアルゴリズムの実現へと、講義内容意を加速的に広げていくことにより、プログラミングによりどのようなことが可能か、どのような手法が実際に使われているのか等が理解される。</p> <p>Windows マシンの応用ソフトを使用している限り、中でどのような手法が使われているか等をほとんど意識することもなく、一般には便利さのみに頼って利用するが、改めてソフトの内部にも思いを寄せてみることができよう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 アセンブラとコンパイラ 例題プログラムの翻訳、関係編集、実行 2 C++ 言語とは 基本事項、文、ブロック、コメント、整数の四則演算 3 C++ プログラミング(1) 情報の表現(1) 実数 4 C++ プログラミング(2) 判断・分岐、関係式、関係演算子、論理演算子 5 C++ プログラミング(3) 繰り返し処理、配列 6 C++ プログラミング(4) 情報の表現(2) 文字と文字列 7 C++ プログラミング(5) 関数、メインプログラムとサブプログラム 8 C++ プログラミング(6) 関数の作成と利用 9 プログラミングの応用(1) 基本的な整理 10 プログラミングの応用(2) 探索処理 11 プログラミングの応用(3) ファイル処理 12 プログラミングの応用(4) 総合問題、まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>随時必要な資料を提示する。</p> <p>参考書：K.Jamsa 著、春木良且訳『C++超入門』第3版、アスキー出版、1999</p>		<p>定期試験、2回ほどのレポートおよび出席を加味して評価する。</p>	

01年以降(春) 00年以前(春)	プログラミング論 a プログラミング論 (通年)	担当者	立田ルミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Visual Basic.NET をプログラミング言語として採りあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能をフルに活用できるベントドリブン型言語である Visual Basic.NET で実際にプログラミングを行うことにより、プログラミングとはどういうことかを体得してもらうことを目的とする。基本的な命令から始め、それらを組み合わせてどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの1つ1つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1週間に1度の課題提出をネットワーク上で行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。授業の中で、先輩たちの作成したプログラムを紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンスとコンピュータ概説:講義 ソフトウェアの概略とコンピュータの構成 2 Visual Basic.NET の概略:講義と実習 3 イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ 3 簡単なプログラム作成 (1):講義と実習 アプリケーション開発手順、文字の入出力 4 簡単なプログラム作成 (2):講義と実習 四則演算 5 簡単なプログラム作成 (3):講義と実習 キャッシュレジスター 6 選択のあるプログラム作成 (1):講義と実習 アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 7 選択のあるプログラム作成 (2):実習 多くの選択のあるプログラムの処理 8 選択のあるプログラム作成 (3):実習 オプションボタン、チェックボタンの利用 9 選択のあるプログラム作成 (4):実習 リストボックス、ドラッグアンドドロップの利用 10 繰り返しのあるプログラム作成 (1):講義と実習 If と Go To、 For Next を用いた繰り返し 11 繰り返しのあるプログラム作成 (12): 講義と実習 Case 文、While 文 12 総合問題作成:実習 いろいろなコントロールを用いて問題を作成する 	
テキスト、参考文献		評価方法	
林 直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著:実習—Visual Basic.NET、サイエンス社		出席 20%、レポート 40%、試験 40%	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	プログラミング論 b プログラミング論 (通年)	担当者	立田ルミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目的とする。ここでは、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic.Net で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行い、最終のレポートとする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 図形の処理 (1):講義と実習 直線を描く、曲線を描く 2 図形の処理 (2):講義と実習 円を描く、色を塗る 3 図形の処理 (3):講義と実習 Windows の画像処理、タイマーの利用 4 図形の処理 (4):講義と実習 ドラッグアンドドロップの利用 5 音声・動画の処理:講義と実習 音声を録音する、音声を再生する 6 配列とコントロール配列:講義と実習 一次元配列、コントロール配列の利用 7 プルダウンメニュー:実習 コンボボックス、プルダウンメニューの利用 8 ファイルの利用 (1):講義と実習 テキストファイルの読み込み 9 ファイルの利用 (1):講義と実習 画像ファイルの読み込み 10 ファイルの利用 (1):講義と実習 シーケンスファイルの作成 11 ファイルの利用 (1):講義と実習 シーケンスファイルの読み込みと利用 12 インターネットの利用:講義と実習 Visual Basic.NET とホームページとのリンク 	
テキスト、参考文献		評価方法	
林 直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著:実習—Visual Basic.NET、サイエンス社		出席 20%、レポート 40%、試験 40%	

01年以降(春)	プログラミング論 a	担当者	森 園子
00年以前(春)	プログラミング論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Visual Basic.NET をプログラミング言語として採りあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能をフルに活用できるベントドリブン型言語である Visual Basic.NET で実際にプログラミングを行うことにより、プログラミングとはどういうことかを体得してもらうことを目的とする。基本的な命令から始め、それらを組み合わせてどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの1つ1つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1週間に1度の課題提出をネットワーク上で行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。授業の中で、先輩たちの作成したプログラムを紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンスとコンピュータ概説:講義 ソフトウェアの概略とコンピュータの構成 2 Visual Basic.NET の概略:講義と実習 3 イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ 4 簡単なプログラム作成 (1):講義と実習 アプリケーション開発手順、文字の入出力 5 簡単なプログラム作成 (2):講義と実習 四則演算 6 簡単なプログラム作成 (3):講義と実習 キャッシュレジスター 7 選択のあるプログラム作成 (1):講義と実習 アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 8 選択のあるプログラム作成 (2):実習 多くの選択のあるプログラムの処理 9 選択のあるプログラム作成 (3):実習 オプションボタン、チェックボタンの利用 10 選択のあるプログラム作成 (4):実習 リストボックス、ドラッグアンドドロップの利用 11 繰り返しのあるプログラム作成 (1):講義と実習 If と Go To、For Next を用いた繰り返し 12 繰り返しのあるプログラム作成 (2): 講義と実習 Case 文、While 文 13 総合問題作成:実習 いろいろなコントロールを用いて問題を作成する 	
テキスト、参考文献		評価方法	
林 直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著:実習—Visual Basic.NET、サイエンス社		出席 20%、レポート 40%、試験 40%	

01年以降(秋)	プログラミング論 b	担当者	森 園子
00年以前(秋)	プログラミング論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目的とする。ここでは、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic.Net で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行い、最終のレポートとする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 図形の処理 (1): 講義と実習 直線を描く、曲線を描く 2 図形の処理 (2): 講義と実習 円を描く、色を塗る 3 図形の処理 (3): 講義と実習 Windows の画像処理、タイマーの利用 4 図形の処理 (4): 講義と実習 ドラッグアンドドロップの利用 5 音声・動画の処理: 講義と実習 音声を録音する、音声を再生する 6 配列とコントロール配列: 講義と実習 一次元配列、コントロール配列の利用 7 プルダウンメニュー: 実習 コンボボックス、プルダウンメニューの利用 8 ファイルの利用 (1): 講義と実習 テキストファイルの読み込み 9 ファイルの利用 (1): 講義と実習 画像ファイルの読み込み 10 ファイルの利用 (1): 講義と実習 シーケンスファイルの作成 11 ファイルの利用 (1): 講義と実習 シーケンスファイルの読み込みと利用 12 インターネットの利用: 講義と実習 Visual Basic.NET とホームページとのリンク 	
テキスト、参考文献		評価方法	
林 直嗣、室井勝子、鈴木三枝子著:実習—Visual Basic.NET、サイエンス社		出席 20%、レポート 40%、試験 40%	

03年以降(春)	法学 a	担当者	内山 良雄
02年以前(春)	法学(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在し、社会内で生起する紛争の未然防止・解決に指針を与え、その平穩・円滑な営みを支えています。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁でいることはありません。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合にも、冷静かつ的確に対応することが必要となりますが、そのためには、法的素養を備えていることが強く求められるのです。</p> <p>そこで本講義では、まず最初に法の基本概念を解説したうえで、憲法に規定された基本原理や人権についての議論および社会のさまざまな場面と法との関わり合いについての議論を概観します。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていく予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 法とは何か 3. 法学とは何か 4. 法の学び方 5. 法体系の枠組みと法の分類 6. 憲法の基本原理(1)－国民主権－ 7. 憲法の基本原理(2)－平和主義、基本的人権尊重主義－ 8. 国の統治機構 9. 平等権 10. 自由権(1)－精神的自由・経済的自由－ 11. 自由権(2)－人身の自由－ 12. 社会権 <p>* 受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。その場合、補講を行うことがあるので、あらかじめ、ご了承ください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大谷實編著『エッセンシャル法学』成文堂		定期試験の答案に基づいて評価します。	

03年以降(秋)	法学 b	担当者	内山 良雄
02年以前(秋)	法学(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>法は、共同社会の中に生成し、社会とともに存在し、社会内で生起する紛争の未然防止・解決に指針を与え、その平穩・円滑な営みを支えています。我々も、共同社会の一員として、周囲の人々と関わりをもちながら生活している以上、法と無縁でいることはありません。したがって、関わり合いをもつ可能性のある他者とは、人権感覚に裏打ちされた良好な信頼関係を築き、紛争が発生しないよう配慮し、不幸にして紛争が発生した場合にも、冷静かつ的確に対応することが必要となりますが、そのためには法的素養を備えていることが強く求められるのです。</p> <p>そこで本講義では、社会のさまざまな場面と法との関わり合いについての議論を概観します。法のあり方を理解するとともに、法的なものの考え方を修得できるように配慮しながら、講義を進めていく予定です。法の基本的な事柄は、「法学a」で取り扱いますので、「法学a」を受講してから本講義を受講することを推奨します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 裁判の仕組み 2. 財産関係と法 3. 経済取引と法 4. 家族と法 5. 犯罪と法 6. 刑罰と法 7. 労働と法 8. 事故と法 9. 社会保障・社会福祉 10. 医療と法(1)－医療提供の理念－ 11. 医療と法(2)－医療過誤－ 12. 情報化社会と法 <p>* 受講生の理解度に応じて進度を調整するので、このとおりに進まないことがあります。その場合、補講を行うことがあるので、あらかじめ、ご了承ください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大谷實編著『エッセンシャル法学』成文堂		定期試験の答案に基づいて評価します。	

03年以降(春)	政治学総論 a	担当者	杉田 孝夫
02年以前(春)	政治学総論		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしたち市民の教養としての実践的課題を意識した講義をする。デモクラシーにおける統治という枠組のもとで、政治の課題、統治の構成原理、デモクラシーを支えるものについて理解を深める。また扱う項目と水準は、公務員試験科目政治学、教職科目政治学に対応する。</p> <p>授業は、テキストに基づいてポイントをわかりやすく講義する。テキストの予習復習を受講条件とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 政治と経済 2. 自由と自由主義 3. 福祉国歌 4. 国家と権力 5. 市民社会と国民国家 6. 国内社会と国際関係 7. 国際関係における安全保障 8. 国際関係における富の配分 9. 議会 10. 執政部 11. 官僚制 12. 中央—地方関係 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>[テキスト]久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『政治学』(New Liberal Arts Selection) 有斐閣, 2003.</p>		<p>講義への出席と学期末試験によって評価する。</p>	

03年以降(秋)	政治学総論 b	担当者	杉田 孝夫
02年以前(秋)	政治学総論		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしたち市民の教養としての実践的課題を意識した講義をする。デモクラシーにおける統治という枠組のもとで、政治の課題、統治の構成原理、デモクラシーを支えるものについて理解を深める。また扱う項目と水準は、公務員試験科目政治学、教職科目政治学に対応する。</p> <p>授業は、テキストに基づいてポイントをわかりやすく講義する。テキストの予習復習を受講条件とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際制度 2. 政策過程 3. 対外政策の形成 4. 制度と政策 5. デモクラシー 6. 投票行動 7. 政治の心理 8. 世論とメディア 9. 選挙と政治参加 10. 利益団体と政治 11. 政党 12. 政治とジェンダー 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>[テキスト]久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『政治学』(New Liberal Arts Selection) 有斐閣, 2003</p>		<p>講義への出席と学期末試験によって評価する。</p>	

03 年以降 (春)	民法 a・民法 b	担当者	遠藤研一郎
02 年以前 (春)	民法 (春学期週 2 回授業)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【春学期週 2 回開講】</p> <p>本講義は、(1)「民法総則」および「物権(担保物権を除く)」に関する諸制度、各条文の理解を深めるとともに、(2)民法の導入科目として、民法の全体像をも理解させることを目的とする。</p> <p>授業は、以下のとおり、およそ 3 段階に分けて段階的に進める予定である(ただし、②および③は、組み合わせて実施する)。</p> <p>①第 1 段階(導入)・・・民法の全体構造・基本原理の理解</p> <p>②第 2 段階(基礎)・・・民法「総則」・「物権(担保物権を除く)」の諸制度・各条文の趣旨・要件・効果の基礎的理解</p> <p>③第 3 段階(展開)・・・「民法総則」「物権(担保物権を除く)」に関する基本的論点の検討</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス, 民法導入(1) 契約 2. 民法導入(2) 所有権, 人 3. 民法導入(3) 債務不履行, 強制執行, 担保 4. 民法導入(4) 相続 5. 総則基礎(1) 自然人① 6. 総則基礎(2) 自然人②, 物 7. 総則基礎(3) 法律行為総説, 無効・取消 8. 総則基礎(4) 意思表示① 9. 総則基礎(5) 意思表示② 10. 総則展開(1) 総則における諸問題 11. 総則基礎(6) 代理① 12. 総則基礎(7) 代理② 13. 総則展開(2) 総則における諸問題 14. 総則基礎(8) 法人 15. 総則基礎(9) 時効① 16. 総則基礎(10) 時効② 17. 物権基礎(1) 物権の基礎概念 18. 物権基礎(2) 物権変動① 19. 物権基礎(3) 物権変動② 20. 物権展開(1) 物権法上の諸問題 21. 物権基礎(4) 占有権 22. 物権展開(2) 物権法上の諸問題 23. 物権基礎(5) 所有権 24. 物権基礎(6) 用益物権 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは、大村敦『基本民法 I 総則・物権総論』(有斐閣)とする。その他、毎回、レジュメを配布する。</p>		<p>期末試験を原則とするが、加点対象・任意提出のレポートを受付ける(詳細は、講義の際に説明)。</p>	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年以降(春) 02年以前(春)	民法 a・民法 b 民法 (春学期週 2 回授業)	担当者	藤田 貴宏
講義目的、講義概要		授業計画	
法律行為論及び物権変動論を中心に、民法（財産法）の基本的論点について講義します。		【春学期週 2 回開講】 1. 民法の全体像と基本概念（1） 2. 民法の全体像と基本概念（2） 3. 意思表示の瑕疵と法律行為の有効性（1） 4. 意思表示の瑕疵と法律行為の有効性（2） 5. 法律行為の無効・取消と第三者保護（1） 6. 法律行為の無効・取消と第三者保護（2） 7. 代理（1） 8. 代理（2） 9. 行為能力と法定代理（1） 10. 行為能力と法定代理（2） 11. 時効（1） 12. 時効（2）	
テキスト、参考文献		評価方法	
大村敦志『基本民法 I』（有斐閣）		学期末試験	

03年以降(春) 02年以前(春)	民法 a・民法 b 民法 (春学期週 2 回授業)	担当者	藤田 貴宏
講義目的、講義概要		授業計画	
法律行為論及び物権変動論を中心に、民法（財産法）の基本的論点について講義します。		【春学期週 2 回開講】 1. 民法における人と物 2. 物権と債権 3. 物権変動（1） 4. 物権変動（2） 5. 物権変動（3） 6. 物権変動（4） 7. 所有権の効力（1） 8. 所有権の効力（2） 9. 共同所有 10. 法人 11. 法律行為論のまとめと補充 12. 物権変動論のまとめと補充	
テキスト、参考文献		評価方法	
大村敦志『基本民法 I』（有斐閣）		学期末試験	

講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年以降(秋)	商法 a 商法 b	【秋学期週 2 回開講】	担当者	明田川 昌幸
02年以前(秋)	商法			
講義目的、講義概要		授業計画		
<p>【秋学期週 2 回開講】</p> <p>講義目的 会社、特に株式会社に対する法規制および裁判例の理解。</p> <p>講義概要 株式会社の設立、株式、株主総会、取締役会、代表取締役、監査役等、株式会社を中心に、会社に対する商法の法規制と裁判例の説明を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 会社法総論 2 株式会社総説 3 株式会社の設立 1 発起人、定款 4 株式会社の設立 2 出資、機関 5 株式会社の設立 3 調査、設立無効 6 株式 1 意義、株主の権利・義務 7 株式 2 株式の種類、株式の分割・併合・消却 8 株式 3 株券、株式の譲渡、株主名簿 9 株式 4 自己株式と株式の相互保有 10 株主総会 1 意義・権限 11 株主総会 2 決議の瑕疵 12 取締役会と代表取締役 1 取締役・取締役会 13 取締役会と代表取締役 2 代表取締役、 14 取締役会と代表取締役 3 取締役の責任 15 監査役 16 委員会等設置会社 17 会社の計算 1 貸借対照表と損益計算書 18 会社の計算 2 資本、準備金、利益の分配 19 会社の計算 3 決算手続 20 新株の発行 1 21 新株の発行 2 22 社債 23 企業再編・企業結合 1 24 企業再編・企業結合 2 <p>(概ね上記の順番に従って講義を進めていく予定であるが、採用するテキストや講義の進行状況等により、各項目の内容や順番に若干のずれが生じることがある)</p>		
テキスト、参考文献		評価方法		
追って指示する。		期末試験の成績、小テスト、出席などから評価を行う。		

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

03年以降(秋)	商法 a・商法 b	担当者	潘 阿憲
02年以前(秋)	商法 (秋学期週 2 回授業)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【秋学期週 2 回開講】</p> <p>本講義は、会社法のうち、主として株式会社に関する法的規制を取りあげる。本講義の目標としては、初学者が会社法について基本的、体系的な理解を得られることを主眼とする。したがって、まずは会社法上の諸制度について、その基本的な内容と果たすべき機能を理解し、個々の制度をめぐるこれまでの解釈論を把握しておくことが必要となる。それと同時に、会社法上の諸制度は、実際にどのように運用されているのか、当該法制度は果たして企業社会の実態に合致しているのか、問題点があるとすれば、これを如何に克服すべきであるのかといった視点から、会社法上の諸制度を動的にとらえることも必要だと考えられる。そこで、講義時には、関連する資料や重要な裁判例を適宜に取りあげ、会社法上の諸制度をめぐる具体的な議論や紛争の事例を検討し、「生きた会社法」の修得を目指したいと考えている。</p>		第1回 企業形態と会社 第2回 会社の設立(1) 第3回 会社の設立(2) 第4回 株式(1) 第5回 株式(2) 第6回 株式(3) 第7回 株主総会(1) 第8回 株主総会(2) 第9回 株主総会(3) 第10回 取締役と取締役会(1) 第11回 取締役と取締役会(2) 第12回 取締役と取締役会(3) 第13回 監査役と監査役会(1) 第14回 監査役と監査役会(2) 第15回 大会社に関する特例 第16回 株式会社の計算(1) 第17回 株式会社の計算(2) 第18回 株式会社の計算(3) 第19回 新株発行(1) 第20回 新株発行(2) 第21回 定款の変更 第22回 資本の減少 第23回 社債 第24回 営業譲渡・営業全部の譲受け 第25回 会社の合併 第26回 会社の分割 第27回 株式交換・株式移転 第28回 会社の解散 第29回 会社の清算 第30回 合名会社・合資会社・有限会社	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：青竹正一『会社法』 信山社 参考書：鴻常夫ほか『会社判例百選第6版』 有斐閣		筆記試験の成績による	

03年以降(春)	総合講座 a	担当者	経済学部
01~02年(春)	総合講座(1) a		
00年以前(春)	総合講座(1)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「地球の未来に挑戦する世界と日本」の総合タイトルの下で、学外から著名な方々を招いて、講義をしてもらう。学内に居ながらにして、激しく流動するビジネス世界の現状、学際的な先端の動向などを詳しく知ることが出来る。これらの知識は、単なる学問的な知識に止まらず、学生諸君がやがて迎える卒業後の社会活動における、貴重なノウハウをも得させてくれるであろう。</p> <p>総合タイトルの性質上、社会・政治・文化などあらゆるテーマが取り上げられる。それぞれの分野の研究者、専門家、実務家が長年にわたり蓄えてきた専門知識と最新情報のエッセンスを、毎週、聞くことが出来ることは、得難いチャンスと言えよう。</p> <p>学外から講師をお招きするので、時間厳守で出席すること。また、講義中の私語は絶対に慎むよう切に要望する。</p>		最初の講義で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義レジュメを配付し、参考文献を指示することがある。		出席、授業態度による。 遅刻は認めない。	

03年以降(秋)	総合講座 b	担当者	経済学部
01~02年(秋)	総合講座(1) b		
00年以前(秋)	総合講座(1)		
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同様		最初の講義で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義レジュメを配付し、参考文献を指示することがある。		出席、授業態度による。 遅刻は認めない。	

01年以降(春)	特殊講義 a 「経済学入門」	担当者	黒木 亮
00年以前(春)	特殊講義 A 「経済学入門」		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的 本講義の目的は、「経済」の成り立ちや仕組みに関心を持ち、自ら学んでいけるようになるための手がかりを提供することにある。</p> <p>講義の概要 現実の経済社会に関する基礎知識をはじめ、「経済学」の成り立ちや仕組みなどについても触れながら、「経済を学び、経済学を習得する」ための入り口を提供する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 価格設定をめぐる経済学的考察 3 合理的な経営戦略と「需要の価格弾力性」 4-5 安売り戦略の多様性とその背景 6 業界の構造と価格決定の仕組み 7 商品流通の基本構造 8 日本の流通業の変化とその制度的背景 9 ハブ・アンド・スポークの理論と問屋の機能 10 企業の流通戦略と経営戦略 11 企業の経営戦略と独禁法 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』 日本経済新聞社、2004年。		レポート、期末試験。	

01年以降(秋)	特殊講義 b 「経済学入門」	担当者	黒木 亮
00年以前(秋)	特殊講義 A 「経済学入門」		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的 本講義の目的は、「経済」の成り立ちや仕組みに関心を持ち、自ら学んでいけるようになるための手がかりを提供することにある。</p> <p>講義の概要 現実の経済社会に関する基礎知識をはじめ、「経済学」の成り立ちや仕組みなどについても触れながら、「経済を学び、経済学を習得する」ための入り口を提供する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 資本主義 VS 社会主義：計画経済の問題点 3 市場の論理：裁定取引と「一物一価の法則」 4 市場における組織の論理：企業の存在意義 5 市場と組織の境界線：Voice と Exit 6 「情報の非対称性」と「逆選択」 7 「モラル・ハザード」とペイ・オフ 8 契約の不完全性とホールドアップ問題 9 多様な契約形態とエイジェンシー関係 10 ゲーム理論の考え方 11 ゲーム理論で読み解く競争社会と企業戦略 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤元重『ビジネス・エコノミクス』 日本経済新聞社、2004年。		レポート、期末試験。	

01年以降(春)	特殊講義 a 経営学科で何が学べるか	担当者	経営学科
00年以前(春)	特殊講義 B 経営学科で何が学べるか		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は、経営学科の新生に対して、本学四年間で学ぶ学問領域の鳥瞰を得てもらうことを目的としています。したがって、全員が受講することが望ましい科目です。</p> <p>諸君は大学受験から解放され、ほっとしていることと思いますが、就職活動までの時間は残念ながら多くありません。大学生活をエンジョイすると同時に、一人一人が経営学科学生として何を主に学ぶか、どのように効率よく学ぶか、その学問は将来どのように役に立つか、などを考えながら教科を選択し、学問を身につけて社会に巣立っていく必要があります。この科目は、そのための判断材料や情報を毎回二名の経営学科教員が提供します。</p> <p>何をやったらよいか、二年生からどのようなゼミを選択したらよいかなど、戸惑いや不安を解消するために積極的に参加して、大学生活の見通しを良くしてください。また、疑問があれば質問をしてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 ビジネスコース (1) 3 ビジネスコース (2) 4 情報コース (1) 5 情報コース (2) 6 情報コース (3) 7 マネジメントコース (1) 8 マネジメントコース (2) 9 会計コース (1) 10 会計コース (2) 11 会計コース (3) 12 まとめ、科目選択、ゼミ登録など教務関連 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		授業開始時に説明する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

01年以降(春)	特殊講義 a 「経済と法」	担当者	住田 裕子
00年以前(春)	特殊講義 B 「経済と法」		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>法律は、縁遠いものではなく、社会生活を送る上で必須のもの・・・生活の中のさまざまな場面において、法律がどのように使われているかを学びます</p> <p>経済学部の子生のための、わかりやすい実践的な法律を修得する場です</p> <p>春学期は、民法・刑法の基本を中心とします</p>		<p>1～2 法制度 (民事責任・刑事責任)</p> <p>民法, 刑法の基礎知識</p> <p>3 錯誤・詐欺など</p> <p>4 契約の始まりと終わり</p> <p>5 物の貸し借り (使用貸借と賃貸借)</p> <p>6 不動産の貸し借り (賃貸借・借地借家)</p> <p>7 金銭の貸し借り (消費貸借)</p> <p>8 不法行為 (交通事故など)</p> <p>9～10 労働法</p> <p>11 親族・相続法</p> <p>12 その他特別法</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし (当日, プリント配布)		出席 (適宜アンケートを取ります), 試験	

01年以降(秋)	特殊講義 b 「企業と法」	担当者	住田 裕子
00年以前(秋)	特殊講義 B 「企業と法」		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>法律は、縁遠いものではなく、社会生活を送る上で必須のもの・・・生活の中のさまざまな場面において、法律がどのように使われているかを学びます</p> <p>経済学部の子生のための、わかりやすい実践的な法律を修得する場です</p> <p>秋学期は、特別法を中心とし、より、応用的な事例について、説明します</p>		<p>1 民法, 刑法の基本思想と概念</p> <p>2 経済犯罪のいろいろ</p> <p>3～5 消費者契約法など消費者保護法</p> <p>6 著作権・特許権など知的財産法</p> <p>7 電子商取引法</p> <p>8 金融関係法</p> <p>9 会社法等商法</p> <p>10 労働法</p> <p>11～12 その他特別法</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし (当日, プリント配布)		出席 (適宜アンケートを取ります), 試験	

01年以降(春) 00年以前(春)	特殊講義 a「ビジネス法のケーススタディ」(春) 特殊講義 B「ビジネス法のケーススタディ」(春)	担当者	住田 裕子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>社会生活を送る上で、知っておくべき法律、知っているると便利な法律・・・これらを単に、知識としてではなく、生きる知恵として、身につけることを目指します</p> <p>少人数講義の利点を活かして、今、問題となっている事例や判例などを配布された論文、記事、レジュメ等をもとに、各自の意見を述べ、ときには、討論をしながら、進めます</p> <p>さまざまな意見を受けつつ、多様な観点からその問題に迫っていき、多面的な思考力を養っていきます</p>		<p>(最初は、基礎的な法律知識を知る)</p> <p>1 法律のいろいろ、法制度の概要</p> <p>2 刑罰とはなにか・・・特に、死刑制度や性犯罪について</p> <p>3 民事責任とはなにか・・・不法行為責任・債務不履行責任について</p> <p>(以後は、経済取引や日常生活の中に潜むケースにおける法律問題を考える・・・時事問題を中心に)</p> <p>売買、不動産の貸借、金銭の貸借、消費者保護、労働関係(パート労働等を含む)、電子商取引、交通事故等のケースなどを扱います</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし(当日ないしは、事前にプリント等を配布)		出席(適宜アンケートを取ります)、試験	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	特殊講義 a「ビジネス法のケーススタディ」(秋) 特殊講義 B「ビジネス法のケーススタディ」(秋)	担当者	住田 裕子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>社会生活を送る上で、知っておくべき法律、知っているると便利な法律・・・これらを単に、知識としてではなく、生きる知恵として、身につけることを目指します</p> <p>少人数講義の利点を活かして、今、問題となっている事例や判例などを配布された論文、記事、レジュメ等をもとに、各自の意見を述べ、ときには、討論をしながら、進めます</p> <p>さまざまな意見を受けつつ、多様な観点からその問題に迫っていき、多面的な思考力を養っていきます</p>		<p>(最初は、基礎的な法律知識を知る)</p> <p>1 法律のいろいろ、法制度の概要</p> <p>2 刑罰とはなにか・・・特に、死刑制度や性犯罪について</p> <p>3 民事責任とはなにか・・・不法行為責任・債務不履行責任について</p> <p>(以後は、経済取引や日常生活の中に潜むケースにおける法律問題を考える・・・時事問題を中心に)</p> <p>売買、不動産の貸借、金銭の貸借、消費者保護、労働関係(パート労働等を含む)、電子商取引、交通事故等のケースなどを扱います</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし(当日ないしは、事前にプリント等を配布)		出席(適宜アンケートを取ります)、試験	

03年以降(春)	特殊講義 a ライフスタイルと日本経済	担当者	森永 卓郎
02年以前(春)	特殊講義 B ライフスタイルと日本経済		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済の動きは、供給側から語られることが多い。しかし、本当に経済の動きを決めるのは、消費側の行動である。</p> <p>本講義では、供給側の論理が通用した高度成長期、消費者が供給側の論理を否定し始めた低成長期、そして消費者が欲しいものを発言し始めた現代という三つの時代に分けて、日本の消費市場に何がおこったのかを検証する。</p> <p>また、消費者行動の変化の背景となるライフスタイル変化とインターネット技術の影響についても、検証を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要 2. なぜ非婚化が進んだのか 3. 経済はライフスタイルを変えたのか 4. IT革命と多様化の進展 5. 多様化を支えるネットオークション 6. 共同購入とモノ作りのコスト 7. マーケットの変化と戦略的補完性の理論 8. マーケットの変化に対応する企業戦略 9. 知的創造性を支える雇用システム 10. イタリア経済はなぜ強いのか 11. 萌えビジネスの発生と展開 12. 多様化社会で働くということ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回を除き、授業ごとにプリントを配布します。		学期末試験のみ	

03年以降(秋)	特殊講義 a ライフスタイルと日本経済	担当者	森永 卓郎
02年以前(秋)	特殊講義 B ライフスタイルと日本経済		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済の動きは、供給側から語られることが多い。しかし、本当に経済の動きを決めるのは、消費側の行動である。</p> <p>本講義では、供給側の論理が通用した高度成長期、消費者が供給側の論理を否定し始めた低成長期、そして消費者が欲しいものを発言し始めた現代という三つの時代に分けて、日本の消費市場に何がおこったのかを検証する。</p> <p>また、消費者行動の変化の背景となるライフスタイル変化とインターネット技術の影響についても、検証を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要 2. なぜ非婚化が進んだのか 3. 経済はライフスタイルを変えたのか 4. IT革命と多様化の進展 5. 多様化を支えるネットオークション 6. 共同購入とモノ作りのコスト 7. マーケットの変化と戦略的補完性の理論 8. マーケットの変化に対応する企業戦略 9. 知的創造性を支える雇用システム 10. イタリア経済はなぜ強いのか 11. 萌えビジネスの発生と展開 12. 多様化社会で働くということ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回を除き、授業ごとにプリントを配布します		学期末試験のみ	

03年以降(春)	特殊講義 b 現代日本の経済政策	担当者	森永 卓郎
02年以前(春)	特殊講義 B 現代日本の経済政策		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>10年にわたるデフレ経済は、戦後どの国も経験していない異常な経済現象である。</p> <p>本講義では、なぜ世界のなかで日本だけがデフレに陥ったのかを、金融政策の意図的な「失敗」に求める。</p> <p>長期間継続するデフレによって、日本経済に何が起こったのかを検証することで、政策を牛耳る人々が、どのような意図を持ってデフレ政策を採用してきたのか、また今後の日本経済にどのようなことが起こるのかを明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要 2. 失われた10年とデフレ 3. デフレは何をもたらすのか 4. 財政政策の効果 5. ゼロ金利解除を検証する 6. インフレーターゲット政策の是非 7. 日本経済の背景にあるアメリカの影① 8. 日本経済の背景にあるアメリカの影② 9. 景気回復は本物か① 10. 景気回復は本物か② 11. 構造改革論と世界恐慌の教訓 12. 郵政民営化と日本経済 	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回を除き、授業ごとにプリントを配布します。		学期末試験のみ	

03年以降(秋)	特殊講義 b 現代日本の経済政策	担当者	森永 卓郎
02年以前(秋)	特殊講義 B 現代日本の経済政策		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>10年にわたるデフレ経済は、戦後どの国も経験していない異常な経済現象である。</p> <p>本講義では、なぜ世界のなかで日本だけがデフレに陥ったのかを、金融政策の意図的な「失敗」に求める。</p> <p>長期間継続するデフレによって、日本経済に何が起こったのかを検証することで、政策を牛耳る人々が、どのような意図を持ってデフレ政策を採用してきたのか、また今後の日本経済にどのようなことが起こるのかを明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要 2. 失われた10年とデフレ 3. デフレは何をもたらすのか 4. 財政政策の効果 5. ゼロ金利解除を検証する 6. インフレーターゲット政策の是非 7. 日本経済の背景にあるアメリカの影① 8. 日本経済の背景にあるアメリカの影② 9. 景気回復は本物か① 10. 景気回復は本物か② 11. 構造改革論と世界恐慌の教訓 12. 郵政民営化と日本経済 	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回を除き、授業ごとにプリントを配布します。		学期末試験のみ	

01年以降(春) 00年以前(春)	経営戦略論 a 経営戦略論 (通年)	担当者	富田忠義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>受講者が現代企業の行動を戦略的な観点から理解できるようにしたいというのが、本講義の狙いである。そこで、現代的な経営戦略理論を理解するための基礎概念、経営戦略の種類と類型、経営戦略を策定するための技法などについて概説する。経営戦略論の入門編である。</p> <p>ここでは企業の戦略策定について、理論と技法の両面から学ぼうとしている。まず、経営戦略とは如何なるものか明確にして、戦略策定上の重要変数として、経営目標、経営環境、経営資源を取り上げて考察し、多様な経営戦略を類型化して、全体を把握する。次に、経営戦略の一般的な策定法について学ぶ。こうした準備の後で、拡大化戦略、多角化戦略など個々の戦略策定法について考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春期授業計画の概要 2 (経営戦略の基礎) 経営環境と経営戦略 3 環境に含まれる機会と脅威 4 (経営戦略の構造) 戦略策定の関連変数 5 経営目標、経営環境、経営資源 6 効果的な経営戦略の要件 7 (経営戦略の類型) 類型化の方法 8 全社戦略 9 事業戦略、競争戦略 10 (経営戦略の策定過程) 問題解決思考 11 戦略策定過程の一般化 12 春期授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
河野重榮『マネジメント要論』八千代出版		期末試験の結果と、授業出席状況による	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経営戦略論 b 経営戦略論 (通年)	担当者	富田忠義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>受講者が現代企業の行動を戦略的な観点から理解できるようにしたいというのが、本講義の狙いである。そこで、現代的な経営戦略理論を理解するための基礎概念、経営戦略の種類と類型、経営戦略を策定するための技法などについて概説する。経営戦略論の入門編である。</p> <p>ここでは企業の戦略策定について、理論と技法の両面から学ぼうとしている。まず、経営戦略とは如何なるものか明確にして、戦略策定上の重要変数として、経営目標、経営環境、経営資源を取り上げて考察し、多様な経営戦略を類型化して、全体を把握する。次に、経営戦略の一般的な策定法について学ぶ。こうした準備の後で、拡大化戦略、多角化戦略など個々の戦略策定法について考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋期授業計画の概要 2 (成長戦略の策定) 事業拡大化戦略 3 事業多角化戦略 4 (製品ライフサイクル戦略) 製品寿命 5 成熟期に移行する業界の経営戦略 6 (リストラ戦略) リストラの必要性 7 リストラ戦略の策定 8 (事業ポートフォリオ・マネジメント) 9 多産業型企業の事業選択戦略 10 (ポーターの競争戦略論) 競争戦略の基本型 11 競争優位の構築、価値連鎖 12 秋期授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
河野重榮『マネジメント要論』八千代出版		期末試験の結果と、授業出席状況による	

01年以降(春)	経営管理論 a	担当者	黒川文子
00年以前(春)	経営管理論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経営管理論ほど、時代の変化とともに進展した領域はない。古くは、単なる工場内の管理から、今日では、経営管理論は地球環境問題を含めて議論されている。アメリカでは経営学といえれば経営管理論と同一視されているほど、経営学の中心領域であるので、基本的な事項を十分時間をかけて講義する。</p> <p>経営管理論 a では、まず今日の企業制度を理解してから、経営管理論の歴史的展開を考察していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 今日の企業制度 2 現代企業のコーポレート・ガバナンス 3 現代社会の変化と企業経営 4 企業組織のマネジメント機能について 5 現代における経営者 (CEO) の機能と責任 6 テイラーの科学的管理法 7 ファヨールの管理論 8 管理過程学派 9 人間関係論とホーソン実験 10 従来の管理機能論の枠組み 11 クーンツ理論 12 管理機能論の新展開 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

01年以降(秋)	経営管理論 b	担当者	黒川文子
00年以前(秋)	経営管理論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経営管理論 b では、働く人の人間的側面に焦点を当てて、いかに動機づけをすべきかについて理解を深めていく。次に、目標達成に向けて、組織のメンバーに影響を及ぼすリーダーの多様なリーダーシップについても見ていく。</p> <p>最後に、変化の激しい企業環境の中で、どのような経営組織が環境に適合するかを考えた上で、経営者の役割を再確認していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 動機づけの諸理論 2 マグレガーの X 理論と Y 理論 3 マズローの欲求段階論 4 動機づけ—衛生理論 5 期待理論 6 リーダーシップ論の多様な発展 7 オハイオ州立大学・リーダーシップ・プログラム 8 マネジリアル・グリッド論 9 企業文化と経営 10 経営組織の編成原理 11 経営組織の活性化 12 経営組織の革新 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

01年以降(春)	経営組織論 a	担当者	高松和幸
00年以前(春)	経営組織論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、伝統的組織論から近代組織論への発展を前提として、とくに近代組織論の内容について理解を深めることを目的とする。組織論においては、組織を取り巻く環境の土台のうえに、個人と組織との関わりがもっとも重要な課題であり、こうした諸問題を取りあげて論述する。</p> <p>講義では、伝統的組織論を出発点として、人間関係論におけるモチベーション理論やコンティンジェンシー理論を取りあげ、そのうえで近代組織論として、協働システムとしての組織、意思決定システムとしての組織、生存可能システムとしての組織に重点をおいて、その周辺の諸問題を取りあげて講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 伝統的組織論①…古典的組織論の特徴 2. 伝統的組織論②…ファヨールやクーンツ 3. 近代組織論①…バーナード 4. 近代組織論②…マーチ=サイモン理論 5. 経営組織モデルの発展段階…経営組織モデル 6. 組織とモチベーション理論① 7. 組織とモチベーション理論② 8. 組織とコンティンジェンシー理論① 9. 協働システムとしての組織① 10. 協働システムとしての組織② 11. 意思決定システムとしての組織① 12. 意思決定システムとしての組織② 	
テキスト、参考文献		評価方法	
高松和幸著『経営組織論講義 (増補版)』創成社、2003.		期末定期試験・平常授業の課題など	

01年以降(秋)	経営組織論 b	担当者	高松和幸
00年以前(秋)	経営組織論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、伝統的組織論から近代組織論への発展を前提として、とくに近代組織論の内容について理解を深めることを目的とする。組織論においては、組織を取り巻く環境の土台のうえに、個人と組織との関わりがもっとも重要な課題であり、こうした諸問題を取りあげて論述する。</p> <p>講義では、伝統的組織論を出発点として、人間関係論におけるモチベーション理論やコンティンジェンシー理論を取りあげ、そのうえで近代組織論として、協働システムとしての組織、意思決定システムとしての組織、生存可能システムとしての組織に重点をおいて、その周辺の諸問題を取りあげて講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織均衡の理論① 2. 組織均衡の理論② 3. ゴーイング・コンサーンとしての組織① 4. ゴーイング・コンサーンとしての組織② 5. 組織とコンフリクト 6. 組織とサイバネティクス① 7. 組織とサイバネティクス② 8. 生存可能システムとしての組織① 9. 生存可能システムとしての組織② 10. 組織のカタストロフィー・モデル 11. 組織と必要多様性の法則 12. 組織における自律性の概念 	
テキスト、参考文献		評価方法	
高松和幸著『経営組織論講義 (増補版)』創成社、2003.		期末定期試験・平常授業の課題など	

01年以降(春) 00年以前(春)	経営財務論 a 経営財務論(通年)	担当者	細田 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>我が国において「間接金融」主導型の金融システムは崩壊しつつあり、各国資本市場は、それぞれ高度化、多様化、国際化を遂げつつある。したがって、経営者(財務担当者)は、資本市場により関心を払って財務的意思決定を行わなければならない状況となっている。そこで、「資本市場」志向の財務的意思決定のあり方について説明し、同時に、日本企業が採用してきた財務政策の特色と問題点について検討する。</p> <p>講義概要</p> <p>各週別の講義予定を見られたい。</p>		<p>1.1. 企業の目的と財務政策</p> <p>a) 市場型経済における消費・貯蓄・投資の決定</p> <p>b) 企業による市場を通じる価値創造</p> <p>2.1. 企業の目的と財務政策</p> <p>c) 資本市場の役割</p> <p>d) 企業の財務的意思決定のフレームワーク</p> <p>3.2. 資産の価値をどう評価するか</p> <p>a) 現在価値の評価</p> <p>4.2. 資産の価値をどう評価するか b) 債権の評価</p> <p>5.3. 株式の価値はどう決まる</p> <p>a) 配当割引モデルの考え方</p> <p>b) 一定成長配当割引モデルと株価収益率</p> <p>6.3. 株式の価値はどう決まる c) 配当割引モデルの応用、d) 日本の株価水準と期待収益率</p> <p>7.4. リスクをどう測るか a) 投資リスクの尺度</p> <p>8.4. リスクをどう測るか b) ポートフォリオのリスク</p> <p>9.4. リスクをどう測るか c) ベータ値と資本資産評価モデル</p> <p>10.5. 資本コストとは何か</p> <p>a) 資本コストとは、b) 投資のキャッシュ・フロー</p> <p>11.5. 資本コストとは何か c) 資本コストの推計方法</p> <p>12.5. 資本コストとは何か</p> <p>d) 日本企業の資本コストの計算例</p> <p>e) 資本コストと資金コスト</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>・井手正介、高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール 経営財務入門」(日本経済新聞社)</p>		<p>期末試験の結果による。</p>	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経営財務論 b 経営財務論	担当者	細田 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>我が国において「間接金融」主導型の金融システムは崩壊しつつあり、各国資本市場は、それぞれ高度化、多様化、国際化を遂げつつある。したがって、経営者(財務担当者)は、資本市場により関心を払って財務的意思決定を行わなければならない状況となっている。そこで、「資本市場」志向の財務的意思決定のあり方について説明し、同時に、日本企業が採用してきた財務政策の特色と問題点について検討する。</p> <p>講義概要</p> <p>各週別の講義予定を見られたい。</p>		<p>1.6. 望ましい資本構成とは</p> <p>a) 完全資本市場における資本構成と企業価値</p> <p>2.6. 望ましい資本構成とは</p> <p>b) 法人税や倒産可能性が企業価値に与える影響</p> <p>3.6. 望ましい資本構成とは</p> <p>c) 企業価値の最大化と株価の最大化</p> <p>d) 資本構成決定の現実的な考慮点</p> <p>e) 日本企業の資本構成の動向</p> <p>4.7. 配当政策の考え方</p> <p>a) 配当政策の理論、b) 配当政策をめぐる問題点</p> <p>5.7. 配当政策の考え方</p> <p>c) 株式配当と株式分割、d) 日米企業の配当政策</p> <p>6.8. 自社株取得</p> <p>a) 自社株取得の本質、b) 自社株取得の利用動機</p> <p>7.8. 自社株取得</p> <p>c) 自社株取得と株価評価</p> <p>d) 自社株取得をめぐる我が国の現状</p> <p>8.9. リスク管理とデリバティブの利用</p> <p>a) デリバティブとは何か</p> <p>9.9. リスク管理とデリバティブの利用</p> <p>b) デリバティブを利用した金利リスク管理</p> <p>c) 企業財務とリスク管理</p> <p>10.10. 企業の合併・買収</p> <p>11.11. 日本の伝統的な金融システムの特色と問題点</p> <p>12.12. 日本企業の財務政策の課題</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>・井手正介、高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール 経営財務入門」(日本経済新聞社)</p>		<p>期末試験の結果による。</p>	

01年以降(春) 00年以前(春)	国際経営論 a 国際経営論 (通年)	担当者	小林 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバリゼーションの原動力の一つは、多国籍企業である。現代企業は、財の生産や販売のみならず、情報や金融の世界でもグローバル化を進めている。生産・流通・広告・金融など各分野での技術革新により、国際分業が新たな形で再編成されつつある。</p> <p>本講義では、企業の国際化に伴う諸問題を包括的に議論し、グローバリゼーションを理解するための理論的枠組みを提供することを目的とする。</p> <p>通年受講が望ましい。前半では、グローバリゼーションと情報化の流れの中で、新しい競争の時代を迎えている現代企業像の概要を解説する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに グローバリゼーションの時代 2. 現代経済における多国籍企業 国民経済の枠組みと多国籍企業 2. 現代企業の理論 巨大企業と「豊かな」社会 3. 現代企業の理論 コーポレートガバナンスの変貌 4. 現代企業の理論 フォード主義から日本的生産システムへ 5. 現代企業の理論 情報技術革命と企業組織 6. 現代企業の理論 多国籍企業と直接投資 7. 多国籍企業と新しい国際分業 技術革新と国際分業の再編成 8. 情報技術革命と日米企業 IT革命のインパクト 9. 情報技術革命と日米企業 企業組織と経営戦略の変貌 10. 情報技術革命と日米企業 生産性と競争優位をめぐって 11. 情報技術革命と日米企業 ITと新しい「ビジネス・モデル」 12. 情報技術革命と日米企業 情報化社会と日本的経営論の再審 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に、適宜指示する。		定期試験による。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	国際経営論 b 国際経営論 (通年)	担当者	小林 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>後半では、多国籍企業の活動にかかわるケーススタディを中心として、グローバリゼーションの現状を分析していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本企業の国際化 システムとしての日本企業 2. 日本企業の海外進出 戦後復興から1990年代まで 3. 日本企業の海外進出 アメリカの日系企業 4. 日本企業の海外進出 ヨーロッパの日系企業 5. 日本企業の海外進出 アジアへの進出と撤退 6. 日本企業の海外進出 「チャイナ・ショック」以降の国際分業 7. 日本企業の海外進出 「摩擦」の政治経済学 8. 情報技術革命と世界的な産業の再編成 ハイテク産業の覇権をめぐって 9. 情報技術革命と世界的な産業の再編成 自動車 10. 情報技術革命と世界的な産業の再編成 知的財産権をめぐって 11. 情報技術革命と世界的な産業の再編成 日本企業の課題 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に、適宜指示する。		定期試験による。	

01年以降(春)	経営史 a	担当者	柳 敦
00年以前(春)	経営史 [通年]		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>欧米を中心とし、企業経営行動の歴史的変遷をたどる。各時期、各地域における企業行動の合理性(あるいは非合理性)を歴史的制約、文化的側面も含めて考える。</p> <p>近代工業化以前の企業活動を概観し、次いで、英国における産業革命の特徴と企業経営の問題を検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 経営史の課題と問題 2 ヨーロッパ前近代における企業と経営 (1) 3 ヨーロッパ前近代における企業と経営 (2) 4 ヨーロッパ前近代における企業と経営 (3) 5 重商主義とアダム・スミス 6 資本主義とその精神 7 英国産業革命とその特徴 (1) 8 英国産業革命とその特徴 (2) 9 英国産業革命期の企業経営 (1) 10 英国産業革命期の企業経営 (2) 11 工場制の導入と規律の変化 12 英国産業衰退の問題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		期末試験の成績によって評価を行う。	

01年以降(秋)	経営史 b	担当者	柳 敦
00年以前(秋)	経営史 [通年]		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>欧米を中心とし、企業経営行動の歴史的変遷をたどる。各時期、各地域における企業行動の合理性(あるいは非合理性)を歴史的制約、文化的側面も含めて考える。</p> <p>後発工業国であるフランス、ドイツ、米国の事例を検討しながら19世紀における企業経営のありかたを考察し、次いで、20世紀型企業経営の問題を考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 19世紀フランスにおける工業化とその特徴 2 19世紀フランス企業経営の特徴 3 19世紀ドイツにおける工業化とその特徴 4 19世紀ドイツ企業経営の特徴 5 19世紀からの小売業界における特徴 6 19世紀米国における工業化とその特徴 7 19世紀米国企業経営の特徴 8 ビッグビジネスの展開と独占禁止法 9 科学的管理法の展開 10 企業組織の問題 11 フォードと GM 12 産業エリートと教育 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		期末試験の成績によって評価を行う。	

01年以降(春) 00年以前(春)	日本経営史 a 日本経営史(通年)	担当者	奈倉文二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では日本の大企業経営の形成発展について個別企業や経営者など具体的事例をあげながら明らかにする。</p> <p>まず、資本主義成立発展過程に即して、大企業システム形成上の様々な事例と問題点を国家と企業及びその国際的諸関係に留意しながら明らかにする。財閥・国有企業・外資系企業についてはやや立ち入った検討を加え、コーポレート・ガバナンスについてもその後の変化を念頭に置きつつ考察する。</p> <p>具体的イメージを持てるように、VTR(佐々木聡編『日本の企業家群像』(1)(2)など)も活用する予定。</p> <p>学生諸君の講義に対する参画意欲を引き出すため質疑応答方式を取り入れるので積極的に応じてもらいたい。</p> <p>講義内容を理解する上で「日本経済史 a」をも受講することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 幕末維新と政商(小野組・島田組と三井) 3 外商の活動と外資規制(グラバーと高島炭坑) 4 「近代化」・「工業化」の担い手(渋沢と岩崎) 5 会社制度の導入・発展(紡績・鉄道・銀行) 6 官業払い下げ、「政商から財閥へ」 7 「番頭経営」と専門経営者 8 国有国营企業と軍事関連企業 9 外資系企業の進出(英米系企業中心) 10 日本企業の中国進出(満鉄と在華紡) 11 財閥コンツェルンと持株会社 (財閥のコーポレート・ガバナンス) 12 外資系会社とコーポレート・ガバナンス (日本製鋼所を中心に) (項目・順序は変更あり得る。) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
宇田川・中村編『マテリアル日本経営史』(有斐閣)、経営史学会編『日本経営史の基礎知識』(有斐閣)、その他適宜指示する。随時資料も配付する。		主たる評価は筆記試験。VTR感想文、質疑応答への積極的参画状況をも評価する。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	日本経営史 b 日本経営史(通年)	担当者	奈倉文二
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、戦前から戦後にかけての大企業経営の変遷について具体的事例をあげながら明らかにする。</p> <p>まず、大企業経営のあり方が1930年代に変化したことを、官民関係の変容、新興コンツェルンの蓄積様式(旧財閥との比較)、外資系企業の展開と規制、軍需産業の展開などについて明らかにする。</p> <p>さらに、戦後大企業システムの形成発展について、財閥解体、企業集団の形成、「日本型企业システム」「日本的経営」「日本的経営者支配」の内容、重化学大企業(鉄鋼・家電・自動車)の発展様式、企業集団とコーポレート・ガバナンスなどについて明らかにする。</p> <p>質疑応答方式を取り入れ、VTR(佐々木聡編『日本の企業家群像』(1)(2)など)も活用する予定。「日本経営史 a」「日本経済史 ab」をも受講することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 日本製鉄の設立と官民関係 3 新興コンツェルン(日産など)と旧財閥 4 外資系企業の展開と規制(石油・自動車) 5 軍需産業の展開(三菱重工と中島飛行機) 6 財閥解体(集排法・独禁法含む)の経営史的意義 7 企業集団形成(株式持合・社長会・系列融資) 8 「日本型企业システム」「日本的経営」・「日本的経営者支配」 9 耐久消費財(家電・自動車)大企業の発展 10 鉄鋼寡占資本間の競争と協調(新日鉄) 11 企業集団・系列とコーポレート・ガバナンス 12 展望:持株会社解禁・「経営統合」・4大(→3大)メガバンクと企業集団の変容 	
テキスト、参考文献		評価方法	
宇田川・中村編『マテリアル日本経営史』(有斐閣)、経営史学会編『日本経営史の基礎知識』(有斐閣)、その他適宜指示する。随時資料も配付する。		主たる評価は筆記試験。VTR感想文、質疑応答への積極的参画状況をも評価する。	

01年以降(春)	マーケティング論 a	担当者	大久保 貞義
00年以前(春)	マーケティング論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>マーケティング活動は、自由主義経済における企業活動の基本を示すものである。企業はマーケティング活動に失敗すると倒産に追い込まれるし、成功すれば繁栄する企業となることが出来る。</p> <p>マーケティングの基本原理は、“人間の欲求を充足するための交換過程”を研究する学問であるということが出来よう。しかし、人間の欲求は多種多様であり、その欲求充足の方法は日進月歩である。</p> <p>したがって、この複雑な欲求充足のプロセスに対する学問的アプローチは、心理学、社会学、文化人類学等の隣接科学の学問成果が応用されている。最近のマーケティングの研究は、このような行動科学的手法で研究されている。</p> <p>社会構造は刻々と変化している。変換機能を果たす市場の構造も変化しているし、人間の欲求もまた時代と共に変化している。企業は、この変化を見逃さず対処しなければならない。企業のマーケティング戦略は進歩の連続であると言って良い。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 繁栄する企業と衰退する企業 (マーケティングの成功と失敗から) 2 マーケティングとは何か? (その定義と研究分野について) 3 社会の発展と人間欲求の変化 (豊かさと人間の価値観) 4 高齢化社会の出現と人口減少社会 (縮小する経済社会) 5 消費者行動の分析 (文化的・社会的な特性) 6 新製品の採用プロセス (認知から採用までの5段階) 7 マーケット・セグメンテーション (デモグラフィック要因とジオグラフィック要因) 8 マーケティングと国家体制 (官僚主義と国家の衰退) 9 自由競争の原理と官僚主義 (クロネコヤマトとGEのマーケティング戦略) 10 企業の栄枯盛衰 (企業の寿命と人間の寿命) 11 資本主義の発展と業界の栄枯盛衰 12 グローバル化した社会のマーケティング (メガ・マーケティングの発展) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に、2~3の参考文献を指示する。		レポート、テストによる。3回以上欠席がある場合、テストを受けられない場合もある。卒業再試験は行なわない。	

01年以降(秋)	マーケティング論 b	担当者	大久保 貞義
00年以前(秋)	マーケティング論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>伝統的なマーケティングでは商品を対象としてきた。最近では、製造業よりもサービス業が高い位置を占めるようになると、商品のマーケティングよりサービスのマーケティングが重視され始めた。</p> <p>サービス・マーケティングではコンサルティング・セールス・マーケットや、カスタマー・サテイスファクション・マーケティング等が登場してきた。いかに人間がサービスを展開してクライアントの満足を獲得するかということが重視され始めた。</p> <p>そして、企業活動が利益中心の企業展開ばかりでなく、社会貢献活動が重視され始めると、ソーシャル・マーケティングが重視され始めた。</p> <p>そのソーシャル・マーケティングの技術は非営利企業のマーケティングとして、大学、軍隊、地方公共団体等の団体で使われ始めた。こうしてマーケティング技術は自由競争社会の各団体の戦略形成に応用され始めたのである。</p> <p>注：マーケティング論 a を修得していない者は、マーケティング論 b の履修は出来ない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 企業の人材育成 企業トップの能力養成 2 セールスマンシップの養成 (セールスマンは人格を売る) 3 駄目なセールスマンと成功するセールスマン 4 セールス成功の一瞬 クロージングへのプロセス 5 ストック・マーケットの発展 歴史的発展とバブルの崩壊 6 百万長者になる方法 (株価の変動予測と利益獲得の方法) 7 マーケティング戦略と計画の作成 セールスフォースとセールスプロモーション 8 新製品のマーケティング戦略 9 高齢化社会のマーケティング (生まれた時の社会と死ぬ時の社会の対比) 10 利益追求主義から社会貢献型の企業へ 11 非営利企業のマーケティング マーケティングの国家政策への応用 12 マーケティングの新しい応用 民主主義の理念とマーケティング 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に、2~3の参考文献を指示する。		レポート、テストによる。3回以上欠席がある場合、テストを受けられない場合もある。卒業再試験は行なわない。	

01年以降(春)	広告論 a	担当者	八巻 俊雄
00年以前(春)	広告論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
シラバスは教務課経済学部窓口で配布します。			
テキスト、参考文献		評価方法	

01年以降(秋)	広告論 b	担当者	八巻 俊雄
00年以前(秋)	広告論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
シラバスは教務課経済学部窓口で配布します。			
テキスト、参考文献		評価方法	

01年以降(春)	行動科学論 a	担当者	大久保 貞義
00年以前(春)	行動科学論(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>行動科学は心理学、社会学、文化人類学等の隣接科学の学問的成果を応用し、社会問題を分析し研究する学問である。</p> <p>まず、はじめに、心理学、社会学、文化人類学の基礎を学ぶ。各学問のコンセプトを理解する。その上で、各学問の成果をどのように総合化するかを学ぶ。</p> <p>人間の行動は、どのような意識の元で意思を決定し行動するかを、人間の進化、価値観、文化等の面から分析する。</p> <p>人間の行動は、宗教・文化によって大きく制約される。その規制内容をグローバルな世界の中で検証する。</p> <p>グローバルな世界では、お互いに意見の交換が必要になる。そのコミュニケーションの効果と機能を分析する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 学問の発展段階＝学問の美しさ、発展の法則性は何か。隣接科学の用語の説明。 2 「人間」「組織」「社会」に対する心理学、社会学、文化人類学に対するアプローチの方法 3 経済発展に伴う人間の行動パターンの変化 4 人間の価値観を規制する宗教(仏教、キリスト教、イスラム教、神道の比較分析) 5 西洋のビジネス、東洋のビジネス(ユダヤ教の知恵、儒教の教え) 6 日本人企業経営者の思惟方法と行動 7 コミュニケーションの理論：マス・コミュニケーションとパーソナル・コミュニケーション 8 コミュニケーションの二段の流れ(オピニオン・リーダーの役割の重要性) 9 メッセージの伝達方法(一次元的伝達と二次元的伝達) 10 社会構造と機能分析(農業社会～初期工業化社会～大変化社会～脱工業化社会) 11 資本主義発展と共に変化する人間行動 12 生き甲斐の変化と人間行動 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に、2～3の参考文献を指示する。		レポート、試験による。追試は行わない。3回以上欠席すると試験を受けられない場合もある。卒業再試験は行なわない。	

01年以降(秋)	行動科学論 b	担当者	大久保 貞義
00年以前(秋)	行動科学論(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間行動は知識によって影響される。知識は人間の創造性によって作り出される。人間の創造性のメカニズムを解明し、創造力豊かな人間になるにはどうすれば良いか、その方法を紹介する。</p> <p>そして、近代的な知識は力を持ってきた。知のマーケットが形成され、大学のあり方にまで影響を与えるようになった。</p> <p>人間の作った知識が社会を発展させ、国家の繁栄は知識に左右されるようになった。ビジネス経営の方法も発展し、ナレッジマネジメントが開発され、これによって不断の企業の内部のイノベーションを起こすメカニズムが形成されるようになった。</p> <p>地の形成は、人間の行動を左右する大きなファクターである。知とビジネス行動との関連を分析する。</p> <p>注：行動科学論 a の単位を修得していない者は、行動科学論 b を履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 創造性とは何か＝既知の要素の組み合わせ、その本質は反逆である。 2 ブレーンストーミングの方法論。チェック・ポイントとその開発と応用。 3 未来予測の重要性。古くからあった星占い。 4 予測の面白さは不確定要素の多い分野にあり、予測を形成する努力によって変動してくる。 5 予測の勝負が企業の栄枯盛衰を決定する。いかに予測するかが企業の勝負になる。 6 知の世界へ突入する大学教育 7 知のマーケット形成：知識社会における大学の役割とベンチャー企業 8 人間の知がもたらす社会の発展(農業社会～工業化社会～脱工業化社会の変化の要因) 9 ナレッジ・マネジメントの発想法：哲学の流れが古代哲学から近代哲学へ：二大潮流 10 企業の知恵の生かし方とイノベーションへの活用法 11 行動科学とビジネスマネジメント 12 ビジネス・戦略形成の要点 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に、2～3の参考文献を指示する。		レポート、試験による。追試は行わない。3回以上欠席すると試験を受けられない場合もある。卒業再試験は行なわない。	

01年以降(春) 00年以前(春)	保険論 a 保険論 (通年)	担当者	岡村 国和
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、幅広い現実の保険現象を理解し、現在進行中の保険事業をめぐる環境変化を分析する能力を取得することにあります。</p> <p>春学期の目標は保険理論の理解であり、主として保険の技術や原則を講義します。保険の本質的機能を十分理解すれば、近接他業との相互関係や環境変化・市場再編の方向が理解でき、また保険における契約者保護の重要性を知ることができるはずです。</p> <p>例えば、大手生保会社(上位4社)が保険業法に基づいて設立された相互会社(非営利中間法人)であることは、意外と知られていないと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の進め方、保険学の学問的位置づけなど。 2 リスクの一般理論について。 3 保険の歴史について。 4 期待効用に基づく保険モデルの解説。 5 保険の構造(1): 保険の理論的構造の概観。 6 保険の構造(2): 主として損害保険の主要概念 7 保険の構造(3): 「危険負担の一般原則」および「損害填補の一般原則」とその例外について。 8 保険の構造(4): 因果関係論、保険契約者が守るべき各種の義務について。 9 保険各論(1): 生命保険の仕組みや機能について。 10 保険各論(2): 自動車保険、火災保険について。 11 保険各論(3): 傷害保険、責任保険について。 12 春学期のまとめ。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
主としてプリントを配布して講義しますが、 <u>欠席者には再配布しません</u> ので注意して下さい。		定期試験により評価しますが、小テストなどを随時行うことがあります。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	保険論 b 保険論 (通年)	担当者	岡村 国和
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は保険会社の経営についての講義を中心に講義を進めます。具体的には保険業の収益構造や保険市場の構造的変化を講義します。</p> <p>収益面では、バブル期までの生保業の中心的な収益の源泉が、保険販売収益ではなく金融収益であったことを知っているでしょうか。金融を巡る環境変化が経済全体の流れを悪くし、デフレスパイラルが発生しています。このような金融・経済の環境変化に対応できない会社は自然淘汰(ダーウィニズム)されるのですが、自然淘汰とは弱肉強食を意味するのではなく、「自然環境の変化に順応できない種は滅びる」と言うことを意味しており、現代の経営学に通じるものです。さて、保険業はどのような生き残りを演じるのでしょうか?</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋学期の講義目的や内容について 2 保険経営の特徴 3 保険市場の概要と主要な問題 4 保険企業の形態 5 保険経営の特殊性(1): 価値循環の転倒性、保険技術的危険などについて。 6 保険経営の特殊性(2): 保険料の算定、アンダーライティングについて。 7 保険の限界とその拡張。 8 損害保険の収益構造。 9 生命保険の収益構造。 10 保険規制をめぐる問題。 11 保険における消費者保護の現状。 12 秋学期のまとめ。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
主としてプリントを配布して講義しますが、 <u>欠席者には再配布しません</u> ので注意して下さい。		定期試験により評価しますが、小テストなどを随時行うことがあります。	

01年以降(春)	貿易論 a	担当者	米山昌幸
00年以前(春)	貿易論(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際貿易や貿易政策の基礎理論を修得して、現実の国際経済のテーマを考察し、分析するための理論的根拠を得ることが、この講義の目標である。国際貿易のメカニズムやさまざまなテーマを考察するうえでの理論の有用性を理解してもらいたい。</p> <p>ミクロ経済学の基礎的なところから貿易論の分野へつなげるように、できるだけいねいに説明していくので、理論を学んで厳密な議論ができるようになってほしい。この講義では、大学生にとって理論的な思考方法を身につけることの大切さを説いていきたい。</p> <p>貿易論は、財・サービスの国際取引や資本・労働・経営資源の国際移動を分析対象とする学問分野である。春学期は、一般均衡モデルを用いて伝統的な国際貿易の基礎理論を中心に講義する。貿易論でもっとも重要な概念である比較優位を説明し、貿易パターン、貿易利益、比較優位を決める要因などを説明する。</p>		週	内容
		1	第1章 リカードの比較生産費説 1.1 モデルの設定(2国2財1要素モデル) 1.2 生産フロンティア(生産可能性曲線)の導出
		2	1.3 閉鎖経済の均衡相対価格の決定
		3	1.4 絶対優位と比較優位
		4	1.5 生産点の決定と貿易パターン
		5	補論: 最適消費点の決定—無差別曲線分析—
		6	1.6 社会的無差別曲線と貿易利益
		7	第2章 ヘクシャー=オリー理論—固定投入係数のケース— 2.1 モデルの設定(2国2財2要素モデル) 2.2 生産フロンティアの導出 2.3 要素賦存量と生産構造 2.4 要素賦存量と貿易構造
		8	2.5 財の相対価格と要素価格(所得分配)
		9	第3章 国際貿易の基礎理論 3.1 一般的な生産フロンティアと生産点・消費点の決定
		10	3.2 閉鎖経済下と開放経済下の一般均衡 3.3 比較優位と貿易パターン
		11	3.4 オフファー曲線と交易条件の決定
12			
テキスト、参考文献		評価方法	
配布プリントに沿って授業を行う。参考文献は第1回目の授業で紹介する。		定期試験および練習問題の総得点によって評価する。評価基準は第1回目の授業で説明する。	

01年以降(秋)	貿易論 b	担当者	米山昌幸
00年以前(秋)	貿易論(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際貿易や貿易政策の基礎理論を修得して、現実の国際経済のテーマを考察し、分析するための理論的根拠を得ることが、この講義の目標である。国際貿易のメカニズムやさまざまなテーマを考察するうえでの理論の有用性を理解してもらいたい。</p> <p>ミクロ経済学の基礎的なところから貿易論の分野へつなげるように、できるだけいねいに説明していくので、理論を学んで厳密な議論ができるようになってほしい。この講義では、大学生にとって理論的な思考方法を身につけることの大切さを説いていきたい。</p> <p>秋学期は、部分均衡モデルを用いて貿易政策の基礎理論を説明したのち、個別テーマを問題接近的に講義する。コメの輸入自由化、環境と貿易、WTO(世界貿易機関)とFTA(自由貿易協定)、緊急輸入制限措置(セーフガード)やアンチ・ダンピング措置など、個別テーマを理論的に考察する。</p>		週	内容
		1	第4章 貿易政策とは 4.1 貿易政策の目的
		2	4.2 貿易政策の手段
		3	補論: 市場メカニズムと経済厚生分析—需要・供給曲線分析
		4	第5章 貿易政策の基礎理論 5.1 部分均衡分析による貿易利益
		5	5.2 貿易政策の効果—部分均衡・小国モデル
		6	
		7	5.3 輸出国の貿易政策—部分均衡・小国モデル
		8	5.4 貿易政策の効果—部分均衡・大国モデル
		9	第6章 コメの輸入自由化—関税化と生産補助金を伴う段階的関税引き下げの厚生分析
		10	第7章 環境と貿易
		11	第8章 WTO(世界貿易機関)とFTA(自由貿易協定)
12	第9章 自由貿易と保護貿易—グローバル化と貿易紛争		
テキスト、参考文献		評価方法	
配布プリントに沿って授業を行う。参考文献は第1回目の授業で紹介する。		定期試験および練習問題の総得点によって評価する。評価基準は第1回目の授業で説明する。	

01年以降(春)	証券市場論 a	担当者	高橋元
00年以前(春)	証券市場論(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際化・自由化の進展などに伴い、わが国金融資本市場の変化は著しく、その機能充実が一段と求められる方向にある。とりわけ、間接金融から直接金融へのシフトが加速化する流れの中で、証券市場の存在意義はこれまで以上に高まりつつある。</p> <p>本講義では、証券と証券市場を巡る制度、歴史、理論などを体系的に学ぶと共に、今日的な状況に関わる実践的な解説を適宜施すことにより、その国民経済的な意義を明らかにすることを目的とする。</p> <p>「証券市場論 a」では、証券の定義や証券市場のメカニズムなど、基礎的な領域の知識涵養に努める。</p> <p>なお、授業は基本的に計画に沿って行うが、金融資本市場の変化に応じて、変更することがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要・進め方、評価方法などのガイダンス 2. 戦後の日本経済の発展と証券市場 3. 金融ビッグバンと証券市場 4. 株式会社制度の意義 5. 証券概念と資産流動化の進展 6. 証券市場の機能 7. 証券市場の沿革 (1) 戦前の証券市場 8. 証券市場の沿革 (2) 戦後の証券市場 9. 債券発行市場 10. 債券流通市場 11. 株式発行市場 12. 株式流通市場 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは特に指定しないが、参考文献として下記を挙げる。『入門現代の証券市場(第2版)』佐藤昇・木村由紀雄・高橋元・相澤幸悦/著、東洋経済/刊(2003年)</p>		<p>出席状況、課題レポート内容、試験結果などを総合的に勘案し、評価する。</p>	

01年以降(秋)	証券市場論 b	担当者	高橋元
00年以前(秋)	証券市場論(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際化・自由化の進展などに伴い、わが国金融資本市場の変化は著しく、その機能充実が一段と求められる方向にある。とりわけ、間接金融から直接金融へのシフトが加速化する流れの中で、証券市場の存在意義はこれまで以上に高まりつつある。</p> <p>本講義では、証券と証券市場を巡る制度、歴史、理論などを体系的に学ぶと共に、今日的な状況に関わる実践的な解説を適宜施すことにより、その国民経済的な意義を明らかにすることを目的とする。</p> <p>「証券市場論 b」では、証券市場を巡る基礎的な知識を前提に、より専門的かつ高度な実践知識の習得と理解を深める。</p> <p>なお、授業は基本的に計画に沿って行うが、金融資本市場の変化に応じて、変更することがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 証券市場の現状と課題 2. 株価指数の種類と特徴 3. 証券評価の基礎理論 (1) 投資と投機 4. 証券評価の基礎理論 (2) 基本的な投資尺度 5. 証券評価の基礎理論 (3) 投資尺度の応用 6. 証券評価の基礎理論 (4) 評価モデルの考え方 7. ポートフォリオ理論 (1) リスクとリターン 8. ポートフォリオ理論 (2) 分散投資の考え方 9. 行動ファイナンスの基礎 10. 投資家を巡る諸問題 11. 投資信託の仕組み 12. 証券会社と証券業務 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは特に指定しないが、参考文献として下記を挙げる。『入門現代の証券市場(第2版)』佐藤昇・木村由紀雄・高橋元・相澤幸悦/著、東洋経済/刊(2003年)</p>		<p>出席状況、課題レポート内容、試験結果などを総合的に勘案し、評価する。</p>	

01年以降(春)	ベンチャービジネス論 a	担当者	上坂 卓郎
00年以前(春)	ベンチャービジネス論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ベンチャー企業も一つの企業であるという基本認識に立って、企業の役割や機能をトータルに把握できるようにする。その理解の上に、ベンチャー企業特有の問題や政策支援の内容などを理解していく。</p> <p>この講義を受講してすぐ起業できるわけではない。しかし、将来起業したり、独立する際に知っておくべき基礎的な知識の習得をめざす。また、起業に関心はなくても、意欲ある企業人や社会人になろうとする人は受講してほしい。他学部の学生も大歓迎です。</p> <p>本科目では原則として出席はとりませんが、経験則として単位取得と講義の受講は強い正の相関関係にあるようです。自分で判断のうえ受講してください。なお、春学期の経済学部総合講座でベンチャー企業の経営者の講演も予定しています。必ず聴講すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 会社とはなにか 2 会社の誕生 (1) 3 会社の誕生 (2) 4 会社の設立 5 会社の成長と組織 6 会社の資金調達 7 ベンチャー企業支援政策 8 ベンチャー企業と知財 (特許) 戦略 9 資本市場の仕組み 10 ベンチャー企業と上場市場の活用 11 外部講師講演 (1) 12 まとめと課題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献として松田修一『ベンチャー企業』日経文庫 2001。適宜資料を配布する		定期試験を行う。追試、レポートはありませんので注意してください (特に4年生)。	

01年以降(秋)	ベンチャービジネス論 b	担当者	上坂 卓郎
00年以前(秋)	ベンチャービジネス論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ベンチャービジネス論 a と同様だが、より実務的な話題を盛り込んだ内容とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ベンチャー企業と資金繰り 2 ベンチャーキャピタルの役割 (1) 3 ベンチャーキャピタルの役割 (2) 4 ベンチャー企業評価 5 起業家にとっての資本政策 6 ベンチャー企業とビジネスリスク 7 リビング・デッドとプライベートエクイティ 8 産業動向とベンチャー企業、社内ベンチャー企業 9 ビジネスエンジェルの役割 10 経営再起とベンチャー企業 11 外部講師講演 (2) 12 まとめと課題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献として松田修一『ベンチャー企業』日経文庫 2001。適宜資料を配布する		定期試験を行う。追試、レポートはありませんので注意してください (特に4年生)。また秋のビジネスコンテスト本選出場者は成績に加味する予定	

01年以降(春) 00年以前(春)	非営利組織マネジメント論 a 協同組合論 (通年)	担当者	高松和幸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>NPO (非営利組織) は、現在、それを支えるフィランソロピーやボランティアと共に注目されている。それは民間の非営利活動がさまざまな分野で囑望されているからである。</p> <p>この講義の目的は、NPO活動に対して、マネジメントの視点から取り上げることで、健全な活動ができることを学ぶことにある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. NPOとは何か：ボランティア組織・フィランソロピー・NGO・市民セクター 2. NPOの成立：ボランティア活動・NPOの萌芽 3. NPOの発展：ボランティア革命 4. NPOの規模：構造・分類・公益法人制度 5. NPOの形態：人制度・市民活動団体 6. NPOの成立基盤：制度化・活動資金 7. NPOの経営環境：外部環境・政府との関係 8. NPOの経営管理：管理機構・意思決定 9. NPOの管理手法：経営戦略・業績管理 10. NPOの会計制度：会計書類・会計基準 11. NPOの予算管理：予算制度・収支計算書 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
高松和幸著『NPOマネジメント』五紘舎、2002年。		出席・レポート・試験	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	非営利組織マネジメント論 b 協同組合論 (通年)	担当者	高松和幸
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>NPO (非営利組織) は、現在、それを支えるフィランソロピーやボランティアと共に注目されている。それは民間の非営利活動がさまざまな分野で囑望されているからである。</p> <p>この講義の目的は、NPO活動に対して、マネジメントの視点から取り上げることで、健全な活動ができることを学ぶことにある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. NPOの業績評価：NPOの経営分析・ 2. NPOの業績評価方法：財務と非財務情報 3. NPOの国際比較：世界のNPO 4. アメリカのNPO 5. イギリスのNPO 6. ドイツのNPO 7. フランスのNPO 8. 中国のNPO 9. その他の国のNPO：ハンガリー・トルコ 10. NPOのIT化：NPOの変化・組織の価値 11. NPOの今後 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
高松和幸著『NPOマネジメント』五紘舎、2002年。		出席・レポート・試験	

01年以降(春)	企業文化論 a (春学期 a 科目のみ開講)	担当者	齊藤善久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1) 企業文化を学ぶことは、企業は誰のために、何のために存在するのかを考えることと同じです。</p> <p>2) いい企業と、悪い企業を見抜く目を養いながら優れた企業文化をつくりあげた創業者の発想を学びます。</p> <p>3) 実際に自分の発想力を鍛えるために、ブレインストーミングの演習を何度か行います。</p> <p>4) さらに自分のキャリア・イメージを考え、キャリア戦略を立案します。</p> <p>以上の流れで授業を進めますので、300名の定員を超えた場合は、経済学部3年生の受講を優先します。</p>		<p>1) 企業文化とは何か</p> <p>2) 事例、</p> <p>3) 演習</p> <p>4) 企業の社会・文化貢献活動</p> <p>5) 演習</p> <p>6) 企業の社会的責任</p> <p>7) 演習</p> <p>8) 自分のキャリアを考えるには</p> <p>9) 演習</p> <p>10) 企業文化の将来</p> <p>11) 演習</p> <p>12) 演習の講評と表彰</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>レジュメを配ります。</p> <p>『ファンタスティック・コーポレーション』</p> <p>岡田芳郎 1992年 日本マンパワー出版</p>		出席、レポート、演習による総合評価	

講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

01年以降(春)	研究開発マネジメント a	担当者	日下泰夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>情報技術、バイオテクノロジー、新素材、ナノテクノロジー等の技術革新は、社会・経済、産業、経営、個人に大きな影響を与えつつある。企業発展の原動力はこうした企業の研究開発(R&D)によって支えられており、いかに競争優位の研究開発マネジメント・システムを構築するかは、企業経営の重大な関心事である。</p> <p>本講義では、技術革新の動向、技術革新をはじめとするイノベーションを引き起こすための研究開発マネジメントの基本的な諸視点を事例を交えながら学習する。講義の終わりには最新のトピックスも出来るだけ紹介する。将来、社会人として、新商品、新サービス、新事業の開発に関わりたいと考えている人は、技術に関わる経営の戦略的マネジメント(技術経営: Management of Technology)の理解は必須となろう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、企業の未来と研究開発: 「明日の経営と技術- Web アンケート調査」から 2 環境変化と研究開発マネジメント1: 日本企業の研究開発とその課題 3 環境変化と研究開発マネジメント2: 技術革新モデルと研究開発マネジメント 4 技術革新の潮流1: 技術の未来ロードマップ 5 技術革新の潮流2: 技術のライフサイクルとマネジメント 6 経営戦略と技術戦略1: 経営戦略の枠組み、技術開発戦略 7 経営戦略と技術戦略2: 技術戦略の視点、事例にみるイノベーション 8 事業創造: 事業のライフサイクルと技術・商品開発 9 商品開発1: 新しいパラダイム、プロダクト・イノベーションの諸概念と分析技法 10 商品開発2: 革新的な商品開発とコンセプト創造 11 研究開発とマーケティング 12 研究開発と人材育成(講演予定) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用しない。参考文献を開講時に紹介する。必要に応じて資料を配布する。</p>		<p>期末試験を中心に、レポート、出席状況を加味して評価する。</p>	

01年以降(秋)	研究開発マネジメント b	担当者	日下泰夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は前期に同じ。</p> <p>後期は、研究開発に関わる重要なトピックスについて、その現状と課題を出来るだけ事例をまじえながら紹介する。</p> <p>講義は春期講義 a (基礎概念) の履修を前提に進める。講義の終わりには最新のトピックスも出来るだけ紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 研究開発と環境マネジメント 2 環境経営に向けた自動車産業の研究・技術開発 3 研究開発と産学協同 4 研究開発と地域産業 5 研究開発と知財管理 6 研究開発とグローバル化 7 研究開発と情報システム 8 研究開発とアライアンス 9 研究開発マネジメントの研究 -国際会議における研究動向- 10 研究開発マネジメントと経営システム工学 11 研究開発に関する研究(モデル)の紹介 12 企業における技術経営の取り組み(講演予定) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは使用しない。参考文献は開講時に紹介する。必要に応じて資料を配布する。</p>		<p>期末試験を中心に、レポート、出席状況を加味して評価する。</p>	

01年度以降(春)	会計学原理 a	担当者	内倉 滋
00年度以前(春)	会計学原理(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、‘制度としての会計’の解明を目的とする。その目的のため、我が国における企業会計に関する慣習的な諸ルールを直接の分析対象に選び、その規定している内容と、それを支えている理論的な背景の紹介をしていきたい。</p> <p>講義計画は右に掲げるとおりであるが、おおむね「会計学原理 a」では、会計学の領域のうちで従来から議論されてきた伝統的な部分の概要を紹介していく予定である。</p> <p>なお、複式簿記の基本的知識を前提に議論を出発させるため、「簿記原理 a, b」を修得していること、または同等の知識のあることを履修の条件とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 本講義の目的等 2 テキスト第1章：会計と会計理論 3 テキスト第2章：企業会計と関係法規 4 テキスト第3章：企業会計原則 5 テキスト第4章：貸借対照表 6 テキスト第5章：損益計算書 7 テキスト第6章：キャッシュ・フロー会計 8 テキスト第7章：流動資産 9 テキスト第8章：有価証券 10 テキスト第9章：固定資産 11 テキスト第10章：固定資産の減損と時価評価 12 テキスト第11章：繰延資産 	
テキスト、参考文献		評価方法	
平井克彦・石津寿恵、『損益計算と情報開示』（白桃書房）		評価の中心は期末試験の結果である。その際には、相対評価を基本とし、絶対評価を加味したい。	

01年度以降(秋)	会計学原理 b	担当者	内倉 滋
00年度以前(秋)	会計学原理(通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「会計学原理 a」の、伝統的な会計学領域に関する知識を前提としてこの「会計学原理 b」では、‘連結財務諸表’、‘税効果会計’、‘外貨換算’、‘デリバティブ’といった、比較的新しい問題（ないし、最近においてその制度的中身が大幅に改変された領域）を講義の対象としたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 テキスト第12章：負債…その1 2 テキスト第12章：負債…その2 3 テキスト第13章：引当金 4 テキスト第14章：資本…その1 5 テキスト第14章：資本…その2 6 テキスト第15・16章：収益・費用の認識方法 7 テキスト第17章：連結会計 8 テキスト第18章：税務会計 9 テキスト第19章：税効果会計 10 テキスト第20章：外貨換算会計 11 テキスト第21章：デリバティブ会計 12 テキスト第22章：リース会計 	
テキスト、参考文献		評価方法	
「会計学原理 a」と同様。		「会計学原理 a」と同様。	

01年以降(春) 00年以前(春)	財務会計論 a 財務会計論 (通年)	担当者	中村泰將
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講座は、1年生で簿記を学び、次に、より専門的な会計理論を学ぼうとするための講座です。例えば、簿記では、純財産(資本)を増加させるのは、「資本の出資」と「利益の増加」であると学びました。それではなぜこの両者は同じ資本の増加になるのでしょうか。「簿記」では、いかに(how)記録・計算するかを学びました。会計学では、なぜ(why)そうなるのかについてのその理由と論拠を学びます。</p> <p>簿記は、会計理論の決定にしたがって記録・計算するシステムなのです。ある取引が資本の増加なのか、利益の発生なのか、また資本の減少なのか、費用の発生なのかは会計理論が決定するのです。</p> <p>会計は企業で発生するさまざまな経済活動(交換取引など)あるいは経済事象(価格変動など)をあらかじめ決められた基準(「会計基準」という)にしたがって貨幣的言語で表現(「測定」という)し、伝達する行為です。会計は経済現象をを貨幣で測定します。そこに他の学問と異なった会計の存在価値があります。</p> <p>授業では、毎回、講義のレジュメを配布し、理論ばかりでなく実際に企業でどのように会計が利用されているかを新聞、雑誌などを利用して説明します。</p>		<p><総論></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会計(学)とは、どのような学問か。 2. 企業会計の理論的構造は何か。 3. 企業会計の計算構造は何か。 4. 日本および米国の会計制度はどのような仕組みになっているのか。 5. 「企業会計原則」あるいは「企業会計基準」の構造。 <p><各論></p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 資産会計 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 資産の意義 (イ) 資産の分類 (ウ) 資産の評価 7. 流動資産の意義・分類・評価 8. 当座資産の意義・分類・評価 9. 有価証券の意義・分類・評価 10. 固定資産の意義・分類・評価・償却 11. 繰延資産の意義・評価・償却 12. 無形固定資産の意義・評価・償却 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>新井清光著・加古宜士(補訂)『現代会計学』(第7版) 中央経済社</p> <p>参考文献『会計法規集』中央経済社</p>		出席・レポート(20%)、定期試験(80%)	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	財務会計論 b 財務会計論 (通年)	担当者	中村泰將
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、講義目的については春学期と同様です。春学期に単位を落としても、秋学期は履修できます。</p> <p>秋学期の財務会計の範囲としては、先ず、貸借対照表の貸方側の負債と資本から始まります。</p> <p>負債は、年金の問題、リースの問題などが入り、計算の構造が割引キャッシュフローでもって測定する形になります。資本では、商法が50年ぶりに改正され、資本の分類、資本の項目なども変わり、企業再編の会計、自己株式の会計、合併の会計処理など新たな会計基準が登場してきました。</p> <p>損益会計では、あくまでも近代会計は損益の計算を重視していますから、利益の計算は会計にとって重要な課題です。</p> <p>連結財務諸表は、今日の企業の系列、統合化、再編などと相まってますます企業グループの財務諸表の重要性が高まってきています。米国では、連結財務諸表が中心ですし、日本でも連結財務諸表が個別財務諸表よりも主たる財務諸表となっております。</p> <p>授業では、毎回、講義のレジュメを配布し、理論ばかりでなく実際に企業でどのように会計が利用されているかを新聞、雑誌などを利用して説明します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 負債会計(1) <ul style="list-style-type: none"> ①負債の概念・分類・評価 2. 負債会計(2) <ul style="list-style-type: none"> ① 引当金の意義、②引当金の設定目的、③引当金の設定要件 3. 資本会計(1) <ul style="list-style-type: none"> ①資本会計の領域と意義、②資本会計の経済的分類と法律的分類 4. 資本会計(2) <ul style="list-style-type: none"> ①払込資本、②増資・減資の会計 5. 資本会計(3) <ul style="list-style-type: none"> ①評価替資本と受像資本の会計 6. 資本会計(4) 7. 損益会計(1) 8. 損益会計(2) 9. 損益会計(3) 10. 財務諸表の種類とその意義 11. 連結財務諸表(1) 12. 連結財務諸表(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト、参考文献とも春学期に同じです。		評価方法も春学期に同じです。	

01年以降(春)	管理会計論 a	担当者	香取 徹
00年以前(春)	管理会計論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>黒字製品をたくさん作ったら利益が減った？在庫がたまるほど利益が増えた？不良在庫はいくらで処分するの？原価が変わるって本当ですか？などなど原価節減、利益拡大など、わかるようでわからない問題から複雑で不確定な現実の問題まで、企業はさまざまな問題に直面しています。このようなコスト低減や利益拡大のための改善活動や管理活動をすすめるためにはキャッシュフローにもとづく会計情報を利用して分析しなければなりません。</p> <p>管理会計論 a では、キャッシュフローによる経済的な意思決定の考え方、意思決定のタイプと判断基準などの短期的利益計画・管理の問題についてケーススタディの演習をします。</p> <p>履修に当っては簿記原理を受講しているか、日商の3級程度の簿記の知識が必要です。また、授業中にノートパソコンを持っている人はぜひ持参してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 管理会計とは、最近のトピックスから 2. 意思決定とキャッシュフロー、木村さんの場合 3. テニスクラブの選び方 4. 関連原価・無関連原価、ギャラリー綺羅 5. 貢献利益とは、小金井工業 6. 赤字製品と黒字製品、神奈川工業 7. 減価償却費とキャッシュフロー、YG 工業 8. Constraints(制約)の話、市場制約と生産能力制約 北村製作所 9. KAIZEN(改善)の効果 10. 意思決定の問題のタイプ 11. 意思決定の問題のタイプ、独立案 12. 意思決定の問題のタイプ、排反案 	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤・香取『キャッシュフロー管理会計』中央経済社		試験 100 点、課題 10 点	

01年以降(秋)	管理会計論 b	担当者	香取 徹
00年以前(秋)	管理会計論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>管理会計論 b では、フリーキャッシュフローと企業価値、投資計画の評価基準など長期の利益計画問題を検討します。</p> <p>Excel を使ってキャッシュフローのシミュレーション・モデルを作成して分析したいと思います。</p> <p>履修に当っては簿記原理を受講しているか、日商の3級程度の簿記の知識が必要です。また、授業中にノートパソコンを持っている人は大変便利です。ぜひ持参してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 管理会計の最近のトピックス 2. キャッシュフローと資金の時間価値(1) 3. キャッシュフローと資金の時間価値(2) 4. フリーキャッシュフローと企業価値 5. Excel によるキャッシュフロー計算実習(1)基本 6. Excel によるキャッシュフロー計算実習(2)財務諸表 7. Excel によるキャッシュフロー計算実習(3)経済性 8. 投資案の評価基準 9. 投資案のタイプによる選択(1) 10. 投資案のタイプによる選択(2) 11. 投資案のタイプによる選択(3) 12. キャッシュフローによる管理会計 	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤・香取『キャッシュフロー管理会計』中央経済社		試験 100 点、課題 10 点	

01年以降(春)	社会会計論 a	担当者	湯田 雅夫
00年以前(春)	社会会計論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>大企業、公営企業で普及している環境経営、環境会計を社会会計の視点から講義します。</p> <p>環境経営、環境会計は、21世紀の企業経営において必要不可欠のものです。環境経営と環境会計の内容を出来るだけわかりやすく、講義していきます。</p> <p>皆さんも、新聞や雑誌で取り上げている環境問題に関する記事を出来るだけ読むように心がけてください。</p> <p>「社会会計論 a」と「社会会計論 b」は、連続した講義なので、「春学期」「秋学期」共履修すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 社会会計、環境会計、環境会計の学び方、研究対象 2 環境経営、環境会計の研究方法及び関連領域 3 人類の歴史と環境問題 4 地球環境問題ならびに国際的取り組み 5 国連の環境への取り組み① 6 国連の環境への取り組み② 7 循環型経済社会構築と諸課題 8 持続可能性と企業活動の3つの領域 9 環境会計の体系 3つのアプローチ 10 環境会計アプローチの事例 11 環境会計アプローチに対する批判的考察 12 春学期のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
湯田雅夫『講義ノート』2005年版 参考文献はその都度指示します。		レポートと出席状況から総合的に評価します。	

01年以降(秋)	社会会計論 b	担当者	湯田 雅夫
00年以前(秋)	社会会計論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、環境経営、環境会計の具体的内容を講義します。</p> <p>物量計算としての環境負荷計算と貨幣計算としての環境原価計算、そしてその組み合わせから環境効率を明らかにすることが出来ます。地球の環境容量との関連で、この環境効率を高めることは、大変重要です。</p> <p>皆さん一人一人は、この講義で得た知識と技術を、是非、社会で実践してください。</p> <p>「社会会計論 a」と「社会会計論 b」は、連続した講義なので、「春学期」「秋学期」共履修すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 秋学期オリエンテーション 2 環境負荷計算 物量計算 3 環境原価計算 貨幣計算 4 環境原価と環境負荷を統合する環境経営 5 国際標準 ISO と EMAS の内容と課題 6 環境監査 内部監査と外部監査 環境審査員の役割 7 環境効率 環境効率革命に向けて 8 環境効率 企業の事例 9 環境報告書の基本構造ならびに入手方法 10 環境報告書の評価方法 11 秋学期のまとめ 12 授業のまとめと講評 	
テキスト、参考文献		評価方法	
湯田雅夫『講義ノート』2005年版 参考文献はその都度指示します。		期末試験と出席状況から総合的に評価します。	

01年以降(春) 00年以前(春)	原価計算論 a 原価計算論 (通年)	担当者	齋藤 正章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>原価計算には、大きく分けて、財務会計目的と管理会計目的という2つの目的があります。財務会計目的のための原価計算を「制度原価計算」といいますが、これは財務諸表作成のために必要な原価数値を計算する手続き全般を指します。他方、管理会計目的の原価計算は、経営管理のための原価計算で、企業の生産システム、製造技術、情報技術などの進歩や市場環境の変化に伴い、従来のシステムからの変革を迫られています。本講義は、この2つの視点から企業における原価計算の役割や手続きについて理解を深めることを目標としています。</p> <p>講義概要</p> <p>「原価計算基準」にもとづく原価計算制度の枠内の実際原価計算と標準原価計算、枠外の直接原価計算を中心に講義を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 原価計算総説 2. 原価とは何か 3. 原価計算の基礎手続き 4. 原価の費目別計算 (1) 5. 原価の費目別計算 (2) 6. 原価の費目別計算 (3) 7. 原価の部門別計算 (1) 8. 原価の部門別計算 (2) 9. 原価の部門別計算 (3) 10. 個別原価計算 (1) 11. 個別原価計算 (2) 12. 個別原価計算 (3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『入門 原価計算』(清水孝・長谷川恵一・奥村雅史著) 中央経済社		出席 10%, 定期試験の結果 90%で評価します。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	原価計算論 b 原価計算論 (通年)	担当者	齋藤 正章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義の目的</p> <p>原価計算には、大きく分けて、財務会計目的と管理会計目的という2つの目的があります。財務会計目的のための原価計算を「制度原価計算」といいますが、これは財務諸表作成のために必要な原価数値を計算する手続き全般を指します。他方、管理会計目的の原価計算は、経営管理のための原価計算で、企業の生産システム、製造技術、情報技術などの進歩や市場環境の変化に伴い、従来のシステムからの変革を迫られています。本講義は、この2つの視点から企業における原価計算の役割や手続きについて理解を深めることを目標としています。</p> <p>講義概要</p> <p>「原価計算基準」にもとづく原価計算制度の枠内の実際原価計算と標準原価計算、枠外の直接原価計算を中心に講義を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合原価計算 (1) 2. 総合原価計算 (2) 3. 総合原価計算 (3) 4. 総合原価計算 (4) 5. 総合原価計算 (5) 6. 総合原価計算 (6) 7. 総合原価計算 (7) 8. 標準原価計算 (1) 9. 標準原価計算 (2) 10. 直接原価計算 (1) 11. 直接原価計算 (2) 12. 原価計算の新展開 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『入門 原価計算』(清水孝・長谷川恵一・奥村雅史著) 中央経済社		出席 10%, 定期試験の結果 90%で評価します。	

01年以降(春)	会計監査論 a	担当者	米田 正巳
00年以前(春)	会計監査論		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的)</p> <p>企業財務情報の開示制度は、株主等の保護を目的として、適正な会計基準の設定、会計監査の実施等が適切に運営されることにより成り立っている。</p> <p>本講義では、理論の説明とともに、企業の実際の財務諸表等を利用して現実の会計監査の事例を用いて、我が国及び米国の監査基準及び監査手続きを理解することを目標とする。</p> <p>(講義概要)</p> <p>会計監査の講義はテキストを中心に実施するが、会計監査の理論は監査実務と関連しているので、出来るだけ実際の監査実務例により説明し、我が国監査の現状の理解を深めることにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 監査の概要—監査の種類、情報開示制度と会計監査、CPA 監査 2 法定監査(1)—証券取引法監査制度 3 法定監査(2)—商法監査制度 4 職業監査の規範—監査基準 5 監査の実施に関わる基礎概念—監査要点、監査証拠 6 監査の実施に関わる基礎概念—監査手続、監査計画、監査調書 7 監査の実施における監査リスクと重要性—リスクアプローチ 8 内部統制の検討(1)—内部統制の構成要素等 9 内部統制の検討(2)—内部監査との関係等 10 試査の概念—サンプリングの基礎概念 11 取引サイクルの監査と決算監査 12 監査意見と監査報告書—適正、限定、不適正、意見差控 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：山浦久司著『会計監査論』中央経済社</p> <p>参考文献：前期開講時に指定する。</p>		出席(30点)と試験(70点)による。	

01年以降(秋)	会計監査論 b	担当者	米田 正巳
00年以前(秋)	会計監査論		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的)</p> <p>監査は会計と一体として考えるべきであり、会計があるところに監査がある。後期は前期に引き続いて、会計監査の実務的問題を説明し、理解を深めることにする。</p> <p>監査は企業会計だけでなく、非営利法人においても実施されている。特に公会計・監査として、地方自治体の監査の内容、監査の観点について、我が国の現況と英国の自治体監査を理解することを目標とする。</p> <p>(講義概要)</p> <p>講義はテキストを中心に実施するが、後期の授業は監査実務と関連しているので、出来るだけ実際の監査実務例により説明し、我が国監査の現状の理解を深めることにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 監査の歴史—我が国の CPA 監査の現状等 2 監査—中間監査基準、中間監査実施基準、中間監査報告基準、中間監査の課題 3 連結財務諸表の監査—セグメント情報の監査 4 決算監査の実務—実査、確認、立会 5 監査人の責任—不正・誤謬に対する責任、経営業務に対する責任、経営者による確認書 6 監査意見と監査報告書—ゴーイングコンサーン等 7 非営利法人の監査—公益法人、独立行政法人、学校法人、労働組合等の監査 8 地方自治体の監査—監査委員監査、外部監査等 9 パブリック監査の観点—監査の観点の内容、その変遷 10 英国の自治体監査—監査委員会、VFM 監査(3E 監査)、ベストバリュア監査 11 我が国の地方自治体の監査—包括外部監査 12 総括 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：山浦久司著『会計監査論』中央経済社</p> <p>参考文献：後期開講時に指定する。</p>		出席(30点)と試験(70点)による。	

01年以降(春)	税務会計論 a	担当者	山田 浩一
00年以前(春)	税務会計論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では会計と税務が相互に複雑に影響しあっている会計実践の状況を理解してもらうため、経済行為の実態そのものの理解から始め、会計理論と税務理論の違いがどのような制度的相違に結びついていくかということといった点に付き解説していきたい。</p> <p>税務会計論は実践的なテーマを多く取り扱うため、ややもすると税務計算ノウハウの習得といった内容に偏りがちであるが、本講義では、できる限り様々な制度の理論的側面に焦点を当てていきたいと考えている。</p> <p>また日常のニュースの中から講義内容に関連する題材を取り上げて考察を加えてみたいと思う。</p> <p>なお、受講者には次の関連科目を受講することを勧める。簿記論、会计学、財務会計論、財政学、商法 等</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義概要案内、税務会計論の対象と方法 2 租税制度 3 制度会計の構造 4 課税所得の計算構造 5 公正会計処理基準 6 売上収益の認識 7 金銭債権の評価 8 売上原価と棚卸資産 9 有価証券の取引と評価 10 受取配当金の益金不算入 11 有形固定資産と減価償却 12 リース会計 	
テキスト、参考文献		評価方法	
税務会計要論 中田信正書 (同文館)		授業中の小テストとレポートの成績を考慮して評価する。	

01年以降(秋)	税務会計論 b	担当者	山田 浩一
00年以前(秋)	税務会計論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春期授業の税務会計論 a における基本的知識を前提とし、各論を展開していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 無形固定資産、繰延資産 2 圧縮記帳 3 引当金・準備金 4 給与・報酬・源泉徴収 5 交際費・寄付金 6 租税公課 7 消費税の本質の理解 8 税効果会計 9 企業組織再編税制 10 申告・納税の概要 11 企業集団税制 12 国際課税 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春期に同じ		授業中の小テスト等と期末定期試験により評価する。	

01年以降(春) 00年以前(春)	経営分析論 a 経営分析論 (通年)	担当者	百瀬 房徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経営分析は、財務諸表分析として発展してきた。そして、このためには、統一した財務諸表の作成方法を促進させてきた。財務諸表の分析の始まりは、金融機関が貸付金の返済能力を診断したところにある。その後、証券市場では、収益性の分析を発展させてきた。現在では、特定の実体（例えば企業）の評価または診断、当該実体の属する産業の動向、国民経済の動向を分析するまでに発展している。歴史的発展過程をふまえる形で、経済環境と分析技法の二面により考察し、全体像の理解を深めることにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 経営分析の現代における意義 2 米国の経済環境における手形市場の形成過程 3 手形市場、特に手形の割引に際しての銀行から見た信用分析の形成過程。 4 信用分析の側面から見た財務諸表 特に貸借対照表を中心に 5 信用分析における 2 対 1 の原則から体系的な分析への過程 6 信用分析のケーススタディ ウォール、ブリス 7 信用分析のケーススタディ ギルマン、ウォール、シュマルツ 8 収益性の分析および、その他の分析への発展 9 経営分析の意義とその限界 10 経営分析の主体とその目的 11 経営分析の種類 	
テキスト、参考文献		評価方法	
前林 和寿「経営分析の基礎」森山書店		テスト	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	経営分析論 b 経営分析論 (通年)	担当者	百瀬 房徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>代表的企業の有価証券報告書総覧に記載されている財務諸表を資料として、体系的な分析をする。特に、安全性、収益性、生産性について、解説しながら分析数値を算出する。そして、この分析数値が何を意味するかを考察する。この分析をテーマごとにレポートを完成させ、提出してもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 安全性の分析(1) 比率分析 (レポート提出) 2 安全性の分析(2) 資金移動表の解説 3 安全性の分析(3) 資金移動表の作成 (レポート提出) 4 収益性の分析(1) 各種資本利益率 5 収益性の分析(2) 売上高利益率と資本回転率 (レポート提出) 6 収益性の分析(3) 利益増減の原因分析 (レポート提出) 7 生産性の分析(1) 付加価値の意義 8 生産性の分析(2) 付加価値の計算と数値の意味 9 生産性の分析(3) 付加価値表の作成 (レポート提出) 10 損益分岐点分析(1) 損益分岐点と意義 11 損益分岐点分析(2) 損益分岐点の計算と数値の意味 12 損益分岐点分析(3) 損益分岐点の計算 (レポート提出) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
前林 和寿「経営分析の基礎」森山書店		レポートを中心として評価するが、レポートが理解されているかテストする。	

01年以降(春) 00年以前(春)	上級簿記 a (商業) 上級簿記 (通年)	担当者	井出 健二郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>簿記原理を履修された方を前提としています。簿記原理は、簿記の基礎的な部分をカバーしたものです。日本商工会議所が主催する検定試験3級が簿記原理とすると、それは個人企業を主として対象としていました。</p> <p>上級簿記は、日本商工会議所が主催する検定試験2級の一部に相当し、中小規模の会社での簿記ということになります。したがって、重複する部分もあり、あるいは発展的な部分もあります。</p> <p>よって、基礎的な部分は事前に復習されておくことを期待しています。</p> <p>また、公認会計士や税理士、国税専門官、米国会計士を目指して学習されている方もいるでしょう。少しでも一助となるような講義を心がけます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義にあたってのイントロダクション 2 現金預金 3 手形 4 有価証券 5 偶発債務・その他 6 一般商品売買 7 特殊商品売買 8 特殊商品売買② 9 固定資産 10 引当金 11 税金 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
片山覚編『中級商業簿記』創成社		出席 40% 試験 40% その他 20%	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	上級簿記 b (商業) 上級簿記 (通年)	担当者	井出 健二郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>上級簿記 a を受講された方を前提としています。引き続き、必要な処理について講義していきます。一つの目標として、日本商工会議所簿記検定2級を視野に入れながら、新しい内容を理解しながらも、問題を解いていくなど実践的な講義としていきます。</p> <p>すなわち、電卓をそばにおいて問題を考えようこととなります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義にあたってのイントロダクション 2 株式会社会計 3 株式会社会計② 4 社債 5 決算 6 決算② 7 本支店会計 8 本支店会計② 9 帳簿組織① 10 帳簿組織② 11 伝票会計 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
片山覚編『中級商業簿記』創成社		出席 40% 試験 40% その他 20%	

01年以降(春) 00年以前(春)	上級簿記(工業) a 上級簿記(通年)	担当者	香取 徹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>上級簿記論(工業)は、日商簿記検定2級の試験範囲のうち工業簿記を1年間をかけて完全に制覇することを目的としています。日商簿記検定2級の試験は、商業簿記と工業簿記の2種類の簿記検定試験です。工業簿記は製造業で行われる簿記のことです。原価計算や管理会計の基礎として重要な技術ですので、ぜひ理解習得してほしいと思います。</p> <p>簿記は決して難しいものではありませんが、技術ですから、これを身につけるためには練習が必要です。そのため、毎回の講義では、一つずつ項目を説明し例題を解説し、講義に合わせてワークブックや配布するプリントを練習します。講義中に練習しながら質問を受けていきます。また、プリントに質問や意見を書いてください。</p> <p>(皆さんの進度に応じて変更あります)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. テーマ1 工業簿記の基礎 2. テーマ2 工業簿記の勘定連結 3. テーマ3 材料費(I) 4. テーマ4 材料費(II) 5. 同上 6. テーマ5 労務費(I) 7. テーマ6 労務費(II) 8. テーマ7 経費(I) 9. テーマ8 経費(II) 10. テーマ9 個別原価計算(I) 11. テーマ10 個別原価計算(II) 12. テーマ11 部門別個別原価計算(I) 13. テーマ11 部門別個別原価計算(II) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
TAC出版『合格テキスト日商簿記2級工業簿記』 『合格トレーニング日商簿記2級工業簿記』		試験100点、プリントとプリント、ワークブック10点	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	上級簿記(工業) b 上級簿記(通年)	担当者	香取 徹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>上級簿記論(工業)は、日商簿記検定2級の試験範囲のうち工業簿記を1年間をかけて完全に制覇することを目的としています。日商簿記検定2級の試験は、商業簿記と工業簿記の2種類の簿記検定試験です。工業簿記は製造業で行われる簿記のことです。原価計算や管理会計の基礎として重要な技術ですので、ぜひ理解習得してほしいと思います。</p> <p>簿記は決して難しいものではありませんが、技術ですから、これを身につけるためには練習が必要です。そのため、毎回の講義では、一つずつ項目を説明し例題を解説し、講義に合わせてワークブックや配布するプリントを練習します。講義中に練習しながら質問を受けていきます。また、プリントに質問や意見を書いてください。</p> <p>この上級簿記(工業)bは、上級簿記(工業)aで残された個別原価計算以降を練習します。(皆さんの進度に応じて変更あります)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合原価計算(I) 2. 総合原価計算(II) 3. 総合原価計算(III) 4. 総合原価計算(IV) 5. 総合原価計算(V) 6. 財務諸表 7. 本社工場会計 8. 標準原価計算(I) 9. 標準原価計算(II) 10. 標準原価計算(III) 11. 標準原価計算(IV) 12. 直接原価計算(I) 13. 直接原価計算(II) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
TAC出版『合格テキスト日商簿記2級工業簿記』 『合格トレーニング日商簿記2級工業簿記』		試験100点、プリントとプリント、ワークブック10点	

01年以降(春)	国際会計論 a	担当者	五十嵐則夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. 講義目的</p> <p>わが国および世界の企業は、多国にわたり事業活動を行い、まさに多国籍企業としてグローバルな経営活動を展開している。近年、国際会計基準 (IAS、IFRS) への注目が急速に高まってきている。日本での会計基準も、国際会計基準や米国会計基準を基に作成されている。</p> <p>海外においては、会計ルールの一統化を図ろうとする動きが活発である。特に、EU (欧州連合) 諸国が、IASの導入に熱心であり、2005年よりEU域内の公開企業は、原則としてIASに準拠した連結財務諸表の作成が必要となる。国際会計基準委員会は (IASB) は、会計基準の世界統一 (convergence) を、目指して活動している。アメリカのFASB (財務会計基準委員会) もIASBと共同研究などを行い、調和化・統一化の姿勢を見せている。このような世界の動きに対応して、特にECの動きに対して、日本会計基準もIASと同等性の義務づけの時期が2007年までとなった。会計基準は、まさに世界統一化へ動こうとしている。</p> <p>2. 講義の概要</p> <p>こうした状況を踏まえて、国際会計基準の主要なテーマごとに説明するとともに、日本基準と米国会計基準の相違についても説明する。本講座は、国際会計論 a と国際会計論 b で構成されるものである。</p>		<p>1. 国際会計基準の概要—国際会計基準委員会の組織、基準の設定手続きなど</p> <p>2. 財務諸表の構成、表示および開示—IASが対象にしている財務諸表の範囲、作成・表示・開示に関する基本的基準</p> <p>3. 連結財務諸表—意義、連結範囲、作成基準、個別財務諸表における子会社投資の会計など</p> <p>4. 関連会社投資に対する会計—定義、範囲、投資の会計処理方法、持分法の具体的な適用方法など</p> <p>5. ジョイント・ベンチャーに対する持分の財務報告—意義、共同支配の事業、JV共同支配企業とJVとの取引の会計処理など</p> <p>6. 外貨換算—外貨建て取引の会計、為替差額の認識、在外事業活動体の財務諸表の換算・開示</p> <p>7. キャッシュ・フロー計算書—内容の理解、株主、経営者、投資家などにとつてのキャッシュ・フローの重要性の理解</p> <p>8. セグメント情報—セグメント情報の重要性の理解、マネージメント・アプローチ、開示セグメントの決定 (重要性基準)</p> <p>9. 収益の認識基準—定義と適用範囲、工事契約収益の認識、米国SECの収益認識基準の考え方</p> <p>10. 借入費用—会計処理、資産化の要件、資産化すべき借入費用の額、資産化の期間</p> <p>11. 関連当事者取引—特定の利害関係を有する関連当事者との取引の報告の重要性を理解する。</p> <p>12. その他</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時に指定する。		授業の出席率と成績で評価する。	

01年以降(秋)	国際会計論 b	担当者	五十嵐則夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. 講義目的</p> <p>わが国および世界の企業は、多国にわたり事業活動を行い、まさに多国籍企業としてグローバルな経営活動を展開している。近年、国際会計基準 (IAS、IFRS) への注目が急速に高まってきている。日本での会計基準も、国際会計基準や米国会計基準を基に作成されている。</p> <p>海外においては、会計ルールの一統化を図ろうとする動きが活発である。特に、EU (欧州連合) 諸国が、IASの導入に熱心であり、2005年よりEU域内の公開企業は、原則としてIASに準拠した連結財務諸表の作成が必要となる。国際会計基準委員会は (IASB) は、会計基準の世界統一 (convergence) を、目指して活動している。アメリカのFASB (財務会計基準委員会) もIASBと共同研究などを行い、調和化・統一化の姿勢を見せている。このような世界の動きに対応して、特にECの動きに対して、日本会計基準もIASと同等性の義務づけの時期が2007年までとなった。会計基準は、まさに世界統一化へ動こうとしている。</p> <p>2. 講義の概要</p> <p>こうした状況を踏まえて、国際会計基準の主要なテーマごとに説明するとともに、日本基準と米国会計基準の相違についても説明する。本講座は、国際会計論 a と国際会計論 b で構成されるものである。</p>		<p>1. 金融商品—定義、認識および測定、認識の中止、金融資産の金融負債の測定、有価証券、債権の評価 (貸倒引当金)、デリバティブ、ヘッジ会計</p> <p>2. 有形固定資産—有形および無形固定資産の認識、当初測定、減価償却、評価、除却・処分など</p> <p>3. 減損会計—意義、減損の兆候、減損の認識・測定、洗い替えと切り離し法など</p> <p>4. リース会計—定義と分類、ファイナンス・リースとオペレーティング・リース、借手側の会計処理、貸手側の会計処理、セールス・アンド・リースバック取引</p> <p>5. 年金会計—給付アプローチ、年金債務の種類 (PBO, ABO, VBO)、回廊方式、厚生年金基金の代行部分の返上の米国基準の会計処理、IAS/USGAAP/JAPANの差異</p> <p>6. 法人所得税—税効果会計の意義、資産負債法、繰延税金資産の実現可能性、IAS/USGAAP/JAPANの差異</p> <p>7. 企業結合—「取得」と「持分の結合」、取得の会計処理 (パーチェス法)、持分の結合 (持分プーリング) の会計処理</p> <p>8. ストック・オプションの会計—費用の認識、測定基準日、失効の取り扱い、測定の取り扱い、費用認識の時期</p> <p>9. 研究開発費—定義、構成要素、認識、開発費の償却</p> <p>10. 一株当たり利益—意義、投資家にとつての重要性、国際的企業・日本企業の実例</p> <p>11. 財務諸表表示の国際比較</p> <p>12. その他</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
開講時に指定する。		授業の出席率で成績評価する。	

01年以降(春)	経営数学 a	担当者	本田 勝
00年以前(春)	経営数学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義は「経営数学」という名前になっているが、経済学や経営学とその周辺の学問を学ぶにあたって必要な数学の基本的な部分を習得することを目的とする。</p> <p>回帰分析の手法や目的関数の最適化などを行うには微分や行列の概念が必要であるし、産業構造の把握に欠かせない産業連関分析にも行列論の概念が使われる。また広い意味の情報科学の中では、データ構造やアルゴリズムを考える上ではいわゆる離散数学の考え方も必要である。</p> <p>講義にあたってはテキストを中心に、ときにはプリントを配布し、できるだけ平易に解説することにする。また理解を深めるためには、受講者自身の演習を取り入れたり、コンピュータによる考え方の提示なども取り入れていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODakシヨン 講義を始めるにあたって 2 集合とは何か 集合の演算 3 命題と命題算 4 証明の方法 5 ベクトルとベクトルの演算 (ベクトルの定義、ベクトル空間) 6 行列の定義 (基本演算、単位行列) 7 行列の基本変形 (逆行列、行列の階数) 8 連立1次方程式 (ガウスの消去法) 9 行列式の定義とその性質 10 行列と1次変換 11 固有値と固有ベクトル 12 まとめと演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定 講義時に指示		演習、レポート、出席調査および定期試験による総合評価	

01年以降(秋)	経営数学 b	担当者	本田 勝
00年以前(秋)	経営数学 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
経営数学 a と同じ		<ol style="list-style-type: none"> 1 行列の応用 (線形計画法) 2 行列の応用 (シンプレックス法) 3 行列の応用 (産業連関表) 4 行列の応用 (産業連関の分析) 5 関数の極限 (数列の極限、関数の連続性) 6 導関数と微分 (微分の意味、高階導関数) 7 微分の計算 (微分法、媒介変数の微分) 8 多変数関数とその微分 (偏微分、全微分) 9 微分の応用 (極大極小、ラグランジュ未定係数法) 10 差分と差分方程式 11 微分方程式とその応用 (成長曲線、均衡価格安定性) 12 まとめと演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
未定 講義時に指示		演習、レポート、出席調査および定期試験による総合評価	

01年以降(春)	情報検索論 a	担当者	福田 求
00年以前(春)	情報検索論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【注意】受講者の抽選を行う。詳細は教務課からの説明資料(時間割表, 掲示等)を参照し, 不明な点があれば教務課経済学部窓口で確認すること。</p> <p>【目的】必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に, コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を, 解説および実習を通して体得する。</p> <p>【概要】本講義ではまず, 情報検索に関する基礎的な概念について解説し, 情報検索を取り巻くシステムの仕組みを概観する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 情報検索の定義 3 情報検索の種類, 歴史 4 データベースの定義, 意義, 構成要素, 種類, 歴史 5 索引語, シソーラス 6 前半部分のまとめ。質問受付。 7 情報検索関連作業のプロセス 8 検索式(1): 論理演算子 9 検索式(2): トランケーション 10 検索式(3): 位置演算子, フィールド演算子 11 検索結果の評価 12 授業全体のまとめ。質問受付。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末試験(筆記試験またはレポート)。これに平常点を加味する。	

01年以降(秋)	情報検索論 b	担当者	福田 求
00年以前(秋)	情報検索論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【注意】受講者の抽選を行う。詳細は教務課からの説明資料(時間割表, 掲示等)を参照し, 不明な点があれば教務課経済学部窓口で確認すること。</p> <p>【目的】必要な情報を効果的に選択・入手する行為としての情報検索について理解を深める。特に, コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を, 解説および実習を通して体得する。</p> <p>【概要】情報検索論 a での知識を踏まえた上で, 実際の情報検索技術に慣れ, 習熟するために, CD-ROM データベースや WWW の検索エンジン, 商用オンラインデータベースを用いた情報検索の実習を行う。実習では可能なかぎり, 受講者が今後の調査/研究活動で利用できるような情報源を紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 CD-ROM 検索(1) 3 CD-ROM 検索(2) 4 WWW の検索エンジン(1): インターネット/WWW の基礎 5 WWW の検索エンジン(2): 種類 6 前半部分のまとめ。質問受付。 7 WWW の検索エンジン(3): ロボット 8 WWW の検索エンジン(4): インデックス 9 WWW の検索エンジン(5): 検索結果の表示 10 商用オンラインデータベースの検索(1) 11 商用オンラインデータベースの検索(2) 12 授業全体のまとめ。質問受付。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		期末試験(筆記試験またはレポート)。これに平常点を加味する。	

01年以降(春)	情報システム論 a	担当者	今福 啓
00年以前(春)	情報システム論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>個人が天気予報を見てその日の行動を決定したり、企業が製品の売り上げをもとに生産管理を行うように、情報は行動決定において、たいへん重要な役割を持っています。このような情報を効率よく的確に収集し、処理して発信することで、個人や企業が現代社会における活動を支援するためのシステムを、情報システムといいます。必要となる情報を、より適した形で利用するには、業務についての知識だけでなく、情報システムにおいて使用されているコンピュータやネットワーク、業務システムの分析法やモデル化手法や設計手法といった、幅広い知識が必要となります。情報システム論 a においては、情報システムについての全体像を把握し、情報システムに関連する個々の基礎技術についての理解を深めることを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンス 2. 情報システムの基礎－全体像を見る 3. 情報システムの構成要素 1－ハードウェアとソフトウェア 4. 情報システムの構成要素 2－ネットワーク 5. 情報システムにおける処理方式－定型処理と非定型処理 6. 業務のモデル化とモデル化手法 7. システムの構築方法－構造化手法とオブジェクト指向アプローチ 8. 構造化手法による設計と問題点 9. オブジェクト指向アプローチの基礎 10. オブジェクト指向による設計 11. システムのシミュレーションと分析 12. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しません。		課題、期末試験の結果を総合して判断します。	

01年以降(秋)	情報システム論 b	担当者	今福 啓
00年以前(秋)	情報システム論 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コンピュータを用いたシステムにより、対象となる問題を解決する際には、解決に適した手法をシステムに実装する必要があります。</p> <p>現在、コンピュータを用いた問題解決の手法には、すべての手順をあらかじめ与えておいて問題を解くだけでなく、細かい手順が決まっていなくとも、個々の問題に適応して計算できる手法があります。</p> <p>情報システム論 b では、このように、問題に応じて進化的に計算する手法や、学習することで問題を解決していく手法と、それらを用いたシミュレーション技法について学びます。そして、具体例を通じて、各手法を応用できる力を身につけることを目標とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンス 2. コンピュータによる問題解決の特徴 3. 最適化手法 1－数学的手法と遺伝的アルゴリズム 4. 最適化手法 2－遺伝的アルゴリズムによる問題解決 5. 機械学習 1－Q 学習とニューラルネットワーク 6. 機械学習 2－Q 学習による問題解決 7. 機械学習 3－ニューラルネットワークによる問題解決 8. 知的ソフトウェアの構築 1－エージェントとは 9. 知的ソフトウェアの構築 2－協調、競合する環境におけるエージェントのはたらき 10. 知的ソフトウェアの構築 3－マルチエージェントシステムとは 11. 知的ソフトウェアの構築 4－人工社会を用いたシミュレーション 12. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しません。		課題、期末試験の結果を総合して判断します。	

01年以降(春)	情報社会論 a	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>情報技術（IT）によってわれわれの社会はどう変化していくのか。個人の暮らし、企業組織、経済の仕組み、法制度から価値観にいたるまで、その実像を現在起きている現実のなかからとらえて、意味合いと争点を考える。</p> <p>「情報」という言葉は現代の社会生活のなかで無意識に使われているが、その経済社会における固有の働きやエネルギー革命と比較されるその社会的な影響力を含めて、その価値の広がりや明確に意識されているわけではない。</p> <p>春学期の授業では「ものづくり」を中心にして動いてきた産業社会から「知識・情報」で動かされる情報社会へ転換してゆく歴史をたどりながら、それによる経済社会の仕組みや価値観の変化を、主に企業組織やビジネスのありかた、需要や利益を生み出す社会構造の変動などに焦点をあててその意味合いを考える。</p> <p>材料や労働力を大量に使って規格的な商品を量産し、市場を動かす社会が情報技術を利用することによる「差異」が価値を形成して利益を生み出す社会に替わる。当然そこにはこれまで社会を支えてきたさまざまなルールの転換とそれに伴う既成の秩序の流動化が起こる。</p> <p>「ユビキタス化」など新しい経済社会が繰り広げる変動の局面を光と影の両面からたどってゆきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 産業社会から情報社会へ 3 電子商取引と経済社会 4 企業組織の変化 5 ニューエコノミー論 6 IT化とバブル経済 7 知的財産が動かすもの 8 マスメディアとIT化 9 IT化と公益の視点 10 現代化と情報格差 11 エンロン破綻の意味 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
吉川元忠『情報エコノミー』（文春新書）		定時試験に平常授業のレポート実績を加味して評価する	

01年以降(秋)	情報社会論 b	担当者	柴崎 信三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>情報社会は個人の生活の利便性を高める反面、その社会や国家、企業、メディアなどとの関係に新しい争点を生み出していく。近代社会のもとで個人の権利として保護されてきた自由や安全が、同じ個人の自由な権利行使によって脅かされるという逆説的な現実はどう向き合うのか。</p> <p>秋学期の授業では、プライバシーなど個人情報や資産の保全と自由な情報のネットワークが生み出す社会的リスクをはじめ、個人と公共性を巡る新しい争点をさまざまな分野に見ながら、その調和の条件を探る。</p> <p>電子マネーの広がりに対する「なりすまし犯罪」などのリスク、プライバシー保護と「表現の自由」への制約をはじめ、情報社会が広げる個人の自由と利便はこれまでの国民国家が維持してきた調和的な秩序を揺るがせる。</p> <p>知的財産の価値が高まるにつれて、その権益擁護を求める所有者と社会的還元を求める利用者の利害対立が高まるのも、情報社会が持つ矛盾の一断面だろう。</p> <p>近代社会のピラミッド型の権力機構が生み出した「代行型民主主義」に代わって、個人が直接グローバルな情報伝達に関与してネットワークを形成する情報社会は、権力や個人相互の監視や調整が日常化する社会でもある。</p> <p>情報民主主義社会の新たな秩序を考えて行きたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 電子政府と住基ネット 3 表現の自由とプライバシー保護 4 電子マネーと認証 5 著作権を巡る権利者と利用者 6 情報リスクとネット犯罪 7 個人情報と監視社会 8 サイバー情報とマスメディア 9 「信頼」と社会 10 ネットが変える政治 11 エンロンと 9/11 以降 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
西垣通『IT革命』（岩波新書）		定時試験に平常授業のレポート実績を加味して評価する	

01年以降(春) 00年以前(春)	情報通信ネットワーク a 特殊講義 A (情報通信ネットワーク)	担当者	今福 啓
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>市販の本を参考にするなどして、家庭内の数台のコンピュータを接続してネットワークを構成することは、容易に実現できます。しかし、コンピュータを設置して使用する環境ごとに、どのようなネットワークを構築すればよいのかは異なります。この授業では、さまざまな環境にあわせて、より使いやすいネットワークを組み上げるために必要となる、ネットワークに関する知識を基礎から身につけることを目的とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方について 2. インターネットとは 3. OSI 基本参照モデル 4. ネットワーク上でのアドレス 1-IP アドレス 5. ネットワーク上でのアドレス 2-MAC アドレス 6. グローバル IP アドレスとプライベート IP アドレス-NAT と NAPT 7. DNS の役割と構成 8. パケットのルーティングについて 9. ルーティングのプロトコルについて 10. ネットワークのセキュリティ-ファイアウォールの役割 11. 次世代のネットワーク-IPv6 12. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特にありません。		提出課題と、期末試験により評価します。	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	情報通信ネットワーク b 特殊講義 A (情報通信ネットワーク)	担当者	三宅 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>携帯電話とインターネットに代表される情報通信ネットワークの発達によって、時間と空間の制約を超えて自由にコミュニケーションができる時代となった。人類の歴史において、産業革命に匹敵する情報革命の時代と言われるゆえんである。</p> <p>この講義では、21世紀に生きる受講生諸君が、無線通信ネットワークについての正しい見識を持ち、今後の社会の発展のために正しく活用できるようになることを目的とする。通信(=コミュニケーション)の人的・社会的な側面にも言及しながら、デジタル無線通信ネットワークのシステムとテクノロジーを、事例に則して分かり易く概説する。最初に、実際の無線通信ネットワークのシステムの実態と発展動向を解説する。次に、無線通信システムにおいて情報が伝達される仕組みとテクノロジーに関する基本的なことがらを、例題演習を交えながら解説する。</p> <p>無線通信ネットワークの全貌を分かりやすく述べながら、同時に、いろいろな観点から課題を発見し、考えるためのヒントを随所で指摘しながら、講義を進める。ヒントを手がかりに、受講生諸君が、今後の無線通信ネットワークの展望と活用について、自らの考え方を確立できるようになることを期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の確認、講義の目標と全体概要 2. デジタル無線通信ネットワーク概論 <ol style="list-style-type: none"> (1) 無線通信ネットワークの発展と展望 (2) 無線通信ネットワークの電気信号 (3) 無線通信の電波と周波数管理 3. 移動通信ネットワーク <ol style="list-style-type: none"> (1) 移動通信システムの実態 (2) 移動通信ネットワークの発展と最近の動向 (3) 携帯電話ネットワークの通信プロトコル 4. 衛星通信ネットワーク <ol style="list-style-type: none"> (1) 衛星通信システムの実態 (2) 衛星通信ネットワークの発展と最近の動向 (3) 静止衛星と衛星軌道 5. 情報の符号化と伝送 <ol style="list-style-type: none"> (1) Shannon の通信系モデル (2) 情報のデジタル化と情報量 (3) 符号化と伝送 6. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは講義中に配布する。参考文献は、 ・奥村、他『移動通信の基礎』電子情報通信学会など。</p>		出席とレポートによって評価する。	

01年以降(春)	コンピュータネットワーク	担当者	富澤 儀一
講義目的、講義概要 目的 本科目は、とくに TCP/IP の基礎知識を短時間で学習できるような構成になっている。これからネットワーク技術を学習しようと思っている学生が、必ず身につけておかななくてはならない TCP/IP の基礎知識を中心に学習する。 講義概要 インターネットの標準的プロトコルである TCP/IP の成り立ちについて学んだ上で、TCP/IP がデータを目的地へ届けるために、OS や通信ソフトでどのような処理を実行しているかを学ぶ。 受講上の注意 この科目は、欠席するとついて行けなくなる。この理由は、授業時にときどきコンピュータを使って、パケットの流れを確かめたりする。一人で勉強できない部分が多いからである。		授業計画 1. ガイダンス、基数変換 2. 基数変換の演習 3. TCP/IP のネットワークモデル 4. ヘッダーの内容 5. TCP ヘッダの内容 6. ドメイン名と名前解決 7. IP アドレス (ネットワークアドレスとホスト・アドレス) 8. IP アドレス (グローバル・アドレスとプライベート・アドレス) 9. ルーティング 10. ネットワークコマンド実習(1) CUI の使い方、ipconfig, arp, nslookup コマンド 11. ネットワークコマンド実習(2) ping コマンド 12. パケット解析	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト原稿は「¥¥dainet¥tomizawa」に格納する。授業前に印刷してください。 参考書：TCP/IP ネットワーク、秀和システム、出口雄一		期末試験で評価する。各章の終わりに演習を行う。期末試験は、この演習を十分に勉強すれば合格する。	

講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	コンピュータアーキテクチャ	担当者	今福 啓
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、現在のコンピュータのハードウェアの基本構造と、その動作原理を理解することを目的としています。これらを理解し、コンピュータに何が出来て何が出来ないのかについて把握することで、コンピュータを利用する上での手助けとなる知識が得られることを目指しています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業のガイダンス 2. コンピュータの基本構造-5つの装置 (入力装置、出力装置、演算装置、制御装置、記憶装置) 3. コンピュータにおける命令実行の流れ 4. データの表現(整数、実数、文字) 5. コンピュータにおける演算(算術演算、論理演算) 6. 演算装置と制御装置の構造1 7. 演算装置と制御装置の構造2-高速な演算のための構造について 8. コンピュータの命令語とプログラム 9. CASLの命令語とプログラム作成 10. CASLによるプログラムの作成1 11. CASLによるプログラムの作成2 12. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しません。		課題、期末試験の結果を総合して判断します。	

01年以降(春)	情報と職業 a	担当者	富田 幸弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>情報化社会の急激な進展と、その社会の中で働くことについて考え、学習する。情報の獲得・利用する職業についての関わり方を学習し、情報に関わる職業人としての勤労観・倫理観などについても考える。</p> <p>(1) 報化社会での各種情報の開示と、個人情報保護や危機管理について学習する。</p> <p>(2) 情報産業で関心の高い業界・業種・職種と変動する生活・ビジネスについて学習する。</p> <p>(3) 数人のグループを編成し、「情報と職業」について各種のテーマを設定し、研究成果を発表し、討論する。</p> <p>高等学校の「情報科」の教員の免許取得に必要な法定科目であるので、必ず、第一回目の講義に出席して、自分が履修可能であるかどうかを判断すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 情報について 2 情報化社会の情報システム・情報化社会の信頼性 3 基盤技術・開発技術・生産技術・新利便 4 インターネット・通信・衛星放送・災害と情報 5 情報開示の実態と責任・リスク管理 6 情報の収集と発信・個人情報の保護と責任 7 新時代の社会と職業・情報産業の職種 8 インターネットで変わる生活・ビジネス 9 情報社会の現象収集とその情報の分析 10 情報の収集と発信にかかわる職業人の勤労と倫理 11 教育現場での情報教育・教育方法の新規試み 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献などは、必要に応じて紹介する。</p> <p>毎回の講義概要については、プリントを配布する。</p>		<p>研究発表の内容、期末試験の結果、レポートの内容、出席状況などを考慮して総合評価する。</p>	

01年以降(秋)	情報と職業 b	担当者	小林 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>情報社会の歴史的意義を解説した上で、インターネットをはじめとする情報技術が、社会に与えた影響について、議論してゆく。</p> <p>ネットワークの仕組みやインターネットの特性などの技術的側面から、情報倫理や知的財産権などの、法や制度に関わる知識についても解説する。</p> <p>本講義は、高等学校「情報科」教員の免許取得に必要な法定科目であるので、その心構えを持った学生の受講が望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：情報と職業について 情報技術革命のインパクト 2. インターネットの「爆発」 3. インターネットの分権性と公開性 4. IT革命と企業組織 5. IT革命後のビジネス環境 8. 国境を越えるIT空間 ヒト・モノ・カネ---市場の国際化 9. IT革命と知的財産権 10. パブリック・ドメイン 11. デジタル・ディバイド 情報をめぐる諸格差 12. 情報化社会の諸問題 情報倫理 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>近藤勲編著『情報と職業』丸善</p>		<p>小レポート＋定期試験</p>	

01年以降(春)	アルゴリズム論 a	担当者	木村昌史
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アルゴリズムとは、狭い意味ではコンピュータを用いた問題解決のための、プログラミングの前段階となる処理手順を意味する。それは人間の思考による処理のプロセスとは必ずしも同じではなく、コンピュータ固有のものの場合も多い。ここではコンピュータ科学の基礎として、すでに方法が確立されている定型的アルゴリズムについて学ぶ。</p> <p>前期は、そもそも問題解決とは何かという考え方から始め、結果が予測できる問題について、アルゴリズムの視覚化、図示化を行いながらその基本構造を理解する。基本アルゴリズムは、複雑な問題を扱っていく上での要素的な手法であり、多くの分野に適用される。授業では可能な限り、パソコンの実習も取り入れながら進めたい。プログラミングの知識は前提にしないが、Excelの基本的な操作(関数やグラフの利用)はできることが望ましい。</p> <p>数やグラフの利用)ができることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 アルゴリズムとは何か コンピュータによる問題解決の方法 2 条件判断・分岐・繰り返し Excelの関数の例 3 アルゴリズムの図示化 JISフローチャート、UML 4 データ構造とアルゴリズム スタックやキュー、データの表現 5 整列のアルゴリズム ソートの各種手法、クイックソート 6 整列と計算量 アルゴリズムの効率の評価 7 探索のアルゴリズム 線形探索法、二分探索法 8 ハッシュ法 効率的な探索法、暗号化 9 木構造・索引付け 二分木、B木 10 文字列の探索 KMP法、BM法 11 グラフの表現 グラフによる最短経路 12 前期のまとめ 実習のまとめ、補足 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。 授業時に Web 資料などを提示する予定である。		試験または実習レポート、および出席状況から総合的に評価する。	

01年以降(秋)	アルゴリズム論 b	担当者	木村昌史
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期は狭い意味での定型的なアルゴリズムを扱ったが、後期はより広い意味でのコンピュータによる問題解決である、非定型的アルゴリズムについて学ぶ。</p> <p>解決の方法が確立していない問題に対しては、そもそもコンピュータによる処理を適用する以前に、問題に対する深い分析や洞察が必要となる。例としてはゲームの必勝法や確率的現象の予測などがあり、まずルールや条件などを深く分析することが必要である。解決の方法には、コンピュータ固有の発見的手法やシミュレーション的手法も加わる。ただし、こうした方法は実用的な価値は十分あるものの、あくまで「近似的」な手法であり、真の解決とはやや意味が異なることを理解する。また経済・経営に関連したアルゴリズムの例題も取り入れる。前期と同様に Excel をアルゴリズムに応用した実習も行いたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ゲームの理論 ゲームに勝つための最善手の探索 2 方程式の近似解法 方程式というものは解けるのか? 3 ランダムパッキング 駐車場に停められる車の台数の予測 4 巡回セールスマン問題 複数都市を最短コストで訪問するルート 5 ナップザック問題 賢い泥棒の問題、動的計画法とは? 6 NP 完全問題 解ける問題、解けない問題とは? 7 モンテカルロ法 シミュレーションの方法とは? 8 待ち行列の問題 サービス窓口の効率、通信量の問題 9 在庫管理の問題 商品の売れ行きと仕入れ発注のタイミング 10 株価の変動 株価はランダムかフラクタルか? 11 ロジスティック曲線とカオス 小さな差異が予測不可能の結果を導く? 12 後期のまとめ カオスに含まれる自己相似的な構造とは? 補足 	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。 授業時に Web 資料などを提示する予定である。		試験または実習レポート、および出席状況から総合的に評価する。	

01年以降(春)	オペレーションズ・リサーチ a	担当者	正道寺 勉
00年以前(春)	オペレーションズ・リサーチ (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>オペレーションズ・リサーチ(Operations Research:一般には、略してORと呼ばれる)は、軍事目的を達成させるために研究され始めたが、現在では限られた制約条件のもとで効率よく目的を達成するための手段として、広く利用されている。ORの範疇に入る手法はたくさんあるが、現実の問題を解くにあたっては、その問題をいかにしてモデル化するかが大変重要である(OR手法の出番は、モデル化の後である)。本講義では、ORの基本となる考え方(モデル化の重要性を含む)とその応用について分かりやすく講義する。特に、経済学部の学生に興味のある話題を提供する積りである。</p> <p>受講者への要望:本講義を受講するにあたり、統計学、経営数学、コンピュータの知識を持っていることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ORの概要: ORの歴史、ORの発展、ORの定義 2. ORの考え方とモデル化の概念 モデル化の例、OR手法の紹介 3. ランチェスターの法則 第二次世界大戦とランチェスター 4.-5. アルゴリズム アルゴリズムの重要性、再帰式と逐次近似、フィボナッチ数列と黄金分割 6. AHP【ゲーム感覚意思決定法】(1) AHPの概要(曖昧な状況下での意思決定) 7. AHP【ゲーム感覚意思決定法】(2) AHPの整合性、応用例 8. AHP【ゲーム感覚意思決定法】(3) 演習 9.-10. マルコフ過程 マルコフ過程の概要、マルコフ連鎖、推移確率、例題、演習 11. 線形計画法(1) 線形計画法(LP)の概要、図による解法 12. 線形計画法(2) 主問題と双対問題の関係、LPの一般形 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト/小田中敏男、正道寺勉:「初等オペレーションズ・リサーチ」、槇書店(1993)参考文献/開講時に随時紹介する。</p>		<p>試験を重視するが、出席とレポートも考慮して評価を行う。一定の出席率を下回った場合には、単位は出さない。</p>	

01年以降(秋)	オペレーションズ・リサーチ b	担当者	正道寺 勉
00年以前(秋)	オペレーションズ・リサーチ (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の講義科目である「オペレーションズ・リサーチ a」に引き続き、経済学部の学生にとって有用な手法を選び、分かりやすく講義する。また、講義の中では効率よく目的を達成するために必要な「最適化の考え方」や最新のOR(Operations Research)の研究動向についても触れる。</p> <p>右の授業計画欄に示したトピックス以外にもORの手法はたくさんあるが、時間の許す限りそれらの手法についても紹介する積りである。</p> <p>受講者への要望:本講義を受講するにあたり、統計学、経営数学、コンピュータの知識を持っていることが望ましい。また、「オペレーションズ・リサーチ a」を履修していることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 線形計画法(1) 線形計画問題の一般形、シンプレックス法 2. 線形計画法(2) シンプレックス法の演習 3. 線形計画法(3) 線形計画問題と輸送問題、輸送問題の解法 4. ゲームの理論(1) ゲームの理論の概要、利得行列の戦略 5. ゲームの理論(2):混合戦略の考え方、演習 6. ゲームの理論(3) 囚人のジレンマ、チキンゲーム、ほか 7.-8. 動的計画法(1)、(2) 動的計画法(DP)の概要、最適性の原理、多段意思決定、演習 9.-10. 最短経路問題(1)、(2) 最短経路問題の概要、グラフによる表現、最適性の原理、作図による解法、演習 11. PERT、CPM(1) PERT、CPMの概要、アローダイアグラム 12. PERT、CPM(2) クリティカルパスの求め方 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト/小田中敏男、正道寺勉:「初等オペレーションズ・リサーチ」、槇書店(1993)参考文献/開講時に随時紹介する。</p>		<p>試験を重視するが、出席とレポートも考慮して評価を行う。</p>	

01年以降(春)	システムズ・エンジニアリング a	担当者	天笠美知夫
00年以前(春)	システムズ・エンジニアリング (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経営・経済システムや社会システムなどの大規模・複雑で、かつ、あいまい性をもつシステムの本質を把握し、設計・開発するにあたり主要な学問であるシステムズ・エンジニアリングの役割と具体的な方法論、ならびに情報システムとその効果的な活用法について理解と意識を高めることを目的とする。</p> <p>本講義は概ね次に示す2つの部分から構成される。</p> <p>①システムズ・エンジニアリングの基本概念</p> <p>②システムズ・エンジニアリングの方法論</p> <p>尚、理論を実証する意味で、適宜、情報システムを活用しながら事例演習を行い、その報告書を作成させる。本講義を受講するための前提となる必修科目はない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 刈込テンション：受講者の確認・決定 年間予定、授業方法等の注意事項についての説明 2 システムズ・エンジニアリングの基本概念(1) 発達とその背景、システムの定義と特徴 システム思考 3 基本概念(2)：システム環境、サブシステム、システムの巨視的特性、自然システムと人工システム、 4 システムズ・エンジニアリングの方法論(1) Ill-defined and well-defined problems 問題の設定、目標の設定、システム構成、システム分析、システムの評価と選定 5 方法論(2)：システム開発の手順と組織 6 方法論(3)：問題の発見とシステムの構造化 7 構造モデルとグラフ理論(1) 8 構造モデルとグラフ理論(2) 9 構造モデルと KJ 法 10 構造モデル事例演習(1) 11 構造モデル事例演習(2) 12 構造モデル事例演習(3) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
天笠美知夫『経営システム工学』テキスト資料予定 寺野寿郎『システム工学入門』共立出版 1985		事例演習およびそのレポートと出席、ならびに期末試験の結果を考慮して総合的に評価する。	

01年以降(秋)	システムズ・エンジニアリング b	担当者	天笠美知夫
00年以前(秋)	システムズ・エンジニアリング (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経営・経済システムや社会システムなどの大規模・複雑で、かつ、あいまい性をもつシステムの本質を把握し、設計・開発するにあたり主要な学問であるシステムズ・エンジニアリングの役割と具体的な方法論、ならびに情報システムとその効果的な活用法について理解と意識を高めることを目的とする。本講義は概ね次に示す2つの部分から構成される。</p> <p>①統計的な手法によるシステム認識</p> <p>②システムの価値評価、意思決定と予測</p> <p>尚、理論を実証する意味で、適宜、情報システムを活用しながら事例演習を行い、その報告書を作成させる。本講義を受講するためにはシステムズ・エンジニアリング a を履修しておくことが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 統計的手法によるシステム認識基礎 2 統計的手法によるシステム認識(1) 主成分分析法 3 統計的手法によるシステム認識(2) Questionnaire の作成、アンケート調査 4 アンケート調査、データの整理、パソコン入力 5 統計ソフトウェアを活用したシステム構造分析 (SPSS の活用) 6 システムの評価と意思決定(1) 価値と評価 7 システムの評価と意思決定(2) 効用理論 8 価値工学によるシステム評価(1) 9 価値工学によるシステム評価(2) 10 予測：デルファイ法とファジィデルファイ法 11 デルファイ法とファジィデルファイ法演習 12 スケジューリング：PERT, CPM 	
テキスト、参考文献		評価方法	
天笠美知夫『経営システム工学』テキスト資料 寺野寿郎『システム工学入門』共立出版 1985		事例演習およびそのレポートと出席、ならびに期末試験の結果を考慮して総合的に評価する。	

01年以降(春)	経営システム工学 a	担当者	日下 泰夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>変化の時代には、時代の潮流を的確につかみ、何が大切かを明確に認識し、次々と出現する新たな問題を解決する「問題解決能力・意思決定能力」が重要になる。本講義では、経営システム工学を初めて学ぶ人を念頭に置いて、その体系と技法を分かりやすく説明し、企業経営をはじめとして実社会で役立つ実践的な問題解決能力を修得することをめざしている。</p> <p>前期は、外部環境変化と経営システムの課題、経営システム工学の概念と役割などの基本的な考え方、経営システム工学の典型的な問題解決技法を学ぶ。表計算、プレゼンテーション、最適化、シミュレーションなど、パソコンによるデモを取り入れた講義を行う。講義の終わりには最新の経営トピックスも紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 外部環境変化と経営システム工学 2 外部環境変化：サプライチェーンマネジメント（SCM）、環境経営 3 経営システム工学の概念1：企業活動の諸側面と管理のサイクル、種々の個別管理 4 経営システム工学の概念2：企業活動の諸側面、経営活動の体系的・構造的理解 5 経営システム工学の概念3：意思決定とは、意思決定の類型、外部環境変化と意思決定 6 経営システム工学の概念4：科学・技術・工学、システムと経営システム、経営システム工学 7 問題解決技法1：諸概念、モデルの概念、最適化とシミュレーション 8 問題解決技法2-品質管理-：QC7つ道具概説 9 問題解決技法3-在庫管理-：考え方と技法、管理システム、POSシステム、シミュレーション 10 問題解決技法4-線形計画法(LP)-：LPの問題構造、問題の定式化 11 問題解決技法5-線形計画法：単体法の原理、単体表による解法 12 問題解決技法6：線形計画法；グラフによる解法、エクセル・ソフトによる解法、双対問題 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 日下泰夫：『経営工学概論』中央経済社（適宜、資料を配布する）</p>		<p>前期末に実施する試験を中心に、出席状況、レポートなどを加味して評価する。</p>	

01年以降(秋)	経営システム工学 b	担当者	日下 泰夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は前期に同じ。</p> <p>後期は、実践の場で広く応用されている経済性工学（EE）と階層分析法（AHP）の技法を取りあげ、いくつかの演習を行う。次いで、春期の諸概念と諸技法、秋期の諸技法の理解を前提に、問題解決法を体系的に分析し、経営システム工学の役割を考察する。最後に、情報化・創造化時代と経営システム工学、21世紀に向けた経営システム工学の役割についての見解を述べ、将来、社会人として問題解決・意思決定の諸局面に遭遇するであろう皆さんへメッセージを送る。</p> <p>各講義の終わりには最新の経営トピックスも出来るだけ紹介する。講義は春期講義 a の履修を前提に進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 問題解決技法5-動的計画法（DP）-：DPとは、多段階決定問題、最適性の原理、定式化と解法 2 問題解決技法6-分枝限定法（B&B）-：組合わせ最適化問題、効率的な解法、プログラミング、適用例 3 問題解決技法7-経済性工学（EE）-：経済的な意思決定、諸概念、投資分析の基礎手法 4 問題解決技法8-経済性工学-：エクセルを利用した設備投資の経済的意思決定 5 問題解決技法9-階層分析法（AHP）-：階層分析法とは、理論的根拠、一対比較法、適用例 6 問題解決技法10-階層分析法（AHP）-：自動車の購買行動の分析 7 問題解決法と経営システム工学1：問題解決法の重要性、外部環境変化とパラダイム、従来の問題解決法 8 問題解決法と経営システム工学2：問題解決の体系的・構造的な分析、経営システム工学の役割 9 情報化・創造化時代と経営システム工学1：意思決定と情報創造、ネットワーク経営 10 情報化・創造化時代と経営システム工学2：SCM、技術経営（テクノロジーマネジメント） 11 21世紀の経営システム工学：問題解決・意思決定における経営システム工学の役割 12 経営システム工学を学ぶ人へのメッセージ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 日下泰夫：『経営工学概論』中央経済社（適宜、資料を配布する）</p>		<p>期末に実施する試験を中心に、出席状況、レポートなどを加味して評価する。</p>	

03年以降(春) 02年以前(春)	著作権法 a 著作権法 (通年)	担当者	長塚 真琴
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本やCDやパッケージソフトなどの「中身」は、文章や音楽やコンピュータ・プログラムである。これらの「中身」を他人が勝手にコピーしたり、真似したりしたら、著作権法の出番である。</p> <p>この講義は、著作権法に関する基礎知識を身につけることを目的とする。民法など他の法律の予備知識がなくても、努力すれば単位取得は可能である。</p> <p>教科書(開講時に指定する)とレジュメを用い、裁判例に関する画像やウェブサイトなど、視覚情報も重視しつつ講義を進める。レジュメは講義の始めにまとめて販売ないし配布する予定。</p> <p>講義には、著作権法の条文を持参すること。入手のしかたはガイダンスの際に解説する。</p> <p>講義のサイトはこちら。 http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0080/</p> <p>○履修上の注意：情報教員の免許取得を取得するためには、著作権法 a と著作権法 b の、両方の単位を取得する必要がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと導入 2 著作物 1 3 著作物 2 4 著作者と著作権者 5 著作者人格権 6 著作権 1 7 著作権 2 8 著作権の制限 1 9 著作権の制限 2 10 著作権の譲渡とライセンス 11 著作隣接権 12 著作権の侵害 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>教科書：開講時に指定する</p> <p>参考書：『著作権判例百選〔第3版〕』(別冊ジュリスト 156)</p>		<p>定期試験と、講義中の小テストまたはレポートによる。出席は合否がきわどい場合のみ考慮する。</p>	

03年以降(秋) 02年以前(秋)	著作権法 b 著作権法 (通年)	担当者	長塚 真琴
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、著作権法に関する基礎知識を踏まえて、著作物の主要な分野について、実際に起こった紛争を詳しく解説する。その際、著作権処理の実務についてもできるだけ触れる。情報教員免許科目であることを考慮して、高校の教育活動において生じがちな著作権問題もとりあげる。</p> <p>下記の2冊の教科書とレジュメを用い、裁判例に関する画像やウェブサイトなど、視覚情報も重視しつつ講義を進める。レジュメは講義の始め(夏休み明け)に、まとめて販売ないし配布する予定。</p> <p>講義には、著作権法の条文を持参すること。入手のしかたはガイダンスの際に解説する。</p> <p>講義のサイトはこちら。 http://www2.dokkyo.ac.jp/~less0080/</p> <p>○履修上の注意：この講義は応用編である。前期の著作権法 a を履修するなどして、著作権法に関する基礎知識があることを前提とする。基礎知識なしでこの講義をいきなり履修しても、単位を取得できない可能性が高い。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと導入 2 言語著作物の紛争 1 3 言語著作物の紛争 2 4 音楽著作物の紛争 1 5 音楽著作物の紛争 2 6 美術著作物の紛争 1 7 美術著作物の紛争 2 8 映画著作物の紛争 9 プログラムとゲームをめぐる紛争 1 10 プログラムとゲームをめぐる紛争 2 11 高校教育と著作権 12 インターネットと著作権 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>教科書：①著作権法 a で用いたもの、②『著作権判例百選〔第3版〕』(別冊ジュリスト 156)</p>		<p>定期試験と、講義中の小テストまたはレポートによる。出席は合否がきわどい場合のみ考慮する。</p>	

02年以前(春)	英語 I (講読) (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>141/142 とともに、全学共通カリキュラムのコア科目である。現代社会、文化などに関するリーディングを行う。統一教材による TOEIC 語彙指導。統一語彙テスト毎回実施。教室外でのコンピュータによる英語学習が義務づけられる。</p> <p>教科書：担当教員の指示に従うこと。</p>		<p>授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	

02年以前(秋)	英語 I (講読) (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>141/142 とともに、全学共通カリキュラムのコア科目である。現代社会、文化などに関するリーディングを行う。統一教材による TOEIC 語彙指導。統一語彙テスト毎回実施。教室外でのコンピュータによる英語学習が義務づけられる。</p> <p>教科書：担当教員の指示に従うこと。</p>		<p>授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	

02年以前(春)	英語 I (会話) (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
111/112 とともに、全学共通カリキュラム 1 年生の コア科目である。LL で授業を行う。リスニング(統 一教科書: VIVA! San Francisco)、統一クイズ、統 一期末テスト実施。		授業計画と評価方法については、担当者からの説 明を受けてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：統一教科書を使用。			

02年以前(秋)	英語 I (会話) (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
111/112 とともに、全学共通カリキュラム 1 年生の コア科目である。LL で授業を行う。リスニング(統 一教科書: VIVA! San Francisco)、統一クイズ、統 一期末テスト実施。		授業計画と評価方法については、担当者からの説 明を受けてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：統一教科書を使用。			

02年以前(春)	英語Ⅱ(講読)(通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ、より上級の教材を使用する講読。		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：担当教員の指示に従うこと。			

02年以前(秋)	英語Ⅱ(講読)(通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
現代社会におけるさまざまなトピックを盛り込んだ、より上級の教材を使用する講読。		授業計画と評価方法については、担当者からの説明を受けてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：担当教員の指示に従うこと。			

02年以前(春)	英語Ⅱ(総合)[通年]	担当者	田平 幸代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>経済、法学部三年以上の再履修の学生を対象とするクラスである。英語に苦手意識はあっても、何とかもう一度勉強してみようと思っている学生の受講を期待している。</p> <p>講義の目的は、できるだけ正確にかつ効率的に英文を読む力を伸ばすことである。そのために、前期はまずリーディング スキルズを系統的に学び、英文を読み解く練習をする。</p> <p>読んできた内容をプレゼンテーション形式で発表してもらうほかに、毎回音声教材(DVD、CD)を使った学習もするので、クラスへの積極的な参加が必要である。</p>		<p>1 パラグラフの構成要素①</p> <p>2 ②</p> <p>3 パラグラフの構造①</p> <p>4 ②</p> <p>5 キーセンテンスと主題①</p> <p>6 ②</p> <p>7 ③</p> <p>8 パラグラフリーディングの練習①</p> <p>9 ②</p> <p>10 ③</p> <p>11 パラグラフとタイトル ①</p> <p>12 ②</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業の際に前期分のプリントを渡す予定である。		プレゼンテーション、レポート、前期試験の結果を総合して評価する。出席を重視する。	

02年以前(秋)	英語Ⅱ(総合)[通年]	担当者	田平 幸代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続いてリーディング スキルズを学ぶので、前期からの継続受講が望ましい。</p> <p>後期は、ネット上の情報や新聞記事などを読む練習をするほか、音声教材を使ってニュース英語やインタビューなども取り上げる予定である。授業中にDVD、CDなどを使って学習するので、前期同様、授業への積極的な参加が必須となる。</p>		<p>1 パラグラフとアウトライン①</p> <p>2 ②</p> <p>3 速読の技術(スキミング)①</p> <p>4 (スキミング)②</p> <p>5 リーディングスキルズのまとめ</p> <p>6 情報を読む練習①</p> <p>7 ②</p> <p>8 ③</p> <p>9 ④</p> <p>10 ニュース英語を聞く、読む、理解する①</p> <p>11 ②</p> <p>12 ③</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業の際に後期分のプリントを渡す予定である。読解練習用の教材については新聞、ネットなどから取り上げたものを適宜配布する。		プレゼンテーション、レポート、定期試験の結果を総合して評価する。出席を重視する。	

02年以前(春)	英語Ⅱ(総合)(通年)	担当者	沼 隆三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>① 英語の総合的能力の向上を目的とし、読解、作文、文法を同時に学習できる教科書を使用。</p> <p>② 内容把握に必要な風俗、習慣、歴史、文化などについて解説、教養教育的な面を重視。</p> <p>③ 文法や修辭に関しては、基本的な英文の構造から省略、倒置、隠喩などに及ぶ。</p>		<p>① 第一回目は、授業の進め方、辞書の使用方法など。</p> <p>② 第2回目以降は1回平均3～4頁程度、12回で約40頁進む。</p> <p>③ 読解については、学生諸君の音読と和訳後、解説と訂正訳をする。</p> <p>④ 文法・作文については、教科書の Exercise をやっていただいた後、説明と訂正をする。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
今のところ未定、授業開始に間に合うようにする。 春秋学期同一の教科書の前半		① 定期試験 ② 平素の学習状況 ② 出席状況などから、総合的に評価する。 レポート評価は絶対に行わない。	

02年以前(秋)	英語Ⅱ(総合)(通年)	担当者	沼 隆三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>① 英語の総合的能力の向上を目的とし、読解、作文、文法を同時に学習できる教科書を使用。</p> <p>② 内容把握に必要な風俗、習慣、歴史、文化などについて解説、教養教育的な面を重視。</p> <p>③ 文法や修辭に関しては、基本的な英文の構造から省略、倒置、隠喩などに及ぶ。</p>		<p>① 第一回目は、授業の進め方、辞書の使用方法など。</p> <p>② 第2回目以降は1回平均3～4頁程度、12回で約40頁進む。</p> <p>③ 読解については、学生諸君の音読と和訳後、解説と訂正訳をする。</p> <p>④ 文法・作文については、教科書の Exercise をやっていただいた後、説明と訂正をする。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春・秋学期同一教科書を使用 その後半。		① 定期試験 ② 平素の学習状況 ② 出席状況などから、総合的に評価する。 レポート評価は絶対に行わない。	

02年以前(春)	ドイツ語 IB (読解練習) [通年]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 1) ドイツ語の基礎的能力の習得。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験(独検)」4級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報獲得を図ります。</p> <p>講義概要 ドイツ語の基礎的な能力を、実際的な練習を通して身につけていきます。使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 授業は、日本人教員のもので行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、楽しく、かつ体系的に学ぶことができます。</p>		<p>『ドイツ語一年生- ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD付き』(朝日出版社) 2003年</p> <p>Step 1 ~ Step 5</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
矢羽々 崇:『ドイツ語一年生- ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD付き』(朝日出版社) 2003年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

02年以前(秋)	ドイツ語 IB (読解練習) [通年]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 1) ドイツ語の基礎的能力の習得。具体的には、春学期+秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験(独検)」4級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報獲得を図ります。</p> <p>講義概要 ドイツ語の基礎的な能力を、実際的な練習を通して身につけていきます。使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 授業は、日本人教員のもので行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、楽しく、かつ体系的に学ぶことができます。</p>		<p>『ドイツ語一年生- ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD付き』(朝日出版社) 2003年</p> <p>Step 6 ~ Step 9</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
矢羽々 崇:『ドイツ語一年生- ケイコのミュンヘン (Keikos Praktikum in Muenchen)・CD付き』(朝日出版社) 2003年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

02年以前(春)	ドイツ語 IC (口頭練習) [通年]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 ネイティブ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがら、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p>講義概要 ネイティブ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際の練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。</p>		<p>『CD付き・スツェーネ 1 場面で学ぶドイツ語』(三修社) 2003年</p> <p>Lektion 1 ~ Lektion 6</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤修子+伊藤祐紀子:『CD付き・スツェーネ 1 場面で学ぶドイツ語』(三修社) 2003年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

02年以前(秋)	ドイツ語 IC (口頭練習) [通年]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 ネイティブ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがら、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p>講義概要 ネイティブ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際の練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。</p>		<p>『CD付き・スツェーネ 1 場面で学ぶドイツ語』(三修社) 2003年</p> <p>Lektion 7 ~ Lektion 12</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤修子+伊藤祐紀子:『CD付き・スツェーネ 1 場面で学ぶドイツ語』(三修社) 2003年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

02年以前(春)	ドイツ語ⅡB(読解練習)[通年]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) 1年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2年次春学期+秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験(独検)」3級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報の獲得を図ります。 講義概要 1年次に学習したことを土台に、実際の練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらに語彙力を充実させていきましょう。		『Dialog - ステップアップ版』 (郁文堂) 2003年 Lektion 1~5	
テキスト、参考文献		評価方法	
近藤+小林+新倉+松尾:『Dialog - ステップアップ版』(郁文堂) 2003年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

02年以前(春)	ドイツ語ⅡB(読解練習)[通年]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
講義目的 1) 1年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。具体的には、2年次春学期+秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験(独検)」3級に合格できるレベル達成を目指します。 2) 1年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する(できるだけアクチュアルな)情報の獲得を図ります。 講義概要 1年次に学習したことを土台に、実際の練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。 使用する教材は、「読み、書き、聞き、話す」ことを総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みをより深く理解し、さらに語彙力を充実させていきましょう。		『Dialog - ステップアップ版』 (郁文堂) 2003年 Lektion 6~10	
テキスト、参考文献		評価方法	
近藤+小林+新倉+松尾:『Dialog - ステップアップ版』(郁文堂) 2003年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

02年以前(春)	ドイツ語ⅡC(口頭練習)[通年]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 ネイティブ教員のもと、1年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p>講義概要 ネイティブ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。 対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行います。それによって実際の言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。</p>		<p>『CD付き・スツェーネ2 場面で学ぶドイツ語ニューヴァージョン』(三修社)2004年</p> <p>Lekiton 1 ~ Lektion 6</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤+下田+Papenthin+Oldehaver:『CD付き・スツェーネ2 場面で学ぶドイツ語 ニューヴァージョン』(三修社)2004年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

02年以前(秋)	ドイツ語ⅡC(口頭練習)[通年]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 ネイティブ教員のもと、1年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。</p> <p>講義概要 ネイティブ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という4技能の一層の向上を図ります。 対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行います。それによって実際の言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。</p>		<p>『CD付き・スツェーネ2 場面で学ぶドイツ語ニューヴァージョン』(三修社)2004年</p> <p>Lekiton 7 ~ Lektion 12</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
佐藤+下田+Papenthin+Oldehaver:『CD付き・スツェーネ2 場面で学ぶドイツ語 ニューヴァージョン』(三修社)2004年		学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。	

02年以前(春)	フランス語 I B (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。教科書は INITIAL vol.1 で、フランス人講師とのペアで授業を行います。I B は日本人、I C はフランス人講師が担当します(再履修クラスを除く)。</p> <p>I B ではとくに文法と語彙の習得が中心になります。文法や語彙に関する練習を数多く行います。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ取ってもらいたい授業です。</p> <p>右の表は目安です。実際の進行は担当の先生方より指示があります。</p> <p>なおこの講座はフランス語 IC とのペアでしか取れません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 発音 (1) 2. 発音 (2) 3. unité 1 leçon 1 4. unité 1 leçon 2 5. unité 1 leçon 3 6. unité 1 leçon 4 7. unité 2 leçon 5 8. unité 2 leçon 6 9. unité 2 leçon 7 10. unité 2 leçon 8 11. unité 3 leçon 9 12. unité 3 leçon 10 	
テキスト、参考文献		評価方法	
INITIAL vol. 1		担当の各先生が指示します。	

02年以前(秋)	フランス語 I B (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。教科書は INITIAL vol.1 で、フランス人講師とのペアで授業を行います。I B は日本人、I C はフランス人講師が担当します(再履修クラスを除く)。</p> <p>I B ではとくに文法と語彙の習得が中心になります。文法や語彙に関する練習を数多く行います。実際に使えるフランス語を学びたい学生諸君にはぜひ取ってもらいたい授業です。</p> <p>右の表は目安です。実際の進行は担当の先生方より指示があります。</p> <p>なおこの講座はフランス語 IC とのペアでしか取れません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. unité 3 leçon 11 2. unité 3 leçon 12 3. unité 4 leçon 13 4. unité 4 leçon 14 5. unité 4 leçon 15 6. unité 4 leçon 16 7. unité 5 leçon 17 8. unité 5 leçon 18 9. unité 5 leçon 19 10. unité 5 leçon 20 11. bilan (1) 12. bilan (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
INITIAL vol. 1		担当の各先生が指示します。	

02 以前 (春)	フランス語 I C (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力をつけることを目指します。</p> <p>フランス語 I B とペアになる授業ですが、この I C はフランス人講師が担当いたします (再履修クラスを除く)。会話と決まった言い回し (expressions) を中心に学びます。使えるフランス語を身につけたい学生諸君には I B とともにぜひとってもらいたい授業です。</p> <p>右に進行を示しますが、これは目安であって、実際の進行は先生により異なります。</p> <p>なおこの講座はフランス語 I B とのペアでしか取れません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 発音 (1) 2. 発音 (2) 3. unité 1 leçon 1 4. unité 1 leçon 2 5. unité 1 leçon 3 6. unité 1 leçon 4 7. unité 2 leçon 5 8. unité 2 leçon 6 9. unité 2 leçon 7 10. unité 2 leçon 8 11. unité 3 leçon 9 12. unité 3 leçon 10 	
テキスト、参考文献		評価方法	
INITIAL vol. 1		担当の各先生が指示します。	

02 以前 (秋)	フランス語 I C (通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講座は週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的としています。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力をつけることを目指します。</p> <p>フランス語 I B とペアになる授業ですが、この I C はフランス人講師が担当いたします (再履修クラスを除く)。会話と決まった言い回し (expressions) を中心に学びます。使えるフランス語を身につけたい学生諸君には I B とともにぜひとってもらいたい授業です。</p> <p>右に進行を示しますが、これは目安であって、実際の進行は先生により異なります。</p> <p>なおこの講座はフランス語 I B とのペアでしか取れません。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. unité 3 leçon 11 2. unité 3 leçon 12 3. unité 4 leçon 13 4. unité 4 leçon 14 5. unité 4 leçon 15 6. unité 4 leçon 16 7. unité 5 leçon 17 8. unité 5 leçon 18 9. unité 5 leçon 19 10. unité 5 leçon 20 11. bilan (1) 12. bilan (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
INITIAL vol. 1		担当の各先生が指示します。	

02年以前(春)	フランス語ⅡB(通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>これは1年次のフランス語ⅠBに引き続き、週2回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。</p> <p>教科書はINITIALで、フランス人講師とのペアで授業を行ないます。<u>ⅡBは日本人、ⅡCはフランス人が担当します。</u></p> <p>ⅡBでは文法と語彙の学習が中心になります。</p> <p>右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。</p>		<p>1. INITIAL vol. 1 unité 6 leçon 21</p> <p>2. unité 6 leçon 22</p> <p>3. unité 6 leçon 23</p> <p>4. unité 6 leçon 24</p> <p>5. INITIAL vol. 2 unité 1 leçon 1</p> <p>6. unité 1 leçon 2</p> <p>7. unité 1 leçon 3</p> <p>8. unité 1 leçon 4</p> <p>9. unité 2 leçon 5</p> <p>10. unité 2 leçon 6</p> <p>11. unité 2 leçon 7</p> <p>12. unité 2 leçon 8</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
INITIAL vol. 1 INITIAL vol. 2		担当の各先生が指示します。	

02年以前(秋)	フランス語ⅡB(通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>これは1年次のフランス語ⅠBに引き続き、週2回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。</p> <p>教科書はINITIALで、フランス人講師とのペアで授業を行ないます。<u>ⅡBは日本人、ⅡCはフランス人が担当します。</u></p> <p>ⅡBでは文法と語彙の学習が中心になります。</p> <p>右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。</p>		<p>1. INITIAL vol. 2 unité 3 leçon 9</p> <p>2. unité 3 leçon 10</p> <p>3. unité 3 leçon 11</p> <p>4. unité 4 leçon 12</p> <p>5. unité 4 leçon 13</p> <p>6. unité 4 leçon 14</p> <p>7. unité 4 leçon 15</p> <p>8. unité 4 leçon 16</p> <p>9. unité 5 leçon 17</p> <p>10. unité 5 leçon 18</p> <p>11. unité 5 leçon 19</p> <p>12. unité 5 leçon 20</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
INITIAL vol. 1 INITIAL vol. 2		担当の各先生が指示します。	

02年以前(春)	フランス語ⅡC(通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>これは1年次のフランス語ⅠCに引き続き、週2回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。</p> <p>教科書はINITIALで、フランス人講師とのペアで授業を行ないます。<u>ⅡBは日本人、ⅡCはフランス人が担当します。</u></p> <p>ⅡCでは決まった言い回しと会話が中心になります。</p> <p>右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. INITIAL vol. 1 unité 6 leçon 21 2. unité 6 leçon 22 3. unité 6 leçon 23 4. unité 6 leçon 24 5. INITIAL vol. 2 unité 1 leçon 1 6. unité 1 leçon 2 7. unité 1 leçon 3 8. unité 1 leçon 4 9. unité 2 leçon 5 10. unité 2 leçon 6 11. unité 2 leçon 7 12. unité 2 leçon 8 	
テキスト、参考文献		評価方法	
INITIAL vol. 1 INITIAL vol. 2		担当の各先生が指示します。	

02年以前(秋)	フランス語ⅡC(通年)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>これは1年次のフランス語ⅠCに引き続き、週2回の授業でフランス語の初歩を学ぶ講座です。基本文法事項を習得し、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指します。</p> <p>教科書はINITIALで、フランス人講師とのペアで授業を行ないます。<u>ⅡBは日本人、ⅡCはフランス人が担当します。</u></p> <p>ⅡCでは決まった言い回しと会話が中心になります。</p> <p>右におおよその授業の進め方を示しますが、これは目安であって、実際の進行は担当の先生によって異なります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. INITIAL vol. 2 unité 3 leçon 9 2. unité 3 leçon 10 3. unité 3 leçon 11 4. unité 4 leçon 12 5. unité 4 leçon 13 6. unité 4 leçon 14 7. unité 4 leçon 15 8. unité 4 leçon 16 9. unité 5 leçon 17 10. unité 5 leçon 18 11. unité 5 leçon 19 12. unité 5 leçon 20 	
テキスト、参考文献		評価方法	
INITIAL vol. 1 INITIAL vol. 2		担当の各先生が指示します。	

02年以前(春)	スペイン語 I (総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</u></p> <p><u>基本的には、スペイン語 Ia(会話), I Ca とのペア履修を要望する。</u></p>		<p>① 発音・アクセント ② 名詞の性・数、冠詞 ③ 形容詞 ④ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑥ ser, estar 動詞の使い方 ⑦ 代名詞の使い方</p> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。 また、スペイン語-日本語辞書を用意してもらう。 辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

02年以前(秋)	スペイン語 I (総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 Ia(文法), I Ba に引き続き、<u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、</u> スペイン語文法の基礎と基礎的会話力の習得を目的とする。動詞の直説法点過去形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 <u>基本的には、会話コースのスペイン語 Ib(会話), I Cb とのペア履修を要望する。</u></p>		<p>① 動詞の活用 --- 直説法現在形の復習とまとめ ② 動詞の活用 --- 直説法現在形不規則の復習とまとめ ③ 代名詞の使い方 ④ 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 ⑤ 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用</p> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。 また、担当者が随時プリントを配布。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

02 年以前 (春)	スペイン語 I (会話) [通年]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、スペイン語を初めて学ぶ学生のために、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。スペイン語 I (会話), C の担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</u></p> <p><u>基本的には、文法コースであるスペイン語 Ia (文法), I Ba とのペア履修を要望する。</u></p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 Ia (文法), I Ba の項目と同じであるが、スペイン語 Ia (会話), I Ca ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 Ia (文法), I Ba の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。</p> <p>および、担当者が随時プリントを配布。</p> <p>また、スペイン語-日本語辞書を用意してもらう。</p> <p>辞書については、最初の授業で説明するので、その後購入していただきたい。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

02 年以前 (秋)	スペイン語 I (会話) [通年]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>スペイン語 Ia (会話), I Ca に引き続き、基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。スペイン語 I (会話), C の担当者は、基本的にスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</u></p> <p><u>基本的には、文法コースであるスペイン語 Ib (文法), I Bb とのペア履修を要望する。</u></p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 Ib (文法), I Bb の項目と同じであるが、スペイン語 Ib (会話), I Cb ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 Ib (文法), I Bb の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。</p> <p>また、担当者が随時プリントを配布。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

02年以前(春)	スペイン語Ⅱ(総合)[通年]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要 <p>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とした、スペイン語 IBab の継続の授業である。過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。</p> <p>基本的には、スペイン語 IICa とのペア履修を要望する。</p>		授業計画 ① 動詞の活用 --- 直説法点過去の復習 ② 動詞の活用 --- 直説法線過去 ③ 点過去と線過去の違い ④ 比較表現 ⑤ 過去分詞と現在分詞 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を最低限学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献 テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。		評価方法 出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

02年以前(秋)	スペイン語Ⅱ(総合)[通年]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要 <p>スペイン語 IIBa に引き続き、基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とする。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>基本的には、会話コースのスペイン語 IICb とのペア履修を要望する。</p>		授業計画 ① 動詞の活用 --- 直説法現在完了形 ② 動詞の活用 --- 現在進行形 ③ 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形 ④ 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形 ⑤ 命令表現 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
テキスト、参考文献 テキストは最初の授業で指示する。 および、担当者が随時プリントを配布。		評価方法 出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

02年以前(春)	スペイン語Ⅱ(会話)〔通年〕	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とし、過去形を中心に、比較表現・完了形などの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</u></p> <p><u>基本的には、文法コースであるスペイン語 IIBa とのペア履修を要望する。</u></p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 IIBa の項目と同じであるが、スペイン語 IICa ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 IIBa の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。</p> <p>および、担当者が随時プリントを配布。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

02年以前(秋)	スペイン語Ⅱ(会話)〔通年〕	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 I Ca に引き続き、<u>基本的に週二コマスペイン語を学習する学生を対象とする。接続法現在・命令表現までの基礎的文法事項をまなび、文法学習に基づいて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする会話中心のクラスである。語学力だけではなく、スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</u></p> <p><u>基本的には、文法コースであるスペイン語 IIBb とのペア履修を要望する。</u></p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 IIBb の項目と同じであるが、スペイン語 IICb ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語 IIBb の「授業計画」を参照のこと。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは最初の授業で指示する。</p> <p>および、担当者が随時プリントを配布。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

02年以前(春)	中国語 I (会話) [通年]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語の入門段階で最も重要なことは発音の習得です。発音の壁を越えると中国語の学習がうんと楽しくなり自信がついてきます。「耳」と「口」を精一杯駆使して根気よく練習することが大切です。会話文を歌を覚えるようにそのリズムを楽しみながら暗誦すると学習効果は一段と高まります</p> <p>中国語の基礎力をつけるために発音のトレーニングをしながら会話文の基本文型とこの中で使われている初級文法事項についても学びます。</p> <p>受講者の皆さんが授業中に教師に積極的に質問することを歓迎します。</p>		<p>第1回～第3回：テキスト発音篇</p> <p>第4回～第12回：テキスト第1課～第8課</p> <p>(内 容)</p> <p>形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、各種疑問文、</p> <p>“在”、“有”の用法、“了”の用法、数の数え方、量詞、比較の表現、結果補語、可能補語、助動詞“会、可以、想”他。</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『表現する中国語』白帝社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』</p>		<p>期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢）によって総合的に評価します。</p>	

02年以前(秋)	中国語 I (会話) [通年]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語の入門段階で最も重要なことは発音の習得です。発音の壁を越えると中国語の学習がうんと楽しくなり自信がついてきます。「耳」と「口」を精一杯駆使して根気よく練習することが大切です。会話文を歌を覚えるようにそのリズムを楽しみながら暗誦すると学習効果は一段と高まります</p> <p>中国語の基礎力をつけるために発音のトレーニングをしながら会話文の基本文型とこの中で使われている初級文法事項についても学びます。</p> <p>受講者の皆さんが授業中に教師に積極的に質問することを歓迎します</p>		<p>第1回～第12回：テキスト第9課～第16課</p> <p>(内 容)</p> <p>各種前置詞、様態補語、持続の“着”、主述述語文助動詞“能、得”、方向補語、“把”構文、存現文、受身文、兼語文、“要”の用法、その他さまざまな言い回し。</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら、上記の範囲を学びます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『表現する中国語』白帝社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』</p>		<p>期末試験と平常点（中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など）によって総合的に評価します。</p>	

02年以前(春)	中国語Ⅰ(講読)[通年]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国語の入門段階でまず習得しなければならないのは発音です。ピンイン(中国語表音ローマ字)を正しく読めるように繰り返し練習します。</p> <p>次に中国語の基礎文法を学び、中国語の語順の基本を理解することによって基礎的な日常表現を習得します。</p> <p>授業は音読を重視し色々な基礎文型を頭だけでなく「耳」と「口」を使って身体で覚えるようにすることが求められます。</p> <p>受講者の皆さんが積極的に授業に参加することを期待します。</p>		<p>第1回～第3回：テキスト 中国語の発音</p> <p>第4回～第12回：テキスト第1課～第6課</p> <p>(内容)</p> <p>人称代名詞、指示代名詞、疑問詞、数量詞、動詞述語文、形容詞述語文、各種疑問文、連動文、動詞の重ね型、“是、有、在、”の用法、“也、都”の用法、月日・曜日・時刻の言い方 等等。</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら上記の範囲を学びます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『中国語ポイント42』白水社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館</p>		<p>期末試験と平常点(中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など)によって評価します。</p>	

02年以前(秋)	中国語Ⅰ(講読)[通年]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>前期に引き続き文法事項と基礎文型を学びます。</p> <p>また前期で学んだ発音の基礎をさらに強化し、文の内容を理解しながら中国語のイントネーションを身につけるよう練習します。</p> <p>テキストに出ている単語数はそれほど多くないので、テキスト別冊の「自習単語帳」なども活用して発音・意味ともしっかり覚えてしまうことが求められます。</p>		<p>第1回～第12回：テキスト第7課～第12課</p> <p>(内容)</p> <p>各種介詞、各種動詞、動作・状態の進行と持続、結果補語、状態補語、方向補語、可能補語、完了を表す“了”、時間量の表し方、“把”構文、比較の表現 等等。</p> <p>各クラスの学習状況に応じて進度を図りながら上記の範囲を学びます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『中国語ポイント42』白水社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館</p>		<p>期末試験と平常点(中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など)によって評価します。</p>	

02年以前(春)	中国語Ⅱ(会話)[通年]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>最初の1年間で習得した単語や会話の基礎表現を復習・確認しながらさらに新しい表現を学び、コミュニケーション能力のレベルアップを目指します。</p> <p>テキストの会話文を使って日本人が中国でよく出会う場面の中で交わされる実用的で分かりやすい言い回しを勉強します。繰り返し聴き、声に出して読み、丸暗記すると学習効果が一層向上します。</p> <p>文法事項は、一部の新しいものを除きその多くの部分は1年次にすでに学んでいるので復習を重ねることで基礎文型、基礎表現をしっかり定着させることが大切です。</p>		<p>第1回～第12回：テキスト第1課～第6課</p> <p>(内 容)</p> <p><場面別会話></p> <p>北京に到着 道を尋ねる 買い物 バスに乗る 新しい友達 外食</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『2年生のコミュニケーション中国語』白水社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館</p>		<p>期末試験と平常点(中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など)によって評価します。</p>	

02年以前(秋)	中国語Ⅱ(会話)[通年]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>最初の1年間で習得した単語や会話の基礎表現を復習・確認しながらさらに新しい表現を学び、コミュニケーション能力のレベルアップを目指します。</p> <p>テキストの会話文を使って日本人が中国でよく出会う場面の中で交わされる実用的で分かりやすい言い回しを勉強します。繰り返し聴き、声に出して読み、丸暗記すると学習効果が一層向上します。</p> <p>文法事項は、一部の新しいものを除きその多くの部分は1年次にすでに学んでいるので復習を重ねることで基礎文型、基礎表現をしっかり定着させることが大切です。</p>		<p>第1回～第12回：テキスト第7課～第12課</p> <p>(内 容)</p> <p><場面別会話></p> <p>約束 友達に電話する 郵便局 医者に行く 家庭訪問 謝恩会</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：『2年生のコミュニケーション中国語』白水社 推薦辞書：『プログレッシブ中国語辞典』小学館</p>		<p>期末試験と平常点(中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など)によって評価します。</p>	

02年以前(春)	中国語Ⅱ(講読)[通年]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の中国に暮らす人々の生活や社会の状況を題材にした比較的長い文章の講読を通じて最初の1年間で習得した文法・言いまわしを復習、確認しながらさらに新しい語句や表現を学びます。</p> <p>授業では音読を重視します。文章の内容を理解した上でイントネーションに注意しながら長文の音読練習をすると中国語の発音は飛躍的に上達するからです。</p> <p>このテキストの文章を講読することによって受講者の皆さんが言葉だけでなく激しく変貌を遂げつつある今の中国に関心を持ち、理解する一助になることを期待しています。</p> <p>授業には辞書必携。</p>		<p>第1回～第12回：テキスト第1課～第5課</p> <p>(内容)</p> <p>各課文の読解と課文に出てくる重要語句や少々複雑な構文を短い例文を通して学びます。</p> <p>各課の「練習問題」は復習を兼ねて原則として課題とし、次の授業で受講者の皆さんが解答します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『中国は今』 白水社		期末試験と平常点(中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など)によって評価します。	

02年以前(秋)	中国語Ⅱ(講読)[通年]	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の中国に暮らす人々の生活や社会の状況を題材にした比較的長い文章の講読を通じて最初の1年間で習得した文法・言いまわしを復習、確認しながらさらに新しい語句や表現を学びます。</p> <p>授業では音読を重視します。文章の内容を理解した上でイントネーションに注意しながら長文の音読練習をすると中国語の発音は飛躍的に上達するからです。</p> <p>このテキストの文章を講読することによって受講者の皆さんが言葉だけでなく激しく変貌を遂げつつある今の中国に関心を持ち、理解する一助になることを期待しています。</p> <p>授業には辞書必携。</p>		<p>第1回～第12回：テキスト第6課～第10課</p> <p>(内容)</p> <p>各課文の読解と課文に出てくる重要語句や少々複雑な構文を短い例文を通して学びます。</p> <p>各課の「練習問題」は復習を兼ねて原則として課題とし、次の授業で受講者の皆さんが解答します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：『中国は今』 白水社		期末試験と平常点(中間テスト、小テスト、出席、課題の実行度、授業への姿勢など)によって評価します。	

02年以前(春)	ロシア語 I (文法) [通年]	担当者	斉藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ユーラシア大陸のちょうど中間に位置するロシアは、今日の国際社会の中で重要な地位を占めているだけでなく、千年以上の歴史にわたり、ヨーロッパともアジアとも異なる独特の文化を育んできました。その言語であるロシア語も、文字はもちろんのこと、音の響きや文法の面でも、英語等とはかなり違った特徴を持っています。</p> <p>この授業はまったくの初心者を対象とし、文字の読み方・書き方から始め、後期を含め一年間でロシア語文法の最初歩をマスターすることを目指します。</p> <p>会話を中心とした「ロシア語 I Ba」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。</p>		<p>全体で教科書の第 9 課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。</p> <p>1・6. アルファベット(キリル文字)の発音・書き方 基本的な文型 (平叙文、疑問文、否定文)</p> <p>7. 名詞の性と、形容詞類の変化</p> <p>8. 動詞の現在変化(1)</p> <p>9. 場所の表現 (1) (前置詞、名詞の格変化の導入)</p> <p>ロシアの地理・歴史・文化についての基礎知識も、随時とりあげてゆきます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。		①期末試験、②出席などの平常点。とくに出席を重視します。	

02年以前(秋)	ロシア語 I (文法) [通年]	担当者	斉藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ロシア語 I Aa」の続編の授業です。「Aa」と同じ教科書を持ちいて、引き続きロシア語文法を学んでゆきます。</p>		<p>全体で教科書の第 18 課まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。</p> <p>10. 場所の表現 (2) (前置詞)</p> <p>11. 動詞の現在変化 (2)</p> <p>12. 不規則動詞の現在変化</p> <p>13. 形容詞の変化</p> <p>14. 名詞の複数形</p> <p>15. 名詞の格変化 (1) 生格</p> <p>16. 名詞の格変化 (2) 対格</p> <p>17. 動詞の過去変化</p> <p>18. 運動の動詞、方向の表現</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒田龍之助『ロシア語文法への旅』(大学書林) 辞書・参考書等は授業時に紹介してゆきます。		①期末試験、②出席などの平常点。とくに出席を重視します。	

02年以前(春)	ロシア語 I (会話) [通年]	担当者	佐藤 千登勢
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>はじめてロシア語を学ぶ人を対象とします。 資本主義への移行を果たし、改めて世界における主要な位置を占めるようになったロシア。政治、経済、文化において日本との交流もますます拡大していきます。今後、ロシア語が重要な言語になることは間違いありません。</p> <p>ロシア語は、日本語の50音と同様、アルファベット(キリル文字)の音を一度覚えてしまえば、どんな単語でも正しく読むことができ、短期間での到達度が高い言語です。音の響きの美しさでも世界一と定評がありますから、一度は触れてほしい、それがロシア語です。</p> <p>この授業では、発音、イントネーションを正しく身につけ、ロシア語で挨拶や自己紹介をしたり、買い物をしたりできるようにします。発話のみならず、リスニングを通して聴取の力もつけます。また、ロシアの文化や生活習慣について、毎回、映像資料を通して紹介していきます。 「ロシア語 I A」と併せての受講が望ましいのですが、単独での履修も可能です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス (ロシア語、およびロシアについて)。 2 アルファベット、発音練習。「チェブラーシカ」鑑賞。 3 アルファベット、発音練習。「チェブラーシカ」鑑賞。 4 単語、文章の発音練習。「チェブラーシカ」鑑賞。 5 動詞の変化、名詞の性、発音練習。リスニング。「チェブラーシカ」鑑賞。 6 動詞の変化、代名詞、発音練習。リスニング。「チェブラーシカ」鑑賞。 7 動詞の変化、所有代名詞、発音練習。ディクテーション。「戦艦ポチョムキン」(一部)鑑賞。 8 自己紹介の表現、リスニング。「イワン雷帝」(一部)鑑賞。 9 自己紹介の表現。買い物に必要な表現。「惑星ソラリス」(一部)鑑賞。 10 まとめと補足。アニメ映画「霧の中のハリネズミ」鑑賞。 11 映画鑑賞。 12 試験(会話とディクテーション)。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、プリントを配付します。		学期末に試験(会話とディクテーション)を行いますが、何よりも出席率を重要視します。	

02年以前(秋)	ロシア語 I (会話) [通年]	担当者	佐藤 千登勢
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ロシア語 I Ba」の続きとなります。ロシア語の響きの美しさを共に味わいながら、会話の練習をさらに重ね、聴取力を向上させていきましょう。</p> <p>道を訪ねる表現、外食する時の表現を身につけ、ロシア旅行を楽しめるぐらいのレベルを目指します。同時に、ロシアの交通事情や食文化についても知識を深めます。</p> <p>Желаю вам успехов в учёбе!</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の復習。アニメ映画「きつねとウサギ」鑑賞。 2 疑問詞、感嘆文、形容詞。リスニング。パペットアニメ「ミトン」鑑賞。 3 感嘆文。道の尋ね方。リスニング。バレリーナ、プリセツカヤのインタビューと演技を見る。 4 道の尋ね方。ロシアの子供達のインタビューを見る。 5 道の尋ね方。リスニング。ロシアの子供達のインタビューを見る。 6 外食に必要な表現。メニューの見方。ロシアの子供達のインタビューを見る。 7 外食に必要な表現。数詞。リスニング。ロシアの子供達のインタビューを見る。 8 外食に必要な表現。数詞と名詞の組み合わせ。ロシアの子供達のインタビューを見る。 9 外食に必要な表現。数詞と名詞の組み合わせ。リスニング。ロシアの子供達のインタビューを見る。 10 まとめと補足。ロシアの子供達のインタビューを見る。 11 映画鑑賞。 12 試験(会話とディクテーション)。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、プリントを配付します。		学期末に試験(会話とディクテーション)を行いますが、何よりも出席率を重要視します。	

02年以前(春)	ロシア語Ⅱ(総合)[通年]	担当者	佐藤 千登勢
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨年度に「ロシア語Ⅰ」を履修した人を対象としますが、ロシア語の初歩を学んだことのある人なら誰でも履修可能です。</p> <p>この授業では、昨年度使用した文法のテキストをさらに進めていきながら、新たな文法事項や表現を身につけていきます。また、総合的な力をつけるために、リスニング、音読にも力を入れます。なお、ロシア語にも長い歴史をもつ検定試験があります。この授業を受けた先輩には、検定に挑戦し合格した人もいます。検定試験の受験はむろん義務ではありませんが、10月に行われるロシア語検定試験4級もしくは3級に合格する力をつけるべく、ロシア語の基礎を固めていくのがレベル上での目標です。せっかく学ぶロシア語。文法事項をひとつひとつ着実に消化しながら、結実させたいですね。</p> <p>ロシアは、深くて美しい芸術を誇る国です。映像資料を通して、言葉を支える背景としての文化、芸術を共に味わう時間ももちます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス(ロシア語、ロシアの文化について)。 2 テキスト18課:練習問題。「エルミタージュ幻想」(一部)鑑賞。 3 作文、音読。テキスト19課。「エルミタージュ幻想」(一部)鑑賞。 4 テキスト19課:作文、音読。「チャイコフスキー」(一部)鑑賞。 5 テキスト20課:練習問題。ロシア映画「ハムレット」(一部)鑑賞。 6 テキスト20課:作文、リスニング。「ハムレット」(一部)鑑賞。 7 テキスト21課:練習問題。「両棲人間」(一部)鑑賞。 8 テキスト21課:作文。リスニング。筆記体の練習。「両棲人間」(一部)鑑賞。 9 テキスト22課:練習問題、作文。筆記体の練習。「罪と罰」(一部)鑑賞。 10 テキスト23課:練習問題。筆記体の練習。リスニング。「アレクセイと泉」(一部)鑑賞。 11 テキスト23課:作文。「アレクセイと泉」鑑賞。 12 映画鑑賞。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒田龍之助著『ロシア語文法への旅』大学書林 その他、プリントを適宜配付します。		レポートにより決定しますが、出席率を最重要視します。	

02年以前(秋)	ロシア語Ⅱ(総合)[通年]	担当者	佐藤 千登勢
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じテキストを用いて、引き続き、文法の習得と復習を確実に進めていきます。音読とリスニングもさらに充実させていきましょう。</p> <p>ロシアの文化や芸術に触れるため、映像資料もできるだけ楽しむようにします。映画の台詞も、聴き取れる表現が徐々に増えてきて、面白くなるはずです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ロシア語検定試験の過去問題。映画「テルミン」鑑賞。 2 ロシア語検定試験の過去問題。「テルミン」鑑賞。 3 テキスト25課:練習問題。「テルミン」鑑賞。 4 テキスト25課:作文。リスニング。「テルミン」鑑賞。 5 テキスト24課:練習問題。「テルミン」鑑賞。 6 テキスト24課:作文。リスニング。「テルミン」鑑賞。 7 「動詞の完了体と不完了体」。「テルミン」鑑賞。 8 「動詞の完了体と不完了体」。リスニング。「ローラーとバイオリン」鑑賞。 9 「関係代名詞」。「ローラーとバイオリン」鑑賞。 10 「関係代名詞」。「ローラーとバイオリン」鑑賞。 11 まとめと補足。「ローラーとバイオリン」鑑賞。 12 映画鑑賞。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
黒田龍之助著『ロシア語文法への旅』大学書林 その他、プリントを適宜配付します。		レポートにより決定しますが、出席率を最重要視します。	

02年以前(春)	ロシア語Ⅱ(講読)[通年]	担当者	斉藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨年度に全カリの「ロシア語Ⅰ」、外国語学部の「基礎ロシア語Ⅰ」を履修した人を対象としますが、ロシア語の初歩を学んだことのある人なら誰でも受講できます。</p> <p>この授業では、ロシア語会話の教科書、音声教材を用いた易しい日常会話の練習を通して、これまで学んだ文法事項の復習と、新たな文法事項の習得を行いません。とくにロシア語は発音に慣れるのがやや難しい言語なので、受講者の皆さん一人一人の発話練習に重点を置きます。発音がある程度楽にできるようになれば、ロシア語が生きた言葉として感じられてくるようになると思います。</p> <p>文法を中心とした「ロシア語ⅡA」と併せて受講することが原則ですが、単独での履修も可能です。</p>		<p>全体で教科書の第8課まで進むことを目標とします。大まかな学習事項は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-2. 人・物の名前の訊ね方 / 家族の単語 3. 場所の訊ね方 4. 自己紹介の表現 5. 可能・不可能の表現 6. 数の訊ね方 / 曜日 / 数詞 7. 副詞を使った表現 / 言語の表現 8. 目的の表現 / 身体の部位 <p>その他、時おりロシアの映画・音楽を鑑賞します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
米重文樹、P. トマルキン『話すロシア語入門』(白水社)、および授業時に配布するプリント。		①期末試験(筆記および口頭)、②出席などの平常点。とくに出席を重視します。	

02年以前(秋)	ロシア語Ⅱ(講読)[通年]	担当者	斉藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「ロシア語ⅡBa」の続編の授業です。「Ba」と同じ教材を用い、引き続きロシア語の発音・会話表現を練習してゆきます。</p> <p>さらにプリント教材をもちいて、新たな文法事項の習得および、読解練習を行ないます。文法に関しては、1年間で名詞の格変化をすべて習得することを目標とします</p>		<p>全体で教科書の最後(第17課)まで進むことを目標とします。主な学習事項は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 所有の表現 10. 居住に関する表現 11. 好みの表現 / 食べ物単語 12. 電話の表現 / 一日の時間 13. 値段の訊ね方 / 数詞+名詞の表現 14. 道順の表現 15. 未来の表現 16. 時刻の表現 	
テキスト、参考文献		評価方法	
米重文樹、P. トマルキン『話すロシア語入門』(白水社)、および授業時に配布するプリント。		①期末試験(筆記および口頭)、②出席などの平常点。とくに出席を重視する。	

02年以前(春)	韓国語Ⅰ(文法)(通年)	担当者	朴 勇俊
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流の進展が期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。</p>		<p>1回 本講義に対する紹介、概要説明 2～5回 韓国語の文字・文章の理解と解説 6～11回 次のような内容を題材に会話・読解・作文力の基礎を定着させる。 「自己紹介」 「あいさつ」 「学校生活①」 「学校生活②」 「家族①」 「家族②」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習－基礎から完成まで－」朴 勇俊(プリント)		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

02年以前(秋)	韓国語Ⅰ(文法)(通年)	担当者	朴 勇俊
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流の進展が期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。</p>		<p>1～11回 次のような内容を題材に会話・読解・作文力の基礎を定着させる。 「友人①」 「友人②」 「買い物①」 「買い物②」 「趣味①」 「趣味②」 「海外旅行①」 「海外旅行②」 「伝統文化」 「衣食住①」 「衣食住②」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習－基礎から完成まで－」朴 勇俊(プリント)		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

02年以前(春)	韓国語 I (講読) (通年)	担当者	李 貞美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語を初めて学ぶ人を対象に韓国語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。</p> <p>会話の学習については、韓国固有の民俗、歴史生活、芸術、衣食住などのストーリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また、写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め、積極的に学習に取り組むようにする。</p>		<p>1回 本講義に対する紹介、概要説明</p> <p>2～5回 韓国語の文字・文章の理解と解読</p> <p>6～11回 次のような多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるような表現力の定着をめざす。</p> <p>「市場」 「スーパーマーケット」 「薬局」 「喫茶店」 「郵便局」 「洋服店」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習－基礎から完成まで－」朴 勇俊 (プリント)		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

02年以前(秋)	韓国語 I (講読) (通年)	担当者	李 貞美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本と韓国は古来から密接な関係を保ってきており、今後とも政治、経済、社会、文化などの諸分野にわたり、特に民間レベルでのより盛んな交流の進展が期待される。さらに日本における韓国語の需要も今後ますます増えていくと思われる。このような観点から本科目では読解力、生きたコミュニケーションができる表現力、新聞や雑誌などから時事情報を得る基本的な能力の総合的な定着を目指し、多角的な授業を行う。</p>		<p>1回 本講義に対する紹介、概要説明</p> <p>2～11回 次のような内容を題材に読解・作文力の基礎を定着させる。多様な生活場面を設定し、柔軟に対応できるような表現力の定着をめざす。</p> <p>「映画館」 「スポーツ」 「図書館」 「クリーニング店」 「銀行」 「役所」 「銭湯」 「美容院」 「趣味」 「国際電話」 「健康管理」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習－基礎から完成まで－」朴 勇俊 (プリント)		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

02年以前(春)	韓国語Ⅱ(総合)(通年)	担当者	李 貞美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語の読解、会話、作文力を基盤に多様かつ実用的な表現力を身につけるため、それぞれについて毎時間くわしいプリントを作成配布し、学習を進めていく。また、韓国の文学(詩や小説)や映画、音楽などを題材に取り上げることで文化や芸術に関する理解を深めるとともに多様な表現力の習得をめざす。</p>		<p>1回 本講義に対する紹介、概要説明 2~11回 次のような内容を題材に読解・作文力基礎を定着させる。</p> <p>「誕生日」 「遺跡」 「旅行」 「登山」 「正月の風俗」 「民族衣装」 「虎と干し柿」(民話)</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>「韓国語学習ー基礎から完成までー」朴 勇俊(プリント)</p>		<p>評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。</p>	

02年以前(秋)	韓国語Ⅱ(総合)(通年)	担当者	李 貞美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語の読解、会話、作文力を基盤に多様かつ実用的な表現力を身につけるため、それぞれについて毎時間くわしいプリントを作成配布し、学習を進めていく。また、韓国の文学(詩や小説)や映画、音楽などを題材に取り上げることで文化や芸術に関する理解を深めるとともに多様な表現力の習得をめざす。</p>		<p>1~11回 次のような内容の題材を取り上げ、読解・作文学習を行っていく。</p> <p>「農楽」 「端午」 「世宗大王」 「交通」 「記念日」 「手紙」 「済州島」 「牛になった怠け者」(民話) 「韓国の風俗」 「韓国の礼節」 「伝統芸能」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>「韓国語学習ー基礎から完成までー」朴 勇俊(プリント)</p>		<p>評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。</p>	

02年以前(春)	韓国語Ⅱ(講読)(通年)	担当者	朴 勇俊
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型などを身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく</p>		<p>1回 本講義に対する紹介、概要説明</p> <p>2～11回 次のような内容を題材にクラスをいくつかのグループに分け、会話を交わす実演を通じて会話文を暗唱できるようにしていく</p> <p>「入国審査」 「外国人登録」 「両替」 「国際電話」 「地下鉄」 「ホテル」 「観光」 「名刺交換」 「伝統的行事」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習ー基礎から完成までー」朴 勇俊(プリント)		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

02年以前(秋)	韓国語Ⅱ(講読)(通年)	担当者	朴 勇俊
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>韓国語の多面的な会話表現力の定着をめざし、日本人が韓国で遭遇する様々な状況を設定し、臨機応変に対応できるように実際に使われる表現・文型などを身につけさせる。また、外国語は異文化の集積体であることを感得させ、背景となっている当該外国文化の諸相への関心と探求意欲を育てて行くことにも留意していく。スライド・ビデオ・テープ等の視聴覚教材を用い、韓国の歴史・文化・時事情報を題材に選び、多様で実用的な表現力を定着させていく</p>		<p>1～11回 以下のような内容の題材を取り上げ、幅広い会話力の定着をめざす。</p> <p>「出身地」 「伝言」 「ビザの延長」 「健康管理」 「演劇」 「予約」 「病状」 「余暇」 「韓国料理」 「忘れ物」 「観光地」</p> <p>12回 期末試験</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
「韓国語学習ー基礎から完成までー」朴 勇俊(プリント)		評価は原則として定期試験を基本に授業への取り組み方、出席状況等を含め、総合的に判定する。	

02年以前(春)	社会学(通年)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。</p> <p>社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己(わたし)」について考えることでもある。</p> <p>本講義では、社会学の基礎的な概念のなかからとくに重要なものをとりあげ、それを現代的な文脈で考える。そのなかから、他者と自己との関係について、また社会的な視点とはどういったものなのかを学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——社会学的な視座とは 2. 社会学の歴史(1) ——A.コント、H.スペンサー 3. 社会学の歴史(2)——E.デュルケム 4. 社会学の歴史(3)——M.ウェーバー 5. 社会の種類(1) ——コミュニティとアソシエーション 6. 社会の種類(2) ——ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 7. 社会の種類(3)——第一次集団 8. アイデンティティ形成と社会(1) ——鏡に映った自己 9. アイデンティティ形成と社会(2) ——重要な他者 10. アイデンティティ形成と社会(3) ——役割取得 11. アイデンティティ形成と社会(4) ——マージナル・マン 12. 補完的アイデンティティについて 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業のなかでその都度指示する		出席とレポート	

02年以前(秋)	社会学(通年)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしたちは、つねに安穏とした平和な社会だけに生きているわけではない。他者と共に生きる社会は、大小問わずさまざまな問題を抱えている。そういった問題を社会学では、どのように研究してきたのだろうか。</p> <p>まず本講義の前半では、何人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、近代社会が抱える問題について講義する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、ある事象が「社会問題化する」とはどういうことか、そして社会学が射程におく現代的課題にはどういったものがあるかを考えてみたい。</p> <p>本講義は「社会学 a」の応用編でもあるため、受講にあたっては、春学期の「社会学 a」も合わせて受講することを強く推奨する。(なお、履修登録が抽選になった場合、「社会学 a」を習得した学生が優先される。)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」 ——E.フロム 3. 同調様式の3類型——D.リースマン 4. 都市化と移民 ——W.I.トマスと F.W.ズナニエツキ 5. 同心円地帯説——E.バージェス 6. シカゴ学派と都市問題——R.パーク 7. 社会問題と社会学(1) 8. 社会問題化すること(2) 9. 現代社会の諸問題(1)——移民と日本社会 10. 現代社会の諸問題(2)——未定 11. 社会学の現在(1) 12. 社会学の現在(2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業のなかでその都度指示する		出席とレポート	

01年～02年 (春)	日本国憲法	担当者	加藤 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本国憲法について、人権論を中心に講義を行う。</p> <p>毎回、具体的事件（判例）を通じて、憲法問題を受講者とともに考えてゆく。</p> <p>問題意識のある学生の受講を希望する。</p> <p>なお、『六法』（出版社は問わない）は必携である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容の説明 2. 六法の使い方と読み方。憲法総論 3. 日本憲法史と現憲法の三大原理 4. 人権総論・人権の享有主体性 5. 法の下での平等・ 6. 精神的自由（1）信教の自由 7. 精神的自由（2）学問の自由 8. 精神的自由（3）表現の自由（総論） 9. 精神的自由（4）表現の自由・報道の自由 10. 精神的自由（5）プライバシーの権利 11. 精神的自由（6）結社の自由 	
テキスト、参考文献		評価方法	
加藤／植村編『現代憲法入門講義』北樹出版、 吉田編『憲法重要判例集』敬文堂。		定期試験による	

01年～02年 (秋)	日本国憲法	担当者	加藤 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済的自由権（1）総論 2. 経済的自由権（2）判例研究 3. 人身の自由（刑事手続と逮捕） 4. 社会権（総論・朝日訴訟） 5. 社会権（教育権・学テ訴訟、家永訴訟） 6. 平和主義（9条の解釈論） 7. 平和主義（自衛隊海外派兵） 8. 選挙権論 9. 国会（国会の最高機関性と国会の権能） 10. 国会（条約の国会承認、国政調査権・浦和事件） 11. 裁判所（司法権の概念、裁判官の身分保障） 	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		定期試験による	

02年以前(春)	文化人類学	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文化人類学は、現在消えつつある「未開」社会と呼ばれる社会の文化を、異文化として理解しようとする学問である。aにおいては、この学問の形成の歴史、対象、方法などを学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 どんな学問か 2 概説書の紹介 3 文化人類学前史(1) 4 同上 (2) 5 同上 (3) 6 文化人類学の誕生へ 7 対象としての「文化」の概念(1) 8 同上 (2) 9 初期の視点——歴史的視点 10 視点の転換——現在的視点へ 11 方法としての実地調査(1) 12 同上 (2) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		定期試験期間中の試験による。	

02年以前(秋)	文化人類学	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>aで学んだことを基礎に、「未開」文化の事例を具体的に示し、それをどのように理解するかを学び、またそれを通してわれわれの文化について意識化し、検討を加えうることを学ぶ。</p>		<p>事例としては、「経済」「婚姻・家族・親族」「宗教・儀礼」などを考えているが、話のつながり具合によって決める。ビデオを見てもらう機会もある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		定期試験期間中の試験による。	

02年以前(春)	心理学(通年)	担当者	増田 直衛
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というとTVや雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思い起こすかもしれません。勿論、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部でしかありません。</p> <p>心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとしています。ここでは個体がいかに環境からの情報を得て行動しているのか、知覚・認知を中心に講義をします。</p> <p>VTRなどAV資料を使って具体的に理解できるようにここがけます。</p> <p>心理学a(知覚・認知)のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学b(行動・個性)とあわせて受講すると理解は一層深まります。</p>		<p>1 ガイダンス 心理学では心をどのように理解しようとしたか</p> <p>2 固体と環境 心理学のもののとらえ方</p> <p>3 物理的世界と心理的環境</p> <p>4 感覚の世界</p> <p>5 主観のものさし</p> <p>6 まとまりのある知覚世界(1)</p> <p>7 まとまりのある知覚世界(2)</p> <p>8 認知と判断過程</p> <p>9 判断と意思決定</p> <p>10 態度の形成とダイナミクス</p> <p>11 社会的現実の構築</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは特に指定しません。</p> <p>講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。</p>		<p>定期テストと、随時行う出席調査をかねる小レポートなどによります。</p>	

02年以前(秋)	心理学(通年)	担当者	増田 直衛
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というとTVや雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思い起こすかもしれません。勿論、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部でしかありません。</p> <p>心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用としてとらえようとしています。ここでは個体が環境に適応して生きていくためにどのような行動をとるか、動物も含めて行動変容のダイナミズムを講義します。心理学では個性をどのように理解し、それはどのように形成されてくるのか講義をします。</p> <p>VTRなどAV資料を使って具体的に理解できるようにここがけます。</p> <p>心理学b(行動・個性)のみでも完結した講義スタイルをとりますが、心理学a(知覚・認知)とあわせて受講すると理解は一層深まります。</p>		<p>1 ガイダンス 行動を理解するために</p> <p>2 環境への適応様式</p> <p>3 生得的行動・獲得的行動</p> <p>4 種に固有の固定的行動</p> <p>5 行動の変容(1)レスポナント条件づけ</p> <p>6 行動の変容(2)オペラント条件づけ</p> <p>7 行動分析学とその応用</p> <p>8 個性をどのように理解するか</p> <p>9 個性をいかに測定するか</p> <p>10 パーソナリティのダイナミクス</p> <p>11 個性はどのように発達するのか</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは特に指定しません。</p> <p>講義中に参考になる図書をそのつど紹介します。</p>		<p>定期テストと、随時行う出席調査をかねる小レポートなどによります。</p>	

02年以前(春)	歴史学(日本史) (通年)	担当者	新井 孝重
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>◎ 「悪党の世紀」ともいわれた十三・四世紀内乱時代の社会のありさまを、人間の行動と意識を通して観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中世民間社会の武装慣行 ・ 異形としての甲冑の姿 ・ 悪党の武装 ・ 武勇にたいする価値の変化 		<ol style="list-style-type: none"> 1 ある相論 2 「悪」のすがた 3 見せるための武装 4 祭りと武装と闘争 5 元弘二年の祇園御霊会 6 武器を持つ芸能 7 「武」の禁忌を破る 8 ならずものの出で立ち 9 甲冑を脱ぎ捨てる 10 誇り高き「悪」から 11 公権力による武力の独占 12 「武勇」の増殖 	
テキスト		評価方法	
新井孝重『悪党の世紀』(吉川弘文館、1997年)		出席状態 試験成績	

02年以前(秋)	歴史学(日本史) (通年)	担当者	新井 孝重
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>◎ 鎌倉幕府崩壊から始まる日本社会未曾有の内戦を、戦闘に参加する武士たちの意識を通して観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楠木の勢力 ・ 金剛山の攻防 ・ 移動する大軍 ・ 戦いの日々 		<ol style="list-style-type: none"> 1 土豪の住宅と城郭 2 河内と伊賀の関係 3 平場の戦い・山の戦い 4 「尋常(よのつね)ならぬ」合戦 5 金剛山の周囲 6 西へ向かう大軍 美濃国でのいくさ 7 奥州軍は快進撃したのか 8 たえざる掠奪 崩壊する大軍 9 ある武士の思い 10 雇われる凡下の輩 11 戦争に疲れて 12 領主制の再構築 	
テキスト		評価方法	
新井孝重『悪党の世紀』(吉川弘文館、1997年)		出席状態 試験成績	

02 年以前 (春)	歴史学 (日本史) [通年]	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1945.8.15 に終わった戦争で、日本はどこに敗けたと認識しているか。この戦争のことを、普通、何と呼ぶか。そもそもこの戦争は、いつ、どこで始まったのか。これらの問い返ってくる答えをみると、日本人がこの戦争をどうとらえているか、さまざまな問題が浮かび上がってくる。戦後 60 年になろうとしているが、日本人のこの戦争への認識は多くの課題をかかえており、政治的な争点にもなっている。</p> <p>この戦争をとらえるために、被害や加害の事実をしっかりとみたい。見るのがつらいところもあるが、ビデオをいくつか使う。その上で、教育や社会の状況も含めて、この戦争の全体像を考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 8.15 に終わった戦争の呼称・相手をめぐって 2 真珠湾からか、コタバルからか 3 被害の問題①—空襲は何を示すか 4 被害の問題②—原爆投下をどうとらえるか 5 加害の問題①—731 部隊とは何か 6 加害の問題②—南京事件をどうとらえるか 7 加害の問題③—強制連行と従軍慰安婦 8 兵士と民衆①—日本軍隊の特徴をみる 10 兵士と民衆②—教育でどう兵士が育てられたか 11 兵士と民衆③—負担と抵抗をめぐって 12 まとめとして—戦争の全体像を考える 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、基本的に論述の形式で試験を実施する	

02 年以前 (秋)	歴史学 (日本史) [通年]	担当者	丸浜 昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「15 年戦争」は、戦後 60 年になろうとする今日でも、日中間で問題になっているように、日本の社会に大きな影響を与えている。そこには、この戦争そのものの問題だけでなく、戦後史のさまざまな局面の中でこの戦争がどうとらえられ、どう処理されてきたか、という問題がからんでいる。たとえば、戦後の日米関係が、この戦争の処理や日本人の戦争認識に大きな影響を与えてきた事実がある。中国や韓国の人々から戦後補償が、今、求められる背景には、この戦後の歴史がある。日本の政府が、また民衆が、戦後史の中でこの戦争をどうとらえどう対処し、どのような課題を残してきたのか考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 沖縄戦・本土決戦と戦争の終わり方の特徴 2 一億総ざんげ論から日本国憲法まで 3 東京裁判をめぐって 4 サンフランシスコ講和のもった問題 5 内外での補償・賠償をめぐって 6 日本とドイツの戦後補償 7 日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか 8 日中国交回復への道のり 9 ベトナム戦争と国民の戦争認識の変化 10 アジアの民衆からの戦後補償要求 11 戦後 50 年の国会決議をめぐって 12 過去の戦争と現代の戦争 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、基本的に論述の形式で試験を実施する	

02年以前(春)	歴史学(東洋史)(通年)	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義の目的) 西アジアの歴史について講述する。イスラーム世界の歴史を知ることにより、彼らが何を規範とし、何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。</p> <p>(講義概要) 7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたるまでの歴史を概観し、イスラーム教が拡大して広大なイスラーム世界が形成されるまでを理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。 2 イスラーム教の誕生以前の世界について考える。 3 預言者ムハンマド(マホメット)の出現と、その時代背景について考える。 4 最初の4人のカリフ(正統カリフ)の時代について。第一次内乱、シーア派の出現を理解。 5 ウマイヤ朝の歴史。ヴェルハウゼンの古典理論における「アラブ帝国」の意味を検討する。 6 アッバース朝の歴史。「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行の意味を検討する。 7 啓示の書であるコーラン、預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって。 8 アッバース朝時代から発達したアラビア科学と、中世におけるイスラーム神秘主義。 9 アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政権とその展開について概観する。 10 マムルーク朝について。とくにイクター制が西欧の封建制と比較される点を検討する。 11 ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係。レコンキスタ、十字軍、大航海時代など。 12 同 その2 	
テキスト、参考文献		評価方法	
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する。		毎回出席をとる。期末にレポート。	

02年以前(秋)	歴史学(東洋史)(通年)	担当者	熊谷 哲也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義の目的) イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。</p> <p>(講義概要) 後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな国際関係についても、理解が深められるよう留意したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オスマン朝の成立と発展について。「完成されたイスラーム国家」の定義も検討する。 2 欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概説する。 3 西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容。 4 さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフイズムなどの問題について考える。 5 エジプトの近代化とその過程について。考える。 6 トルコの近代化とその過程について。トルコナショナリズムとパン・イスラミズムの理解。 7 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とゆくえについて考察する。 8 知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会について検討。 9 近・現代のアラブ世界の文化について考える。 10 今世紀のイスラーム世界について考える。マイノリティーの問題もとりあげる。 11 現在のアラブ諸国のかかえる問題、東西冷戦終結後における欧米諸国との関係を考える。 12 まとめをおこなう 	
テキスト、参考文献		評価方法	
とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する。		毎回出席をとる。期末にレポート。	

02年以前(春)	哲学〔通年〕	担当者	谷口 郁夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>哲学は、哲学とは何かの問題になるというちょっと変わった学問です。そこで、このことから話し始める予定です。</p> <p>ほとんどの学生にとって、哲学は未知の学問でしょうから、この学期では、哲学では何が論じられているのか紹介するとともに、それらの問題がわれわれにとって無縁のものではないことを皆さんに知っていただくことが第一の課題となります。できるだけ親しみやすい文献をいくつか選び、それらの一部を読みながら、ともに考えていただきたいと思っています。</p> <p>主なテーマとして、二元論、歴史、自由などを取り上げます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. プラトンのイデア論とエロス論を取り上げます。分権としてはプラトンの著作の中でも最も読みやすい『饗宴』を取り上げます。 2. 前回の続き。 3. 典型的に二元論的思考としてデカルトを取り上げます。文献としては『方法序説』を読みます。 4. 前回の続き。 5. カントの『啓蒙とは何か』を取り上げます。特に、時代背景の関連に留意する予定です。 6. 前回の続き。 7. ヘーゲルの『歴史哲学講義』を取り上げます。この回から4回連続で歴史哲学について考える予定です。 8. 前回の続き。 9. マルクス&エンゲルスの『共産党宣言』と『空想から科学へ』を取り上げ、彼らが歴史の原動力と考えたものについて考察します。 10. 前回の続き。 11. サルトルの『実存主義とは何か』 12. 人間における『自由』について考えます。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
web site から講義で使用する資料(pdf形式)を配布します。		学期終了後にテストを行います。	

02年以前(秋)	哲学〔通年〕	担当者	谷口 郁夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ソクラテスは「哲学を究めるとは死の準備をすることに他ならない」と言いました。なぜ哲学を究めることが死の準備となるのでしょうか。彼によれば、死とは肉体と靈魂の分離であり、哲学することはもっぱら魂の事柄に専心することを意味します。ですから肉体から離れて魂そのものとなる死は、哲学者にとってはむしろ喜ぶべきことであって、この世の生はかりそめのものだけということになります。</p> <p>もちろんわれわれはこのように考えることはできないでしょう。では、死は、あるいはこの世の生は、われわれにとってどのような意味を持つでしょう。この時間は、死から生を考察する予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ソクラテスは従容と処刑されました。死を前にした彼の言葉にまず耳を傾けたいと思います。 2. 一部分ですが、『ソクラテスの弁明』、『クリトン』、『パイドン』をできるだけ読みたいと考えています。 3. 前回の続き。 4. アウグスティヌスの『告白』と『神の国』における、死、時間の問題を取り上げます。 5. 前回の続き。 6. パスカル『パンセ』における人間の運命と人間的営みについて。 7. 前回の続き。 8. ショーペンハウアーの悲観論的哲学を取り上げます。 9. ショーペンハウアーの『自殺について』を取り上げます。 10. アーネスト・ベッカーの『死の拒絶』を取り上げます。 11. ベッカーは人間のヒロイックな行為の源泉を「死の拒絶」に見ています。彼の見方の当否を考えます。 12. 前回の続き。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
web site から講義で使用する資料(pdf形式)を配布します。		学期終了後にテストを行います。	

02年以前(春)	文学(日本文学)[通年]	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目標] 現代日本におけるベストセラーの特色を分析することにより、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるのかを考察する。</p> <p>[講義概要] 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。春学期は「恐怖の現代文学」と題して、恐怖や苦痛を扱ったベストセラーの数々をブックレビュー的に紹介しながら、その本質に迫る。</p> <p>[受講生への要望] 講義で紹介した作品は、できるだけ読破して欲しい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しさを伝えて行くことが目的なので、楽しんでもらいたい。</p>		<p>恐怖の現代文学</p> <p>① 日本文学における代表的恐怖 『古事記』『今昔物語集』『平家物語』『牡丹灯籠』『雨月物語』『東海道四谷怪談』</p> <p>② 現代文学における恐怖の端緒 江戸川乱歩、横溝正史の登場</p> <p>③ 現代恐怖文学のベストセラー分析 (1) 古典的な題材を含んだ作品 荒俣宏の『帝都物語』 坂東眞砂子の『死国』『狗神』ほか 京極夏彦の世界 (2) 超自然的事象の題材を含んだ作品 梅原克文の『ソリトンの悪魔』ほか 瀬名秀明の『パラサイト・イヴ』ほか 鈴木光司の『リング』ほか (3) 心理学的な題材を含んだ作品 貴志祐介の『黒い家』ほか 桐野夏生の『「OUT」』ほか (4) 社会派ミステリー 宮部みゆきの『理由』ほか (5) スプラッター的ホラー 綾辻行人の『殺人鬼』における実験 (6) その他</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度紹介する。		出席・レポート・定期試験による。	

02年以前(秋)	文学(日本文学)[通年]	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目標] 現代日本におけるベストセラーの特色を分析することにより、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるのかを考察する。</p> <p>[講義概要] 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。秋学期は「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱ったベストセラーの数々をブックレビュー的に紹介しながら、その本質に迫る。</p> <p>[受講生への要望] 講義で紹介した作品は、できるだけ読破して欲しい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しさを伝えて行くことが目的なので、楽しんでもらいたい。</p>		<p>癒しの現代文学</p> <p>① 近代文学に見るやさしさの文学 芥川龍之介の『蜜柑』ほか 川端康成の『伊豆の踊子』ほか 太宰治の『お伽草紙』ほか</p> <p>② 現代文学に見るやさしさの文学 宮本輝の世界 浅田次郎の世界 重松清の世界 村上春樹の世界 北村薫の世界 現代児童文学の現状 宮崎駿の目指す世界 ほか</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度紹介する。		出席・レポート・定期試験による。	

02年以前(春)	文学(日本文学)[通年]	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・講義内容</p> <p>日本の古典文学を取り上げ、その魅力に触れることを目標とする。この講義では上代から中古前期を取り扱うことを目標としているが、場合によっては、上代(奈良時代以前)のみを取り扱うこともある。</p> <p>プリントを配布して、そのプリントに基づくかたちで講義を進める。試験はそのプリントをまとめるものとなるので、授業を通して全体の流れをよく把握してほしい。</p>		<p>1はじめに</p> <p>2八岐大蛇退治神話の紹介(古事記)</p> <p>3八岐大蛇神話と海外の神話(古事記)</p> <p>4神としての天皇(万葉集)</p> <p>5古代都市の文学(万葉集)</p> <p>4浦島太郎と蓬莱山(丹後国風土記)</p> <p>5浦島太郎と風流(丹後国風土記)</p> <p>6異境訪問譚について</p> <p>7春の孤独(万葉集)</p> <p>8平和の帝国(文華秀麗集)</p> <p>9いちはやきみやび(伊勢物語)</p> <p>10怨霊と秩序(古今和歌集)</p> <p>11一人子の死(土佐日記)</p> <p>12まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし(プリント配布)		期末試験	
参考図書は授業時に随時紹介する。			

02年以前(秋)	文学(日本文学)[通年]	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・講義内容</p> <p>日本の古典文学を取り上げ、その魅力に触れることを目標とする。この講義では中古後期以降のテキストを取り扱う。</p> <p>授業は、プリントを配布して、そのプリントに基づくかたちで講義を進める。試験はそのプリントをまとめるものとなるので、授業を通して全体の流れをよく把握してほしい。</p>		<p>1はじめに</p> <p>2真実の物語(蜻蛉日記)</p> <p>3作られた笑い(枕草子)</p> <p>4源氏物語のストーリー</p> <p>5源氏物語のストーリー</p> <p>6天女の末裔(源氏物語)</p> <p>7方便としての物語(源氏物語)</p> <p>8菩提講の鎮魂(大鏡)</p> <p>9衰弱する天皇(讃岐典侍日記)</p> <p>10華麗なる滅亡(平家物語)</p> <p>11この世の終わり(方丈記・徒然草)</p> <p>12現代と古典文学</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし(プリント配布)		期末試験	
参考図書は授業時に随時紹介する。			

02年以前(春)	文学(世界文学)	担当者	野々山 ミチコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近代スペイン文学の名作を解説する。 最後にドン・キホーテも解説する。</p>		<p>1 短篇集 「イワシの埋葬から」 ベッケル 2 アソリン 3 アソリン 4 アソリン 5 クラリン 6 クラリン 7 ロルカ 8 ロルカ 9 ドン・キホーテ 10 ドン・キホーテ 11 〃 12 〃</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>野々山 真輝帆編「イワシの埋葬」 ロルカはプリントを用いる。 セルバンテス「ドン・キホーテ」前篇(岩波文庫)</p>		出席とレポートによる。	

02年以前(秋)	文学(世界文学)	担当者	野々山 ミチコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ラテンアメリカ文学の二つの大きな流れ、モデルニズモと魔術的リアリズムの生んだ名作を解説する。</p>		<p>1 短篇集から ルベン・ダリオ 2 アマード・ネルボ 3 クレメンテ・パルマ 4 バレット 5 キローガ 6 キローガ 7 キローガ 8 オネッティ 9 アレオラ 10 カルペンティエール・コルタサル (プリント) 11 ボルヘス(岩波文庫) 12 ボルヘス(〃)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>野々山 真輝帆編「ラテンアメリカ短篇集」 ボルヘス「伝奇集」</p>		出席とレポートによる。	

02年以前(春)	文学(世界文学)[通年]	担当者	宮谷 尚実
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『聖書』は、欧米の文化のみならず、近代以降の日本文学にも大きな影響を及ぼした書物であり、現代に生きる私たちもさまざまな形でこの聖書に接しているはずである。</p> <p>この講義の目的は、キリスト教など特定の宗教の信仰を前提とせず、あくまでも文学として聖書を扱い、1) 大学の勉強のなかで聖書を背景とした文化圏に関わる際に必要とされる基本情報を学ぶこと、2) 聖書を題材とした文学作品や図像の読み方の基礎を学ぶこと、である。</p> <p>旧約聖書と新約聖書の有名な話を中心に、それらの解釈である文学作品や絵画、できればさらには音楽や映画を紹介したい。</p> <p>受講者は、第1回で配布する詳しいリストを参考に、指定された箇所を毎回あらかじめ読んでから出席すること。そのため、初回の授業には必ず出席すること。</p> <p>さらに、授業で指定されていない文献や作品を自ら「発掘」して授業と関連づける知的好奇心と行動力を受講者に求める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 旧約聖書の世界(1) 3 旧約聖書の世界(2) 4 旧約聖書の世界(3) 5 旧約聖書の世界(4) 6 旧約聖書の世界(5) 7 新約聖書の世界(1) 8 新約聖書の世界(2) 9 新約聖書の世界(3) 10 新約聖書の世界(4) 11 新約聖書の世界(5) 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト:『聖書 新共同訳』(日本聖書協会) 文語または口語訳でもかまわない。</p> <p>参考文献:『アートバイブル』(日本聖書協会) 2003</p>		<p>毎回の小レポート・期末試験</p> <p>授業中に迷惑行為(私語等)を行った場合は欠席とみなし、程度によっては単位を認めないこともある。</p>	

02年以前(秋)	文学(世界文学)[通年]	担当者	宮谷 尚実
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代において、文学は活字メディアにとどまらず、映画化によって「読まれ」ることが多い。出版からわずかの間に映画化される『ハリー・ポッター』を例に出すまでもなく、映画というメディアの発展とともにさまざまな文学作品が映画化されてきた。</p> <p>この講義では、20世紀ドイツの児童文学作家ケストナーの作品を3つ読み、その映画化された作品と比較する。たとえば、2003年冬に日本でも公開された『飛ぶ教室』はライブチヒの聖トーマス教会付属学校を舞台としているが、これはケストナーによる原作にはない設定である。映画を原作と比較し、社会的背景もふまえて、そうした改変の原因と効果を考えたい。</p> <p>講義の目的は、活字メディアの原作をきちんと読み、映画と比較する目を養うことである。そのため、受講希望者は、扱われる作品を必ず自分で読んで講義に臨むこと。また、映画化された作品もあらかじめ観ておくことが望ましい。</p> <p>期末試験では授業で扱わない作品を課題とするため、主体的な授業参加が普段から不可欠である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 ケストナーとその時代 3 『ふたりのロッテ』(1) 4 『ふたりのロッテ』(2) 5 『ふたりのロッテ』(3) 6 『点子ちゃんとアントン』(1) 7 『点子ちゃんとアントン』(2) 8 『点子ちゃんとアントン』(3) 9 『飛ぶ教室』(1) 10 『飛ぶ教室』(2) 11 『飛ぶ教室』(3) 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>講義第1回目に指示するため、欠席しないこと。</p>		<p>毎回の小レポート・期末試験</p> <p>授業中に迷惑行為(私語等)を行った場合は欠席とみなし、程度によっては単位を認めないこともある。</p>	

02年以前(春)	国語〔通年科目〕	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>言語には「話す」「聴く」「読む」「書く」という4つの側面があり、これらがバランス良く習得されていなければ言語を十分に獲得できたとは言えない。ところが日本の近代教育は学校教育における日本語習得の機会(国語という教科の授業)をゆがませてきた。現在でも日本全国の教室で、国語の授業の中で「話す」「聴く」について機能している場面はほとんどない。</p> <p>この時間は、日本語の口頭表現(「話す」「聴く」)の訓練を基本からやり直すことを主体に、実践的にコミュニケーションの原理を体得していくことを目的とする。講義は少ない。トレーニングの時間である。</p> <p>毎回の出席と膨大な量と回数の課題の提出・実践が求められるので、覚悟して受講すること。なお内容上の必要性から、受講者数の上限を50名とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 導入・オリエンテーション 「話す」「聴く」と「考える」 2 コミュニケーションの基本① 「聴く」ことの実践 3 コミュニケーションの基本② コミュニケーションサイクル 4 コミュニケーションの基本③ 向かい合うこと 5 コミュニケーションの実践① コミュニケーションがうまく行かない時Ⅰ 6 コミュニケーションの実践② コミュニケーションがうまく行かない時Ⅱ 7 コミュニケーションの実践③ コミュニケーションがうまく行かない時Ⅲ 8 コミュニケーションの実践 新たなコミュニケーションの開拓Ⅰ 9 コミュニケーションの実践 新たなコミュニケーションの開拓Ⅱ 10 コミュニケーションの実践 自分のコミュニケーションを振り返る 11 コミュニケーションの実践 再び「話す」「聴く」と「考える」 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		毎回の出席、課題の提出・実践、課題レポート	

02年以前(秋)	国語〔通年科目〕	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>言語には「話す」「聴く」「読む」「書く」という4つの側面があり、これらがバランス良く習得されていなければ言語を十分に獲得できたとは言えない。ところが日本の近代教育は学校教育における日本語習得の機会(国語という教科の授業)をゆがませてきた。現在でも日本全国の教室で、国語の授業の中で「話す」「聴く」について機能している場面はほとんどない。</p> <p>この時間は、日本語の口頭表現(「話す」「聴く」)の訓練を基本からやり直すことを主体に、実践的にコミュニケーションの技術の基礎を体得していくことを目的とする。講義は少ない。日本語の発声・発話・聞き取りのトレーニングの時間である。</p> <p>しかし、単なる技術の習得ではいずれ必要性が薄れれば忘れ去られる。毎日の生活に生かす原理を身につけた上での受講が望ましい。従って、春学期を受講した上での参加が望ましい。</p> <p>毎回の出席と膨大な量と回数の課題の提出・実践が求められるので、覚悟して受講すること。なお内容上の必要性から、受講者数の上限を50名とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 導入・オリエンテーション 「伝える」こと、「伝わる」こと 2 何を「伝える」のか?① 自分の言葉、他人の言葉 3 何を「伝える」のか?② 他人の言葉を「理解」する。 4 何を「伝える」のか?③ 自分の言葉を「理解」してもらう 5 何を「伝える」のか?④ 自分の言葉を「理解」してもらう工夫 6 何を「伝える」のか?⑤ 「表現するとは何か?」を考える 7 表現の実践と評価① 8 表現の実践と評価② 9 表現の実践と評価③ 10 表現の実践と評価④ 11 何が「伝わる」のか? 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		毎回の出席、課題の提出・実践、課題レポート	

02年以前(春)	国語(通年)	担当者	小島 幸枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いつの世にも青年期は成長途上の不安と苦悩、感情の振幅が大きいものだ。すぐれた古典および文学作品は、多感な青年期の出会いと別れの中から自己実現していった過程、様相をよく表現し得ている。そのような作品の何に、いつ、どれだけ、出会っているかが、人生の苦難の時期には有効な支えとなり激励される。本講では、声を出してそうした作品を表現することに加え、受講者たちと感想を述べ合い、討論を通して表現の機微と技巧を知り、いっそう読みと解釈を深めていきたい。そして、自分でも、作品を生産することを目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 韻文の表現(短歌・俳句・詩)の表現とリズム 2 韻文の技巧(『曾根崎心中』にみる本歌取り) 3~4 映画「仮面の中のアリア」(発声の基本訓練) 5 詩のリズム 宮澤賢治の作品と鑑賞 6 草野心平の作品と鑑賞 7 日本語の発音の特徴 8 山本周五郎の世界 9 森鷗外の文体 10 漱石の文体 11 天草版「エソポのハプラス」の文体 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出欠およびレポート	

02年以前(秋)	国語(通年)	担当者	小島 幸枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文部科学省の方針に基づくいわゆる「ゆとり教育」の実践による学生生徒の学力不足が数字になって現れてきた。それは国語力の貧困に起因する。国語力とは、即ち漢字力の有無と多寡にある。本講では、もっぱら漢字力の衰退・枯渇を食い止め、国語力を取り戻すために手書きに挑戦する。短編の名作を書写することに始まり、自分でも実作することを旨とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 なぜ書くのか。 2 文章表現の意義 3 文字の力—漢字漢文力で翻訳して、外来文明に追い付いた明治時代 4 書写の意味 5~6 映画「天平の甍」鑑賞(若き留学僧の書写への執念) 7 名作短編の書写 芥川龍之介の作品 8 三浦哲郎の文体 9 森鷗外の翻訳 10 漱石の世界(漢詩および俳句) 11 上田敏の翻訳 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし。参考資料を授業中に指示します。		出欠および毎週の提出物	

02年以前(春)	国語(通年)	担当者	小島 幸枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>過去の人間の考え方に共鳴したり、未来の人間に語りかけられるのは言葉の力である。しかし言葉はただ通じればよいというものでもない。人の心を打つ美しい言葉、的確な表現、それは確かに才能にもよるが、たゆまぬ努力と訓練によってある程度は習熟できるものである。本講は、社会人予備軍としての大学生の日本語力を養うために、社会の変化に関心を持ち、情報の収集および判断力を養うこと、敬語の使い方の習得など、日本語の運用面について講述する。若者の日本語力をつけることを目標とする。今期は、音声言語表現を中心とし、1分間スピーチの演習や、朗読、日本語の敬語法などを学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 表現者(送り手)と理解者(受け手)の言葉におけるメカニズムを概説する 2 音声言語について、文字言語との差異および特徴の認識 3 日本語の基礎知識—日本語の音韻、アクセントの特徴 4 美しい言葉の条件—正確さと品位をどのように獲得するか 5~7 スピーチ演習 8 ディベート(ビデオ鑑賞) 9 反省とまとめ 10~12 敬語について、文学作品の朗読と批評 	
テキスト、参考文献		評価方法	
岡田啓介『国語表現法』(おうふう)		平常点。(新聞社説要約。800字の自由作文、読書報告文の提出と共に、毎回、授業開始前に漢字小テストを課す)	

02年以前(秋)	国語(通年)	担当者	小島 幸枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文字言語表現を中心とする。社会人になって書く実用文の実作、相互に交換、添削をし合う。手紙文の書き方を学ぶ。日本語の文法を総復習する。(とくに、助詞、助動詞の基本的使用法を知る)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1~3 日本語の文と文章、文の構造、文章の種類 4 文章を書く手順 5 主題と題材 6 材料を集める—説明文、報告文、論説文の特徴 7 材料を並べる—アウトラインの作成 8~9 文章を書く。文献資料を用いて文章を補強する 10 交換、批評し合う 11 推敲のポイントを学ぶ 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

02年以前(春)	国語(通年)	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目標] メールはその簡便性から一般化されてきた。その簡便性ゆえに日本語の持つ叙情性や心配りが失われつつある。本講義では、暗号のようなメールのやりとりから抜けだして、心を打つ手紙、メールを目指す。</p> <p>[講義概要] 手紙文の定型、先人の書簡の分析・鑑賞。手紙を重要なアイテムとした小説の鑑賞。美しいメール作法などを考える。</p> <p>[受講生への要望] 連続する授業なので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいて下さい。</p>		<p>① 手紙文の約束 拝啓 時候の挨拶 本文 敬具 実作及び添削(3回シリーズ)</p> <p>② 時候の挨拶及び季節感(2回)</p> <p>③ 手紙文の解説・鑑賞(2回)</p> <p>④ 手紙をアイテムとした小説の鑑賞(2回)</p> <p>⑤ メール作成の問題点</p> <p>⑥ 絵文字の功罪</p> <p>⑦ ほか</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度プリントを配布します。		出席・レポート・定期試験による。	

02年以前(秋)	国語(通年)	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目標] 話し言葉は、ギャル語、若者言葉とかおやじ言葉などに代表されるように、それぞれの世代で区分されコミュニケーションの断絶を生んでいる。世代を越えて理解し合える話し言葉を、学びながらそこに込められた日本人の知恵と繊細さを学び、心に届くことばの本質を考える。</p> <p>[講義概要] 流行語と呼ばれる言葉の変質を考察しながら、現代の世代間ギャップを埋める話し言葉を模索する。学生生活での言葉の問題ではなく、就職試験の面接に代表されるような世代間のコミュニケーションに役立つ自己表現としての話し言葉の習得を実際に考えてみる。</p> <p>[受講生への要望] 連続する授業なので、やむを得ず休んだ場合は、必ずノートを補っておいて下さい。</p>		<p>① 流行語の変遷と世相 昭和50年代の流行語と世相 昭和から平成初年代の流行語と世相 現代の流行語と世相(3回)</p> <p>② ギャル語とおやじギャグの問題(2回)</p> <p>③ 心を開かせる挨拶の仕方(2回)</p> <p>④ 発声法開発</p> <p>⑤ 電話応対</p> <p>⑥ 共通語の理想と現実</p> <p>⑦ 3分間スピーチの実践</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度プリントを配布します。		出席・レポート・定期試験による。	

02年以前(春)	国語(通年)	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・講義内容</p> <p>言語表現の基本技能は「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能がある。この授業では、大学生活において必須の論文の書き方についてのトレーニングを行う。具体的には、問題意識の設定・資料の検索・資料カードの作成・全体の組み立て・注の付け方などを取り扱う。基礎的な概念は講義するが、それを基にした実践、つまり学生諸君の作業が主体となる。毎週出される課題に一週間取り組んで、次の週の授業時間はその課題について述べるという形式が多くなる。授業は課題をこなしてきていることを前提に行うので、課題に取り組まなかったものは受講しても無意味である。</p>		<p>1 はじめに</p> <p>2 問題意識の設定</p> <p>3 序文の作成</p> <p>4 資料検索の方法</p> <p>5 資料カードの作成</p> <p>6 全体の組み立て</p> <p>7 グラフ・表の取り扱い</p> <p>8 本論の作成</p> <p>9 本論の作成</p> <p>10 結論の作成</p> <p>11 目次・注の作成</p> <p>12 提出・まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト</p> <p>『プラクティカル日本語(文章表現編)』おうふう</p>		<p>出席</p> <p>レポート</p>	

02年以前(秋)	国語(通年)	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・講義内容</p> <p>言語表現の基本技能は「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能がある。この授業では、口頭発表の技法についてのトレーニングを行う。基礎的な概念は講義するが、それをもとにした実伐、つまり学生諸君の実際のトレーニングが主体となる。毎週出されるタスクに一週間取り組んで、次の週の授業時間にその結果をもとに実感するといった形式が多くなる。授業はタスクの実施を前提になされるから、タスクに取り組まなかった者は受講しても無意味である。</p>		<p>1 はじめに</p> <p>2 音声表現の基礎</p> <p>3 音声表現の基礎</p> <p>4 朗読</p> <p>5 朗読</p> <p>6 プレゼンテーションの基礎知識</p> <p>7 プレゼンテーションの基礎知識</p> <p>8 プレゼンテーション</p> <p>9 プレゼンテーション</p> <p>10 敬語</p> <p>11 敬語</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト</p> <p>『プラクティカル日本語(口頭表現編)』おうふう</p>		<p>平常点</p> <p>授業時の試験</p>	

02 年以前 (春)	地球環境論 (通年)	担当者	鈴木 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。</p> <p>この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。</p> <p>我々の環境は目まぐるしく変化している。その状況を地球規模で、タイムリーに的確に理解するためには、地球環境を自然科学的側面から捉えることが必要である。</p> <p>この講義では、地球環境の変化とその要因として、地球誕生後の地球環境の変遷とその自然のおよび人為的要因について検討する。また、地球環境問題に対する地球環境の位置づけや地球規模の問題として環境と資源がどのような因果関係にあるのか考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：授業概要等の説明 2 地球環境とは何か？ 今、何が起っているのか？ 3 地球環境の歴史 4 地球環境の構造等：地球という惑星について 5 地球環境と地球システム 6 地球環境と資源 (I)：資源の特性 7 地球環境と資源 (II)：エネルギー 8 地球環境と材料：地球材料学とは 9 地球環境と科学技術：科学技術は地球環境に何を もたらしたか？ 10 環境：地球環境と広域・地域環境との比較 11 地球環境問題概論 12 まとめ <p>備考：授業の進度により若干の変更がある</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：特に指定しない。 必要に応じてプリントを配布する。 参考文献：講義内容によって、適時指示する。</p>		<p>基本的には定期試験による。</p>	

02 年以前 (秋)	地球環境論 (通年)	担当者	鈴木 滋
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人類が直面し、避けて通ることの出来ない地球環境問題は自然・環境・人間の相互関係の上で発生している。</p> <p>この講義の目的は、地球科学・環境資源科学・一般科学技術の立場からその内容を把握すると共に、自然科学の持つ客観的な物の見方を養うことである。</p> <p>地球環境問題は国際的な文化・経済・社会等に大きな影響を与えている。この問題を理解し、把握することは、グローバルなものを見方を養うと共に、地球環境の保全に欠かせないと思われる。</p> <p>この講義では、地球環境問題と環境保全として、地球環境問題各論を中心に、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨などの地球環境に生じる具体的現象、その原因と影響ならびに対策について環境論および資源論を交えて検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：授業概要等の説明 2 地球環境問題各論 (I)：地球温暖化(a) 3 地球環境問題各論 (I)：地球温暖化(b) 4 地球環境問題各論 (I)：オゾン層破壊(a) 5 地球環境問題各論 (I)：オゾン層破壊(b) 6 地球環境問題各論 (II)：酸性雨 7 地球環境問題各論 (II)：海洋汚染 8 地球環境問題各論 (II)： 有害廃棄物の越境移動 9 地球環境問題各論 (III)：砂漠化、森林減少 10 地球環境問題各論 (III)： 野生生物(種)の減少、 開発途上国等の環境(公害)問題など 11 地球環境の保全： 文化・経済・社会等の今後の あり方 12 まとめ <p>備考：授業の進度により若干の変更がある</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：特に指定しない。 必要に応じてプリントを配布する。 参考文献：講義内容によって、適時指示する。</p>		<p>基本的には定期試験による。</p>	

02年以前(春)	地理学	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 自然と人間とのかかわり 3 環境の諸要素(1) 4 環境の諸要素(2) 5 環境の諸要素(3) 6 熱帯地域(1) — 自然的特質と伝統的農業 7 熱帯地域(2) — アジアの稲作 8 熱帯地域(3) — 熱帯の開発と問題(1) 9 熱帯地域(4) — 熱帯の開発と問題(2) 10 砂漠地域(1) — 自然的特質とイスラム 11 砂漠地域(2) — 石油資源と近代化 12 前期のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山本正三(他)著『自然環境と文化』原書房 参考文献は授業中に示す		定期試験および出席状況	

02年以前(秋)	地理学	担当者	秋本 弘章
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の地理を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地理学における主要な概念や方法を説明する。その上で、人間の活動の舞台である自然環境について学習する。自然環境にもとづいて地域区分を行い、地域ごとに自然的基盤とそこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。まとめとして、世界の環境問題について、具体的な問題をとりあげ、地球的視点から検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 温帯地域(1) 自然的特質 2 温帯地域(2) 地中海森林地域 3 温帯地域(3) 温帯混交林地帯(ヨーロッパ) 4 温帯地域(4) 温帯混交林地帯(アジア) 5 温帯地域(5) 新大陸 6 冷帯地域 7 冷帯地域・寒帯地域 8 山地地域 9 世界の環境問題(1) 人口 10 世界の環境問題(2) 食料 11 世界の環境問題(3) 温暖化と砂漠化 12 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
山本正三(他)著『自然環境と文化』大明堂 参考文献は授業中に示す		定期試験および出席状況	

02年以前(春)	地理学(通年)	担当者	犬井 正
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、亜寒帯針葉樹林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションー地理学とは 2. 環境の諸要素(1) 気候環境 3. 環境の諸要素(2) 緯度帯別降水量・蒸発量・気温 4. 環境の諸要素(3) 植生 5. 熱帯地域(1) 熱帯林と伝統的生活様式 6. 熱帯地域(2) 熱帯林の開発と環境問題 7. 熱帯地域(3) 熱帯林の保全 8. 沙漠地域(1) 自然的・文化的特色と伝統的経済活動 9. 沙漠地域(2) 石油資源と近代化、沙漠の開発 10. 亜寒帯森林地域(1) タイガの中の生活 11. 亜寒帯森林地域(2) タイガの開発と保全 12. まとめ 	
テキスト		評価方法	
山本正三他著『自然環境と文化ー改訂版』原書房		定期試験等	

02年以前(秋)	地理学(通年)	担当者	犬井 正
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、地形環境を概観し、山地地域、地中海森林地域、温帯草原地域、温帯混合林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明し、自然生態系と社会生態系の枠組みを理解する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境の諸要素ー地形環境 2. 山地地域(1) 山地の自然環境 3. 山地地域(2) 高度帯の利用と伝統的生業 4. 山地地域(3) 山地資源の開発と観光化 5. 地中海森林地域の特性 6. 地中海地域の生活様式ー西欧文化の原点 7. 温帯草原地域の自然特性 8. 温帯草原地域の開発と環境問題 9. 温帯混合林地域(1) 高密度都市化地域の特性 10. 温帯混合林地域(2) 産業革命と都市域の拡大 11. 世界の環境問題 自然生態系と社会生態系の概念 12. まとめ 自然環境の保全と保護 	
テキスト		評価方法	
山本正三他著『自然環境と文化ー改訂版』原書房		定期試験等	

01～02年(春) 00年以前(春)	スポーツ・健康論 a スポーツ・健康論 (通年)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>健康・生涯スポーツの創造へ向けて、自己のライフステージや心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れて、健康で活力あふれる豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につけるため、健康、生涯スポーツの考え方、実践の仕方を学んでもらいたい。</p> <p>春学期にはわれわれを取り巻く、自由時間、健康問題スポーツなどの現状を把握し、文化的視点からその考え方、価値について考えてもらいます。</p> <p>積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますのでブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから質問に来てください。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 自由時間とは その1</p> <p>第3回 自由時間とは その2</p> <p>第4回 生活時間の構成と自由時間の現状</p> <p>第5回 現代における自由時間の意味 その1</p> <p>第6回 現代における自由時間の意味 その2</p> <p>第7回 自由時間を過ごす能力の開発</p> <p>第8回 古典的解釈から知るレジャー その1</p> <p>第9回 古典的解釈から知るレジャー その2</p> <p>第10回 クオリティオブライフについて考える</p> <p>第11回 あなたのライフデザイン</p> <p>第12回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
中野孝次、「清貧の思想」、草思社 ミヒヤエル・エンデ、「モモ」、岩波書店		出席状況 (40%)、クイズ・学期末試験の結果 (40%)、レポート (20%)	

01年以降(秋) 00年以前(秋)	スポーツ・健康論 b スポーツ・健康論 (通年)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>健康・生涯スポーツの創造へ向けて、自己のライフステージや心身の状態に適した運動・スポーツを生活の中に取り入れて、健康で活力あふれる豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につけるため、健康、生涯スポーツの考え方、実践の仕方を学んでもらいたい。</p> <p>秋学期は、健康づくりやトレーニングについて具体的に科学的視点から学んでもらいます。</p> <p>積極的に講義支援システムほか、インターネットを利用しますのでブラウザを操作する、メールを送る、ワープロで文書が作成できる等の知識が必要です。わからなければ授業時間外で教えますから質問に来てください。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 自分の体について正しく知ろう 身長・体重・体脂肪率</p> <p>第3回 身体計測の結果から</p> <p>第4回 肥満</p> <p>第5回 運動しない現代生活</p> <p>第6回 運動と栄養 ダイエット・サプリメント</p> <p>第7回 運動と栄養 いろいろな健康法</p> <p>第8回 トレーニングの基本</p> <p>第9回 エアロビクストレーニングについて その1</p> <p>第10回 エアロビクストレーニングについて その2</p> <p>第11回 筋力トレーニング</p> <p>第12回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		出席状況 (40%)、クイズ・学期末試験の結果 (40%)、レポート (20%)	

03年以降(春)	日本事情 a	担当者	新井 孝重
02年以前(春)	日本事情 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>◎ アジアの中の日本の歴史を、とくに前近代史を中心に概観する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 古代東アジアと日本列島 ・ 古代国家のアジア的性格 ・ 戦争と貿易の共存 ・ アジア諸国と日本の封建制 		<ol style="list-style-type: none"> 1 日本列島の形成 東アジアの自然環境 2 稲作 小国家 邪馬台国 中国国家魏 3 古墳造営 大和政権と朝鮮半島 広開土王碑 4 列島渡来文化 漢字 技術 仏教 5 隋・唐の政治制度 日本の律令制 6 日宋・日元貿易 貿易都市博多 新安沈船 7 元寇 三別抄 幕府・朝廷の外交 8 室町幕府 日明勘合貿易 倭寇・海商 9 豊臣政権 「征明構想」 朝鮮侵略 10 江戸幕府 キリスト教禁圧 鎖国 11 江戸時代の対朝鮮政策 雨森芳洲 12 世界資本主義の波 開国 欧米への意識 	
テキスト		評価方法	
適宜指摘		出席状態 試験成績	

03年以降(秋)	日本事情 b	担当者	新井 孝重
02年以前(秋)	日本事情 (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>◎ アジアの中の日本の歴史を、とくに近代史を中心に概観する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 明治維新と富国強兵 ・ 近代の学術・思想・文化 ・ 自由民権論と国権論 ・ 産業革命と資本主義の発展 ・ 帝国主義と戦争 ・ 戦後改革の本質 		<ol style="list-style-type: none"> 1 徳川政権改革の失敗 大政奉還 新政府樹立 2 国政改革 権力構造 財政構造 産業育成 3 近代化を支えるヨーロッパの学術 ドイツ学協会 4 松形財政 農村崩壊 都市労働者の創出 資本蓄積 5 高まる政府批判 ブルジョア民主主義の国民要求 6 帝国議会の開設 明治憲法 絶対主義の性格 7 近代化とナショナリズム 対清戦争 対ロ戦争 8 国家主義教育 関東大震災時の民族迫害 9 植民地支配と戦争の拡大 太平洋戦争 10 良心の灯火 非戦・反戦の思想と運動 天野貞祐の「道理の感覚」 11 敗戦 戦後改革 日本国憲法 平和・民主主義 12 戦後改革の不徹底 アメリカ対日政策の変更 加害責任の曖昧化 戦前勢力の復活 	
テキスト		評価方法	
適宜指摘		出席状態 試験成績	

03年以降(春)	日本語Ⅱa	担当者	齋藤 明
02年以前(春)	日本語Ⅱ (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[1] 教材 公表、出版された新聞、雑誌、単行本、日本の企業や官庁などの組織の内外で使用されている様々な文書や、個人が書いた各種の文章の実例等を使用する。これらの教材は、使用時に学生に配布する。</p> <p>[2] 授業のねらい 外国人留学生のうち、日本語Ⅰを履修したもののためのより進んだ科目として、今日の日本社会に一般に通用している文章を適切に理解し、日本人とのコミュニケーションを円滑に行える能力を習得することを目的とする。</p> <p>[3] 教授法 毎時限、かならず実際に使われた文章を読んだり書きなおしたりする。文字教材のほか、音声テープやビデオテープも使用し、聴いたり話したりする能力も統合して発展させる。</p> <p>[4] その他 この科目は日本語Ⅰを履修した者が履修するために設置される。</p>		<p>1 文書と文章 1 文章を書くとはどういうことか</p> <p>2 文書と文章 2 文章の種類</p> <p>3 文書と文章 3 文書の形式</p> <p>4 文書と文章 4 文書の役割と目標</p> <p>5 文書と文章 5 主題と与えられた課題</p> <p>6 文書と文章 6 材料 参考書 メモ カード チャート</p> <p>7 表記の技術 1 現代仮名遣い 常用漢字 送りがな</p> <p>8 表記の技術 2 地名 人名 数字 記号</p> <p>9 表記の技術 3 図表 写真</p> <p>10 表記の技術 4 原稿用紙 レポート用紙 ワープロ</p> <p>11 表記の技術 5 訂正 校正</p> <p>12 文章の構造 1 文章の構成法</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時間中に指示する。		<p>文章の全部や一部のかきかえ、一定のディスコースの要約、クイズ、スピーチ等のタスクを課す。</p> <p>前記のタスクを課した際に、常に一定の得点を与える。その得点を集積して評定の基礎とする。</p>	

03年以降(秋)	日本語Ⅱa	担当者	齋藤 明
02年以前(秋)	日本語Ⅱ (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		<p>13 文章の構造 2 記述の順序</p> <p>14 文章の構造 3 序論 本論 結論</p> <p>15 表現と論理 1 表現の方法</p> <p>16 表現と論理 2 論理の展開</p> <p>17 表現と論理 3 題目 要約 キーワード</p> <p>18 表現と論理 4 文章の流れ</p> <p>19 表現と論理 5 ディスコース パラグラフ 段落</p> <p>20 事実と意見 1 事実とはなにか</p> <p>21 事実と意見 2 意見とはなにか</p> <p>22 わかりやすさ 1 明確な主張</p> <p>23 わかりやすさ 2 簡潔な表現</p> <p>24 わかりやすさ 3 句や節の接続</p> <p>25 わかりやすさ 4 破格文 ねじれ文</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

03年以降(春) 02年以前(春)	日本語Ⅱa 日本語Ⅱ(通年)	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>小説を読む。</p> <p>現代日本の短編小説を毎時間とりあげる。読解の作業自体は、基本的には履修者が予習の段階でおこなうものとする。授業では、読解については、分かりにくいところ、注意すべき表現などをとりあげるだけとしたい。</p> <p>授業での活動は、小説を読んだあとの議論にむけたい。そのためにクラスを半分に分け、毎回それぞれ異なる課題作品をあたえる。その上で、授業中で、それぞれその作品を読まなかったグループに対して、作品を説明し、質問を受ける。さらにそれぞれのグループから提出された、作品の提示する問題をとりあげて、クラスで議論する。</p> <p>必要に応じて、読後の書評を書くことを求める場合がある。また期末には必ず1作品を選んで、書評を書くことを課題とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 作品(1)の読解と説明 3. 作品(1)に関する議論 4. 作品(2)の読解と説明 5. 作品(2)に関する議論 6. 作品(3)の読解と説明 7. 作品(3)に関する議論 8. 作品(4)の読解と説明 9. 作品(4)に関する議論 10. 作品(5)の読解と説明 11. 作品(5)に関する議論 12. まとめ <p>それぞれの作品は、履修者と相談して決めることとするが、できるだけ現代日本の大衆小説からとりたい。担当者が念頭においているのは、宮部みゆき、浅田次郎、唯川恵、北村薫などである。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。		出席と期末の課題で評価する。	

03年以降(秋) 02年以前(秋)	日本語Ⅱb 日本語Ⅱ(通年)	担当者	浅山 佳郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>小説を読む。</p> <p>現代日本の短編小説を毎時間とりあげる。読解の作業自体は、基本的には履修者が予習の段階でおこなうものとする。授業では、読解については、分かりにくいところ、注意すべき表現などをとりあげるだけとしたい。</p> <p>授業での活動は、小説を読んだあとの議論にむけたい。そのためにクラスを半分に分け、毎回それぞれ異なる課題作品をあたえる。その上で、授業中で、それぞれその作品を読まなかったグループに対して、作品を説明し、質問を受ける。さらにそれぞれのグループから提出された、作品の提示する問題をとりあげて、クラスで議論する。</p> <p>必要に応じて、読後の書評を書くことを求める場合がある。また期末には必ず1作品を選んで、書評を書くことを課題とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 10. ガイダンス 11. 作品(1)の読解と説明 12. 作品(1)に関する議論 13. 作品(2)の読解と説明 14. 作品(2)に関する議論 15. 作品(3)の読解と説明 16. 作品(3)に関する議論 17. 作品(4)の読解と説明 18. 作品(4)に関する議論 10. 作品(5)の読解と説明 11. 作品(5)に関する議論 12. まとめ <p>それぞれの作品は、履修者と相談して決めることとするが、できるだけ現代日本の大衆小説からとりたい。担当者が念頭においているのは、宮部みゆき、浅田次郎、唯川恵、北村薫などである。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示する。		出席と期末の課題で評価する。	

03年以降(春)	日本語Ⅱ a	担当者	武田 明子
02年以前(春)	日本語Ⅱ (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文章を書くということは、見えない相手(読み手)に自分を評価してもらうことである。読み手は文章を読んで、書き手の構成力、分析力、判断力といった知的活動能力を評価する。書き手は自分の文章表現で自己アピールをし、これらの能力に対する、より高い評価を得なければならない。</p> <p>自己アピールが上手にできるようになるには、論理的な文章を書くための基本的な「型」を踏襲することである。「型」は公的な文章のすべてに用意されている。目的にあった「型」を上手に応用できる者が高い評価を受けることになる。</p> <p>この講義では、読み手に自分の能力を認めさせるための「型」を理解し、上手に応用できるような技術について習熟することを目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. テーマを絞る 2. 基本となる型 3. 分かりやすい話題提供 4. 失敗しない立場表明 5. 読み手を納得させる根拠提示 6. 賛同が得られる結論 7. 型の発展 8. 目標規定文の意義 9. フローチャートの作成 10. 事実と考察の使い分け 11. 視点の一致 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを作成し配布		出席25%、授業内提出物25%、レポート提出25%、試験25%	

03年以降(秋)	日本語Ⅱ b	担当者	武田 明子
02年以前(秋)	日本語Ⅱ (通年)		
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文章を書くということは、見えない相手(読み手)に自分を評価してもらうことである。読み手は文章を読んで、書き手の構成力、分析力、判断力といった知的活動能力を評価する。書き手は自分の文章表現で自己アピールをし、これらの能力に対する、より高い評価を得なければならない。</p> <p>自己アピールが上手にできるようになるには、論理的な文章を書くための基本的な「型」を踏襲することである。「型」は公的な文章のすべてに用意されている。目的にあった「型」を上手に応用できる者が高い評価を受けることになる。</p> <p>この講義では、読み手に自分の能力を認めさせるための「型」を理解し、上手に応用できるような技術について習熟することを目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 10. テーマを絞る 11. 基本となる型 12. 分かりやすい話題提供 13. 失敗しない立場表明 14. 読み手を納得させる根拠提示 15. 賛同が得られる結論 16. 型の発展 17. 目標規定文の意義 18. フローチャートの作成 10. 事実と考察の使い分け 11. 視点の一致 12. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを作成し配布		出席25%、授業内提出物25%、レポート提出25%、試験25%	

02年以前〔春〕	体育〔アウトドアレクリエーション〕 【春学期および夏季集中】	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>社会的構造の変化や子供を含めた生活様式の変化に伴う、余暇生活の計画性が大きな社会問題である。健康・余暇についての知識と経験を積み重ねることを重視し、個人・チームの中で集団をコーディネートできる能力も養う。</p> <p>概要 自然と人間行動を十分に理解する。また人間として、自然環境の保全の意味や、責任を理解する事と、自然環境に踏み込むルール（気象の読み方・地図の見方）を学び、安全と自然体系を乱さない知識と配慮を研究し、危険防止の観点から、事前実施計画の作成と、将来にわたってのグループ形成と、楽しい企画・運営を「山」を対象として行う。</p>		<p>1：ガイダンス 2：基礎体力測定 3：ゲームと班分け 4：気象図の見方と地図・志賀高原ルート・尾瀬の自然観察 5：山間を想定しての調理訓練（1） 食材の選定とごみの処理の原則 6：自然の楽しみ方1）山野草観察・ 7：サバイバル体験の知識と危険度について 8：救急法 9：キャンプ地での調理訓練 事前購入とキャンプ地の安全度 10：テントの調整法と危険度について 11：山行の個人装備品・団体装備品 山行パンフづくり 12：事前実施計画の最終検討・参加人員決定 7月24日（日）～7月28日（木） 1案「志賀高原」にて合宿 2案「尾瀬」キャンプ トレッキング靴・雨具必携</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席重視・レポート作成	

02年以前（春）	体育〔アウトドア山岳〕 【春学期および夏季集中】	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>集中授業（山岳）</p> <p>軽登山と自然観察</p> <p>班でのトレッキングと飯ごう炊飯</p> <p>地域ボランティア活動</p> <p>山野草・温泉見学・地域祭りに参加</p>		<p>7月定期テスト終了後</p> <p>4泊5日</p> <p>志賀高原</p> <p>個人での携帯品</p> <p>トレッキングシューズ</p> <p>雨具・日用洗面用具</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	

02年以前(春)	体育(アウトドアレクリエーション) 【春学期および夏季集中】	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] レクリエーション活動のうち、主に自然環境と関連するいくつかの種目を経験し、安全と管理、自然と環境、自由時間の意味、価値について考え、現在と将来の自由時間をデザインします。実技だけでなく講義も含み、健康について、環境についても学習します。また、グループワーク活動を重視し、クラスの中での良好な人間関係育成を図りたいと思います。</p> <p>[講義概要] 学内の授業では、グループゲーム、アウトドアアクッキング、マップ&コンパス、ペタンク、frisbee、インラインスケート、ウォークラリー等、多くの種目を紹介し、経験します。種目については学生の要望に応じて選択しようと思います。各種目は内容と難易度などにより、各種目に当てる時間数は異なります。合宿は、新潟県佐渡島で行う海浜型野外活動、または千葉県館山市で行うウィンドサーフィンの2つの合宿のうち、どちらかに参加してもらいます。内容の詳細については、体育のホームページをご覧ください。日程・参加費は別に案内します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の内容と計画についての説明 2. 仲間づくりの時間：グループゲーム 3. 仲間づくりの時間：グループゲーム 野外炊飯の計画 4. 仲間づくりの時間：アウトドアアクッキング 5. アウトドアレクリエーション種目 6. アウトドアレクリエーション種目 7. アウトドアレクリエーション種目 8. アウトドアレクリエーション種目 9. アウトドアレクリエーション種目 10. アウトドアレクリエーション種目 11. アウトドアレクリエーション種目 12. 合宿についてのオリエンテーション 	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		出席と受講態度、レポート。	

02年以前(春)	体育(アウトドア海浜・ウィンドサーフィン) 【春学期および夏季集中】	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[受講者への要望] 集中授業は海での活動が中心になりますので、受講は心疾患、耳鼻科系疾患、皮膚科系疾患のないことを条件とします。安全管理上、あまり多くの受講生は受け入れられません。また、どちらかに集中してしまう場合には、人数の振り分けをすることもあります。</p>		<p>[集中授業]「ウィンドサーフィン」 千葉県館山市 2005年9月前半4泊5日</p> <p>[集中授業]「海浜型アウトドアレクリエーション」 新潟県佐渡島 2005年7月後半4泊5日</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
なし		出席と受講態度、レポート。	

02年以前(秋)	体育(アウトドアレクリエーション) 【秋学期および冬季集中】	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。メディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてみませんか。</p> <p>秋学期と冬季集中授業の組み合わせです。春学期には、最初のオリエンテーションだけは参加してください。秋学期には、インラインスケートを使ってスケートトレーニングを行います。インラインスケートならではの技術も行います。初心者の方から受講できます。</p>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 用具あわせ、基本動作</p> <p>第3回 フォアストロークとバリエーションその1</p> <p>第4回 フォアストロークとバリエーションその2</p> <p>第5回 ホッケーにチャレンジ その1</p> <p>第6回 ホッケーにチャレンジ その2</p> <p>第7回 バックストロークとバリエーションその1</p> <p>第8回 バックストロークとバリエーションその2</p> <p>第9回 フォアクロッシング その1</p> <p>第10回 フォアクロッシング その2</p> <p>第11回 バッククロッシング</p> <p>第12回 集中授業についてのオリエンテーション</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		出席回数、授業への参加姿勢、課題達成度によって評価	

02年以前(秋)	体育(スケートトレーニング) 【秋学期および冬季集中】	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アウトドアレクリエーション活動のうち、日常では体験できないアイススケート、カーリングについての知識、技術を学びます。メディアにはたびたび登場する種目ですが、体験することは難しい種目となっています。体験すると、そのスポーツに対する見方が大きく変わります。これを機会に、新しいスポーツ種目にチャレンジしてみませんか。</p> <p>秋学期と冬季集中授業の組み合わせです。春学期には、最初のオリエンテーションだけは参加してください。秋学期には、インラインスケートを使ってスケートトレーニングを行います。インラインスケートならではの技術も行います。初心者の方から受講できます。</p> <p>宿泊費ほか費用はかかりますが、必ず満足のいく内容となります。</p>		<p>[集中授業] 「氷上スポーツ」</p> <p>長野県軽井沢町 2006年2月中旬予定 費用¥28000程度(交通費別)</p> <p>3泊4日を午前と午後の6コマに分け、アイススケートとカーリングを行います。</p> <p>アイススケート4コマ、カーリング2コマの予定です。</p> <p>アイススケートは、技術の進捗度や天候によって内容を変えます。カーリングは、試合を楽しめるまでを行います。</p> <p>詳細については、オリエンテーション時に説明します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特になし		出席回数、授業への参加姿勢、課題達成度によって評価	

02年以前(春)	体育(インラインスケート)(通年)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要 [講義の目標] インラインスケートについての知識、技術の習得。これによって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にしたいと思います。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。 [講義概要] インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進捗状況・天候によって、授業計画は変えていきます。 [受講者への要望] 自分の靴、プロテクター等があれば利用してください。大学では、22センチから28センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。		授業計画 1 オリエンテーション インラインスケートとは 2 用具合わせ 立ち方・歩き方・とまり方 3 滑ることに慣れよう：フォアストローク(前方滑走)とバリエーション 4 滑ることに慣れよう：フォアストローク(前方滑走)とバリエーション 5 からだを動かしてみよう：フォアストローク(前方滑走)とバリエーション 6 からだを動かしてみよう：フォアストローク(前方滑走)とバリエーション 7 自由にからだを動かしてみよう：フォアストローク(前方滑走)とバリエーション 8 自由にからだを動かしてみよう：フォアストローク(前方滑走)とバリエーション 9 後ろ向きになれよう：バックストローク(後方滑走)とバリエーション 10 後ろ向きになれよう：バックストローク(後方滑走)とバリエーション 11 後ろ向きになれよう：バックストローク(後方滑走)とバリエーション 12 後ろ向きになれよう：バックストローク(後方滑走)とバリエーション	
テキスト、参考文献 [テキスト]必要に応じて印刷物を配布します。 [参考文献]そのつど紹介します。		評価方法 出席と受講態度、技術の向上度、実技テスト	

02年以前(秋)	体育(インラインスケート)(通年)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要 [講義の目標] インラインスケートについての知識、技術の習得。これによって、各個人の自由時間をインラインスケートを用いて豊かにすることを目標にしたいと思います。初めは慣れない道具で不自由さに戸惑うかもしれませんが、これを使った時に体が自由に動く感覚を経験することで、自分の新たな可能性に気づくことでしょう。インラインスケートは、舗装された平面があればどこでも楽しめます。自転車と同じような感覚で楽しめれば良いと思います。そのためには安全とモラルが大切になるでしょう。 [講義概要] インラインスケートについての知識、技術の習得を毎回の授業の中で行います。内容は、安全知識、危険回避、基本テクニック、応用テクニック、メンテナンスについてです。学生の進捗状況・天候によって、授業計画は変えていきます。 [受講者への要望] 自分の靴、プロテクター等があれば利用してください。大学では、22センチから28センチまでの靴とリストガード、エルボーパッド、ニーパッドを準備してあります。必要に応じてヘルメットも貸すことができます。初心者から受講して下さい。		授業計画 1 久しぶりにインラインスケート 2 自由な動き作り：カーブ 3 自由な動き作り：いくつかの種類ターン 4 自由な動き作り：いくつかの種類ターン 5 自由な動き作り：いくつかの種類ターン 6 自由な動き作り：フォアクロス 7 自由な動き作り：フォアクロス 8 自由な動き作り：バッククロス 9 自由な動き作り：バッククロス 10 インラインホッケー・実技テスト 11 インラインホッケー・実技テスト 12 インラインホッケー まとめ	
テキスト、参考文献 [テキスト]必要に応じて印刷物を配布します。 [参考文献]そのつど紹介します。		評価方法 出席と受講態度、技術の向上度、実技テスト	

02年以前(秋)	体育(インラインスケート) 【秋学期および冬季集中】	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義の目標】 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>【講義概要】 インラインスケートを教材とする。滑走するスポーツとして、用具を利用し、通常では味わえない感覚を経験する。基本的な滑走方法とバランス感覚を身に付けたら、インラインホッケーに挑戦する。また、冬のスノースポーツへの導入としてスラローム滑走、ジャンプ等も視野に入れる。</p> <p>【受講者への要望】 フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。受講にふさわしい服装の用意。</p>		<p>1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意 トレーニングルームの講習と登録</p> <p>2 用具合わせ 基本スケーティング</p> <p>3 基本スケーティング フォア、バック、ターン、ストップ</p> <p>4 基本スケーティング スラローム</p> <p>5 インラインホッケー</p> <p>6 インラインホッケー</p> <p>7 スラローム滑走 ジャンプ</p> <p>8 インラインホッケー</p> <p>9 インラインホッケー</p> <p>10 スラローム競争</p> <p>11 総合練習</p> <p>12 テスト</p> <p>*コートが使用できない場合には、教室にて講義を行うか場所を変更して実技を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

02年以前(秋)	体育(スノースポーツ) 【秋学期および冬季集中】	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義の目標】 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>【冬期集中講義】 滑走するスポーツとして、用具を利用し、自然の斜面を利用することで通常では味わえない感覚を経験する。スノースポーツの基本的な滑走方法とバランス感覚を身に付ける。挑戦するスノースポーツは、スノーブレード・ファンスキー・ビッグフット・カービングスキー・スノーボードなど。</p> <p>実施期間：2月下旬(4泊5日) 実施場所：秋田県田沢湖スキー場</p> <p>【受講者への要望】 フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。受講にふさわしい服装の用意</p>		<p>秋学期中に学内でオリエンテーションを行い、要項を配布する。 個人票の作成に伴い写真を提出する。 費用の納入など、学内授業とは異なる負担がある。</p> <p>注：02年度以前の受講生はインラインスケートとのセット履修となる。</p> <p>*不明な点は3棟1階体育準備室にて指示を受けること</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

02年以前(春)	体育(硬式テニス)(通年)	担当者	田中 茂宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方・ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。</p> <p>テニスシューズを用意して出席すること。基本技術の練習を中心に行い、ゲーム時には結果を記録する。ダブルス・シングルのゲームを通じて、ルール・ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、3棟1階の体育掲示板・体育館の掲示板で指示する。授業に相応しい服装で出席すること(見学者も更衣後に、コートにて見学する。)</p> <p>原則として遅刻は認めない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成。 2 用具の準備と片付けの指示、軽い練習。 3 基本技術の練習。 4 // 5 // 6 // 7 // 8 ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。 9 // 10 // 11 // 12 // 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては必要だと思われる回数提出してもらう。	

02年以前(秋)	体育(硬式テニス)(通年)	担当者	田中 茂宏
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>学生自身が運動種目に必要なウォーミング・アップ、クーリング・ダウンを行えるようになり、主体性を発揮、身につけることを目的とする。技術的には、フォア・バックのストロークを中心にラリーができるようになり、ゲームの中で必要とされる技術を身につけ、ゲームの進め方・ルールを学ぶ。レポート提出を実施することで、目的、問題意識を持たせる。</p> <p>テニスシューズを用意して出席すること。基本技術の練習を中心に行い、ゲーム時には結果を記録する。ダブルス・シングルのゲームを通じて、ルール・ゲームの進め方を学ぶ。</p> <p>雨天でも行いますが、コートが使用不可能な時には、3棟1階の体育掲示板・体育館の掲示板で指示する。授業に相応しい服装で出席すること(見学者も更衣後に、コートにて見学する。)</p> <p>原則として遅刻は認めない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業登録の確認と授業内容の説明。軽い運動。 2 基本技術の練習。 3 // 4 // 5 // 6 // 7 ゲームを行い、ルール、ゲームの進め方を学ぶ。 8 // 9 // 10 // 11 // 12 // 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出欠状況、授業態度を中心として、技能の向上、ゲームの結果、レポート等を加味して評価する。レポートについては必要だと思われる回数提出してもらう。	

02年以前(春)	体育(硬式テニス)(通年)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] 硬式テニスを教材とする。硬式テニスには、シングルスとダブルスの2つの代表的な試合形式があるが、この授業ではダブルスの試合をすることを中心とする。 ダブルスの試合のルールを十分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合が出来るまでをビルドアップしていく。</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。 各自でテニスシューズを必ず用意し、受講にふさわしい服装で参加して下さい。</p>		<p>1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意</p> <p>2 受講決定の確認と個人票の写真提出 トレーニングルームの講習と登録 授業実施場所の確認</p> <p>3 基本トレーニング ラケットコントロール</p> <p>4 基本トレーニング ラケットコントロール</p> <p>5 基本戦術 サーブ・レシーブ・ストローク</p> <p>6 基本戦術 サーブ・レシーブ・ボレー</p> <p>7 試合に必要な準備 競技場の設営 審判の仕方 試合の進め方</p> <p>8 ミックスダブルスによる試合</p> <p>9 ミックスダブルスによる試合</p> <p>10 男子ダブルス・女子ダブルス</p> <p>11 男子ダブルス・女子ダブルス</p> <p>12 テスト ルール・技術・審判法</p> <p>*コートが使用できない場合には、教室にて講義をするか場所を変更して実技を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

02年以前(秋)	体育(硬式テニス)(通年)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] 硬式テニスを教材とするが、この授業ではダブルスの試合をすることを中心とする。 ダブルスの試合のルールを十分に理解し、レベルに応じて試合の楽しみ方を考える。プレーヤー、審判、コーディネーターと関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから応用的なことまでをビルドアップしていく。</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。 各自でテニスシューズを必ず用意し、受講にふさわしい服装で参加して下さい。</p>		<p>1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意</p> <p>2 受講決定の確認と個人票の写真提出 授業実施場所の確認</p> <p>3 基本戦術 プレーの組み合わせ ゲームプラン</p> <p>4 班に班分け 班別に練習 オーダーの検討</p> <p>5 リーグ戦(一巡目)</p> <p>6 リーグ戦(一巡目)</p> <p>7 リーグ戦(一巡目)</p> <p>8 チームとしてリーグ戦(二順目)</p> <p>9 チームとしてリーグ戦(二順目)</p> <p>10 チームとしてリーグ戦(二順目)</p> <p>11 トーナメント</p> <p>12 トーナメント</p> <p>*コートが使用できない場合には、教室にて講義をするか場所を変更して実技を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

02年以前(春)	体育(ゴルフ)(通年)	担当者	山中 邦夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。</p> <p>[講義概要] ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズムカルなスイング、さらには力強いスイングが出きるよう、グループ練習、VTRを用いた分析等を用いた授業となる。</p> <p>[受講者への要望] 欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。 靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 ゴルフ競技の概要 (VTRと講義) 3 スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習) 4 スイング、グリップ、スタンスについて (学内グラウンドで実習) 5 スイング(各種のクラブを用いて)の基本練習 ターゲットボードゴルフも行なう。 6 スイング(各種のクラブを用いて)の基本練習 ターゲットボードゴルフも行なう。 7 スイング(各種のクラブを用いて)の基本練習 ターゲットボードゴルフも行なう。 8 (学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に9番アイアン) 9 (学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 10 (学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 11 (学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に7番アイアン) 12 (学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。	

02年以前(秋)	体育(ゴルフ)(通年)	担当者	山中 邦夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] ゴルフの基礎技術を実習し、あわせて基礎戦術およびルール、マナーについても理解することによって、本コースでのプレーが楽しめるレベル獲得をめざす。</p> <p>[講義概要] ゴルフの理論と実際の技能とのギャップを最小化できるよう、毎時の内容を工夫しながら展開する。まず、全体の動きづくりをめざし、リズムカルなスイング、さらには力強いスイングが出きるよう、グループ練習、VTRを用いた分析等を用いた授業となる。</p> <p>[受講者への要望] 欠席をしないこと。初心者または初級者の受講を望む。 靴はスニーカーまたはゴルフシューズを持参のこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 (学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に5番アイアン) 2 (学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 3 (学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主にドライバー、スプーン) 4 (学外の練習場で) VTRと練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 5 (学外の練習場で) VTRと練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 6 (学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(主に9、7、5番アイアン) 7 (学外の練習場で) VTRと練習器を用いて個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 8 (学外の練習場で) VTRと練習器を用いての個人指導と各種クラブでの打撃練習。(") 9 実技テスト:ショートアイアン(約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) :ロングアイアンまたはドライバー(まっすぐ安定したボールが打てれば合格) 10 実技テスト:ショートアイアン(約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) :ロングアイアンまたはドライバー(まっすぐ安定したボールが打てれば合格) 11 実技テスト:ショートアイアン(約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) :ロングアイアンまたはドライバー(まっすぐ安定したボールが打てれば合格) 12 実技テスト:ショートアイアン(約80m先のグリーンをねらい、まっすぐ安定したボールが打てれば合格) :ロングアイアンまたはドライバー(まっすぐ安定したボールが打てれば合格) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		授業の出席状況、技能と理論のテストを総合して評価する。	

02年以前(春)	体育(ゴルフ)(通年)	担当者	吉田 卓司
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。</p> <p>[講義概要] ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をビデオにより学習する。クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第7週までは、学内でプラスチック・ボールを使用して、打球する。第8週からゴルフ練習場にて、実習する。</p> <p>[受講者への要望] 運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること(汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 ゴルフの歴史と正しいマナーについて 3 基本的技術のビデオ学習 4 ショートアイアン(8、9、PW、SW)のスウィング(グリップ、スタンス、アドレス、スウィングの方法を習得する) 5 学内でプラスチック・ボールを使用して実習 6 各人の個別指導(正しいグリップ、スタンスの中、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法) 7 各人の個別指導(正しいグリップ、スタンスの中、正しいアドレスの入り方、スウィングの方法) 8 ゴルフ練習場にて実習(ショートアイアン、ミドルアイアンの基本的なスウィングと打球) 9 (反復練習) 10 (個別指導:グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック) 11 (個別指導:グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック) 12 (個別指導:グリップ、スタンス、アドレス、スウィングのフォームなどのチェック) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。	

02年以前(秋)	体育(ゴルフ)(通年)	担当者	吉田 卓司
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] ゴルフは、老若男女を問わず容易にできる楽しいスポーツである。基本的な正しい知識や技術が上達の近道であると考えている。ゴルフプレーを通して、社会性やルールを遵守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得する。</p> <p>[講義概要] ゴルフ競技をするにあたり、ゴルフの歴史、ゴルフ用具や服装、エチケットについて講義する。次に、基本的技術をビデオにより学習する。クラブの握り方、グリップとスタンスの方法を習得すると同時に正しいアドレス、正しいスイングの方法を反復練習により、フォームを作る。第7週までは、学内でプラスチック・ボールを使用して、打球する。第8週からゴルフ練習場にて、実習する。</p> <p>[受講者への要望] 運動のできる服装で出席すること。手袋を必ず購入すること(汗でグリップがすべり、クラブが飛んでしまう危険性があるため)</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ゴルフ練習場にて実習 2 アイアンショット(3、5、7、9、PW、SW)(個別指導とフォームのチェック) 3 1番ウッド(ドライバー)3番ウッド(スプーン)の打法と練習 4 ロングアイアン(3、4)ショット練習 5 ロングアイアン(3、4)ショット練習 6 個人個人のスウィングをチェック指導 7 個人個人のスウィングをチェック指導 8 個人個人のスウィングをチェック指導 9 個人個人のスウィングをチェック指導 10 テスト(アイアン、及びウッド)及び実習 11 テスト(アイアン、及びウッド)及び実習 12 テスト(アイアン、及びウッド)及び実習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席を重視し、普段の履修態度や運動服装等も評価の対象とする。テストは、アイアンとウッドについて実施する。	

02年以前(春)	体育(サッカー)(通年)	担当者	檜山 康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらを取りまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、サッカーを学びながら、独自の運動文化に触れ、サッカー本来の楽しさに触れることを目標としたい。</p> <p>[講義概要] ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームを取り入れていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。</p> <p>[受講者への要望] 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリー、ピアスは外すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション。 2. ボールに慣れること。試しのゲーム。 3. 1対1の守備。 4. 1対1の攻撃。 5. オフザボールの動き。 6. ボールを持っていない選手に対する守備。 7. パス&コントロール。 8. ゴール前での守備。 9. ゴール前での攻撃。 10. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 11. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 12. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。	

02年以前(秋)	体育(サッカー)(通年)	担当者	檜山 康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらを取りまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、サッカーを学びながら、独自の運動文化に触れ、サッカー本来の楽しさに触れることを目標としたい。</p> <p>[講義概要] ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームを取り入れていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。</p> <p>[受講者への要望] 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリー、ピアスは外すこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的にボールを奪う守備 2. ビルドアップ。 3. CFを使った崩し。 4. サイドでの有効な突破 5. 攻撃的に進めながらカウンターを受けない守備 6. カウンターアタック 7. 高い位置でのプレッシャー 8. プレッシャーの中でのフィニッシュ。 9. チームごとの課題練習。リーグ戦①。 10. リーグ戦② 11. リーグ戦③ 12. リーグ戦④ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。	

02年以前(春)	体育(サッカー)(通年)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] サッカーを教材とする。サッカーの攻守の切替の中で自然に瞬間的な判断と行動を繰り返し行い、身に付ける。サッカーの試合のルールを十分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合までをビルドアップしていく。</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。各自でサッカーにふさわしいシューズと服装を用意すること。</p>		<p>1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意</p> <p>2 受講決定の確認と個人票の写真提出 トレーニングルームの講習と登録 授業実施場所の確認</p> <p>3 ボールコントロール</p> <p>4 簡易のゲーム</p> <p>5 //</p> <p>6 競技規則、審判法の理解</p> <p>7 正規のゲーム</p> <p>8 //</p> <p>9 ポジションの理解</p> <p>10 正規のゲーム</p> <p>11 //</p> <p>12 //</p> <p>*コートが使用できない場合には、教室にて講義を行うか場所を変更して実技を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

02年以前(秋)	体育(サッカー)(通年)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] サッカーを教材とする。チームとしての攻守の切替の中で自然に個人の瞬間的な判断と行動を繰り返し行い身に付ける。レベルに応じてサッカーの試合の楽しみ方を考える。プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合の進め方までをビルドアップしていく。</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。各自でフットサルにふさわしいシューズと服装を準備すること。</p>		<p>1 オリエンテーション 個人票の作成</p> <p>2 受講決定の確認 個人票の写真提出</p> <p>3 簡易のゲーム</p> <p>4 班分け・班別練習</p> <p>5 リーグ戦①</p> <p>6 リーグ戦②</p> <p>7 リーグ戦③</p> <p>8 リーグ戦④</p> <p>9 リーグ戦⑤</p> <p>10 リーグ戦⑥</p> <p>11 リーグ戦⑦</p> <p>12 リーグ戦⑧</p> <p>*コートが使用できない場合には、教室にて講義を行うか場所を変更して実技を行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

02年以前(春)	体育(サッカー)(通年)	担当者	松本 光弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して活動量を確保し体力の向上を目標とする。内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることも目標とする。</p> <p>[講義概要] サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時には体育館でミニサッカーを行うか、教室にてVTRを利用した講義を行う。</p> <p>[受講者への要望] ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を希望する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 体力測定、技能測定、簡単なゲーム 3 技術練習とハーフゲーム 4 // 5 // 6 ルールの解説(雨天時に割り当てる) 7 個人戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 8 // 9 // 10 グループ戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 11 // 12 サッカーの歴史(雨天時に割り当てる) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>[テキスト]「サッカースキル(技術と戦術)」松本光弘著 学習研究社「サッカーのテクニク」スピンドラー著 松本光弘訳 ベースボールマガジン社[参考文献]『イングランド・サッカー教程』アラン・ウェイド著 浅見俊雄訳ベースボールマガジン社</p>		出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進歩度を含め総合的に評価する。	

02年以前(秋)	体育(サッカー)(通年)	担当者	松本 光弘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] サッカーの技術、戦術を中心に学習し、ゲームを通して活動量を確保し体力の向上を目標とする。内容的にはより高度なレベルを追求したく、サッカーが特に得意又は好きという学生の参加を希望する。又、自主的にチームを作り活動ができるよう主体的な学習ができるようになることも目標とする。</p> <p>[講義概要] サッカーの技術及び戦術を各時間学習し、そのまとめとして毎時間ゲームを行う。雨天時には体育館でミニサッカーを行うか、教室にてVTRを利用した講義を行う。</p> <p>[受講者への要望] ゴム底のスパイクシューズ、ストッキング、ショートパンツの用意を希望する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 グループ戦術とハーフゲーム又はフルゲーム 2 // 3 // 4 特殊戦術とフルゲーム 5 // 6 グループ戦術、チーム戦術とフルゲーム 7 // 8 // 9 // 10 // 11 // 12 フルゲーム、評価 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>[テキスト]「サッカースキル(技術と戦術)」松本光弘著 学習研究社「サッカーのテクニク」スピンドラー著 松本光弘訳 ベースボールマガジン社[参考文献]『イングランド・サッカー教程』アラン・ウェイド著 浅見俊雄訳ベースボールマガジン社</p>		出席状況を重視し、平常の授業態度及び技能の進歩度を含め総合的に評価する。	

02年以前(春)	体育(スポーツエクササイズ)(通年)	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>心身ともに健康な生涯を送るためには、積極的な身体運動が必要な時代を向かえている。日常生活の中に能動的な活動を取り入れる態度を養い、健康な生活を視野に入れた考え方を確立したい。健康であるための条件である運動・食事・環境なども考え、適正な運動量を設定して実行できるようにする。</p> <p>自己の体力の現状を認識し、その段階的な向上を目標にトレーニング・プログラムを作成する。目標を設定して定期的に実行し、全体的な体力について考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、年間授業計画の説明、実施上の注意 2. トレーニングルームの使い方 体力測定について 3. トレーニングの理論と実践 筋力について(1) 4. トレーニングの理論と実践 筋力について(2) 5. トレーニングの理論と実践 筋力について(3) 6. トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について(1) 7. トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について(2) 8. トレーニングの理論と実践 最大酸素摂取量について(3) 9. トレーニングの理論と実践 筋持久性について(1) 10. トレーニングの理論と実践 筋持久性について(2) 11. トレーニングの理論と実践 筋持久性について(3) 12. トレーニングの理論と実践 体力測定及び評価 	
テキスト、参考文献		評価方法	
宮下充正『トレーニングの科学的基礎』 ブックハウスHD		授業への参加態度、トレーニングの達成度等により決定する。	

02年以前(秋)	体育(スポーツエクササイズ)(通年)	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>心身ともに健康な生涯を送るためには、積極的な身体運動が必要な時代を向かえている。日常生活の中に能動的な活動を取り入れる態度を養い、健康な生活を視野に入れた考え方を確立したい。健康であるための条件である運動・食事・環境なども考え、適正な運動量を設定して実行できるようにする。</p> <p>自己の体力の現状を認識し、その段階的な向上を目標にトレーニング・プログラムを作成する。目標を設定して定期的に実行し、全体的な体力について考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. トレーニングの理論と実践 食事について(1) 2. トレーニングの理論と実践 食事について(2) 3. トレーニングの理論と実践 食事について(3) 4. トレーニングの理論と実践 体力測定および評価 5. トレーニングの理論と実践 心拍数について(1) 6. トレーニングの理論と実践 心拍数について(2) 7. トレーニングの理論と実践 心拍数について(3) 8. トレーニングの理論と実践 歩行について(1) 9. トレーニングの理論と実践 歩行について(2) 10. トレーニングの理論と実践 ジョギングについて(1) 11. トレーニングの理論と実践 ジョギングについて(2) 12. トレーニングの理論と実践 体力測定および評価 	
テキスト、参考文献		評価方法	
宮下充正『トレーニングの科学的基礎』 ブックハウスHD		授業への参加態度、トレーニングの達成度等により決定する。	

02年以前(春)	体育(ソフトボール)(通年)	担当者	池垣 功一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。</p> <p>[講義概要] 前半は個人技術中心の練習内容とし、後半からチームを編成して、チームごとの練習ならびに試合に移る。</p> <p>[受講者への要望] 雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。</p>		<p>1 年間スケジュールおよび履修上の諸注意 ソフトボールの特質、ルール等について説明</p> <p>2 キャッチボール (ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム)</p> <p>3 ピッチング(スリングショット投法)</p> <p>4 ピッチング(スリングショット投法の復習およびウインドミル投法) トスバッティング</p> <p>5 ピッチング(各種投法の復習) ハーフバッティング</p> <p>6 守備練習(基本的なゴロと飛球の捕り方) フリーバッティング</p> <p>7 守備練習(各ポジションの守備方法) シートノック</p> <p>8 ベースランニングとスライディングの練習 バント練習(内野手の連携プレー)</p> <p>9 シートノックによる守備練習(ダブルプレーの練習) ゲーム形式のバッティング練習</p> <p>10 審判の方法についての説明 チームの編成(1) (ポジション・打順を決める) 練習試合</p> <p>11 チーム練習(試合前の、シートノック) 試合 A~B、C~D</p> <p>12 チーム練習(トスバッティング) 試合 A~C、B~D</p> <p>13 チーム練習(バント) 試合 A~D、B~C</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は、出席点に技能点(態度・努力・服装等)を加味して行なう。	

02年以前(秋)	体育(ソフトボール)(通年)	担当者	池垣 功一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。</p> <p>[講義概要] 試合を主とした展開となるが、適宜、チームごとにテーマを決めたチーム練習を加える。</p> <p>[受講者への要望] 雨天時およびグラウンド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。</p>		<p>1 総合的練習(1) 審判方法の復習</p> <p>2 総合的練習(2) スコアブックのつけ方についての説明</p> <p>3 チーム編成(2)(以下、各々試合3回ごとに編成をかえる) 練習試合</p> <p>4 チーム練習(毎週、チームごとにテーマを決めて実施する。以下同じ) 試合 E~F、G~H</p> <p>5 チーム練習 試合 E~G、F~H</p> <p>6 チーム練習 試合 E~H、F~G</p> <p>7 チーム編成(3) チーム練習 試合 I~J、K~L</p> <p>8 チーム練習 試合 I~K、J~L</p> <p>9 チーム練習 試合 I~L、J~K</p> <p>10 チーム編成(4) チーム練習 試合 M~N、O~P</p> <p>11 チーム練習 試合 M~O、N~P</p> <p>12 チーム練習 試合 M~O、N~P</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は、出席点に技能点(態度・努力・服装等)を加味して行なう。	

02年以前(春)	体育(ソフトボール)(通年)	担当者	太田 朝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。</p> <p>[講義概要]</p> <p>個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しい スローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。</p>		<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 個人的技能 基本技能 キャッチング</p> <p>3 スローイング 1対1での正確な技能の修得 バッティング ノックとトスバッティング</p> <p>4 フリーバッティング 正確なキャッチングと スローイング、バッティングをしっかり身につける</p> <p>5 ピッチング</p> <p>6 集団的技能 連携プレー 攻撃=バント及び ヒットエンドラン</p> <p>7 タッチアッププレー 守備=フォースプレー</p> <p>8 ダブルプレー バントの処理と各野手の動き</p> <p>9 カバーリング あらゆるプレーに対する フォーメーション</p> <p>10 ルールの解説とスコアのつけ方 (ワンプレーに対する判定法)</p> <p>11 簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習 したプレーの確認とルールの習得。</p> <p>12 簡易ゲーム 簡易なゲームを通し事前に練習 したプレーの確認とルールの習得。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に、授業態度、技能の進歩などを加味し、総合的に評価する。・個人的技能(捕球、送球、遠投)・ゲーム結果(集団、個人技能)欠席時数4回以上の者は、評価の対象としない。	

02年以前(秋)	体育(ソフトボール)(通年)	担当者	太田 朝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>ソフトボールは、走る、投げる、打つ等の運動の基本的要素を持ち、スピード、正確さ、力、機敏さ、注意力、判断力、勇気等を基礎としたスポーツである。その基本技術を身につけ、互いに協力し合い、安全にスポーツを楽しみながら、体力の維持、増進の一助とすることを目標に行なう。</p> <p>[講義概要]</p> <p>個人的技能と集団的技能を交互に繰り返し、正しい スローイング、バッティング、キャッチングを身につけ、チームプレーに於ける連携プレーの習得を目指し授業を展開し、ゲームを通し攻守のプレーを個々に確認していく。</p>		<p>1 個人技能 ゲーム ・個々の技量を考え チーム間の力量の差が大きくなるように チーム編成し、リーグ戦を行なう。 集団技能の反復練習</p> <p>2 キャッチボールトス、フリーバッティング ピッチング・簡単なスコアをつけ個々の成績 (打率、盗塁、打点など)を集計し成績を出し、 技能を競い合う</p> <p>3 //</p> <p>4 //</p> <p>5 //</p> <p>6 //</p> <p>7 //</p> <p>8 //</p> <p>9 //</p> <p>10 //</p> <p>11 //</p> <p>12 //</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に、授業態度、技能の進歩などを加味し、総合的に評価する。・個人的技能(捕球、送球、遠投)・ゲーム結果(集団、個人技能)欠席時数4回以上の者は、評価の対象としない。	

02年以前(春)	体育(ソフトボール)(通年)	担当者	萩野 元祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p> <p>[講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p> <p>[受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり 真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。</p>		<p>1 オリエンテーション 登録の確認と授業内容の説明。 個人資料の作成など。</p> <p>2 ソフトボールの特性、基本的ルールなどの説明。個人的技能練習。ボールの握り方、送球、捕球の基本練習</p> <p>3 前回の復習 ゲームの実施</p> <p>4 バッティング練習(握り方、スタンス、位置、構え方、スイング) リーグ戦</p> <p>5 前回の復習。リーグ戦</p> <p>6 リーグ戦</p> <p>7 守備における送球、捕球(ゴロ、フライ)練習 リーグ戦</p> <p>8 前回の復習 リーグ戦</p> <p>9 リーグ戦</p> <p>10 リーグ戦</p> <p>11 リーグ戦</p> <p>12 リーグ戦</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数1/3回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。	

02年以前(秋)	体育(ソフトボール)(通年)	担当者	萩野 元祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 基本的練習により、個人的技能、集団的技能を高め、より高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむということも目標のひとつである。</p> <p>[講義概要] 初心者から中級者に合わせる内容であり、個人的技能、集団的技能練習の内容は、基本練習中心で展開される。また、ゲームを通して、ソフトボールの特性や、技術、戦術を高める。</p> <p>[受講者への要望] 技術力はともかくとして、ソフトボールに興味があり 真剣に取り組み、そして楽しんでもらいたい。</p>		<p>1 基本練習。 リーグ戦</p> <p>2 基本練習。 リーグ戦</p> <p>3 集団技能(守備)、リレープレーを練習。 リーグ戦</p> <p>4 前回の復習。 リーグ戦</p> <p>5 リーグ戦</p> <p>6 リーグ戦</p> <p>7 リーグ戦</p> <p>8 リーグ戦</p> <p>9 リーグ戦</p> <p>10 リーグ戦</p> <p>11 リーグ戦</p> <p>12 リーグ戦</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を基本として評価。授業態度、技術の向上などを加味する。欠席時数1/3回以上の者については評価の対象としない。特別な理由以外の遅刻は認めない。	

02年以前(春)	体育(卓球)[通年]	担当者	奥野 忠枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>卓球という球技をとおして、技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら、ルール、試合方法、審判法を学ぶ。ダブルス競技においては、チームワークを体験することによって、協力の態度を養う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業登録の確認 授業内容の説明と諸注意 個人資料の作成 2 競技場と用具について(準備と片付け方) ラケットの種類、持ち方 3 ボールの打ち方 ラリーの連続を行う。 ミニ試合 4 サービス、レシーブの練習 ミニ試合 5 バックハンド フォアハンドの練習 シングルの試合方法と試合 6 サービスについて ボールの回転と ラケットの動きを練習 シングルス試合 7 審判法について学ぶ 8 ダブルス競技のルールを学ぶ ダブルスミニ 試合 9 グループでリーグ戦形式のダブルス試合 10 上記に同じ 11 シングルス試合 12 まとめ シングルス試合 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を重視し、平素の授業態度、技能の進歩を加味し実施する。欠席はできるだけ届け出ること。	

02年以前(秋)	体育(卓球)[通年]	担当者	奥野 忠枝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>卓球という球技をとおして、技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら、ルール、試合方法、審判法を学ぶ。ダブルス競技においては、チームワークを体験することによって、協力の態度を養う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 復習 基本の動き シングルス試合. 2 カットについて学ぶ シングルス試合 3 マナーについて 悪いマナー 良いマナー 4 ダブルスの作戦とパートナーとの 動きについて 5 グループでダブルスの試合 6 上に同じ 7 上に同じ 8 上に同じ 9 シングルのトーナメント試合 10 シングルス ダブルスにわかれて試合 11 総復習 12 総復習と反省 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		評価は出席点を重視し、平素の授業態度、技能の進歩を加味し実施する。欠席はできるだけ届け出ること。	

02年以前(春)	体育(卓球)(通年)	担当者	本田 稔祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 敏捷性・集中力を養い、基本技術を習得して、簡単なルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。</p> <p>[講義概要] 基本的練習や簡易ゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームを通して、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。</p> <p>[受講者への要望] 授業の前日は早寝、当日は早起をしてコンディションを整えて出席するように、欠席・遅刻はその理由を届けてもらう。服装は運動服、上靴を用意し動きやすくする。初心者はフォームだけでもしっかりマスターして少しでも上達するように。尚ラケットは個人で用意することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業内容の説明と個人資料カード作成(写真を必ず用意すること) 2 用具の準備、片付けの仕方と基本知識、動作などについて 3 能力別グループ編成と、初心者は、構え、スイングフットワークなどの基本練習 4 サーブ・レシーブ 簡易ゲーム 5 フォアハンドロング・バックハンドショート 簡易ゲーム 6 バックハンドロング・ショートカット 能力別シングルスゲーム 7 カット・スマッシュ・シングルスゲーム 8 ダブルスゲームの進め方・シングルスゲームとの違い ダブルスゲーム 9 ダブルスゲーム パートナーと動きを考える 10 ダブルスゲーム 11 シングルス・トーナメント戦 12 シングルス・トーナメント戦 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『指導者のための卓球』Ⅰ. Ⅱ. Ⅲ. 倉木常夫他著 不昧堂出版 他		出席点、平常点、技能点、の3つで行う。(出席点は、無欠席は特A、欠席1回A、欠席2回B、欠席3回C、欠席4回以上はFとする。平常点は遅刻、服装などで行い、特に服装の悪い者、上靴の用意のない者は「やる気」に欠けるとして減点する。技能点は進歩の度合で行う)	

02年以前(秋)	体育(卓球)(通年)	担当者	本田 稔祐
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 敏捷性・集中力を養うとともに、基本技術を応用して、ルール、審判、ゲームの進め方などを学び、将来も卓球を通じて、社会生活を豊かにし、健康の維持増進にも貢献できること。</p> <p>[講義概要] シングルスゲームで能力別グループ編成をして、シングルス、ダブルスゲームをはじめ、団体戦なども行い、卓球の面白さや、卓球についての知識も習得する。</p> <p>[受講者への要望] 授業の前日は早寝、当日は早起をしてコンディションを整えて出席するように、欠席・遅刻はその理由を届けてもらう。服装は運動服、上靴を用意し動きやすくする。初心者はフォームだけでもしっかりマスターして少しでも上達するように。尚ラケットは個人で用意することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 チーム編成とチーム内シングルスリーグ戦 2 キャップ・マネージャーなどの選出とシングルスリーグ戦。 3 チーム対抗戦1 4 チーム対抗戦2 5 チーム対抗戦3 6 チーム対抗戦4 7 抽選によるシングルス・予選リーグ戦 8 シングルス・予選リーグ戦 9 決勝リーグ戦 10 決勝リーグ戦 11 シングルス・トーナメント戦 12 技能テスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『指導者のための卓球』Ⅰ. Ⅱ. Ⅲ. 倉木常夫他著 不昧堂出版 他		出席点、平常点、技能点、の3つで行う。(出席点は、無欠席は特A、欠席1回A、欠席2回B、欠席3回C、欠席4回以上はFとする。平常点は遅刻、服装などで行い、特に服装の悪い者、上靴の用意のない者は「やる気」に欠けるとして減点する。技能点は進歩の度合で行う)	

02年以前(春)	体育(バスケットボール)(通年)	担当者	勝瀬 武
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットボールの授業を通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。</p> <p>[講義概要] バスケットボールのルールを正確に把握し、基本技術を習得することによって、楽しくゲームが出来るようにする。また、ゲーム時には、各チームから審判、得点係等を出し、試合の進行を助け合う。 個人のレベルアップとともに試合運び等を研究し、チーム全体の技術の向上を目標に努力する。</p> <p>[受講者への要望] バスケットボールを行うのにふさわしい服装で出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 基本練習(パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート) 3. 基本練習(パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート) 4. セットオフENS 5. セットディフェンス 6. オールコートにおける試合(班分けをする) 7. オールコートにおける試合(班分けをする) 8. リーグ戦開始(試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 9. リーグ戦開始(試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 10. リーグ戦開始(試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 11. リーグ戦開始(試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 12. リーグ戦開始(試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、受講態度を重視し、欠席回数が授業時数の1/3を超した者は不合格とする。	

02年以前(秋)	体育(バスケットボール)(通年)	担当者	勝瀬 武
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットボールの授業を通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。</p> <p>[講義概要] バスケットボールのルールを正確に把握し、基本技術を習得することによって、楽しくゲームが出来るようにする。また、ゲーム時には、各チームから審判、得点係等を出し、試合の進行を助け合う。 個人のレベルアップとともに試合運び等を研究し、チーム全体の技術の向上を目標に努力する。</p> <p>[受講者への要望] バスケットボールを行うのにふさわしい服装で出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. リーグ戦前の予備試合 (リーグのためにチームの再編成) 2. リーグ戦前の予備試合 (リーグのためにチームの再編成) 3. リーグ戦開始(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 4. リーグ戦(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 5. リーグ戦(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 6. リーグ戦(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 7. リーグ戦(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 8. リーグ戦(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 9. リーグ戦(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 10. リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 11. リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 12. リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、受講態度を重視し、欠席回数が授業時数の1/3を超した者は不合格とする。	

02年以前(春)	体育(バスケットボール)(通年)	担当者	蓬郷 尚代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] バスケットボールの競技特性を理解し、ゲームを通して集団競技の楽しさを味わい、スポーツへの関心を高めることをねらいとする。また、学年・クラスの枠を越えてチームを編成し、チームを意識しながら技術・戦術ともに上達することを目標とする。</p> <p>[講義概要] 個人技能だけでなく、チームの中における自分の役割を見いだすことでチームへ貢献することができる。ゲームが円滑に進行するよう、各チームから審判・オフィシャルなどを出しゲームの進行も学ぶ。</p> <p>[受講者への要望] バスケットボールを行うのにふさわしい服装・身なりで出席すること。知識の有無、技能レベルに関係なく積極的に授業に参加してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 基本練習(パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート) 3. 基本練習(パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート) 4. オーバーナンバーの攻め方 (ハーフコートにおける 3対2) 5. マンツーマンディフェンス (ハーフコートにおける 5対5) 6. オールコートにおける試合 7. オールコートにおける試合 8. リーグ戦開始(試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 9. リーグ戦開始(試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 10. リーグ戦開始(試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 11. リーグ戦開始(試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 12. リーグ戦開始(試合に際して、各チームとも審判、オフィシャルの勉強をしてもらう) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、受講態度を重視して評価する。2/3以上の出席で評価対象とし、遅刻は減点の対象となるので注意すること。	

02年以前(秋)	体育(バスケットボール)(通年)	担当者	蓬郷 尚代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] バスケットボールの競技特性を理解し、ゲームを通して集団競技の楽しさを味わい、スポーツへの関心を高めることをねらいとする。また、学年・クラスの枠を越えてチームを編成し、チームを意識しながら技術・戦術ともに上達することを目標とする。</p> <p>[講義概要] 個人技能だけでなく、チームの中における自分の役割を見いだすことでチームへ貢献することができる。ゲームが円滑に進行するよう、各チームから審判・オフィシャルなどを出しゲームの進行も学ぶ。</p> <p>[受講者への要望] バスケットボールを行うのにふさわしい服装・身なりで出席すること。知識の有無、技能レベルに関係なく積極的に授業に参加してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 リーグ戦前の予備試合 (リーグのためにチームの再編成) 2 リーグ戦前の予備試合 (リーグのためにチームの再編成) 3 リーグ戦開始(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 4 リーグ戦(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 5 リーグ戦(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 6 リーグ戦(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 7 リーグ戦(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 8 リーグ戦(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 9 リーグ戦(試合に際して、各チームより審判、得点係を出し、試合進行に努める) 10 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 11 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 12 リーグ戦の成績により、順位決定戦を行う。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席、受講態度を重視して評価する。2/3以上の出席で評価対象とし、遅刻は減点の対象となるので注意すること。	

02年以前(春)	体育(バドミントン)(通年)	担当者	太田 朝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>バドミントンの特性である①性別・年齢を問わず技能レベルに応じて誰でも手軽に楽しめる生涯スポーツとして最適、②シャトルから生まれるスピードの緩急や特殊な飛び方の変化に対応するための身体的能力(敏捷性・瞬発力・全身持久力など)が必要、③空中でとらえる、空間感覚の重要性、④相手の動き、シャトルの飛び方に応じた作戦の工夫、判断力、そしてパートナーとの協調性、これらの特性を基本的なプレーの練習を通して、身につける。</p> <p>[講義概要]</p> <p>バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた疑問を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける</p> <p>[受講者への要望]</p> <p>毎回授業に出席し、真面目に取り組むこと。 体育館シューズを用意すること。</p>		<p>1 オリエンテーション、年間授業計画の説明、次回から開始する実技実施上の諸注意ならびに連絡事項の確認。</p> <p>2 バドミントンの全般的な説明を行なう。 コート、ラケット、シャトル等についての説明。基本的なグリップと素振りを行ない、ストロークの基本を学ぶ</p> <p>3 基本的技術ストローク・オーバーヘッド(バック、フォア)・サイドアーム(フォア、バック) アンダーハンド(フォア、バック)</p> <p>4 基本的技術○フットワーク前後、左右フライトの理解 ラケットワークとフライト(クリアー・ドライブ)</p> <p>5 身につけた技術を実際のゲームで使えるようにする。 ○ロングサービス○ショートサービス(フォア・バック) ○ショートサービスに対する対応(プッシュ) ○基本的技術の復習</p> <p>6 //</p> <p>7 //</p> <p>8 ○いろいろなフォーメーション ○基本的技術の復習簡単なゲーム(シングルス) 審判法の習得</p> <p>9 前回までの復習</p> <p>10 前回までの復習</p> <p>11 前回までの復習</p> <p>12 前回までの復習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席4回以上の者に対しては、評価の対象としない。	

02年以前(秋)	体育(バドミントン)(通年)	担当者	太田 朝博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>バドミントンの特性である①性別・年齢を問わず技能レベルに応じて誰でも手軽に楽しめる生涯スポーツとして最適、②シャトルから生まれるスピードの緩急や特殊な飛び方の変化に対応するための身体的能力(敏捷性・瞬発力・全身持久力など)が必要、③空中でとらえる、空間感覚の重要性、④相手の動き、シャトルの飛び方に応じた作戦の工夫、判断力、そしてパートナーとの協調性、これらの特性を基本的なプレーの練習を通して、身につける。</p> <p>[講義概要]</p> <p>バドミントンに関する基本的なルールや技術について理解する。手の延長としてのラケットを使用した各種のストロークを身につける。シングルス・ダブルスの試合の実施を通して、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。ゲームの中で練習した技術が生かせるようにするとともに、試合中に生じた疑問を克服してよりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して進んで審判をつとめるとともに、全体的な試合の進行状況にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける</p> <p>[受講者への要望]</p> <p>毎回授業に出席し、真面目に取り組むこと。 体育館シューズを用意すること。</p>		<p>1 グループ別でのシングルのリーグ戦 毎回基本的技術の復習</p> <p>2 //</p> <p>3 //</p> <p>4 //</p> <p>5 //</p> <p>6 シングルの決勝リーグ戦</p> <p>7 //</p> <p>8 //</p> <p>9 ダブルスのリーグ戦</p> <p>10 //</p> <p>11 //</p> <p>12 //</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		出席点を中心に評価し授業にのぞむ態度、実技の達成度等を加味する。欠席4回以上の者に対しては、評価の対象としない。	

02年以前(春)	体育(バドミントン)(通年)	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的なルールや技術について理解する。</p> <p>シングルス、ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。</p> <p>練習した技術がゲームの中で生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を務めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.年間授業計画の説明 実技実施上の諸注意 連絡 事項の確認 2.バドミントン競技の全般的説明 クリヤーの基本 3.ハイクリヤーの基本練習 ドロップの基本 4.クリヤー、ドロップの復習 ヘアピンの基本 5.各種ストロークの復習 サービスの基本練習 6.片面シングルスの実施 カウント方法の確認 前後へのフットワークの基本 7.片面シングルス 審判法の理解 審判の実施 8.ドライブの基本 正規のシングルスゲーム 9.スマッシュの基本 シングルスゲーム 10.各種ストロークの練習 ダブルスの基本 11.ダブルスのルールの理解 試合の実施と審判 12.リーグ戦の実施 	
テキスト、参考文献		評価方法	
相沢マチ子 『やさしいバドミントンレッスン』 ベースボールマガジン社		出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。	

02年以前(秋)	体育(バドミントン)(通年)	担当者	梶野 克之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ラケットとシャトルを使用してプレーするバドミントン競技を種目として取り上げ、基本的なルールや技術について理解する。</p> <p>シングルス、ダブルスの試合方法について理解して実践できるようにし、ルールの理解とともに、ゲームの進行方法の理解を深める。</p> <p>練習した技術がゲームの中で生かせるようにするとともに、試合中に生じた問題点を解決し、よりレベルの高いゲームを求めていく。審判法についても理解して、進んで審判を務めるとともに、全体的な試合の進行にも関心を持ち、円滑な進行を心掛ける。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1.基本的なストロークの復習 ダブルスの試合方法と審判法の確認 2.ダブルスの組み合わせの決定 いくつかのグループによるリーグ戦 3.ダブルスの基本的フォーメーションの確認 ゲーム中に生かす 4.ゲーム結果の分析 問題点の整理 ダブルスゲームの実施 5.ゲームの進行状況の確認 組み合わせを変えてのリーグ戦 6.ダブルスゲームの進行 課題をゲーム内で解決 7.ダブルスゲームの進行 ゲームの面白さの理解 8.ダブルスゲームの進行 高いレベルのゲーム 9.ゲームの中での課題の練習 組み合わせの変更 10.ゲームの中での課題の練習 相手プレイヤーの動きに合わせたプレーの練習 11.ゲームの進行 ゲーム・審判とも全員が実施 12.ゲームの進行 勝敗・順位について整理 	
テキスト、参考文献		評価方法	
相沢マチ子 『やさしいバドミントンレッスン』 ベースボールマガジン社		出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。	

02年以前(春)	体育(バレーボール)(通年)	担当者	小川 又八朗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。</p> <p>[講義概要] バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。</p> <p>[受講者への要望] 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、個人資料の作成。 2 基本技と動き(アンダー オーバー)、パスゲーム1。 3 レシーブとトス(ボールのつなぎ)、パスゲーム2。 4 レシーブとカバーリング (守りのフォーメーション)、パスゲーム3 5 基本技と動き(アンダー フローターサーブ) サークルレシーブ 基本技と動き(スパイク) 攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム1 6 基本技と動き(スパイク) 攻撃の組立、スパイクを含んだミニゲーム2。 7 チーム編成(スターティングポジションの決定) サーブレシーブのフォーメーション サーブレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。 8 ゲーム、6チームによるリーグ戦。 9 上記と同じ。8ゲーム、6チームによるリーグ戦。 10 上記と同じ。 11 上記と同じ。 12 上記と同じ。まとめテスト 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『スポーツ・人間・社会』ライナー・マートンズ ベースボール・マガジン社『人と人之間』木村敏 弘文堂 『スポーツの倫理』体育原理分科会編 不昧堂出版		出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。欠席時数4回以上の者については、評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。	

02年以前(秋)	体育(バレーボール)(通年)	担当者	小川 又八朗
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、技能を高め、戦術を考えバレーボールの特性をゲームで味わえるようにする。</p> <p>[講義概要] バレーボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。</p> <p>[受講者への要望] 出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、体育館用シューズを用意すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 チーム編成(スターティングポジションと攻守のフォーメーション)。 2 上記と同じ。 3 サークルレシーブからの攻撃の組立、スパイクを含んだゲーム。 4 上記と同じ。 5 スパイクレシーブのフォーメーション、スパイクを含んだゲーム。ゲーム(リーグ戦)記録、チーム(特に攻撃スパイク サーブ) 6 上記と同じ。 7 上記と同じ。 8 ゲーム(リーグ戦)記録、チーム(特に守りレシーブ ブロック)。 9 上記と同じ。 10 ゲーム(リーグ戦)記録、攻撃の組立能力、ゲームの評価と練習課題。 11 上記と同じ 12 ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。ルールやセオリー審判法など知的理解度をテストする。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
『スポーツ・人間・社会』ライナー・マートンズ ベースボール・マガジン社『人と人之間』木村敏 弘文堂 『スポーツの倫理』体育原理分科会編 不昧堂出版		出席点を中心にして評価し授業態度、技能の進歩などを加味する。欠席時数4回以上の者については、評価の対象としない。交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。	

02年以前(春)	体育(バレーボール)(通年)	担当者	小山 さなえ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、基礎的技術を構成するパス、サーブ、スパイク等の個人的技術と、レシーブフォーメーションやアタックフォーメーション等の集団技術の習得をはかり、ゲームを通してその実践能力を高める。 グループ学習により、お互いに協力し自己の責務を全うする態度を養う。</p> <p>[受講者への要望] 自己の健康管理を含めた出席を重視するが、授業態度や運動服装などもチェックする。 バレーボールにふさわしい服装、シューズで授業に参加すること。</p>		<p>1 オリエンテーション 授業の登録確認と授業内容の説明、 個人資料の作成。</p> <p>2 基本技術と動き(アンダーハンドパス、 オーバーハンドパス) 試しのゲーム</p> <p>3 アンダーハンドサーブ、レシーブ 試しのゲーム 個人のレシーブ練習(マンツーマン) スパイク練習</p> <p>5 様々な打ち方によるサーブ練習 試しのゲーム</p> <p>6 サーブレシーブフォーメーション アタックレシーブフォーメーション バレーボールのルールやゲーム運営法</p> <p>7 チーム編成</p> <p>8 ゲーム、チームによるリーグ戦</p> <p>9 //</p> <p>10 //</p> <p>11 //</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に紹介する。		出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。	

02年以前(秋)	体育(バレーボール)(通年)	担当者	小山 さなえ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 生涯にわたってバレーボールが楽しめるように、基礎的技術を構成するパス、サーブ、スパイク等の個人的技術と、レシーブフォーメーションやアタックフォーメーション等の集団技術の習得をはかり、ゲームを通してその実践能力を高める。 グループ学習により、お互いに協力し自己の責務を全うする態度を養う。</p> <p>[受講者への要望] 自己の健康管理を含めた出席を重視するが、授業態度や運動服装などもチェックする。 バレーボールにふさわしい服装、シューズで授業に参加すること。</p>		<p>1 チーム編成</p> <p>2 グループ練習</p> <p>3 サーブレシーブフォーメーションとゲーム。</p> <p>4 //</p> <p>5 スパイクレシーブフォーメーションとゲーム。</p> <p>6 //</p> <p>7 ゲーム(リーグ戦) ルールやゲームの運営法、さらにはゲーム内容の分析法を学習する。</p> <p>8 //</p> <p>9 //</p> <p>10 //</p> <p>11 //</p> <p>12 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業時に紹介する。		出席状況、授業態度を中心とし、技術の習熟度なども加味して総合的に評価する。	

02年以前(春)	体育(フットサル)(通年)	担当者	檜山 康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらを取りまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、フットサルを学びながら、独自の運動文化に触れ、フットサル本来の楽しさに触れることを目標としたい。</p> <p>[講義概要]</p> <p>ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームをとりいれていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。</p> <p>[受講者への要望]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリー、ピアスは外すこと。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション。 2. ボールに慣れること。試しのゲーム。 3. 1対1の守備。 4. 1対1の攻撃。 5. オフザボールの動き。 6. ボールを持っていない選手に対する守備。 7. パス&コントロール。 8. ゴール前での守備。 9. ゴール前での攻撃。 10. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 11. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 12. フルコートでのゲーム。リーグ戦。 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。	

02年以前(秋)	体育(フットサル)(通年)	担当者	檜山 康
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>スポーツには、歴史的、系統的に発展してきた種目独自の運動文化が存在する。運動文化としてのルール、戦術、それらを取りまく社会環境というものは、人間が長い歴史の中で試行錯誤を重ねながら作り上げてきた。この授業では、フットサルを学びながら、独自の運動文化に触れ、フットサル本来の楽しさに触れることを目標としたい。</p> <p>[講義概要]</p> <p>ゲームを中心に行っていくが、その準備段階において技術、戦術を発展させられるようなハンドリングゲームや予備ゲームをとりいれていく。つまり技術、戦術を個別に取り出して練習するのではなく、常にゲームを意識して、ゲーム形式の中で実際に体を動かして学習してもらいたいと考えている。また参加者の意見を積極的に出してもらい、有効なゲームの進め方について考える場にしたいと思っている。</p> <p>[受講者への要望]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻はしないようにする。特にチームで行動するので他人に迷惑がかかる。 2. 服装はスポーツのできるものを身につけること。 3. アクセサリー、ピアスは外すこと。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的にボールを奪う守備 2. ビルドアップ。 3. ピヴォを使った崩し。 4. サイドでの有効な突破 5. 攻撃的に進めながらカウンターを受けない守備 6. カウンターアタック 7. 高い位置でのプレッシャー 8. プレッシャーの中でのフィニッシュ。 9. チームごとの課題練習。リーグ戦①。 10. リーグ戦② 11. リーグ戦③ 12. リーグ戦④ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
		授業への出席を重視する。加えて参加態度、意欲などを加味する。実技試験、レポートなどを課す場合もある。	

02年以前(春)	体育(フットサル)(通年)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] フットサルを教材とする。フットサルのスピーディーな攻守の切替の中で自然に瞬間的な判断と行動を繰り返し行い、身に付ける。フットサルの試合のルールを十分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合までをビルドアップしていく。</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。各自でフットサルにふさわしいシューズと服装を用意すること。</p>		<p>1 オリエンテーション 個人票の作成 授業実施上の諸注意</p> <p>2 受講決定の確認と個人票の写真提出 トレーニングルームの講習と登録 授業実施場所の確認</p> <p>3 ボールコントロール</p> <p>4 簡易のゲーム</p> <p>5 //</p> <p>6 競技規則、審判法の理解</p> <p>7 正規のゲーム</p> <p>8 //</p> <p>9 ポジションの理解</p> <p>10 正規のゲーム</p> <p>11 //</p> <p>12 //</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

02年以前(秋)	体育(フットサル)(通年)	担当者	松原 裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] 運動を通じて、第1番目には、目の前に展開する事象への多面的な理解と適切な対応の選択、第2番目には、集団行動での基本的なルールを尊重した上で個人個人が積極的に授業参加する態度の育成、第3番目には、生涯に渡る健康観の構築、第4番目には、定期的に運動する習慣の獲得を目標とする。</p> <p>[講義概要] フットサルを教材とする。フットサルのスピーディーな攻守の切替の中で自然に瞬間的な判断と行動を繰り返し行い、身に付ける。フットサルの試合のルールを十分に理解し、プレーヤーとして、審判として、コーディネーターとして、と関係する役割全てを交代で行う。基本的なことから試合までをビルドアップしていく。</p> <p>[受講者への要望] フェアな態度、団体行動、試してみる勇氣。各自でフットサルにふさわしいシューズと服装を用意すること。</p>		<p>1 オリエンテーション 個人票の作成</p> <p>2 受講決定の確認 個人票の写真提出</p> <p>3 簡易のゲーム</p> <p>4 班分け・班別練習</p> <p>5 リーグ戦①</p> <p>6 リーグ戦②</p> <p>7 リーグ戦③</p> <p>8 リーグ戦④</p> <p>9 リーグ戦⑤</p> <p>10 リーグ戦⑥</p> <p>11 リーグ戦⑦</p> <p>12 リーグ戦⑧</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎時間の出欠席、受講態度、期間中の技術の向上度などを総合して評価する。	

02年以前(春)	体育(フリスビー)(通年)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を経験する。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族とじゅうぶん楽しめるだけの実力をつけることを目標とします。</p> <p>[講義概要] フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいくつかの種目を経験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション フライングディスクとは 2 バックハンドスロウとサイドアームスロー 3 バックハンドスロウとサイドアームスロー 4 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション 5 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション 6 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション 7 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーション 8 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入 9 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入 10 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入 11 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入 12 バックハンドスロウとサイドアームスローから、バリエーションゲームの導入 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて印刷物を配布します。		出席と受講態度、技術の向上度	

02年以前(秋)	体育(フリスビー)(通年)	担当者	和田 智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標] フリスビーは商標名です。一般名はフライングディスクです。このディスクを使用したスポーツの技術を習得し、アルティメット、ガッツ、ディスクゴルフなど特徴的な種目を経験する。各個人が日常で友人や恋人に教えたり、家族とじゅうぶん楽しめるだけの実力をつけることを目標とします。</p> <p>[講義概要] フライングディスクスローイングの基本テクニックから、応用テクニックまでを習得します。またそれを利用したいくつかの種目を経験します。種目の中心は、アルティメットというアメリカンフットボールのようなルールで行うスポーツ種目です。身体接触はありませんから、安全です。あまり聞いたことがないでしょうが世界選手権大会も行われるほど海外では普及しているスポーツです。学生の進歩状況・天候によって授業計画は変えていきます。雨天の場合は別の種目を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 後期授業についてのオリエンテーションとアルティメットについての説明 2 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 3 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 4 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 5 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 6 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 7 アルティメットのためのトレーニングとゲーム 8 チーム編成とリーグ戦 9 リーグ戦 10 リーグ戦 11 リーグ戦 12 リーグ戦 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて印刷物を配布します。		出席と受講態度、技術の向上度	

02年以前(春)	体育(ボールルームダンス)(通年)	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>ボールルームダンス(社交ダンス)とは、音楽にのって歩く(二人で)ことなのです。日常の話す・聴く・動くといった中に音楽にのって動くこと、目の前にいる人とコミュニケーションをステップという言葉で計ることなのです。太古の時代から人間は踊りを嗜んでいたことを思い起こし、ごく自然にダンス言語を駆使した時の楽しさを知って貰うことです。</p> <p>[講義概要]</p> <p>ここでは歩く事が基本。前に・後ろに、ゆっくり・速く・音楽に添ってと何回も繰り返しステップをする。言語と同様に繰り返す事が大切。一番難しいのは、右・左・右と交互に音楽にあわせて歩く事。憶えた事が脳と筋肉運動を連結させ、自然と心理的・身体的充足感をもたらすもので、ストレスの知的解消法の一つであり、生涯スポーツとしての基礎として、健康に寄与することができます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション ガイダンス ダンスのVTR・班分け 2 ストレッチ・ダンスウォーキング ステップⅠ・スタンダード 3 ステップⅠ・スタンダード ワルツのステップ 4 ステップⅡ・Sベーシック NT・RTと音楽 5 ステップⅡ・Sベーシック ホールドの意味と必要性 6 ステップⅢ・Rベーシック リズムとバランス 7 ステップⅢ・Rベーシック CHA・CHAステップ 8 ステップⅣ・Sベーシック クイックステップ 9 ステップⅣ・Sベーシック Q・リズム遊び(ジルバ) 10 ステップⅤ・R・S 表現する事 11 ステップⅤ・R・S 楽しむ事 12 ダンスを楽しく マナー・パーティーについて 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席	

02年以前(秋)	体育(ボールルームダンス)(通年)	担当者	青柳 多恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義の目標]</p> <p>ボールルームダンス(社交ダンス)とは、音楽にのって歩く(二人で)ことなのです。日常の話す・聴く・動くといった中に音楽にのって動くこと、目の前にいる人とコミュニケーションをステップという言葉で計ることなのです。太古の時代から人間は踊りを嗜んでいたことを思い起こし、ごく自然にダンス言語を駆使した時の楽しさを知って貰うことです。</p> <p>[講義概要]</p> <p>ここでは歩く事が基本。前に・後ろに、ゆっくり・速く・音楽に添ってと何回も繰り返しステップをする。言語と同様に繰り返す事が大切。一番難しいのは、右・左・右と交互に音楽にあわせて歩く事。憶えた事が脳と筋肉運動を連結させ、自然と心理的・身体的充足感をもたらすもので、ストレスの知的解消法の一つであり、生涯スポーツとしての基礎として、健康に寄与することができます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス ダンスのVTR・班分け 2 ストレッチ・ダンスウォーキング ステップⅠ・スタンダード 3 ステップⅠ・スタンダード ワルツのステップ 4 ステップⅡ・Sベーシック NT・RTと音楽 5 ステップⅡ・Sベーシック ホールドの意味と必要性 6 ステップⅢ・Rベーシック リズムとバランス 7 ステップⅢ・Rベーシック ジャイブ・ステップ 8 ステップⅣ・Sベーシック クイックステップ 9 ステップⅣ・Sベーシック Q・リズム遊び(ルンバ・マンボ) 10 ステップⅤ・R・S 表現する事 11 ステップⅤ・R・S 楽しむ事 12 ダンスを楽しく マナー・パーティーについて 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席	